

## 石器

石器は4,281点出土した。中でも尾鈴山酸性岩類製の礫石器・剥片の出土が顕著であり、本遺跡の石材別点数では58%、重量では73%を占める。出土した石器については、概ね遺跡の主体期である縄文時代後期前半から中葉の遺物であると考えられるが、一部は他時期に含まれる可能性がある。

本項では石器を器種ごとに分類して報告する。なお、縮尺は基本的に器種ごとで統一したが、本書紙面の都合上、一律ではない。

### 石鏃 (第46図352～375)

51点出土し、24点を図化した。石材はチャートや黒曜石が多く、安産岩や珪質頁岩も僅かであるが出土している。352～358は基部にやや深い抉りを持つ。352～354は正三角形に近い形状で、小型のものがある。359～362は二等辺三角形を呈す。358は鋏形鏃である。363～368は基部に浅い抉りを持つもので二等辺三角形を呈すものが多い。368は安山岩製で5角形に近い形状を呈す。369～372は刃部がくびれた形態のもので、全てチャート製である。基部の抉りが深いものと浅いものがある。373・374は基部に抉りを持たない。375は破損した石鏃で、使用後に破棄された可能性がある。

### 石匙 (第46図376～383)

8点出土し、全て図化した。横型(376～382)と縦型(383)がある。石材はチャート製のものが多く、381は玉髓製、382は安山岩製で、それぞれ1点ずつ出土した。376は片側に小突起を作り出し、石錐としての機能も有していたと考えられる。

### 石錐 (第47図384～387)

4点出土し、全て図化した。石材は特定の石材に偏ることはない。384はホルンフェルス製で自然面にやや風化が見られる。同器種内では非常に大型である。381は両端部を使用可能なように加工している。

### 削器 (第47図388～392)

4点出土し、全て図化した。剥片の長辺に組織的な剥離があり、刃部とする石器を削器とした。389は頁岩製の削器の接合資料であり、破損後に再加工を施したものが390である。

### 石篋 (第47図393)

1点のみ出土した。石材はホルンフェルスである。

### 打製石斧 (第47図394～397)

4点出土し、全て図化した。全て砂岩製である。粗く加工したものが多く、395・397は自然面が残存する。

### 磨製石斧 (第47図398・399)

図化した2点のみ出土した。398は基部が欠損する。刃部に目立った使用痕は確認できないことから、使用前に破損したものか。なお、398はII層から出土した遺物である。399は磨製石斧の基部である。

### スクレイパー (第48図400～403)

12点出土し、4点図化した。400は薄い円礫の縁辺に粗い刃部をつけたもので、中心で割れた後に再加工して使用している。403は刃部を鋸歯状に加工する。

### 礫器 (第48図404～410、第49図)

自然面を広く有し、粗く加工して刃部を付けた石器で概ね300g以上のものを礫器として分類した。石材は尾鈴山酸性岩類と砂岩に限定される。16点出土し、全て図化した。404・405は剥離面が刃部に集中するもので、片手で握りやすい。406～410は磨石または敲石の転用である。411～419は主要剥離面を持つもので、大形の剥片を素材としたものと円礫を加工したものがある。411は裏面に大きな剥離面があり、後述する粗製剥片類の石核に相当する可能性がある。

### 石核 (第50～53図)

45点出土し、25点図化した。石材は黒曜石、チャート、珪質頁岩、ホルンフェルス、砂岩、尾鈴山酸性岩類がある。尾鈴酸性岩類製のものが特に多く、31点出土している。420は黒曜石1、421は黒曜石2の石核である。423～426は珪質頁岩の石核で、多方向からの剥離が認められる。427～430はホルンフェルス製の石核である。431・433は砂岩の石核である。434～444は尾鈴山酸性岩類の石核である。435・438・439は比較的硬質な尾鈴1製で、多数の剥離面が確認できる。440～444は台石を転用している可能性がある。

### 粗製剥片石器 (第54～58図)

尾鈴山酸性岩類または砂岩を石材とした第一剥片で、円形～長楕円形の平面形を呈し、打点部分から下縁に向けて鋭利になる剥片である。199点確認したが、剥片との区別がつかないものが多く厳密には分類しきれない。ここでは、形態や石器としての使用の有無などから以下の8類に細分した。なお、本来であれば刃部

部を下に配すレイアウトをとるべきであるが、本書紙面の都合上、主要剥離面の打点を右側に配すように統一して掲載している。

#### I類 (第54図)

128点出土し、16点図化した。二次的な加工が施されないものを分類した。445～453は母岩の長辺を、454～460は短辺を敲打し作出したものである。453・456は摩滅面を持ち、磨石から剥離された可能性が高い。

#### II類 (第55図)

I類の中で、刃部を使用した痕跡が認められるものを分類した。25点出土し、13点を図化した。刃部に潰れが見られるものが多く、スクレイパーとしての機能があったと考えられる。469・470は主要剥離面に研磨痕がみられるが、人為的なものではなく流水作用による摩滅であろう。470～473は磨石の転用である。

#### III類 (第56図)

組織的な刃部が作出されたものを分類した。スクレイパーや礫器などの機能があったと考えられる。16点出土し、10点を図化した。

#### IV類 (第57図)

比較的大型で、重量360g以上のものを分類した。礫器としての機能があった可能性が高い。6点出土し、全て図化した。

#### V類 (第58図490～494)

上記以外で二次加工が見られるものを分類した。剥片としての使用は認められない。493・494は磨石または砥石の転用である可能性が高い。

#### VI類 (第58図495～498)

不定形な剥片で自然面が扁平でないものを分類した。いずれも刃部と思われる部分に潰れや敲打痕が認められる。

#### VII類 (第58図499～501)

上記剥片類の石核に相当する可能性があり、使用痕が認められるものである。便宜上剥片の分類に含めた。

#### 剥片・二次加工剥片 (第59図)

砂岩、尾鈴山酸性岩類以外の剥片を石材毎に抽出した。総点1,036点あり、重量は約7.9kgである。506は上記II類に相当する可能性がある。

#### 接合資料 (第59図511～517、第60図518・519)

511は413と剥片の接合資料である。514は512・513の

接合資料である。517は515・516の接合資料で、表面に自然面を有する。518は457・499が接合した資料である。519はD3Gr. から出土した黒曜石2の剥片が3点接合したものである。

#### 石錘 (第60図520～541)

出土した石錘は全て打欠石錘であった。42点出土し、22点を図化した。砂岩と尾鈴山酸性岩類が多いが、珪質頁岩や、ホルンフェルス製の遺物も少量出土した。520・523・531は片側の袂り部分が潰れており、硬質な物体の上で縦に据えた状態で反対側を敲打した可能性がある。534～541は石錘の袂り部分以外に大きな剥離があるものである。534は比較的横長の礫を素材としている。541は凹石を転用したものである。

#### 磨石 (第61図542～556)

119点出土し、15点を図化した。石材は砂岩または尾鈴山酸性岩類に限定される。包含層中では同規格の搬入礫と思われる円礫が出土するため、ここでは明瞭に磨面が確認できるもののみ磨石とした。円礫(542～551)と長楕円礫(552～556)がみられる。片面のみ(542～544)と両面(545～551)に磨面を有するものがある。なお、549～551は敲打痕があり、特に550・551は周縁部が明瞭である。556は磨石の接合資料で僅かに煤が付着する。

#### 凹石 (第61図557～561)

10点出土し、5点図化した。中央に敲打による使用痕があり、浅く窪む石器である。磨面があり磨石の転用の可能性がある。形態や石材は磨石と共通する。

#### 敲打石 (第61図562～567)

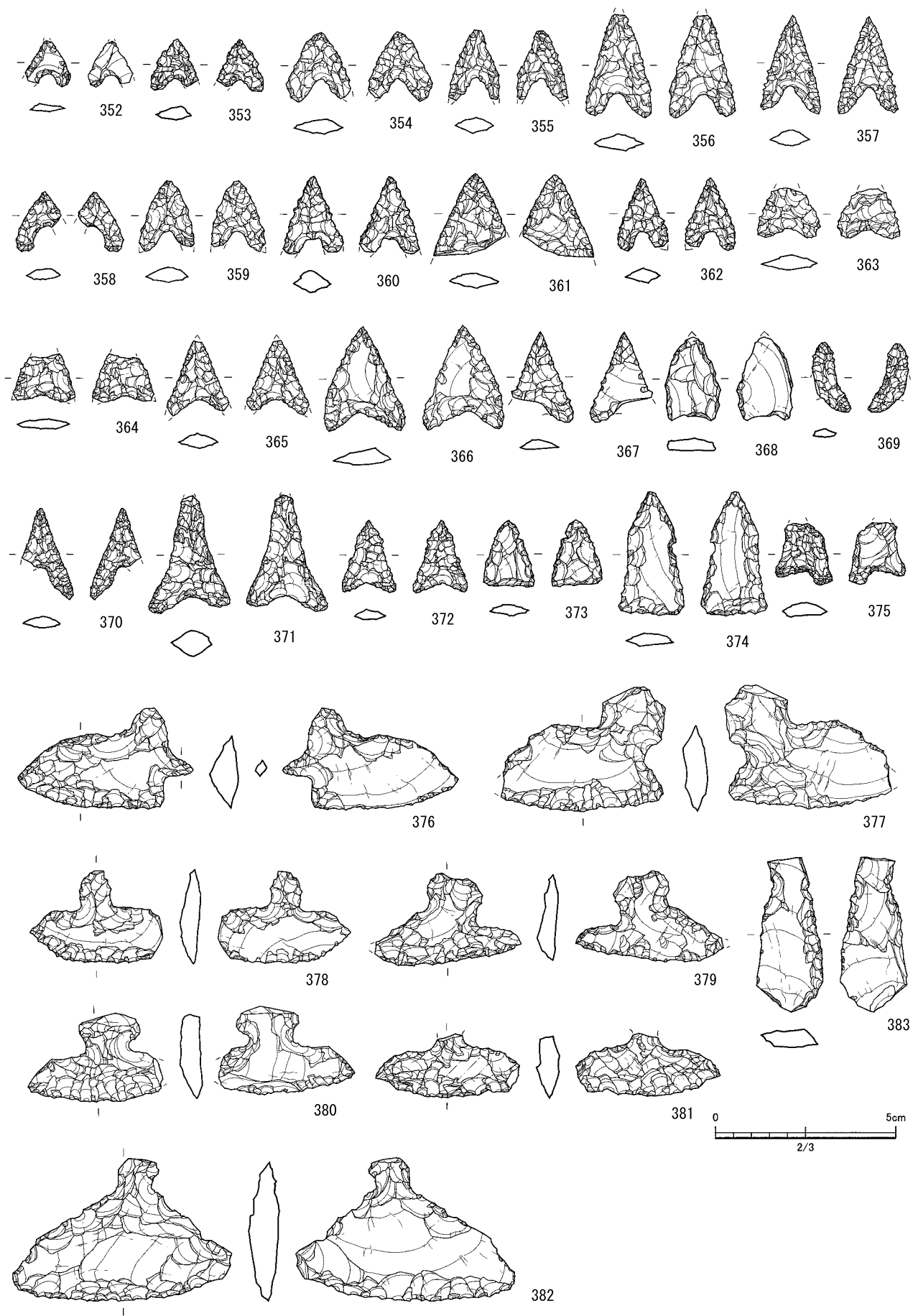
6点出土し、全て図化した。小振りな礫の周縁に敲打痕が見られる。石材は砂岩(562・563)、チャート(564・565・567)、ホルンフェルス(566)である。

#### 砥石 (第62図568～573)

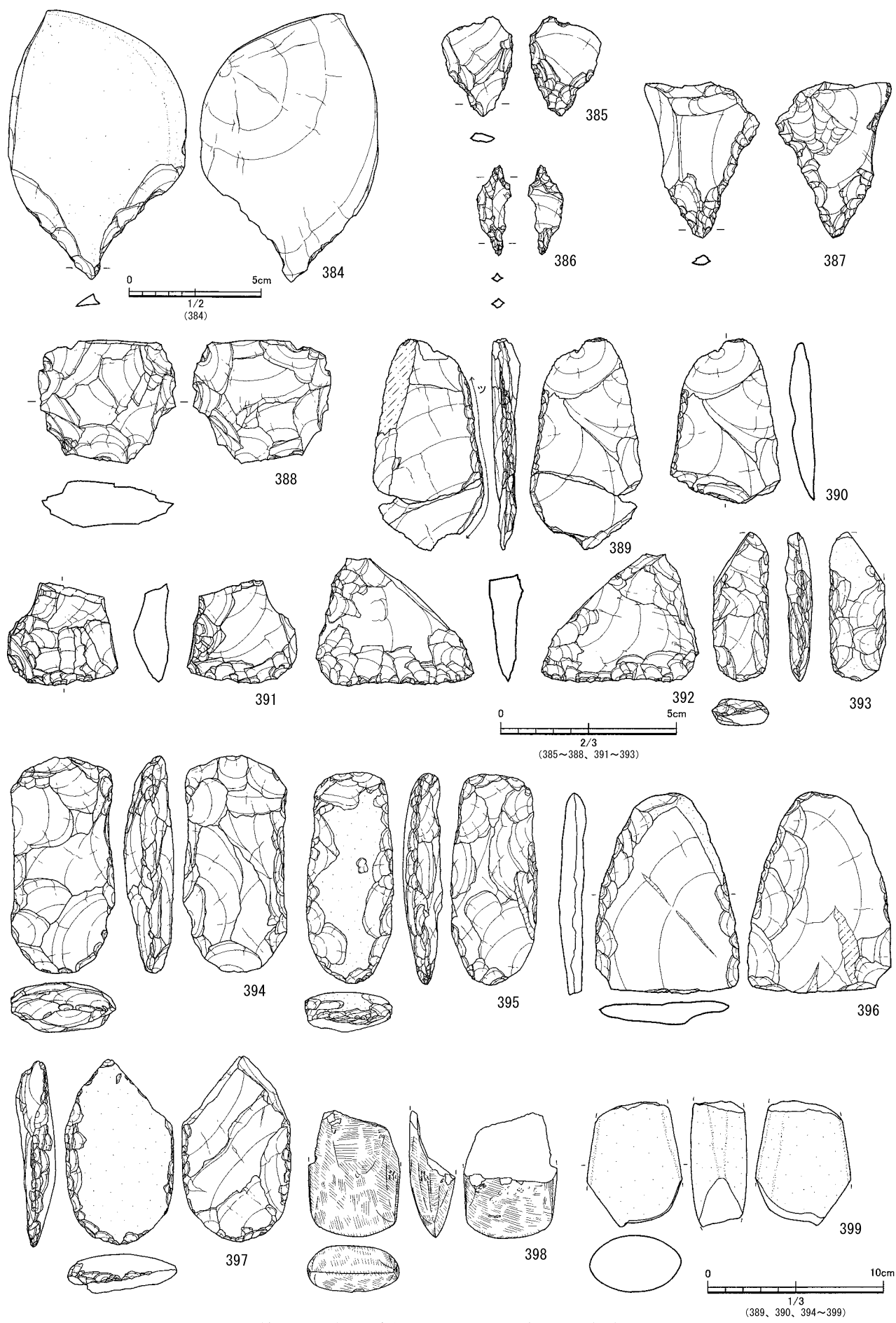
7点出土し、6点図化した。研磨により内湾するものを砥石とした。568は褐色を呈す頁岩の剥片を素材としており、研磨痕が明瞭に残る。569～573は砂岩製で、敲打痕が看取できるもの(571・572)もある。

#### 台石 (第62図574～578、第63図)

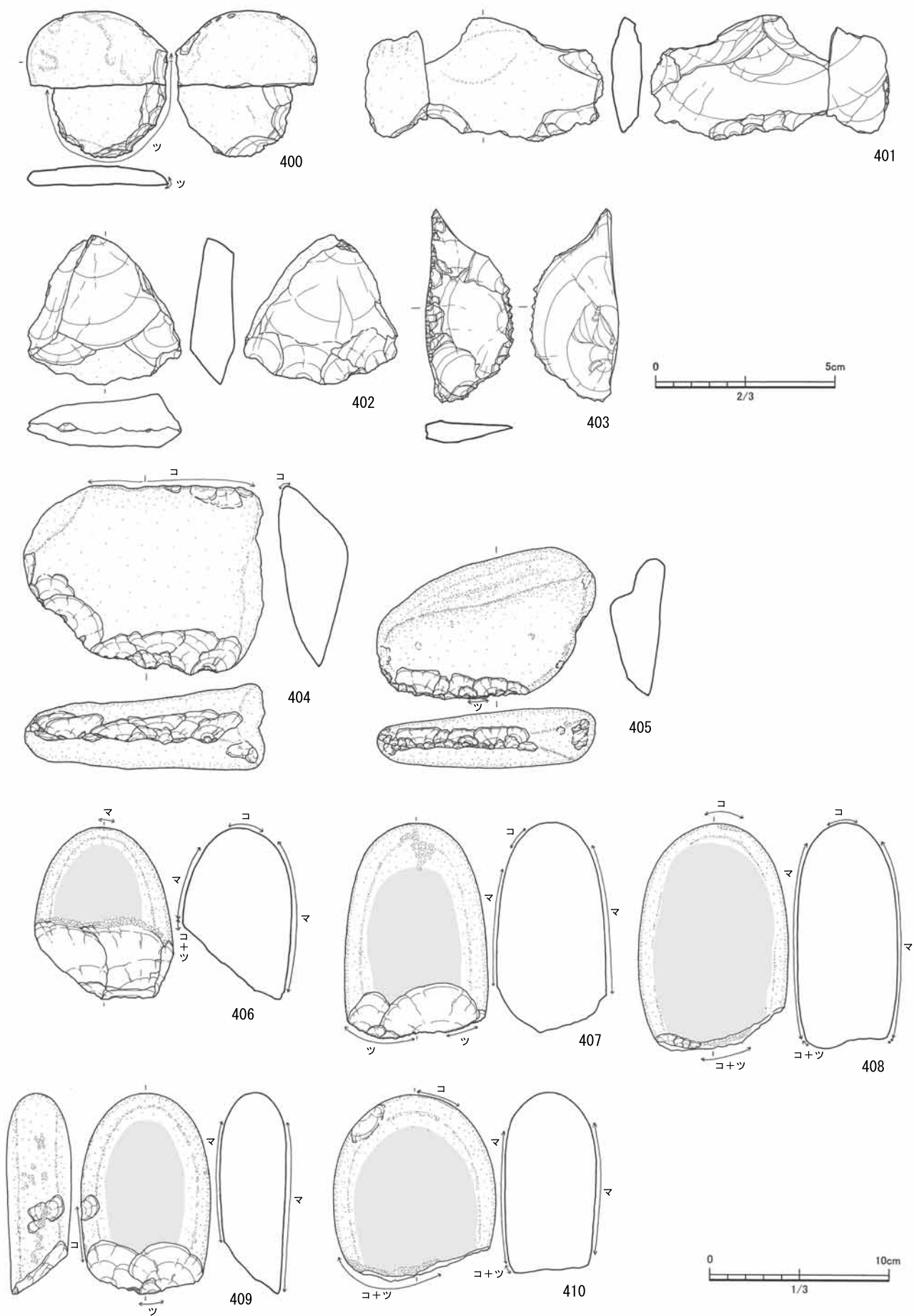
16点出土し、7点図化した。磨石同様、摩滅痕のあるものを抽出した。全て尾鈴酸性岩類製で、平滑な面に摩滅が見られる。578～580は剥離面を持つ。



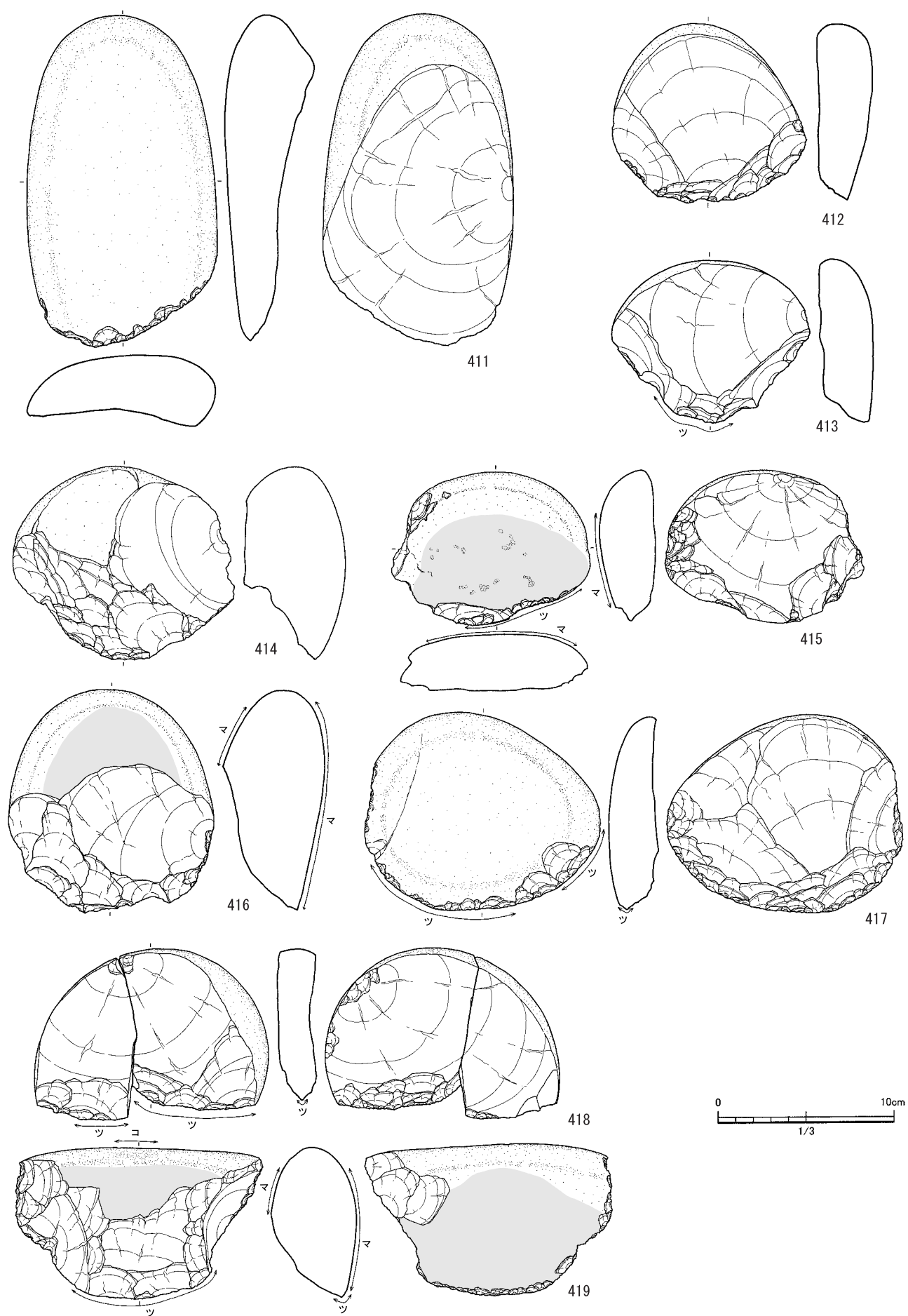
第46図 縄文時代中・後期石器実測図（1）



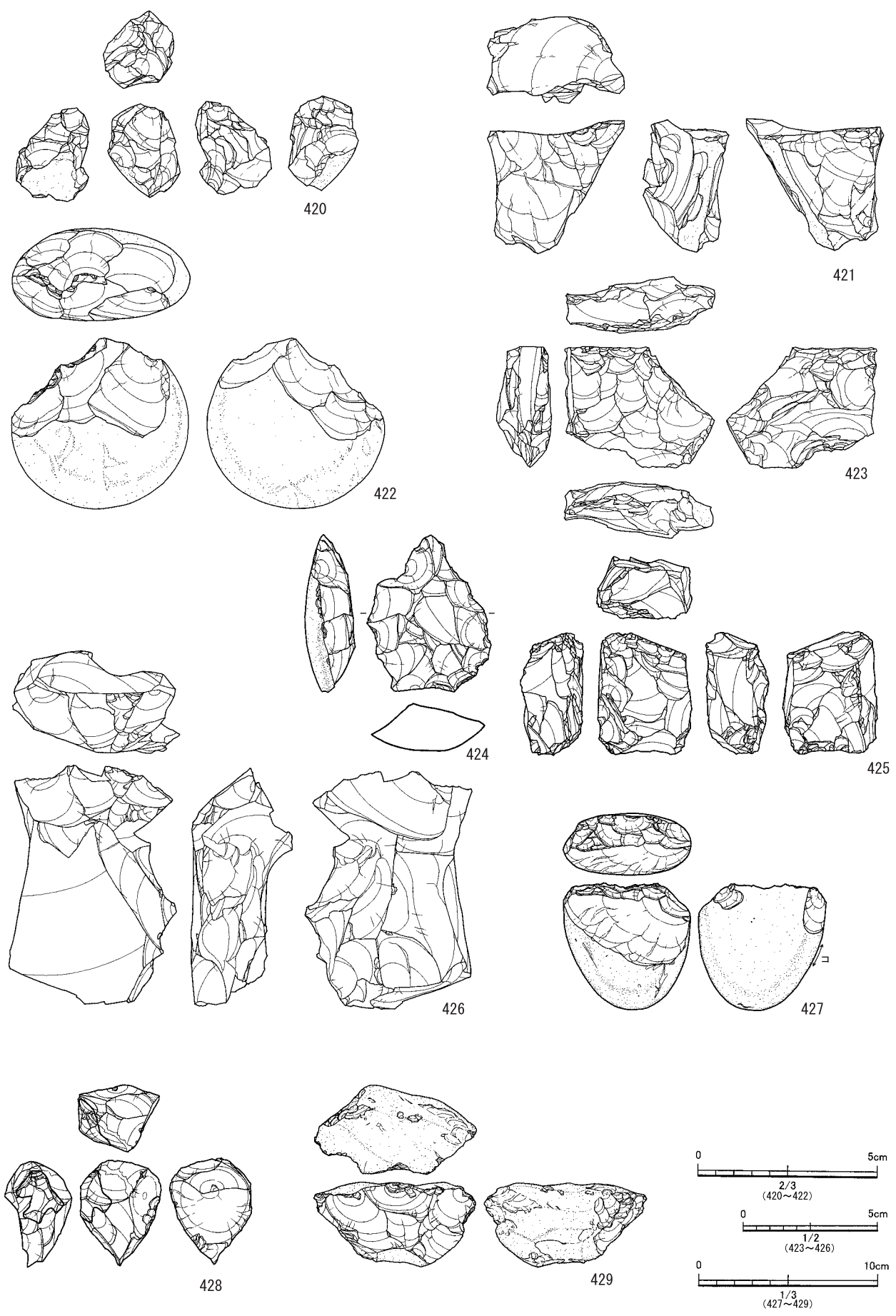
第47図 縄文時代中・後期石器実測図（2）



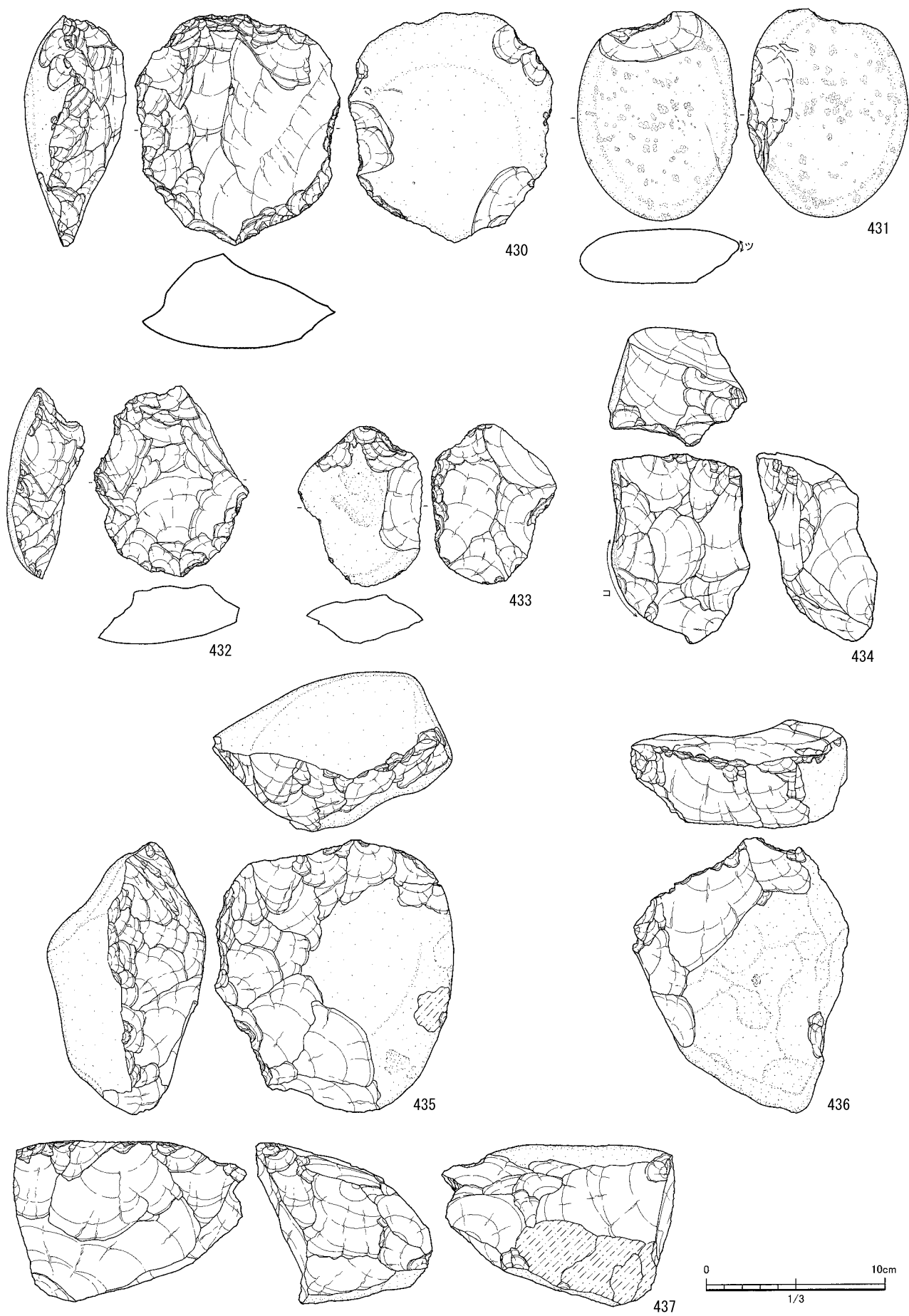
第48図 縄文時代中・後期石器実測図（3）



第49図 縄文時代中・後期石器実測図(4)

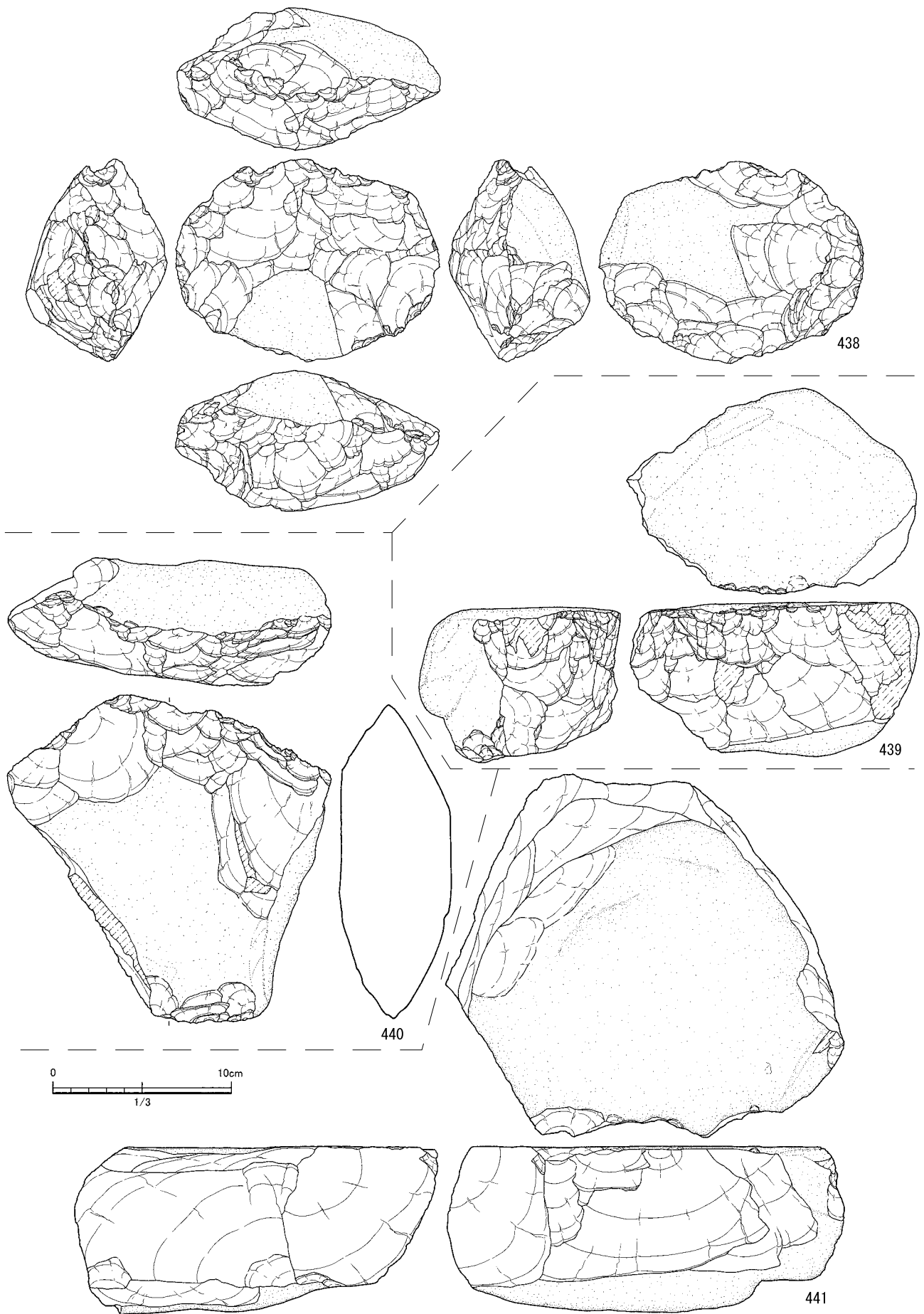


第50図 縄文時代中・後期石器実測図（5）

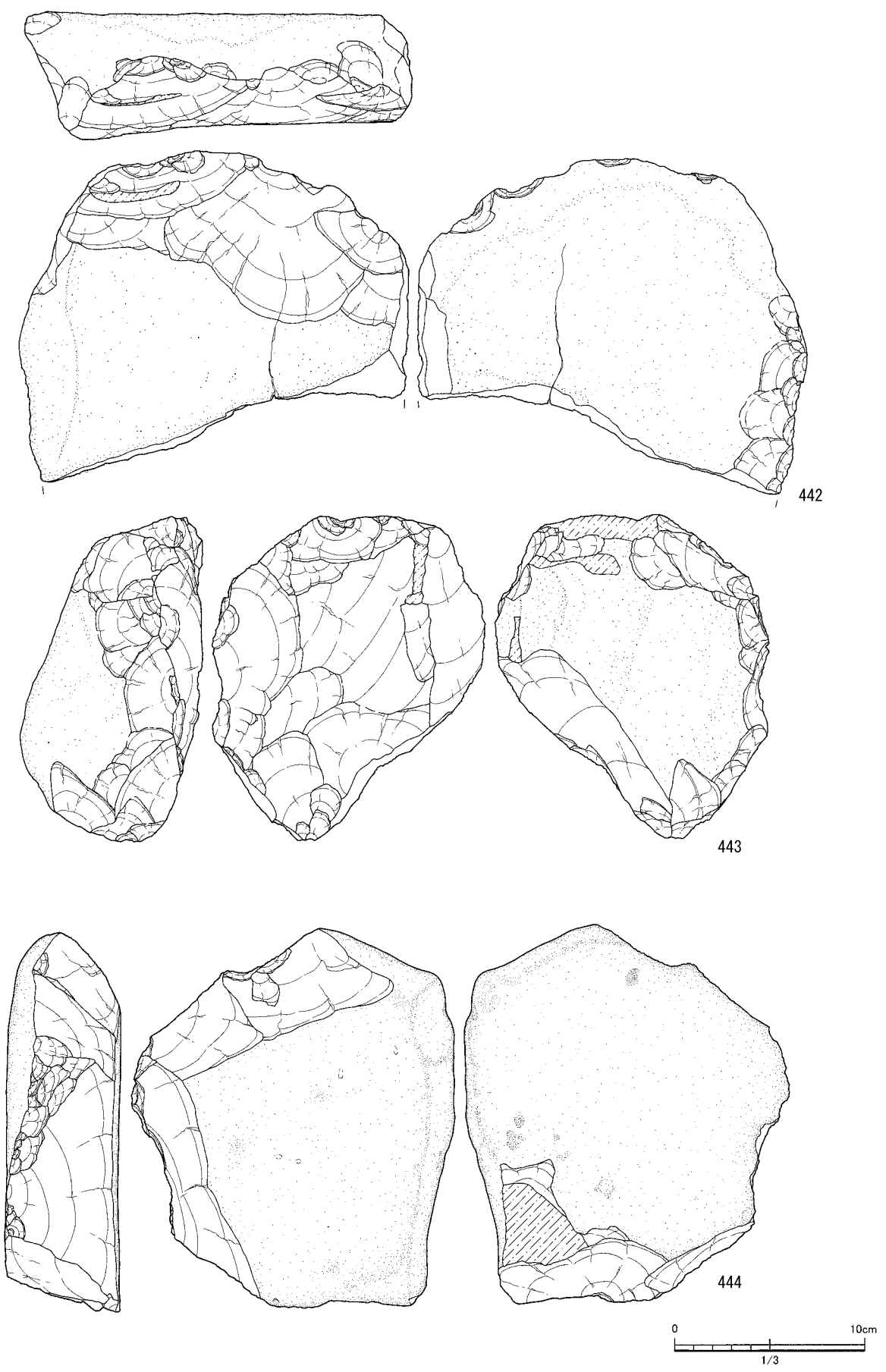


第51図 縄文時代中・後期石器実測図（6）

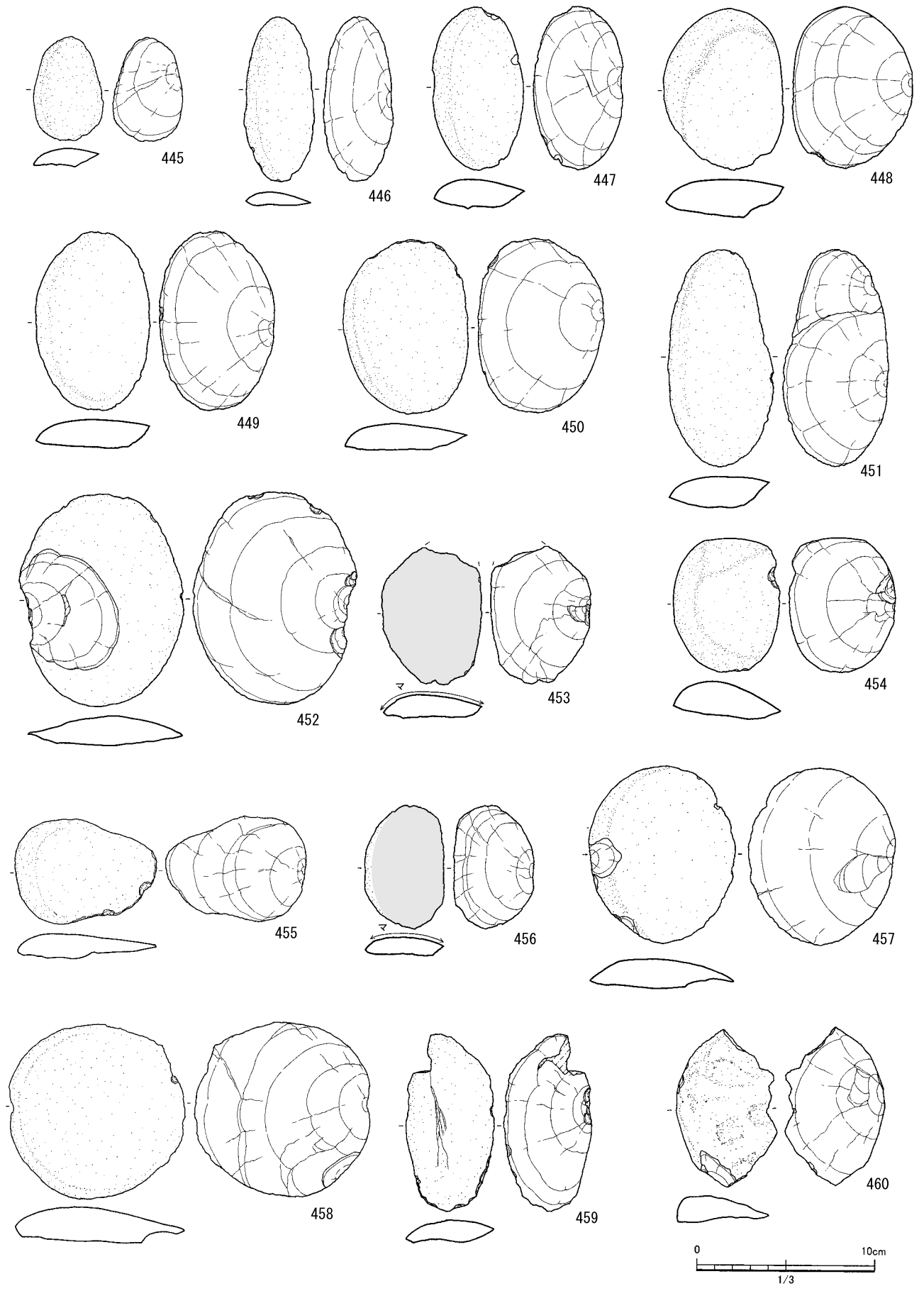




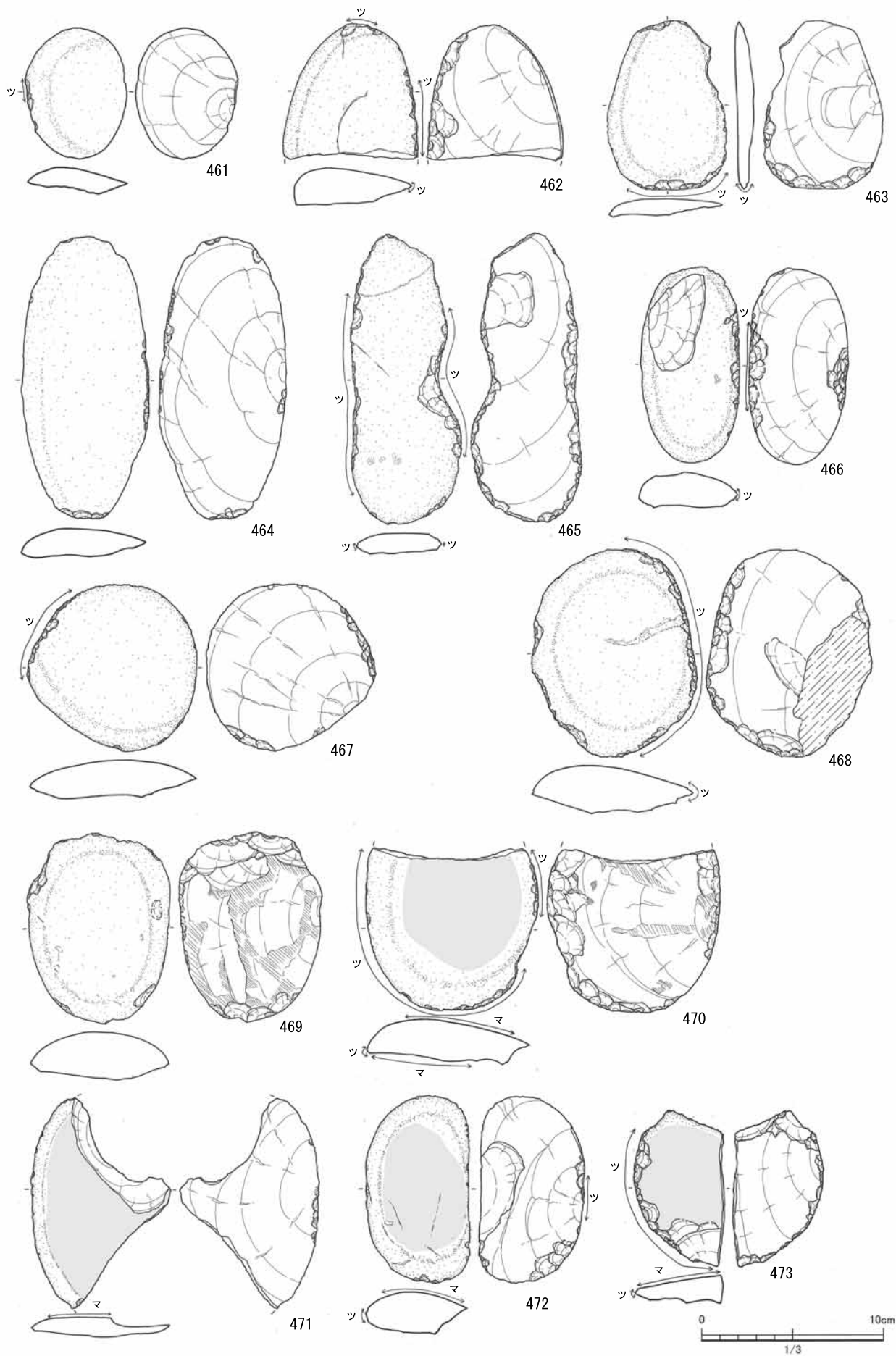
第52図 縄文時代中・後期石器実測図（7）



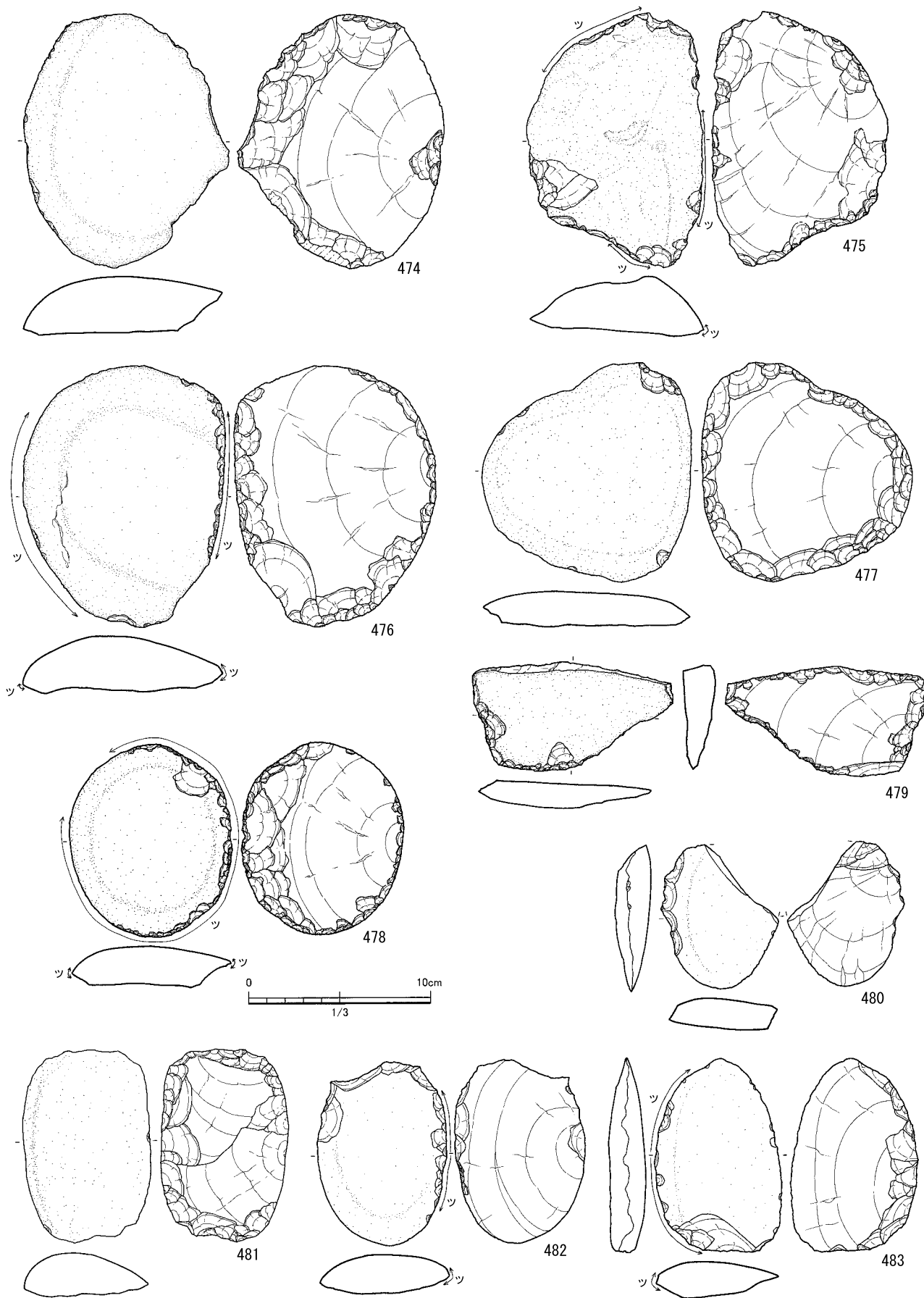
第53図 縄文時代中・後期石器実測図(8)



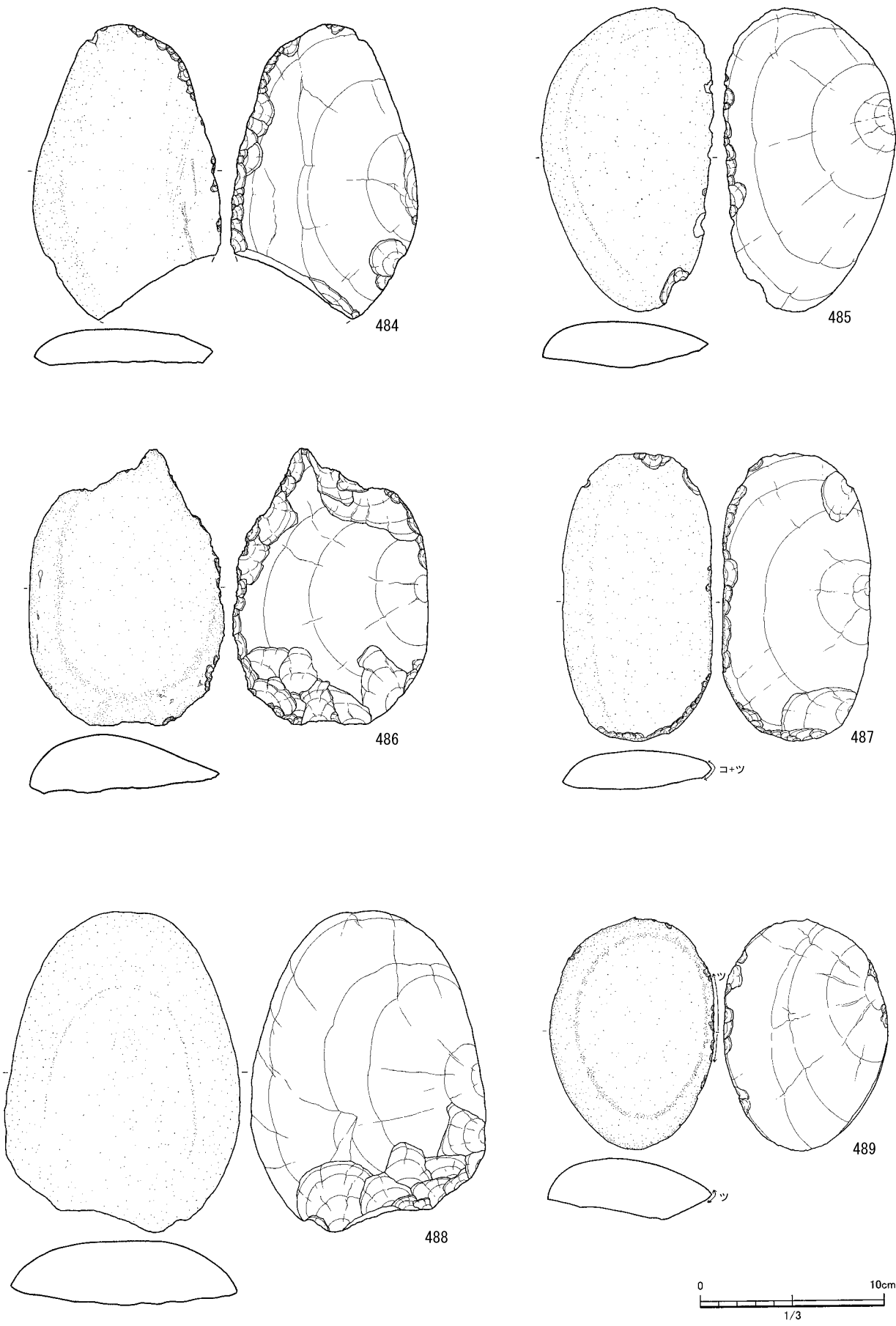
第54図 縄文時代中・後期石器実測図（9）



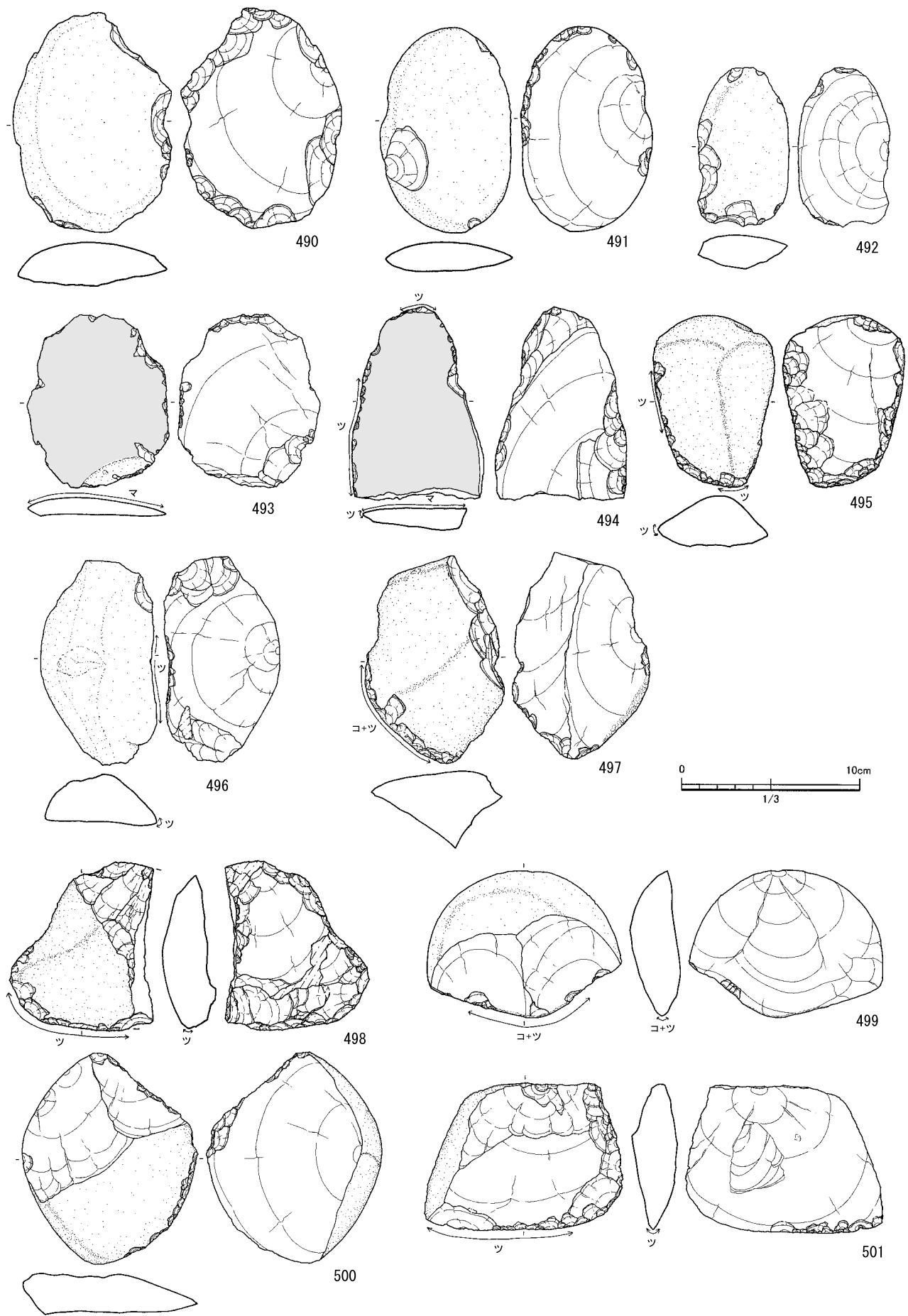
第55図 縄文時代中・後期石器実測図 (10)



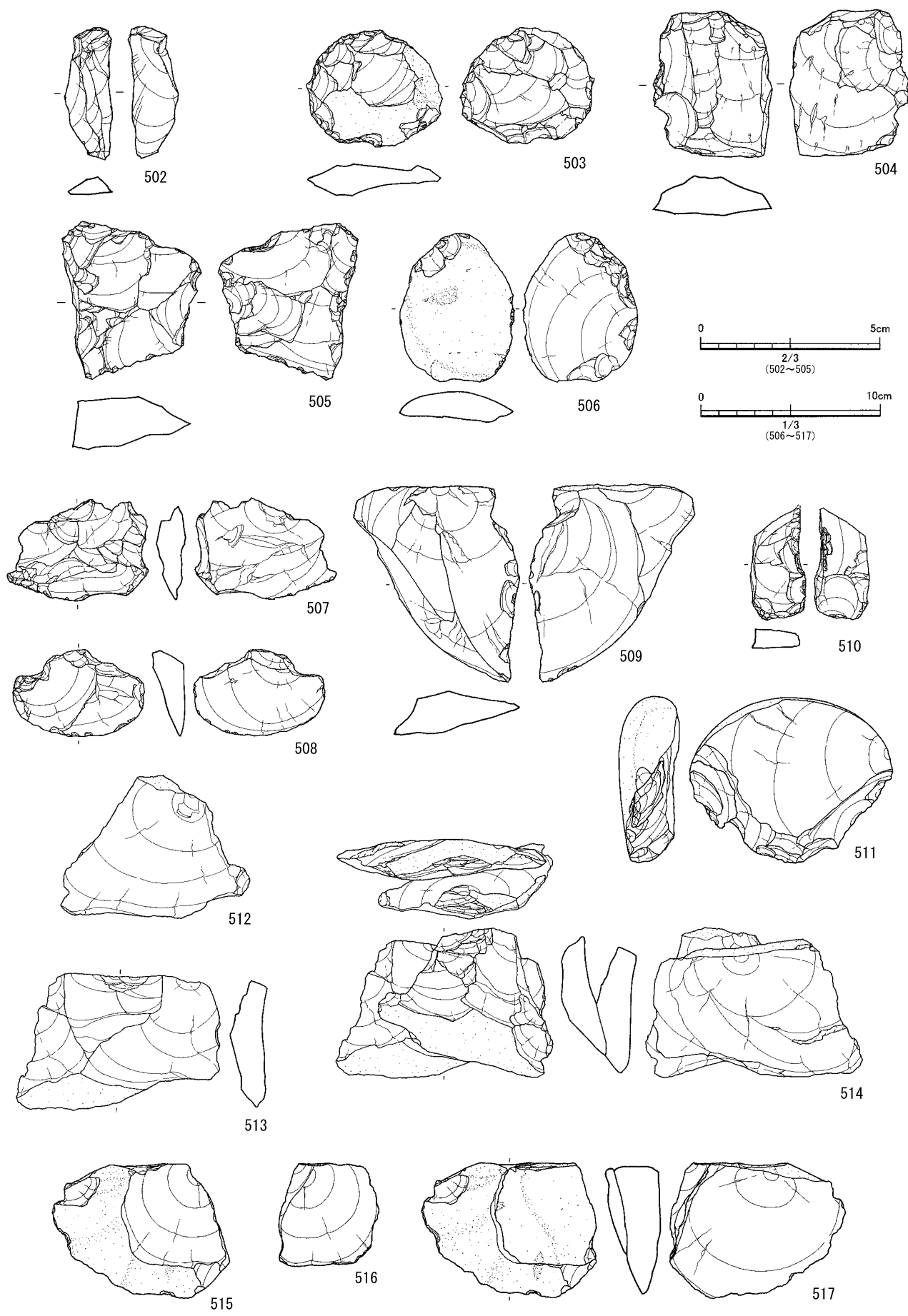
第56図 縄文時代中・後期石器実測図 (11)



第57図 縄文時代中・後期石器実測図 (12)

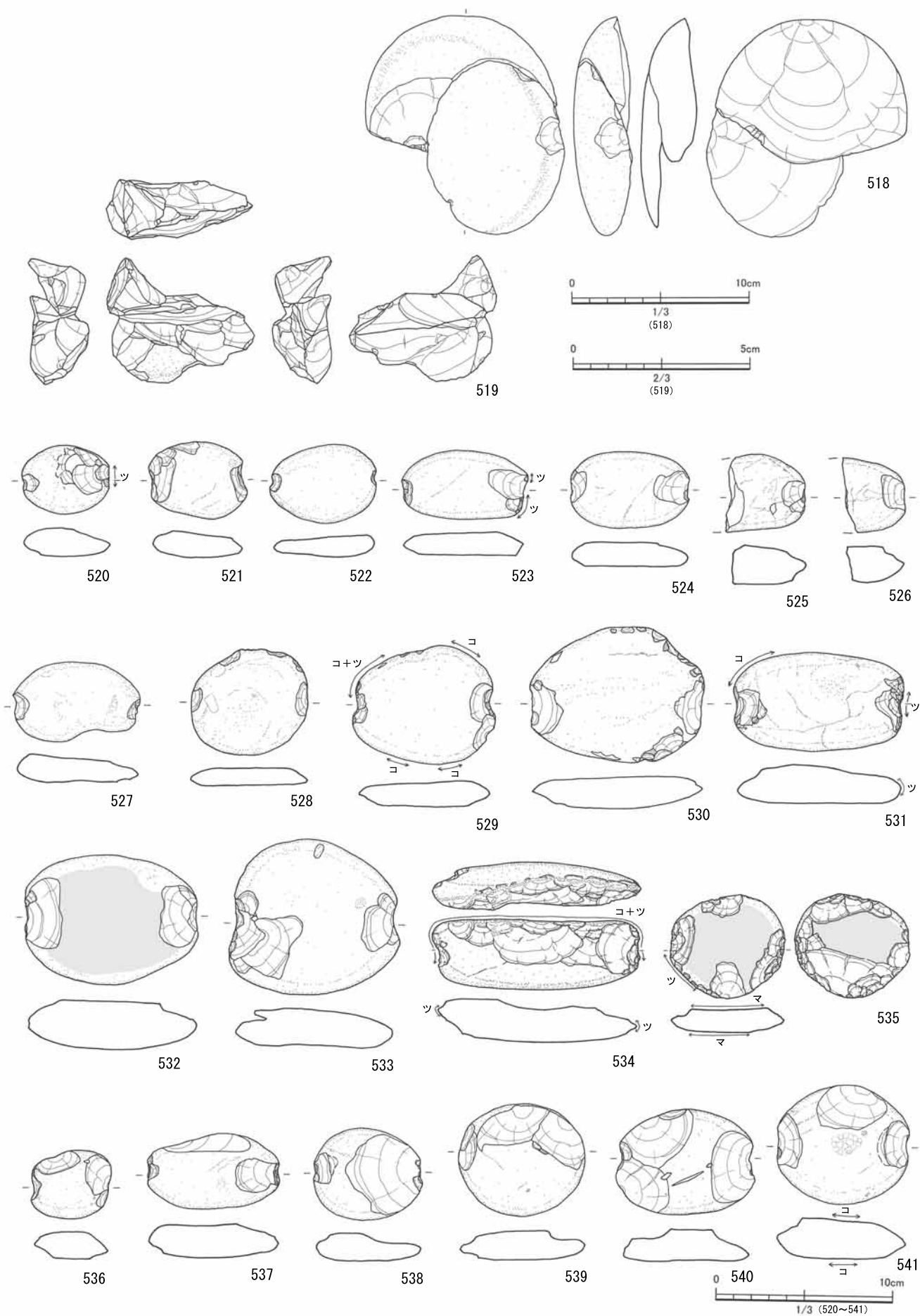


第58図 縄文時代中・後期石器実測図 (13)

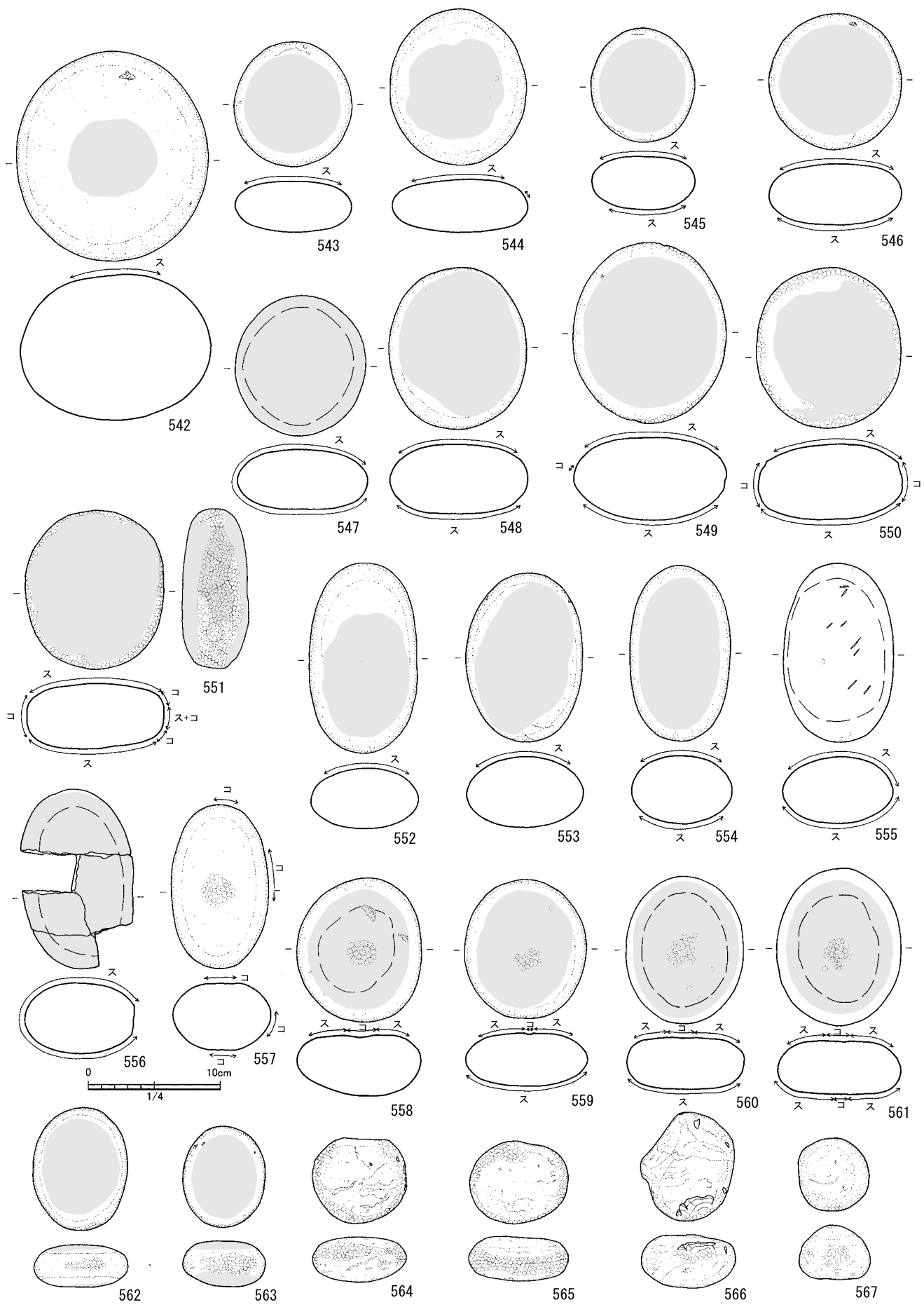


第59図 縄文時代中・後期石器実測図 (14)

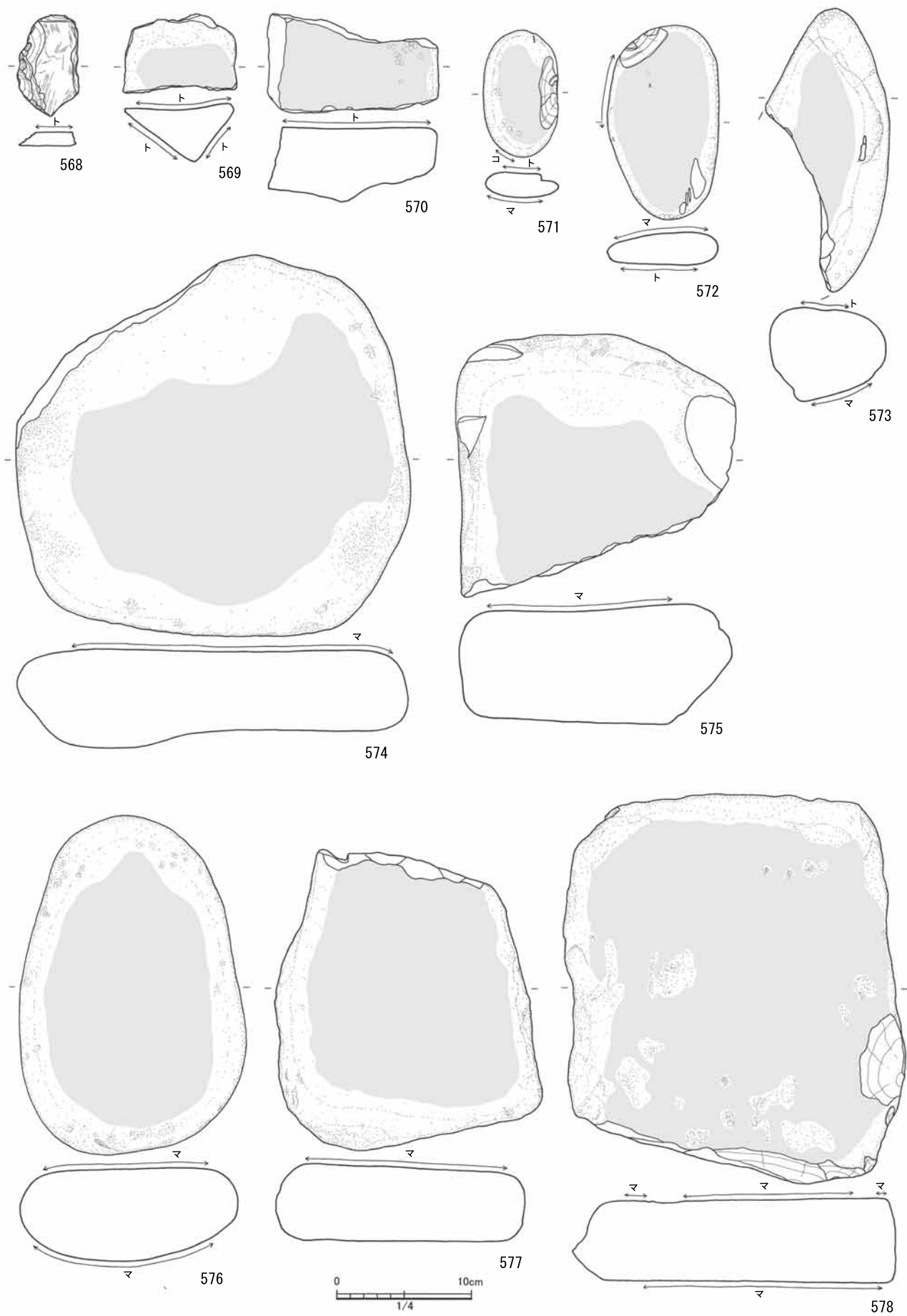




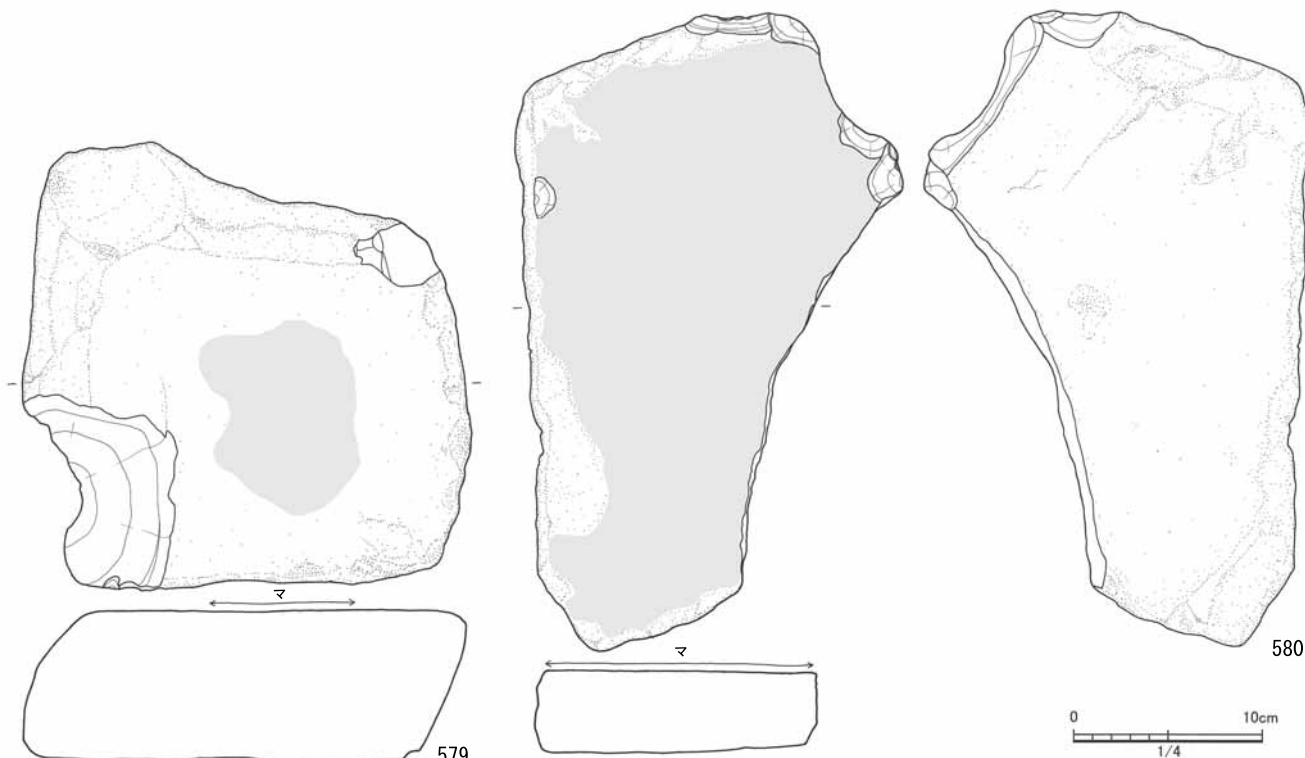
第60図 縄文時代中・後期石器実測図 (15)



第61図 縄文時代中・後期石器実測図 (16)



第62図 縄文時代中・後期石器実測図 (17)



第63図 縄文時代中・後期石器実測図 (18)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
136	深鉢	I	口~胴	B4 C3 C4	IIIa IIIb	口:(28.0)	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁端に両側を刻んだ短い突帯文。1条突帯文上にC字形の刻目、ナデ上に縄文・貝殻捺染突帯。	口唇部に斜方向の押圧縄文帯・内面に縄文帯	やや粗	胎土に5mm以下の灰色粒を含む 3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む	補修孔
137	深鉢	I	胴	A4-4区	III	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄 2.5Y6/3	縄文	指頭痕・ナデ	やや粗	4mm以下の赤色・灰色粒を微量に含む 3mm以下白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	焼成後穿孔
138	深鉢	I	頭	C6	III	-	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR4/4	無節縄文・弧状の貼付突帯・突帯状に部分的な刻み	丁寧な横方向のナデ	やや粗	2mm以下の赤色粒を少量含む 3mm以下の黒色・白色粒を多く含む 2mm以下の透明粒を多く含む	外:スス附着
139	深鉢	II	口	D4	III	-	にぶい黄褐 10YR5/3	暗灰黄 2.5Y4/2	突起上に円形刺突文、十字形突帯にC字形連続刺突文・押し文・無節縄文か(条線文)	工具ナデー横方向のナデ 指頭圧痕	やや粗	4mm以下の白色粒を多く含む 3mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を微量に含む	
140	深鉢	II	胴	A3区	IVa	-	黄褐 2.5Y5/3	黄褐 2.5Y5/3	十字形突帯にC字形連続刺突文・縄文	横方向のナデ	やや密	1mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2.5mm以下の灰色粒を微量に含む 6mm以下の透明粒を少量含む	
141	深鉢	II	口	D6	III	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ナデー貝殻条痕(二枚貝によるロッキングか)→円形連続刺突文、突帯貼付・竹管文	ナデー粗い燃りの縄文	やや粗	5mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の灰色粒を多く含む 1mm以下の赤色粒を微量に含む	波状口縁
142	深鉢	II	口	D6	III	-	浅黄 2.5Y7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	ナデー貝殻条痕(二枚貝によるロッキングか)→円形連続刺突文	丁寧な横方向のナデー粗い燃りの縄文	やや密	5mm以下の灰色粒を多く含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む	波状口縁 外:スス附着
143	深鉢	II	口	A1区	IIIb	-	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	横方向のナデ	縄文・横方向のナデ	やや密	2mm以下の赤色・黒色・透明粒・雲母を微量に含む 3mm以下の白色・灰色粒を微量に含む	外:スス附着
144	深鉢	II	胴	D4	IIIb	-	にぶい赤褐 5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	7条の沈線・巻貝による擬似縄文	横方向の貝殻条痕文	やや密	2mm以下の白色粒を少量含む	外:スス附着
145	深鉢	II	口	C5	III	-	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	口唇部に押圧刻み・格子目状の貼付突帯文	横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色粒を多く含む 3mm以下の透明粒を少量含む	外:赤色顔料 スス附着
146	深鉢	II	口	C4	IIIb	-	にぶい黄橙 10YR4/3	にぶい黄橙 10YR5/3	3条の沈線・2条の沈線の間に縄文か・ナデ	横方向のナデ	やや密	1mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む	波状口縁 沈線内に微量の赤色顔料
147	深鉢	前期末	口	C5	III	-	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 7.5YR6/4	ナデ・縦位の貝殻条痕文・連続刺突文・貝殻連点文	横方向のナデ・貝殻条痕・連点文	やや密	1mm以下の白色・透明粒を少量含む	
148	深鉢	II	口	T29	III	-	にぶい黄褐 10YR5/3	暗灰黄 2.5Y5/2	口縁直下に突帯・口唇端部に押圧文、下部は縦方向の条線	粗いナデ	やや密	2mm以下の灰色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を多く含む	外:スス附着
149	深鉢	II	胴	E7	III	-	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/4	ケズリ気味の粗いナデ・貼付突帯上に連続刺突文・刺突による鋸歯文・弧状沈線文	粗い横方向のナデの上に貝殻による上下2カ所のロッキング	やや密	1.5mm以下の黒色・灰色粒を少量含む 3mm以下の白色粒を多く含む 2.5mm以下の赤色・透明粒を少量含む	外・内:スス附着
150	深鉢	前期末	頭~胴	C5	III	-	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR5/2	縦方向の貝殻条痕文・弧状の刻目突帯の上下に連続文	横方向の貝殻条痕文の上に浅いロッキング	やや粗	3mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を含む 3mm以下の灰色粒を少量含む	外:スス附着

第9表 縄文時代中・後期土器観察表 (1)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
151	深鉢	前期末	頸～胴	A3	Ⅲ	-	にぶい黄褐 10YR5/3	暗灰黄 2.5Y5/2	貼付突帯(横)→刻み貼付突帯(縦)→ナデ下部は条痕文か	ナデ	やや粗	3mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の黒色・透明粒を含む 2mm以下の灰色粒を少量含む	
152	深鉢	前期末	口	C7	Ⅲ	-	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	口縁端部に刻目、下部はナデ→弧状の刺突文	横方向のナデ	やや密	3mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の灰色粒を多く含む 1mm以下の黒色粒を少量含む	
153	深鉢	前期末	胴	C5	Ⅲb	-	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/4	ナデー貝殻縁線連点文	横方向のナデ	やや密	3mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の黒色・透明粒を含む	外:スス付着
154	深鉢	Ⅲ	底	24T	I	-	にぶい黄橙 10YR6/4	明黄褐 10YR6/6	丁寧なナデ・指ナデ	ナデ	やや粗	3mm以下の赤色粒を微量に含む 4mm以下の白色粒を多く含む 3.5mm以下の灰色粒・雲母を少量含む	多角形底
155	鉢	Ⅳ	口	D6	Ⅲ	-	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR4/2	口縁突起に沈線→ミガキ・沈線・縄文	横方向のミガキ	やや粗	3mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の灰色・透明粒を含む	外・内:赤色顔料 外:スス付着
156	鉢	Ⅳ	口	E7	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR5/4	口縁突起に沈線・縄文→沈線→ミガキ	沈線・横方向のミガキ	密	1mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を微量に含む	外・内:赤色顔料 (外面多い)
157	鉢	Ⅳ	口	C3	Ⅲ	-	明赤褐 5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	ミガキ→C字形の4個の短沈線の間に縄文・横方向の沈線→縄文	横方向のミガキ	やや密	1mm以下の白色粒を少量含む	
158	鉢	Ⅳ	口	C3	Ⅲb	-	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	ナデー沈線→縄文	ナデ(風化)	やや密	4mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色粒を多く含む 5mm以下の透明粒を少量含む	焼成前穿孔
159	鉢	Ⅳ	口	C6	Ⅲ	-	にぶい褐 7.5YR6/3	橙5YR6/6	口縁部突起に2枚貝による擬似縄文・沈線文・外面に刺突文、ミガキ→沈線→2枚貝による擬似縄文	工具による横方向のナデ	密	2mm以下の赤色粒を少量含む 3mm以下の白色粒を含む 3mm以下の灰色粒を含む	波状口縁 外:スス付着、赤色顔料
160	深鉢	Ⅳ	頸～胴	B4	Ⅲb	-	橙7.5YR6/6	橙7.5YR7/6	沈線→縄文→横方向のナデ・下部は貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文→ナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の黒色・灰色粒を少量含む 3mm以下の白色粒を多く含む	内:黒斑
161	深鉢	Ⅳ	頸～胴	E7	Ⅲ	-	明褐 7.5YR5/6	灰褐 7.5YR4/2	ナデー沈線で区画→ナデー縄文	横方向のナデ	やや粗	1.5mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を多く含む	
162	深鉢	Ⅳ	胴	E7	Ⅲ	-	にぶい赤褐 5YR4/3	黒褐 10YR3/2	縄文→沈線による区画→丁寧なナデ	横方向の粗いミガキ	やや粗	2mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を多く含む	
163	深鉢	Ⅳ	胴	B4	Ⅲb	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	縄文→沈線による区画→ミガキ	横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・白色・灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	外:赤色顔料 内:黒斑
164	深鉢	Ⅳ	頸～胴	C5	Ⅲ	-	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	縄文→沈線による区画→丁寧なナデ	横方向の貝殻条痕文	やや密	3mm以下の灰色粒を多く含む 5mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の黒色・透明粒を微量に含む	
165	深鉢	Ⅳ	胴	E5	Ⅲ	-	黒褐 2.5YR3/1	黒褐 2.5YR3/1	縄文→沈線による渦文→ミガキ	ミガキ	やや密	1mm以下の赤色・黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色・灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を微量に含む	
166	深鉢	Ⅳ	胴	C3	Ⅲb	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ナデー沈線による区画→縄文	丁寧なナデ	やや粗	3mm以下の赤色・黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の灰色粒を多く含む	
167	深鉢	Ⅳ	胴	E7	Ⅲ	-	黒褐 7.5YR3/1	灰黄褐 10YR4/2	縄文→沈線による区画→ナデ	粗い横方向のナデ	やや粗	3mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
168	深鉢	Ⅳ	頸～胴	E2 E3	Ⅲb	-	橙5YR6/8	橙5YR6/8	ナデ・無節縄文・頸部に沈線文	横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色・白色粒を多く含む 2mm以下の黒色粒を多く含む 1mm以下の透明粒・雲母を少量含む	外:黒斑、赤色顔料 内:黒斑
169	深鉢	Ⅳ	頸	A1-3区	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	灰褐 7.5YR4/2	縦方向の工具ナデ・縄文	横方向のナデ	やや粗	7mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む 3mm以下の灰色粒を少量含む	外:スス付着
170	深鉢	Ⅳ	口 橋状把手	F3	Ⅲb	-	褐7.5YR4/4	灰黄褐 10YR4/2	弧状の沈線・ナデ・一部ミガキ	横方向のヘラナデ	やや粗	1mm以下の赤色・黒色・灰色粒を少量含む 4mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の雲母を少量含む	
171	鉢	Ⅳ	口 橋状把手	C5	Ⅲb	-	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	口唇部に斜方向の短沈線・端部刺突の短沈線・口縁・腹部に沈線文・ナデ	横方向のヘラナデ	やや密	1mm以下の赤色粒・雲母を少量含む 0.5mm以下の黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色粒を多く含む	
172	鉢	Ⅳ	口 橋状把手	F6	Ⅳa	-	橙5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線文・渦巻状の沈線文・縄文、頸部ミガキ	横方向のミガキ	やや密	1.5mm以下の赤色粒を微量に含む 2mm以下の白色・灰色粒を多く含む	外:スス付着、赤色顔料
173	深鉢	Ⅳ	口	A1-3区	Ⅲb	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	貼付突帯上および口縁部に斜方向の短沈線・斜・横方向のミガキ	横方向のナデ	やや密	0.5mm以下の黒色粒・雲母を多く含む 3mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の灰色・透明粒を多く含む	外:黒斑、把手が剥落したようなふくらみあり
174	鉢	Ⅳ	頸	D6	Ⅲ	-	灰黄褐 10YR4/2	黄褐 2.5Y5/3	沈線・横方向の丁寧なナデ	横方向のナデ	やや密	2mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
175	鉢	Ⅳ	胴	E7	Ⅲ	-	灰黄褐 10YR4/2	褐灰 10YR4/1	沈線・貼付突起・ナデ	粗いナデ	やや粗	1mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 3mm以下の白色粒を多く含む	
176	深鉢	Va	口	E6	Ⅲ	口:(39.4)	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR6/2	貝殻縁線刺突文・口唇部に沈線文・ナデ	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	4mm以下の赤色粒を含む 1mm以下の白色・灰色粒を少量含む 0.5mm以下の透明粒を多く含む	外:スス付着
177	深鉢	Va	口	E7	Ⅲ	-	にぶい橙 7.5YR7/3	橙5YR7/6	貝殻条痕文・貝殻縁線刺突文	ナデ	やや粗	1mm以下の赤色・黒色・灰色粒を多く含む 1mm以下の白色粒を微量に含む	波状口縁、黒斑
178	深鉢	Va	口	F6	Ⅲ	-	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	口唇部に貝殻連続刺突文・端部刺突の沈線文・貝殻縁線刺突文・連続刺突文・横方向のナデ	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや粗	2mm以下の赤色粒を含む 1mm以下の黒色・灰色粒を少量含む 2mm以下の白色・透明粒を多く含む	内:黒斑 外:スス付着
179	深鉢	Va	口	E6	Ⅲ	-	橙5YR6/6	橙5YR6/6	貝殻条痕文・沈線文	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の白色・透明粒を微量に含む	外:スス付着、波状口縁
180	深鉢	Va	口	A3-3区	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	口唇部に連続押圧刻み・短沈線・弧状沈線・縄文→ナデ	貝殻条痕文後ナデ	やや密	1mm以下の黒色・灰色・透明粒を少量含む 1mm以下の白色粒を多く含む	外:スス付着 内:黒斑

第10表 縄文時代中・後期土器観察表(2)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
181	浅鉢	IV	口	D4	IIIb	-	にぶい橙 7.5YR6/4	灰褐 7.5YR5/2	縄文一沈線・ミガキ	粗いミガキ	やや粗	1mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を含む 0.5mm以下の透明粒を含む	外:赤色顔料、黒斑 内:黒斑
182	深鉢	Va	胴	E7	III	-	にぶい黄橙 10YR6/4	褐灰 10YR4/1	筋のあるへら状工具による沈線・肥厚部に連続刻み、縦方向の貝殻条痕文一横方向のナデ	工具による横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
183	浅鉢	Va	口	E7	III	-	橙5YR6/8	灰黄褐 10YR4/2	貼付突帯・横方向のナデ	横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む	外:スス付着・黒斑 内:スス付着・黒斑
184	深鉢	Vb	口	D6	III	-	黄灰 2.5Y4/1	浅黄 2.5Y7/4	口唇に貝殻背面押圧文・貝殻条痕文・2段の貝殻腹縁連続刺突文	横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を微量に含む	外:スス付着
185	深鉢	Vb	口	E7	III	-	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	横方向の貝殻腹縁連続刺突文、横方向のナデ	貝殻条痕文一ナデ	やや密	1mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 2mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を少量含む	内:黒斑・スス付着
186	深鉢	Vb	口	A3-1区	III	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	口唇に貝殻背面押圧文・貝殻腹縁連続刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文一横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
187	深鉢	Vb	口	E8	III	-	明赤褐 5YR5/6	褐灰 7.5YR5/1	口唇部に斜方向の浅い沈線文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	2mm以下の赤色粒を微量に含む 3mm以下の灰色粒を多く含む	
188	深鉢	Vb	口	C4	IIIb	-	褐7.5YR4/4	にぶい黄橙 10YR5/4	斜方向の短沈線・斜方向の粗いミガキ	光沢のある丁寧なナデ	やや粗	2mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の灰色・透明粒を少量含む	
189	深鉢	Vb	口	C4	III	-	にぶい黄橙 10YR5/4	黄褐 2.5Y5/4	口唇部に浅い沈線状の面取り、横方向のナデ・貝殻腹縁連続刺突文	横・斜方向のナデ	やや密	1mm以下の白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
190	深鉢	Vb	口	B4	IIIa	-	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/4	貝殻腹縁による連続刺突文、横方向のナデ	口唇部に貝殻条痕・横方向のナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の灰色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を少量含む	波状口縁
191	深鉢	Vb	口	F6	III	-	にぶい橙 7.5YR7/4	灰褐 7.5YR5/2	斜方向の短沈線文・ケズリ状の強い横方向のナデ	横方向のナデ	やや粗	2mm以下の赤色粒を含む 2mm以下の白色粒を多く含む 0.5mm以下の透明粒を多く含む	外:スス付着 内:黒斑
192	深鉢	Vb	口	C7	III	-	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	斜方向の短沈線文・口唇部に刻目、粗い横方向のナデ	粗い横方向のナデ	やや密	4.5mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 2mm以下の白色粒を多く含む	外:スス付着・黒斑 内:黒斑
193	深鉢	Vc	口	E6	III	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	波頂部に押圧刻み、横方向のナデ・貼付突帯上に円形連続刺突文	貝殻条痕文一ナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む 2mm以下の灰色粒を含む	波状口縁
194	深鉢	Vc	口	E6	III	-	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	横ナデ・D字形の連続刺突文	横方向のナデ、口唇部凹面の面取り	やや密	1.5mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を微量に含む 3mm以下の灰色粒を多く含む	
195	深鉢	Vc	口	C6	IIIb	-	にぶい橙 5YR6/4	橙5YR6/6	ケズリ状の強い横方向のナデ→連続刺突文	横方向のナデ、口唇部は凹線文状の面取り	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 5mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を少量含む	
196	深鉢	Vc	口	B5	IIIb	-	橙7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	横方向のナデ→D字形の連続刺突文	横方向のナデ	やや密	3mm以下の灰色粒を多く含む 2mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
197	深鉢	Vc	口	C6	III	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	口唇部内部に連続押圧刻み・斜方向の貝殻条痕文・沈線文内に連続刺突列点文(押し文)・口縁帯下端に連続押圧刻み	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の赤色・白色粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む	
198	深鉢	Vc	口~底	F7	IIIa	口:(18.8) 底:(10.4) 器:(30.3)	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	斜・横方向の貝殻条痕文、波頂部に弧状、波底部に円形の沈線文・口縁部に2又状工具による連続刺突文、網代痕	斜・横方向の貝殻条痕文、指押さえ・ナデ	やや密	7mm以下の赤色粒を多く含む 0.5mm以下の白色粒を少量含む	外・内:黒斑 波状口縁
199	深鉢	Vd	口	E7	III	-	褐7.5YR4/4	にぶい黄橙 10YR6/4	口唇部に沈線文、斜方向・弧状の短沈線文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の赤色・黒色・灰色粒を少量含む 5mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を多く含む	外:スス付着・黒斑
200	深鉢	Vd	口	A3-3区	IIIa	-	橙5YR7/6	明黄褐 10YR7/6	口縁部に沈線文・口縁端部に連続押圧刻み、幅広の横方向の沈線文	ナデ	やや密	1mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の灰色粒を多く含む	
201	深鉢	Vd	口	E6	III	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁端部連続刺突文・沈線による渦巻文・連続刺突文・口唇部に沈線、波頂部に円形刺突文	横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・透明粒を少量含む 0.5mm以下の黒色・白色粒を少量含む 6.5mm以下の灰色粒を少量含む	波状口縁
202	深鉢	Vd	口	C4	IIIb	-	橙5YR6/6	橙5YR6/6	2条の沈線文・横方向のナデ・棒状工具連続短沈線文	横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・透明粒を微量に含む 2mm以下の白色粒を微量に含む	
203	深鉢	Vd	口	E5	III	-	黒褐 7.5YR3/1	灰褐 7.5YR4/2	縦方向・横方向の短沈線文・横方向のナデ	丁寧な横方向のナデ	密	1mm以下の白色・透明粒を少量含む 1mm以下の赤色粒を微量に含む	
204	深鉢	Vd	口	B5	IIIb	-	浅黄橙 10YR8/4	褐灰 10YR6/1	2重の弧状沈線文・刺突文、横方向のナデ、口唇の凹線文状の面取り、口唇に沈線文・連続押圧文	横方向の貝殻条痕文一横方向のナデ	やや粗	5mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の白色粒・透明粒を含む 3mm以下の灰色粒を含む	外:スス付着 内:黒斑
205	深鉢	Ve	口	A3-2区	III	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	沈線内連続刺突の渦文・直線文、横方向のナデ	粗いナデ	やや密	1mm以下の赤色粒を微量に含む 0.5mm以下の黒色・透明粒を微量に含む 0.5mm以下の白色粒を少量含む	波状口縁

第11表 縄文時代中・後期土器観察表(3)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
206	深鉢	Ve	口	A3-1区	Ⅲ	-	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR4/2	口唇に連続刻み・横方向のナデ・2条の沈線文	横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・白色粒を含む	
207	鉢か	XⅢ	頸～胴	E2	Ⅲb	-	にぶい黄褐 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR6/4	2条の沈線文・X字状に回転する2条の沈線文、ヘラミガキ	ヘラミガキ	やや密	1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 1mm以下の白色粒を微量に含む	
208	深鉢	Ve	口～胴	B4 C5	Ⅲb	口:(27.0)	浅黄 2.5Y7/4	浅黄 2.5Y7/3	口唇は斜方向の連続刻み、長楕円状の沈線文・工具ナデ	横方向のナデ→横方向の貝殻条痕文	やや密	2mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の黒色・白色・灰色・透明粒を少量含む	外:スス附着 圧痕資料13
209	深鉢	Ve	口	C4	Ⅲb	-	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR7/4	横方向のナデ・口唇部沈線文・沈線文	横方向のナデ(接合痕あり)	やや密	2mm以下の赤色粒を多く含む 4mm以下の白色粒を多く含む 5mm以下の灰色粒を少量含む	
210	深鉢	Ve	口	E6	Ⅲ	-	褐7.5YR4/6	明褐 7.5YR5/4	口唇部に沈線文・弧状沈線文・連続刺突文	ナデ・粗いナデ	やや密	2mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・灰色・透明粒を少量含む 4mm以下の白色粒を多く含む	外・内:黒斑 波状口縁
211	深鉢	Ve	口	A3-2区	Ⅲ	-	橙7.5YR7/6	灰黄褐 10YR5/2	2条の沈線文をはさむように連続刻み・貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	2mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を含む 6mmの白色粒を多く含む	外:スス附着 波状口縁か
212	深鉢	Ve	口	F6	Ⅲ	-	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR4/2	口唇部は凹線状の面取り、沈線文・口縁の上下端および短沈線文・貝殻腹縁連続刺突文	横方向のナデ	やや粗	2mm以下の赤色・灰色粒を微量に含む 3mm以下の黒色粒を微量に含む 2mm以下の白色・透明粒を多く含む	波状口縁 外:スス附着
213	深鉢	Ve	口	C3	Ⅲ	-	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	口唇に沈線文と連続刻み・沈線文と連続刺突文・横方向のナデ	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色・白色・灰色粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を含む 0.5mm以下の透明粒を多く含む	外:黒斑 波状口縁
214	深鉢	Ve	口	A3-1区	Ⅲ	-	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR6/3	波頂部を押圧・5条の沈線文・ナデ	横方向のナデ	やや密	2mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色粒を微量に含む	内:黒斑 波状口縁
215	深鉢	Vf	口	B5	Ⅲb	-	にぶい褐 7.5YR5/4	明赤褐 5YR5/6	ナデ、貝殻条痕文→突帯貼付・波頂部に押圧刻み	貝殻条痕文→ナデ	やや密	2mm以下の白色・灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を含む 2mm以下の赤色粒を少量含む	外:スス附着 焼成後穿孔 波状口縁か
216	深鉢	Vf	口	E6	Ⅲ	-	明赤褐 5YR5/6	橙7.5YR6/6	口唇部内に押圧刻み・貝殻条痕文→ナデ	貝殻条痕文	やや粗	3mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の灰色粒を含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
217	深鉢	Vf	口	C4	Ⅳa	-	赤褐 5YR4/6	明赤褐 5YR5/6	波頂部に貝殻腹縁連続刺突文・短沈線文・貝殻腹縁連続刺突文・横方向のナデ	横方向のナデ	やや粗	1mm以下の黒色粒を微量に含む 4mm以下の白色粒を中量含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁
218	鉢	Ⅳ	口	A3-2区	Ⅲ	-	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい黄褐 10YR4/3	貝殻擬細文・横方向のヘラミガキ	ヘラミガキ	やや密	2mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の灰色粒を少量含む	外:スス附着
219	深鉢	Ⅵ	口	C3	Ⅲ	-	にぶい黄褐 10YR6/4	橙7.5YR6/6	貼付突起・沈線文の両側に2条の連続刺突文、口唇は押圧刻目文・沈線文・横方向のナデ	斜・横方向の貝殻条痕後ナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・灰色・透明粒を少量含む 1mm以下の白色粒を多量含む	内:黒斑 波状口縁
220	鉢か	Ⅵ	口	C4	Ⅲb	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁の貼付突帯に縦方向の蛇行状の貼付粘土帯・横方向のナデ、貼付突帯文	丁寧なナデ	やや密	1mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の灰色・透明粒を含む	外・内:黒斑
221	深鉢	Ⅶ	口	A1-4区	Ⅲ	-	明褐 7.5YR5/6	橙7.5YR6/6	4列の逆D字状連続刺突文・縦方向の貼付突帯上に刺突文・横方向のナデ	斜方向の貝殻条痕文→ナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 3mm以下の白色粒を多く含む	内:スス附着
222	深鉢	Ⅶ	口	F3	Ⅲ	口:(30.0)	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/8	貝殻条痕文→貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文	やや密	4mm以下の赤色・灰色粒を多く含む 0.5mm以下の黒色粒を少量含む	
223	深鉢	Ⅶ	口	D4	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文→貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の赤色・黒色・透明粒を少量含む	
224	深鉢	Ⅶ	口～胴	B5	Ⅲb	口:(23.0)	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文→貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色・灰色粒を多く含む 2mm以下の白色・透明粒を少量含む	外:スス附着
225	深鉢	Ⅶ	口～胴	C4 F3	Ⅲb Ⅳa	口:31.4	明赤褐 5YR5/5	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文・横方向のナデ→貝殻腹縁連続刺突文、口唇部はナデで面取り	貝殻条痕文	やや密	6mm以下の白色粒を多く含む 3mm以下の赤色・灰色粒を含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む	外:スス附着
226	深鉢	Ⅶ	口～頭	C4 F2	Ⅲb	口:(39.2)	橙5YR6/8	橙2.5YR6/8	貝殻条痕文→貝殻腹縁連続刺突文、口唇部はナデで面取り	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の赤色・透明粒を多く含む 0.5mm以下の黒色粒を微量に含む	外:スス附着
227	深鉢	Ⅶ	口～胴	F3 F6	Ⅲb	口:(26.0)	にぶい赤褐 5YR5/4	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文・貝殻腹縁連続刺突文、口唇部はナデで面取り	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2mm以下の白色・透明を多く含む	外:スス附着・黒斑 内:黒斑
228	深鉢	Ⅶ	口～頭	C6	Ⅲa	-	明赤褐 2.5YR5/6	橙2.5YR6/8	横方向の貝殻条痕文・横方向のナデ、貝殻腹縁連続刺突文	横方向の貝殻条痕文	やや粗	3mm以下の赤色粒を含む 3mm以下の黒色・灰色・透明粒を少量含む 7mm以下の白色粒を少量含む	外:スス附着
229	深鉢	Ⅶ	口	C5	Ⅲ	-	橙5YR6/6	明褐 7.5YR5/6	貝殻条痕文・横方向のナデ、貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文→横方向のナデ、波頂部に縦方向の貝殻腹縁刺突文9個	やや密	3mm以下の赤色粒を少量含む 1.5mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を多く含む	外:スス附着 波状口縁
230	深鉢	Ⅶ	口	C4	Ⅲb	-	赤褐 5YR4/8	橙7.5YR6/6	貝殻条痕文→横方向のナデ→貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	0.5mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色・灰色粒を多く含む	外:スス附着 内:黒斑
231	深鉢	Ⅶ	口～頭	F3	Ⅲb	-	褐7.5YR4/4	赤褐 5YR4/6	貝殻条痕文→横方向のナデ・貝殻腹縁連続刺突文	横方向のナデ	やや密	6mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む	外:黒斑
232	深鉢	Ⅶ	口～胴	E2 E3	Ⅲa	口:(20.6)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	貝殻条痕文→ナデ・貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の黒色・白色・灰色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	外:スス附着・黒変 内:黒斑
233	深鉢	Ⅶ	口～胴	C4	Ⅲb	口:(23.0)	明赤褐 5YR5/6	褐7.5YR4/3	貝殻条痕文・貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の白色・灰色粒を含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む	外:黒斑 圧痕資料3
234	深鉢	Ⅶ	口	F3	Ⅲ	-	褐7.5YR4/3	赤褐 5YR4/6	貝殻条痕文・貝殻腹縁連続刺突文、口唇に押圧刻み	貝殻条痕文(斜交)	密	1mm以下の白色・透明粒を微量に含む	外・内:黒斑
235	深鉢	Ⅶ	口	E4	Ⅲb	-	褐灰 5YR4/1	明赤褐 5YR5/8	貝殻条痕文、貝殻腹縁連続刺突文	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色粒を多く含む 0.5mm以下の黒色粒をやや多く含む 0.5mm以下の白色・灰色粒を少量含む	外:スス附着

第12表 縄文時代中・後期土器観察表(4)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
236	深鉢	Ⅶ	□	C5	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	横方向のナデ・貝殻条痕文・貝殻縁連続刺突文	横・斜方向の貝殻条痕文	やや密	5mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 1mm以下の白色粒を多く含む	
237	深鉢	Ⅶ	□	C4	Ⅲb	□:(31.4)	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	貝殻条痕文→ナデ・貝殻縁連続刺突文	貝殻条痕文→ナデ	やや粗	1mm前後の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む	外: スス付着 風化が著しい
238	深鉢	Ⅶ	□~胴	C3	Ⅲb	-	黒褐 10YR3/2	褐 7.5YR4/3	貝殻条痕文→横方向のナデ・貝殻縁連続刺突文	横方向の貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を少量含む 3mm以下の黒色・白色・灰色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を少量含む	外・内: 黒斑
239	深鉢	Ⅶ	□	C4	Ⅲb	-	橙 5YR6/8	にぶい黄橙 10YR6/4	貝殻条痕文→ナデ・貝殻縁連続刺突文	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗	1mm以下の赤色・白色粒を多く含む 0.5mm以下の灰色粒を微量に含む	
240	深鉢	Ⅶ	頸	F3	Ⅲb	-	にぶい赤褐 5YR4/4	にぶい赤褐 5YR4/4	貝殻縁連続刺突文・横方向のナデ・貝殻条痕文	貝殻条痕文→ナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む 4mm以下の灰色粒を微量に含む	
241	深鉢	Ⅶ	頸~胴	E3	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文・貝殻縁連続刺突文	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗	2mm以下の赤色・黒色粒を微量に含む 2mm以下の白色粒を少量含む 3mm以下の透明粒を多く含む	外: スス付着
242	深鉢	Ⅶ	頸	C3 C4	Ⅲb Ⅳa	-	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	貝殻条痕文→貝殻縁連続刺突文	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	3mmの赤色粒を多く含む 0.5mmの白色・透明粒を少量に含む	
243	深鉢	Ⅶ	頸	A1-2区	Ⅲ	-	褐灰 7.5YR4/1	明褐 7.5YR5/6	横方向のナデ・押し引状の貝殻縁連続刺突文	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を多く含む	外: 黒斑
244	深鉢	Ⅶ	胴	C3	Ⅲa	-	にぶい赤褐 5YR4/3	褐 7.5YR4/4	ナデ・貝殻縁連続刺突文・貝殻条痕文	横方向のナデ・貝殻条痕文	やや粗	4mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む	
245	深鉢	Ⅶ	□	F3	Ⅲb	□:(18.0)	明褐 7.5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	縦・斜方向の貝殻条痕文・横方向ナデ	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
246	深鉢	Ⅶ	□	C4	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	横方向の貝殻条痕文→縦方向の貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の赤色・白色・透明粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む	外: スス付着
247	深鉢	Ⅶ	頸	C4	Ⅲb	-	明赤褐 2.5YR5/8	橙 7.5YR6/6	横方向の貝殻条痕文の上に縦方向の貝殻条痕文・斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	やや密	0.5mm以下の赤色・白色・透明粒を多く含む 0.5mm以下の黒色粒を少量含む	
248	深鉢	Ⅶ	□	A1-2区	Ⅲ	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文→横方向のナデ	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を少量含む 3mm以下の黒色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を少量含む	外・内: 黒斑
249	深鉢	Ⅶ	□	C4	Ⅳa	-	暗褐 7.5YR3/3	褐 7.5YR4/4	横方向のナデ	波頂部内面に押し刻み・横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・黒色粒を微量に含む 1mm以下の灰色・透明粒を少量含む	波状口縁
250	鉢か	Ⅶ	□	C4	Ⅲb	-	褐 7.5YR4/6	明褐 7.5YR5/8	横方向のナデ(光沢あり)・4条の沈線文	横方向のナデ(一部光沢あり、ミガキか)	やや粗	1mm以下の黒色・白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
251	深鉢	Ⅸ	□~頸	C5	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	口唇部に棒状工具押し刻み→粗いヘラナデ(光沢あり)	横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 4mm以下の白色粒を多く含む	波状口縁
252	深鉢	Ⅸ	□	E3	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/8	口唇部に棒状工具で押し刻み8個→横方向のナデ	横方向のナデ	やや密	4mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を少量含む 2mm以下の白色・透明粒を多く含む	内: スス付着 波状口縁
253	深鉢	Ⅸ	□	C6	Ⅲ	-	にぶい褐 7.5YR5/4	黒褐 7.5YR2/2	粗いヘラミガキ・波頂部に5条の短沈線文	粗いミガキ	やや密	1mm以下の白色粒を微量に含む 2mm以下の灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁 内: スス付着
254	深鉢	Ⅸ	□	E8	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/4	波頂部に貝殻縁による8個の押し刻み・横方向のナデ	横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の白色・灰色粒を少量含む 0.5mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁
255	深鉢	Ⅸ	□	C5	Ⅲ	-	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	口唇部に押し刻み・横方向のナデ	貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を少量含む 3mm以下の灰色粒を多く含む	波状口縁か
256	深鉢	Ⅸ	□	A3-3区	Ⅲ	-	暗灰黄 2.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/4	横・斜方向の貝殻条痕文・口唇部に連続押し刻み	横方向の貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	外: 黒斑
257	深鉢	Ⅸ	□	F7	Ⅲ	-	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	波頂部内外面をめぐる2重の弧状沈線文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	2mm以下の赤色粒を微量に含む 2mm以下の白色粒を少量含む 2.5mm以下の灰色粒を少量含む	外: スス付着 内: 炭化物付着 波状口縁
258	深鉢	Ⅸ	□	A3-1区	Ⅲ	-	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	貝殻条痕文→横方向のナデ・口唇部に沈線文	貝殻条痕文	やや密	1.5mm以下の赤色粒を少量含む 3mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色・粒を少量含む	口唇: スス付着
259	深鉢	Ⅸ	□	A1-4区	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	口唇部に沈線文と押し連続刻み・横方向のナデ・波頂部に3条の短沈線文	横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2mm以下の白色粒を少量含む	波状口縁 外: 黒斑
260	深鉢	Ⅸ	□	F6	Ⅲ	-	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	口唇部に条痕と押し刻み・横方向のナデ	横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色・灰色粒を多く含む 1mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を多く含む	外・内: スス付着・ 黒斑
261	鉢か	Ⅸ	□	C3	Ⅲb	-	橙 5YR6/6	橙 5YR6/8	横方向のナデ・口唇部に縄文、刺突のある貼付突起2個	横方向のナデ	密	1mm以下の赤色・白色粒を少量含む 5mm以下の黒色粒を含む 0.5mm以下の透明粒を多く含む	外: 赤色顔料
262	深鉢	Ⅸ	□	C4	Ⅲb	-	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	口唇部に縄文・縦方向の工具ナデ(ヘラか)	横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を含む 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む 3mm以下の透明粒を含む	内: 黒斑
263	深鉢	Ⅸ	□~胴	B4 B5 C4	Ⅲb	□:(23.3)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	横・斜方向の貝殻条痕文→ナデ・口唇部に貝殻縁によると思われる連続刻み	横・斜方向の貝殻条痕文→ナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を非常に多く含む 3mm以下の白色・灰色粒を含む 1mm以下の透明粒を少量含む	外: スス付着 波状口縁
264	深鉢か	Ⅸ	□	F6	Ⅲ	□:(29.1)	浅黄橙 10YR8/4	橙 2.5YR6/8	横方向の工具ナデ・波頂部に押し刻み	横方向のナデ・工具ナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を多く含む 0.5mm以下の灰色粒を多く含む	波状口縁 外: スス付着
265	深鉢	Ⅸ	□	C4	Ⅲb	-	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	波頂部に刺突文・斜方向の貝殻条痕文→粗いナデ	横方向の貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を含む 1mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	外: 少量のスス付着 内: 黒斑 波状口

第13表 縄文時代中・後期土器観察表(5)



No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
266	深鉢	IX	口	C5	Ⅲ	-	灰褐 7.5YR4/2	にぶい褐 7.5YR5/4	波頂部に押圧刻み、口唇部に沈線文・貝殻条痕文→ケズリ気味の強いナデ	貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色・白色粒を少量含む 2.5mm以下の黒色・灰色粒を微量に含む 1.5mm以下の透明粒を多く含む	波状口縁 外縁: スス付着
267	深鉢	IX	口	C4	Ⅲb	口: (20.4)	にぶい褐 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	波頂部に押圧刻み、工具ナデ・補修孔	貝殻条痕文	やや密	0.5mm以下の白色黒色粒を多く含む 1mm以下の赤色粒をやや多く含む	波状口縁 外: 黒変、焼成後穿孔
268	深鉢	IX	口~胴	C5	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	波頂部に3条の短沈線文・口唇部に連続刺突文、横方向のナデ	ナデ	やや密	4mm以下の赤色粒を多く含む 1.5mm以下の黒色粒を多く含む 1mm以下の白色・透明粒を微量に含む	外・内: 黒斑 波状口縁
269	深鉢	IX	口	C4	Ⅲb	口: (25.9)	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	波頂部に棒状工具押圧刻み・貝殻条痕→横方向のナデ	横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色・灰色・透明粒を少量含む	波状口縁 外: スス付着
270	深鉢	IX	口~胴	D3	Ⅲb	口: (31.9)	灰褐 7.5YR4/2	明赤褐 5YR5/6	波頂部に刺突文・貝殻条痕文	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや粗	3mm以下の赤色・透明粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を含む 2mm以下の白色粒を含む	波状口縁 外: スス付着
271	皿か	X	口	D5	Ⅲ	-	橙5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	竹管による連続刺突・2条の沈線文・横方向のナデ・口唇に沈線文・波頂部に3条の押圧刻み	横方向のナデ	やや密	1mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を微量に含む	波状口縁
272	皿	X	口	A4-4区	Ⅲ	-	橙7.5YR7/6	にぶい黄褐 10YR4/3	口唇部に巻貝による押圧・巻貝条痕・横方向のナデ→沈線文	貝殻条痕文	やや密	4.5mm以下の赤色粒を微量に含む 4mm以下の白色粒を少量含む	波状口縁 外: 少量のスス付着 内: 多量の炭化物付着
273	皿か	X	口	C4	Ⅲb	-	橙7.5YR6/6	橙5YR6/6	口唇に貼付突帯・脇を巻貝状工具で押圧刻み・焼成前円孔、横・斜方向の貝殻条痕文(巻貝)・ナデ	丁寧なナデ	やや密	1mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を多く含む	波状口縁、穿孔 外: 少量のスス付着 内: 黒斑
274	皿か	X	口	C4	Ⅲb	-	明赤褐 5YR3/2	明赤褐 5YR5/6	工具ナデ・貝殻条痕文、口唇から内面にかけて波頂部からずらして貼付突帯文	貝殻条痕文→横方向のナデ・波頂部内面に貝殻腹縁刺突文(6列)	やや密	2mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む	波状口縁 スス付着
275	皿か	X	口	A1-4区	Ⅲ	-	橙5YR6/8	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文・横方向のナデ	貝殻腹縁による2段の刺突文、横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色粒を少量含む 3mm以下の透明粒を多く含む	波状口縁 外: スス付着
276	深鉢	XI	口~頭	C3 C4 E3	Ⅲb	口: (28.0)	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/8	貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや粗	3mm以下の赤色・灰色粒を多く含む 3mm以下の透明粒を微量に含む	外: スス付着 内: 黒斑
277	深鉢	XI	口	F3	Ⅲ	-	にぶい赤褐 5YR4/3	明赤褐 5YR5/6	横方向の貝殻条痕・ナデ	横・斜方向の貝殻条痕、粘土経目痕あり	やや密	4mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む	外・内: 黒斑
278	深鉢	XI	口~胴	C4	Ⅲb IVa	口: (23.9)	褐7.5YR4/3	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文→横方向のナデ	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 4mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の透明粒を少量含む	
279	深鉢	XI	口	E2	Ⅲb	口: (22.8)	灰黄褐 10YR4/2	にぶい赤褐 5YR5/4	貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	2mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む	焼成後穿孔
280	深鉢	XI	口	C3 C4	Ⅲb	口: (24.1)	橙7.5YR6/6	明赤褐 2.5YR5/6	横方向のナデ・指頭痕あり	貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色・灰色を少量含む	外: スス付着
281	深鉢	XI	口~胴	E8	Ⅲa	口: (26.6)	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	横方向のナデ、横・斜方向の貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや粗	1mm以下の赤色・白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を中量含む	
282	深鉢	XI	口	D3	Ⅲ	口: (20.5)	明赤褐 2.5YR5/6	橙2.5YR6/8	横方向の貝殻条痕文・横方向のナデ	斜方向の貝殻条痕文・ナデ	やや密	5mmの赤色粒を非常に多く含む 0.5mmの黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色・灰色・透明粒を多く含む	外: スス少量付着
283	深鉢	XI	口~胴	D3	Ⅲb	口: (25.2)	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい赤褐 5YR4/3	横方向のナデ・貝殻条痕文	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色・白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を中量含む	内: 黒斑
284	深鉢	XI	口	F5	Ⅲ	-	明赤褐 5YR5/6	橙5YR6/8	貝殻条痕文・横方向のナデ	横方向のナデ・貝殻条痕文	やや粗	2mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の灰色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁か
285	深鉢	XI	口	C4	Ⅲb	口: (21.0)	赤褐 5YR4/6	にぶい赤褐 5YR5/4	貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の白色・灰色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
286	深鉢	XI	口	D4	Ⅲb	口: (29.8)	にぶい赤褐 2.5YR4/3	赤褐 2.5YR4/8	貝殻条痕文・へら面取り	貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の灰色粒を多く含む	
287	深鉢	XI	口	C5	Ⅲ	-	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい赤褐 5YR4/3	貝殻条痕文・横方向のナデ	貝殻条痕文	やや粗	1mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	外: スス少量付着
288	深鉢	XI	口~頭	A2区	Ⅲb	-	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	貝殻条痕文・横方向のナデ	貝殻条痕文・横方向のナデ	やや密	3mmの赤色粒を多く含む 0.5mm以下の黒色粒を少量含む 0.5mmの白色粒を多く含む	波状口縁 外: スス付着
289	深鉢	XI	口~胴	D4	Ⅲb	-	にぶい赤褐 5YR5/4	明赤褐 5YR4/6	ケズリ気味の粗い貝殻条痕文	ケズリ気味の粗い貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 3mm以下の透明粒をやや多く含む 1mm以下の白色・灰色・黒色粒を微量に含む	
290	深鉢	XI	口	C4	Ⅲb	口: (19.8)	赤褐 5YR4/6	赤褐 5YR4/6	斜方向の貝殻条痕文・ナデ	横方向の貝殻条痕文	やや密	4mm以下の白色粒を多く含む 3mm以下の赤色・灰色粒を含む 1mm以下の透明粒を少量含む	粘土経目痕 外: スス少量付着
291	深鉢	XI	口	C5 F5	Ⅲ	口: (42.0)	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄橙 10YR6/4	貝殻条痕文→横方向のナデ	へらナデか	やや密	3mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の黒色・灰色粒を含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁になる可能性あり
292	深鉢	XI	口	E6	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	貝殻条痕文→横・斜方向のナデ	横方向のナデ	やや密	1.5mm以下の赤色・白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	内: 炭化物付着
293	浅鉢	XI	口	F6	Ⅲ	-	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR4/2	粗いミガキ・頸部に沈線文	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	1mm以下の赤色粒・雲母を微量に含む 1.5mm以下の白色粒を多く含む 0.5mm以下の灰色粒を微量に含む	
294	浅鉢	XI	口	A1-4区	Ⅲb	-	灰黄 2.5Y4/1	灰黄褐 10YR5/2	貝殻条痕文→横方向のナデ	貝殻条痕文	やや密	1mm以下の白色・灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁になる可能性あり 外: スス付着
295	深鉢	XI	口~胴	E3 E4	Ⅲb	口: (21.6)	明赤褐 2.5YR3/3	明赤褐 2.5YR3/2	粗いナデ	粗いナデ・貝殻条痕文	やや粗	4mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む	外: スス少量付着

第14表 縄文時代中・後期土器観察表(6)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考	
							外面	内面	外面	内面			
296	深鉢	XI	口~胴	C3 C4	IIIb	口:(23.2)	赤褐 5YR4/6	にぶい黄褐 10YR5/4	貝殻条痕文→横方向のナデ	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗	2mm以下の赤色・白色粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	外:スス附着 圧痕資料5
297	深鉢	XI	胴	F6	III	-	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	斜方向の条痕文	横・斜方向のナデ	やや密	4mm以下の赤色・灰色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色粒を少量含む	外:黒斑 内:炭化物附着
298	深鉢	XI	胴	E3 E2	IIIb	-	明褐 7.5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	斜方向の貝殻条痕文→ナデ	斜・横方向の貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗	4mm以下の赤色粒を非常に多く含む 2mm以下の白色・灰色・黒色・透明粒を少量含む	外:スス附着
299	深鉢	XI	頸	F3	III	-	明赤褐 5YR5/6	橙2.5YR6/8	斜・横方向の貝殻条痕文・横方向のナデ	斜・横方向の貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 0.5mm以下の白色粒を多く含む	
300	深鉢	XI	頸~胴	C5 D5	IIIb	-	赤褐 5YR4/6	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文・ナデ	貝殻条痕文→横方向のナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を多く含む 3mm以下の白色・黒色・灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	外:スス附着
301	深鉢	XI	胴~底	B4	IIIb	底:(10.5)	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	斜・横方向の工具ナデ、縦方向の工具ナデ	斜・横方向の貝殻条痕文・ナデ	やや密	5mm以下の赤色・白色・灰色粒を非常に多く含む 2mm以下の透明粒を少量含む	網代底か
302	深鉢	XI	口~胴	C4	IIIb	口:(28.0)	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	粗い工具ナデ	横方向のナデ・ケズリ気味の粗いナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の白色・透明粒を多く含む 5mm以下の黒色・灰色粒を微量に含む	外:スス附着 内:黒斑
303	深鉢	XI	口~胴	E4 F4	IIIb	-	にぶい褐 7.5YR5/3	明赤褐 5YR5/6	指頭痕・横方向の粗いナデ	横方向の粗いナデ	やや粗	2mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	外:スス附着・黒斑 内:黒斑
304	深鉢	XI	口	E7	III	-	明褐 7.5YR5/8	明褐 7.5YR5/8	横方向のナデ・斜方向のナデ	横方向のナデ	粗	3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 2mm以下の白色粒を少量含む	
305	深鉢	XI	口	E4	IIIb	-	にぶい赤褐 5YR4/3	明赤褐 5YR5/6	横方向の粗いナデ・縦方向のナデ	横方向の粗いナデ	やや密	2mm以下の赤色粒を多く含む 0.5mm以下の白色粒を多く含む 0.5mm以下の灰色粒を微量に含む	内:スス附着
306	深鉢	XI	口~胴	C4	IIIb	口:(28.4)	にぶい赤褐 5YR4/4	にぶい赤褐 5YR4/4	横方向の丁寧なナデ(光沢あり)、口唇部は斜めに面取り	横方向のナデ・ヘラナデ・ケズリ状ナデ	やや密	5mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の灰色・透明粒を少量含む	外:黒斑
307	小型鉢	XI	胴~底	A1-4区	IIIb	底:(5.5)	褐7.5YR4/4	明褐 7.5YR5/6	横方向のナデ	横方向の粗いナデ	やや粗	3mm以下の灰色粒を多く含む 2mm以下の黒色・白色・透明粒を含む	外:スス附着 ミニチュアか 接合痕
308	深鉢	XII	口~胴	C4	IIIb	-	橙5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	横方向のナデ・条痕文・粗いヘラミガキ・沈線文	条痕文→横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色・白色粒を少量含む 3mm以下の灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁 内:黒斑
309	深鉢	XII	口~胴	C3	IIIb	口:(42.7)	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	斜方向の工具による条痕文	斜・横方向の貝殻条痕文	やや粗	3mm以下の赤色・白色粒を多く含む 2mm以下の黒色粒を少量含む 4mm以下の灰色粒を少量含む	外:スス附着 波状口縁
310	深鉢	XII	口	C5	IIIb	-	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	横方向の貝殻条痕文・斜方向の貝殻条痕文	指頭痕、斜・横方向の貝殻条痕文	やや密	1mm以下の赤色・黒色・白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	波状口縁か 外:スス附着
311	深鉢	XII	口~胴	C4	IIIb	口:(20.1)	橙5YR6/6	褐灰 7.5YR4/1	横方向のナデ・貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密	3mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の灰色粒をやや多く含む 0.5mm以下の白色・黒色粒を微量に含む	外:スス附着 内:炭化物附着
312	深鉢	XII	口~胴	C5	III	口:(22.4)	赤褐 5YR4/6	にぶい赤褐 5YR4/4	貝殻条痕文	貝殻条痕文・ナデ	やや密	5mm以下の赤色・白色粒を多く含む 2mm以下の黒色・透明粒を含む	外:スス附着 内:炭化物附着
313	深鉢	XII	口	C3	IIIb	-	橙5YR6/6	灰褐 7.5YR4/2	粗いヘラナデか	横方向のナデ・ヘラナデ光沢あり	やや密	1mm以下の黒色・灰色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を多く含む	波状口縁 外:スス附着
314	深鉢	XII	口	C3	IIIb	口:(17.0)	明赤褐 5YR5/6	橙7.5YR6/6	貝殻条痕文	横方向のナデ	やや密	3mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色・透明粒を多く含む	波状口縁の可能性あり 外・内:黒斑
315	浅鉢	XIII	口~胴	D3	IIIa	-	橙2.5YR6/6	橙7.5YR6/6	ヘラミガキ・4条の凹線文	ミガキもしくは丁寧なナデ(光沢あり)	密	3mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 2mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を少量含む	外・内:黒斑
316	深鉢	XIII	口	E3	III	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	3条の沈線文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	やや粗	1mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 3mm以下の黒色粒を多く含む 1.5mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を多く含む	
317	深鉢	XIII	口~頸	F2	IIIb	-	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部に沈線文か・ヘラミガキ	丁寧なナデもしくはミガキ・口縁部端部に沈線文	やや密	4mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の黒色・透明粒を多く含む 2mm以下の白色・灰色粒を含む	波状口縁 外:スス附着 内:黒斑
318	深鉢	XIII	底	C5	IIIb	底:6.9	褐7.5YR4/6	にぶい黄橙 10YR6/4	ナデ	ナデ・工具ナデ	やや密	3mm以下の赤色粒を微量に含む 1mm以下の灰色・透明粒を微量に含む	外:スス附着 上げ底
319	深鉢	XIV	口	C4	IIIb	-	橙7.5YR6/6	橙5YR6/6	横方向のナデ・条痕文・沈線文	横方向のナデ・工具ナデ	やや粗	1mm以下の赤色粒を少量含む 4mm以下の黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色・灰色粒を含む 0.5mm以下の透明粒を多く含む	外:少量のスス附着 波状口縁か
320	深鉢	XIV	口	C5 A4	IIIb	-	褐7.5YR4/4	褐7.5YR4/4	縦方向の沈線文・沈線上に刺突・ナデ	横・斜方向のナデ	やや密	1mm以下の白色・透明粒を少量含む 3mmの灰色粒を微量に含む	
321	深鉢	XIV	口	C4	IIIb	-	明褐 7.5YR5/6	褐7.5YR4/4	沈線端部に刺突、横・縦方向の沈線文	横方向のナデ	やや密	3mm以下の白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	
322	鉢か	XIV	口~胴	C3	IIIb	-	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/4	肩部に連続押圧刻み、貝殻条痕文→横方向のナデ	弧状・横走沈線文、円形刺突文・丁寧なナデもしくはミガキ	やや粗	3mm以下の灰色粒を多く含む	外:スス附着
323	深鉢	XIV	口	A3-2区	III	-	明赤褐 5YR5/6	にぶい橙 7.5YR6/4	横方向のナデ→縦方向の4条の沈線文	横方向のナデ・貝殻条痕文	やや密	1mm以下の白色粒を微量に含む 1mm以下の透明粒を少量含む	内:黒斑
324	深鉢	XIV	口	A3-2区	III	-	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	横方向のナデ・連続刺突文、口唇部に押圧刻み	横方向のナデ	やや粗	5mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・透明粒を少量含む 3mm以下の白色・灰色粒を少量含む	
325	深鉢	XV	胴~底	C5	III	底:(10.5)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	斜方向の貝殻条痕文	縦方向の貝殻条痕文・ナデ	やや密	2mm以下の灰色粒を非常に多く含む 4mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の赤色・透明粒を少量含む	網代痕 圧痕資料6

第15表 縄文時代中・後期土器観察表(7)

No	器種	分類	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		施文・調整等		胎土	備考
							外面	内面	外面	内面		
326	深鉢	XV	底	C7	Ⅲ	底:(8.65)	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい橙 7.5YR7/4	横方向の工具ナデ・ナデ	ナデ	やや密 3mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む	網代痕
327	深鉢	XV	底	D6	Ⅲ	底:(8.2)	黄橙 10YR8/6	灰黄 2.5YR6/2	斜方向の工具ナデ・横方向のナデ	ナデ	やや密 4mm以下の赤色・灰色粒を多く含む 1mm以下の黒色粒を微量に含む	網代痕
328	深鉢	XV	胴～底	C4	Ⅳa	底:(9.3)	橙7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	横方向のナデ	工具ナデ・指押さえ	やや密 2.5mm以下の赤色粒を少量含む 1.5mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を多く含む	内:黒斑 底部:網代痕
329	深鉢	XV	胴～底	B4	Ⅲb	底:(11.9)	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	斜方向の貝殻条痕文	斜・横方向の貝殻条痕文・ナデ	やや粗 3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む	網代痕
330	深鉢	XV	胴～底	C4 C5	Ⅲb	底:(10.6)	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3	縦方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文・ナデ	やや粗 7mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を少量含む 1mm以下の灰色粒を含む	網代痕
331	深鉢	XV	底	C5	Ⅲ	底:(10.9)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	貝殻条痕文・横方向のナデ	横方向のナデ	やや密 4mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・透明粒を微量に含む 1mm以下の白色粒を多く含む	木葉痕 もじり編痕
332	深鉢	XV	底	C4	Ⅲb	底:(9.6)	橙5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	貝殻条痕文→ナデ	ナデ	やや粗 3mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の白色粒を多く含む 4mm以下の灰色粒を多く含む	木葉痕
333	深鉢	XV	底	D5	Ⅲ	底:(14.2)	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	ナデ・指押さえ	横方向のナデ	やや密 1～4mmの赤色粒をやや多く含む 0.5mmの白色・灰色粒を多く含む 0.5mm以下の透明粒を微量に含む	木葉痕
334	深鉢	XV	底	D3 E4	Ⅲb	底:9.05	にぶい赤褐 5YR5/4	橙5YR6/8	斜・横方向の貝殻条痕文→ナデ	斜・横方向の貝殻条痕文・ナデ・指ナデ	やや粗 4mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 2mm以下の白色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を多く含む	内:断面:炭化物付着 外:白色物付着
335	深鉢	XV	底	C3	Ⅲb	底:(9.0)	明黄褐 10YR6/6	明赤褐 5YR5/6	斜方向の貝殻条痕文・工具ナデ	工具ナデ・指ナデ	やや密 4mm以下の赤色粒を多く含む 2mm以下の黒色・白色粒を多く含む 3mm以下の透明・灰色粒を少量含む	やや上げ底
336	深鉢	XV	胴～底	D5	Ⅲ	底:(9.8)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	縦・横方向のケズリ状の粗い工具ナデ	横方向の貝殻条痕文→横方向のナデ	やや粗 1mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 2mm以下の白色・透明粒を含む 3mm以下の灰色粒を多く含む	上げ底
337	深鉢	XV	底	D5	Ⅲb	底:10.4	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	ナデか	ナデ・指頭痕	やや密 2mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の黒色・灰色粒を少量含む 2mm以下の透明粒を少量含む	底:白色物付着 やや上げ底
338	深鉢	XV	底	D5	Ⅲb	底:(8.4)	明赤褐 5YR5/6	にぶい黄橙 10YR6/4	丁寧なナデ(光沢あり)・底部に指頭痕	丁寧なナデ	やや粗 2mm以下の灰色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を微量に含む	やや上げ底
339	深鉢	XV	底	A1-4区	Ⅲb	底:(8.6)	明赤褐 5YR5/6	にぶい黄褐 10YR4/3	粗いナデ	粗いナデ	やや密 3mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の赤色・黒色・灰色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を微量に含む	上げ底
340	深鉢	XV	胴～底	D8 E2	Ⅲb	底:(8.3)	明赤褐 5YR5/6	橙5YR6/6	斜方向の工具ナデ(風化)	ケズリ状の強いナデ	やや粗 3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色粒を少量含む 3mm以下の透明粒を多く含む	底:白色物付着
341	深鉢	XV	底	F3	Ⅲb	底:7.1	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	斜方向の貝殻条痕文・斜方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ・指ナデ	やや密 2mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色・透明粒を少量含む	外:スス付着 内:黒斑
342	深鉢	XV	底	D2	Ⅲ	底:(10.5)	橙5YR6/6	橙5YR6/6	ナデ(風化著しい)	ナデ(風化)	やや粗 2mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	底:白色物付着
343	深鉢	XV	底	E7	Ⅲ	底:10.2	明褐 7.5YR5/6	灰黄褐 10YR5/2	ケズリ状の粗いナデ	ケズリ気味の粗いナデ	やや粗 1mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 3mm以下の白色粒を少量含む 2mm以下の灰色粒を少量含む	
344	深鉢	XV	底	E7	Ⅲ	底:10	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	ケズリ気味の粗いナデ	斜・横方向の工具ナデ・指ナデ	やや粗 3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の白色粒を微量に含む 1mm以下の灰色粒を多く含む	外、内:スス付着 圧痕資料7～12
345	台付皿形	XV	脚台	C5	Ⅲb	-	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	ヨコナデ・2段の連続刺突文	ナデ	やや密 3mm以下の赤色粒を少量含む 2mm以下の白色粒を多く含む 3mm以下の灰色粒を多く含む	外:黒斑
346	円盤状土製品	XVI	胴	D3	Ⅲa	-	浅黄 2.5Y7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	ナデー貝殻縁刺突文、周囲摩耗	ナデ	粗 1mm以下の黒色粒を多く含む 2mm以下の白色・透明粒を微量に含む 5mm以下の灰色粒を少量含む	長径4.6cm 短径4.3cm 33.9g
347	円盤状土製品	XVI	口	SA5	-	-	にぶい褐 7.5YR5/3	灰黄褐 10YR4/2	貝殻条痕文→横方向のナデ	横方向のナデ	やや粗 4mm以下の赤色粒を少量含む	長径5.1cm 短径4.3cm 28.1g
348	円盤状土製品	XVI	胴	SA4	-	-	赤灰 2.5YR4/1	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文	貝殻条痕文	やや密 1mm以下の赤色・白色粒を微量に含む 1mm以下の黒色粒を多く含む	長径3.6cm 短径3.4cm 12.7g 炭化物付着
349	円盤状土製品	XVI	胴	A4区	Ⅲb	-	黒褐 2.5Y3/2	褐10YR4/4	貝殻条痕文・周囲研磨か	粗い工具ナデ	やや密 1mm以下の赤色粒を多く含む 3mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の白色粒を微量に含む	長径3.5cm、短径2.5cm、(9.7g) 外:スス付着
350	円盤状土製品	XVI	胴	A2区	Ⅲ	-	灰褐 5YR5/2	明赤褐 5YR5/6	貝殻条痕文→ナデ・周囲摩耗	ナデ	やや密 1mm以下の赤色・透明粒を多く含む 1mm以下の白色・灰色粒を微量に含む	長径4.6cm、短径4.3cm、(20.5g) 外:スス付着
351	円盤状土製品	XVI	胴	SA4	-	-	赤褐 5YR4/6	灰褐 7.5YR4/2	貝殻条痕文→ナデ・周囲研磨	ナデ	やや密 1mm以下の灰色粒を多く含む 1mm以下の黒色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を微量に含む	長径4.5cm 短径4.3cm 24.9g

第16表 縄文時代中・後期土器観察表(8)

No.	器種	石材	取り上げ番号	出土位置	出土層位	座標(m)			法量(cm, g)				備考
						X	Y	Z	最大長	最大幅	最大厚	重量	
352	打製石鏃	チャート	2739	F3	Ⅲb	-78270.349	51356.565	77.248	(1.2)	(1.2)	0.2	(0.2)	一部破損
353	打製石鏃	チャート	2461	F3	Ⅲ	-78275.375	51358.447	77.433	(1.4)	(1.3)	0.4	(0.4)	一部破損
354	打製石鏃	チャート	749	D7	Ⅲ	-78317.230	51373.972	76.535	1.9	1.8	0.4	1.0	
355	打製石鏃	チャート	1219	D5	Ⅲ	-78291.302	51378.591	76.036	1.9	1.4	0.4	0.7	
356	打製石鏃	チャート	1572	F2	Ⅲ	-78263.942	51357.521	76.112	(2.8)	1.8	0.5	(1.7)	一部破損
357	打製石鏃	チャート	2351	D3	Ⅲa	-78270.604	51378.594	75.309	2.7	1.6	0.5	1.2	
358	打製石鏃	黒曜石4	937	D6	Ⅲ	-78301.795	51372.302	76.474	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.3)	鍔形鏃、一部破損
359	打製石鏃	黒曜石4	-	A3区	-	-	-	-	1.9	1.5	0.4	0.8	
360	打製石鏃	黒曜石5	988	D5	Ⅲ	-78293.939	51371.808	76.552	(2.1)	(1.7)	0.6	(1.2)	一部破損
361	打製石鏃	黒曜石4	-	A3-2区	Ⅱ	-	-	-	(2.2)	(1.5)	0.4	1.3	一部破損
362	打製石鏃	黒曜石2	-	A1-3区	Ⅲa	-	-	-	1.9	1.4	0.4	0.6	
363	打製石鏃	チャート	1202	C5	Ⅲ	-78291.949	51380.705	75.918	(1.4)	1.7	0.4	(0.8)	一部破損
364	打製石鏃	チャート	-	A区	-	-	-	-	(1.3)	(1.7)	(0.3)	(0.6)	一部破損
365	打製石鏃	チャート	3462	B4	Ⅲa	-78285.400	51394.030	74.576	2.0	1.7	0.4	0.9	一部破損
366	打製石鏃	チャート	1932	D3	Ⅲa	-78267.938	51369.761	75.763	2.9	2.2	0.5	2.2	
367	打製石鏃	黒曜石2	3240	C4	Ⅲb	-78281.221	51385.281	74.959	(2.5)	(1.7)	0.3	(0.6)	一部破損
368	打製石鏃	安山岩	2254	D6	Ⅲ	-78305.038	51370.851	76.461	(2.3)	1.5	0.4	(1.4)	一部破損
369	打製石鏃	チャート	1450	C7	Ⅲ	-78314.193	51382.969	75.972	(1.9)	(1.1)	(0.3)	(0.3)	一部破損
370	打製石鏃	チャート	1027	C5	Ⅲ	-78297.686	51379.815	76.025	(2.5)	(1.4)	(0.3)	(0.5)	一部破損
371	打製石鏃	チャート	813	E7	Ⅲ	-78313.276	51368.315	76.647	3.2	2.2	0.7	2.8	
372	打製石鏃	チャート	3738	C3	Ⅲb	-78275.468	51383.959	74.973	2.0	1.5	0.3	0.6	
373	打製石鏃	安山岩	1098	C5	Ⅲ	-78296.950	51382.779	75.806	1.8	1.4	0.3	0.6	
374	打製石鏃	安山岩	949	D6	Ⅱ	-78299.282	51370.681	76.719	3.4	1.8	0.4	2.0	
375	打製石鏃	チャート	3278	C3	Ⅲb	-78273.944	51382.798	75.189	(1.7)	1.5	0.4	(0.9)	一部破損
376	石匙	チャート	1229	C5	Ⅲ	-78295.862	51383.252	75.834	2.8	(4.8)	0.9、0.3	8.9	兼石鏃、一部破損
377	石匙	チャート	3926	D4	Ⅲb	-78286.291	51375.786	76.172	3.4	4.6	0.9	11.5	
378	石匙	チャート	-	SH31	-	-	-	-	2.5	3.7	0.6	4.1	
379	石匙	チャート	2791	C3	Ⅲa	-78275.185	51383.932	75.110	2.5	4.0	0.8	4.4	
380	石匙	チャート	3446	B4	Ⅳa	-78283.890	51397.363	74.221	2.5	3.7	0.6	4.7	
381	石匙	玉髓	1075	C6	Ⅲ	-78298.788	51384.271	76.024	(1.7)	(3.9)	0.6	(3.6)	一部破損
382	石匙	安山岩	6	B4	Ⅳa	-78285.854	51394.350	74.495	3.9	5.1	0.9	14.1	
383	石匙	チャート	710	D7	Ⅲ	-78317.796	51370.004	76.690	4.3	1.9	0.7	5.0	
384	石鏃	ホルン	450	E6	Ⅲ	-78300.242	51360.032	77.435	10.1	6.8	2.0	164.6	
385	石鏃	頁岩	3677	C4	Ⅲb	-78280.268	51381.850	75.162	2.8	2.0	0.5	2.0	
386	石鏃	チャート	-	A区 23T	Ⅲ	-	-	-	2.5	1.0	0.5	0.7	
387	石鏃	黒曜石2	1797	D2	Ⅲb	-78266.599	51370.170	75.674	4.4	3.3	1.0	10.3	
388	削器	珪質頁岩	3773	B4	Ⅲb	-78285.716	51396.879	74.256	3.5	4.0	1.3	21.7	
389	削器	頁岩	2255	E6	Ⅲ	-78302.655	51368.356	76.689	11.9	6.3	1.6	95.2	390+剥片
390	削器	頁岩	-	A4区	Ⅱ	-	-	-	9.2	6.2	1.4	79.7	
391	削器	チャート	1603	D3	Ⅲb	-78271.351	51370.391	75.715	2.9	3.1	1.1	10.9	
392	削器	チャート	3519	B4	Ⅲb	-78285.589	51391.537	74.570	3.6	4.5	1.1	16.2	
393	石鏃	ホルン	1126	C5	Ⅲ	-78296.492	51382.581	75.819	(4.2)	(1.6)	0.7	(5.9)	一部破損
394	打製石斧	砂岩	1026	C5	Ⅲ	-78297.538	51379.816	76.071	12.2	5.9	2.8	219.4	
395	打製石斧	砂岩	1948	E3	Ⅲa	-78269.833	51367.670	75.971	11.8	4.9	2.3	146.2	
396	打製石斧	砂岩	1230	C5	Ⅲ	-78294.510	51384.755	75.716	11.2	8.1	1.6	124.3	
397	打製石斧	砂岩	-	A4区	Ⅲb	-	-	-	10.4	6.1	2.2	133.8	
398	磨製石斧	ホルン	-	A2区	Ⅱ	-	-	-	(7.1)	(5.1)	(2.6)	(89.1)	一部破損
399	磨製石斧	砂岩	3678	C4	Ⅲb	-78279.880	51382.526	75.157	(7.0)	5.3	3.2	187.5	
400	スクレイパー	頁岩	1719	E3	Ⅲb	-78270.031	51369.141	75.821	8.0	7.7	1.1	88.3	破損後再加工
401	スクレイパー	ホルン	3748	E2	Ⅲb	-78266.713	51365.461	75.803	6.8	13.1	2.2	177.9	
402	スクレイパー	尾鈴1	409	F5	Ⅲ	-78293.045	51358.483	77.650	8.2	8.4	3.0	179.7	
403	スクレイパー	チャート	-	D区	-	-	-	-	5.3	2.4	1.1	8.9	
404	礫器	尾鈴1	483	F6	Ⅲ	-78303.341	51358.900	77.504	10.6	13.3	4.7	696.0	
405	礫器	尾鈴2	1342	C6	Ⅲ	-78298.774	51381.956	75.955	8.3	12.1	3.4	332.0	
406	礫器	尾鈴1	-	A1-4T	-	-	-	-	9.5	7.7	6.0	520.0	
407	礫器	尾鈴1	2504	E3	Ⅲ	-78271.764	51360.105	77.085	11.8	7.9	6.1	858.0	
408	礫器	尾鈴1	3237	C4	Ⅲb	-78281.742	51384.608	74.992	12.5	8.3	5.5	920.0	
409	礫器	砂岩	SI4-5-11	SI4-5	-	-	-	-	11.1	7.2	3.6	426.0	
410	礫器	尾鈴1	3225	C4	Ⅲb	-78282.898	51384.795	74.963	10.3	9.0	5.0	736.0	
411	礫器	砂岩	3751	D8	Ⅲb	-78318.155	51372.820	76.441	18.6	10.8	5.0	1100.0	
412	礫器	砂岩	-	A2区	Ⅱ	-	-	-	10.1	11.0	3.2	476.0	
413	礫器	砂岩	159	F5	Ⅲ	-78290.047	51356.264	78.113	9.1	11.1	3.0	382.0	
414	礫器	砂岩	3803	E7	Ⅲ	-78314.611	51369.071	76.565	10.9	12.5	5.7	852.0	
415	礫器	砂岩	2362	D3	Ⅲb	-78273.751	51377.630	75.311	8.6	11.2	3.2	389.0	
416	礫器	砂岩	451	E6	Ⅲ	-78300.339	51360.102	77.338	12.6	11.5	5.7	972.0	
417	礫器	砂岩	3524	B4	Ⅲb	-78285.280	51390.839	74.691	11.1	13.3	2.8	526.0	
418	礫器	砂岩	3901	C5	Ⅲb	-78290.054	51381.932	75.854	9.6	13.3	2.7	401.0	
419	礫器	砂岩	1104	C5	Ⅲ	-78296.768	51383.007	75.904	8.5	13.9	4.8	652.0	
420	石核	黒曜石2	946	D6	Ⅲ	-78297.968	51372.155	76.554	2.6	2.0	2.1	8.6	
421	石核	黒曜石3	1556	E2	Ⅲb	-78263.814	51361.013	76.013	3.7	3.8	2.4	25.2	
422	石核	チャート	1140	C5	Ⅲ	-78295.500	51383.110	75.940	4.8	5.0	2.5	71.3	
423	石核	珪質頁岩	614	E4	Ⅲb	-78286.320	51360.091	77.456	4.5	5.5	2.1	49.8	
424	石核	珪質頁岩	1175	C5	Ⅲ	-78293.066	51381.518	76.057	5.8	4.6	1.8	41.8	
425	石核	珪質頁岩	1220	D5	Ⅲ	-78292.707	51379.225	76.089	4.5	3.5	2.3	49.2	
426	石核	珪質頁岩	1772	D2	Ⅲb	-78265.806	51371.567	75.446	8.8	6.2	3.7	163.2	
427	石核	ホルン	-	A2区	-	-	-	-	6.9	7.0	3.3	211.2	
428	石核	ホルン	-	D区	-	-	-	-	5.8	4.5	3.7	76.1	
429	石核	ホルン	3249	C4	Ⅲb	-78279.536	51386.317	74.871	4.7	8.9	4.9	198.5	
430	石核	ホルン	2140	E2	Ⅲb	-78264.240	51360.882	75.957	12.7	11.3	5.6	760.0	
431	石核	砂岩	1310	D5	Ⅲ	-78290.938	51378.407	76.017	11.6	8.9	3.0	449.0	
432	石核	砂岩	1377	D4	Ⅲ	-78286.041	51374.504	75.830	10.5	8.6	4.4	334.0	
433	石核	砂岩	2998	E4	Ⅲb	-78283.407	51366.244	76.871	8.9	6.9	2.7	153.8	
434	石核	尾鈴1	-	A1-2区	-	-	-	-	10.4	7.6	6.6	462.0	
435	石核	尾鈴1	503	E7	Ⅲ	-78308.165	51360.173	77.482	15.0	13.2	8.8	1700.0	

第17表 縄文時代中・後期石器計測表(1)



No.	器種	石材	取り上げ番号	出土位置	出土層位	座標(m)			法量(cm, g)				備考
						X	Y	Z	最大長	最大幅	最大厚	重量	
521	石錘	砂岩	1325	C5	Ⅲ	-78294.735	51382.883	75.883	4.35	5.55	1.5	47.8	
522	石錘	砂岩	3965	D4	Ⅲ	-78285.661	51372.881	76.365	4.45	6.0	1.25	46.4	
523	石錘	砂岩	1797	D3	Ⅲb	-78266.599	51370.170	75.674	3.75	7.1	1.3	59.6	
524	石錘	砂岩	2188	E2	Ⅲb	-78261.288	51362.301	75.779	4.3	6.65	1.35	68.9	
525	石錘	ホルン	3261	C3	Ⅲb	-78277.358	51385.831	75.043	(4.4)	4.5	2.2	(64.7)	一部破損
526	石錘	珪質頁岩	2783	C3	Ⅲa	-78275.574	51386.676	75.010	(4.2)	3.55	2.05	(40.2)	一部破損
527	石錘	尾鈴2	759	D7	Ⅲ	-78314.358	51371.454	76.579	4.5	7.15	1.6	62.1	
528	石錘	砂岩	3966	D4	Ⅲ	-78285.755	51371.917	76.448	5.95	6.6	1.05	68.1	
529	石錘	砂岩	1143	C5	Ⅲ	-78296.031	51383.825	75.824	6.7	8.0	1.45	111.2	
530	石錘	砂岩	755	D7	Ⅲ	-78313.775	51372.581	76.474	7.65	9.8	1.85	193.5	
531	石錘	珪質頁岩	3727	C3	Ⅲb	-78277.073	51380.492	75.139	5.5	9.6	2.15	173.7	
532	石錘	尾鈴1	779	D7	Ⅲ	-78312.712	51372.832	76.357	7.3	9.7	2.8	289.0	
533	石錘	尾鈴2	1334	C5	Ⅲ	-78295.968	51382.128	75.936	8.8	9.6	2.2	258.4	
534	石錘	砂岩	3298	C3	Ⅲb	-78274.504	51380.040	75.190	4.0	11.7	2.7,2.3	156.8	
535	石錘	砂岩	-	A4区	-	-	-	-	5.8	6.5	1.4	63.7	
536	石錘	砂岩	-	調査区一括	-	-	-	-	3.85	4.55	1.5	38.0	
537	石錘	ホルン	798	D7	Ⅲ	-78311.472	51371.148	76.313	4.25	7.4	1.9	88.0	
538	石錘	砂岩	1141	C5	Ⅲ	-78295.430	51383.121	75.892	5.2	5.6	1.6	72.4	
539	石錘	砂岩	2278	D3	Ⅲa	-78270.373	51374.334	75.324	6.35	7.1	1.6	96.5	
540	石錘	砂岩	-	A4区	Ⅱ	-	-	-	5.95	7.8	1.8	112.8	
541	石錘	砂岩	3792	C3	Ⅲb	-78276.530	51381.662	75.140	6.7	7.45	2.3	170.6	
542	磨石	尾鈴2	3831	C4	Ⅲ	-78281.836	51382.611	74.973	15.8	14.4	11.0	3594.3	
543	磨石	尾鈴1	1406	C6	Ⅲ	-78305.371	51383.910	75.974	9.45	8.9	3.8	481.5	
544	磨石	尾鈴2	3991	C5	Ⅲ	-78294.993	51384.734	75.547	11.7	10.3	3.95	718.8	
545	磨石	尾鈴1	3680	C4	Ⅲb	-78279.659	51383.118	75.112	8.6	7.85	4.0	408.1	
546	磨石	尾鈴1	3358	C4	Ⅲb	-78278.330	51381.916	75.139	10.2	10.0	4.6	711.6	
547	磨石	尾鈴2	3323	D3	Ⅳa	-78276.696	51376.201	75.386	10.55	9.9	4.5	704.3	
548	磨石	尾鈴1	1066	C6	Ⅲ	-78301.049	51379.833	76.053	11.2	10.45	5.2	1006.1	赤化
549	磨石	尾鈴1	531	F7	Ⅲ	-78340.570	51360.099	79.507	13.6	11.6	6.2	1436.2	
550	磨・敲石	尾鈴1	3604	C4	Ⅲb	-78281.687	51386.309	74.710	12.1	11.0	5.7	1207.0	
551	磨・敲石	尾鈴2	3698	C4	Ⅲb	-78278.310	51381.760	75.139	12.0	10.4	4.9	990.2	
552	磨石	砂岩	2190	F2	Ⅲb	-78260.491	51354.115	76.200	14.35	8.15	4.5	826.5	
553	磨石	砂岩	2868	C4	Ⅲb	-78277.311	51381.752	75.143	12.7	8.8	5.3	878.5	
554	磨石	尾鈴2	2659	E4	Ⅲ	-78278.742	51360.181	77.202	13.2	7.6	5.1	788.5	
555	磨石	尾鈴1	3714	C3	Ⅲb	-78277.855	51380.986	75.169	13.5	8.4	5.0	879.2	
556	磨石	尾鈴1	3191 2923 3331 -	C4 C4 C4 A3	Ⅲb Ⅳa Ⅲb Ⅲ	-78281.586 -78280.574 -78279.293 -	51381.652 51379.736 51380.692 -	75.265 75.311 75.266 -	13.5	8.55	5.3	742.3	スス付着 4点の接合
557	凹石	尾鈴2	3052	F3	Ⅲb	-78270.225	51355.535	77.268	12.3	7.0	5.0	721.9	
558	凹石	砂岩	3123	C3	Ⅲb	-78272.695	51381.927	75.078	10.9	9.4	4.6	722.2	
559	凹石	尾鈴1	3067	E4	Ⅲb	-78279.013	51359.763	77.280	10.5	9.2	4.0	601.8	
560	凹石	尾鈴2	3671	C4	Ⅲb	-78281.196	51382.511	75.053	11.05	8.9	3.9	640.4	
561	凹石	尾鈴2	3691	C3	Ⅲb	-78277.030	51382.061	75.132	11.8	9.4	4.0	737.8	
562	敲石	砂岩	485	F6	Ⅳa	-78304.069	51358.582	77.546	9.25	7.1	3.2	328.1	
563	敲石	砂岩	-	SH49	-	-	-	-	7.65	6.25	3.4	247.6	
564	敲石	チャート	1072	C6	Ⅲ	-78299.697	51383.464	75.937	6.45	7.15	3.4	221.6	
565	敲石	チャート	475	E6	Ⅲ	-78302.038	51359.254	77.419	6.25	7.5	3.3	215.0	
566	敲石	ホルン	477	E6	Ⅲ	-78302.275	51359.614	77.419	8.25	7.1	4.0	280.2	
567	敲石	チャート	1225	C6	Ⅲ	-78298.024	51384.008	75.800	5.5	5.4	4.1	177.5	
568	砥石	頁岩	3549	B4	Ⅲb	-78283.378	51391.355	74.729	8.0	4.6	1.05	44.3	
569	砥石	砂岩	SA2-23	SA2	1層	-78312.995	51372.273	76.273	5.85	8.4	4.25	206.5	
570	砥石	砂岩	2714	E4	Ⅲb	-78278.283	51360.193	77.369	7.35	12.7	5.5	709.5	
571	砥石	砂岩	-	A3	Ⅲ	-	-	-	9.35	5.55	1.9	156.9	
572	砥石	砂岩	2539	E4	Ⅲ	-78284.125	51367.922	76.831	14.4	8.4	2.4	401.9	
573	砥石	砂岩	2442	F4	Ⅲ	-78281.903	51356.291	77.693	21.05	9.1	6.9	1326.2	
574	台石	尾鈴2	4003	C4	Ⅲ	-78284.179	51385.880	74.763	28.1	28.75	7.2	10000.0	
575	台石	尾鈴2	793	D7	Ⅲ	-78310.245	51373.302	76.352	19.6	20.6	8.85	5386.5	
576	台石	尾鈴1	2386	C3	Ⅲb	-78272.590	51380.658	75.198	26.15	15.7	6.9	4786.6	
577	台石	尾鈴2	214	E2	Ⅲb	-78318.594	51361.537	77.403	22.3	19.75	5.7	4635.5	
578	台石	尾鈴1	-	C4	Ⅲb	-	-	-	28.75	24.4	6.2	9000.0	
579	台石	尾鈴2	1052	C6	Ⅲ	-78299.679	51382.489	75.989	23.7	23.6	8.0	7300.0	
580	台石	尾鈴1	3703	C4	Ⅲb	-78279.428	51385.511	74.904	33.7	20.4	4.4	4222.4	

第19表 縄文時代中・後期石器計測表(3)

## 第7節

### 弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物 遺構

当該期の遺構としてはIVb層上面で堅穴建物跡を1軒検出した。遺構の検出を行った結果、この他に多数のピットを検出したが、複数の時代の遺構が混在している可能性が高く、出土した遺物から当該期の遺構と認定できるものも存在するが、配置や埋土分類から検討を加えたものの掘立柱建物跡などの検出には至らなかった。

#### SA1 (第64図)

C7・D7Gr.に位置し、II層直下のIVb層上面で検出した。弥生時代後期の堅穴建物跡である。現代の水田造成に伴う削平の結果、残存状況は非常に悪くほぼ床面直上で検出することとなった。このため、遺構の正確な形状はつかめなかったが、長軸約3.3m、短軸約2.0m+αの隅丸長方形を基本として、北と東側に長方形の張り出しが確認でき、西側にも有していたと思われる。張り出し部を含めた床面積は8.5㎡である。床面は明確な貼床は存在せず、やや強くしまる状態であった。床面でピットを10基検出し、このうち4基(P1～P4)は支柱穴である。床面からの掘り込み深度は20～30cmでそれぞれの間隔は1m40cm程度である。このような特徴から、堅穴住居としての機能があった可能性が高いと判断した。

遺物は全て床面直上から出土したものであり、弥生時代後期の土器片と、炭化材を3点検出した。581は甕である。口径と胴部最大径がほぼ同径で、全体に締まりがなく、頸部も明瞭な稜がない。口縁部は外反気味で、胴部上半から口縁部に煤の付着が目立つ。また、炭化材については樹種同定の結果、スダジイと判明し当時の住居に用いられた建材である可能性が高い。このことから、SA1は焼失住居と判断している。

#### SH234 (第64図)

C5Gr.に位置する。IVb層上面で検出した。長軸36cmの隅丸方形のプランで、深さは32cmである。埋土は2層に分かれ、柱痕跡状を呈すが周囲に関連する柱穴らしき掘り込みは確認できなかった。また、埋土の上

部から582と583が重なるように出土しており、埋土の堆積状況から遺構に伴うものと判断した。この土器の形式から弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての遺構と考えられる。

582は甕である。口縁部が直立気味で、頸部が弱く屈曲する。底部は平底である。外面は丁寧にナデ調整を行っており、僅かにその単位が確認できる程度である。また、頸部から胴部にかけて煤の付着が看取される。内面は指や工具で調整し、特に頸部から胴部にかけては斜方向に強い指ナデが見られる。583は鉢である。胴部が丸く球形で、底部は丸底である。頸部内面には、口縁との明瞭な稜線を持ち、口縁部はやや上方になるにつれ肥厚する。胴部から胴部最大径にかけて器壁は薄く、胎土は全体ににぶい橙色を呈す。

#### 遺物

III層中から出土した遺物を掲載する。土器の器種は甕が最も多く、鉢、高杯、長頸壺が確認された。なお、石器については当該期の遺物と判断できる資料のみ掲載した。

#### 土器 (第65図584～608)

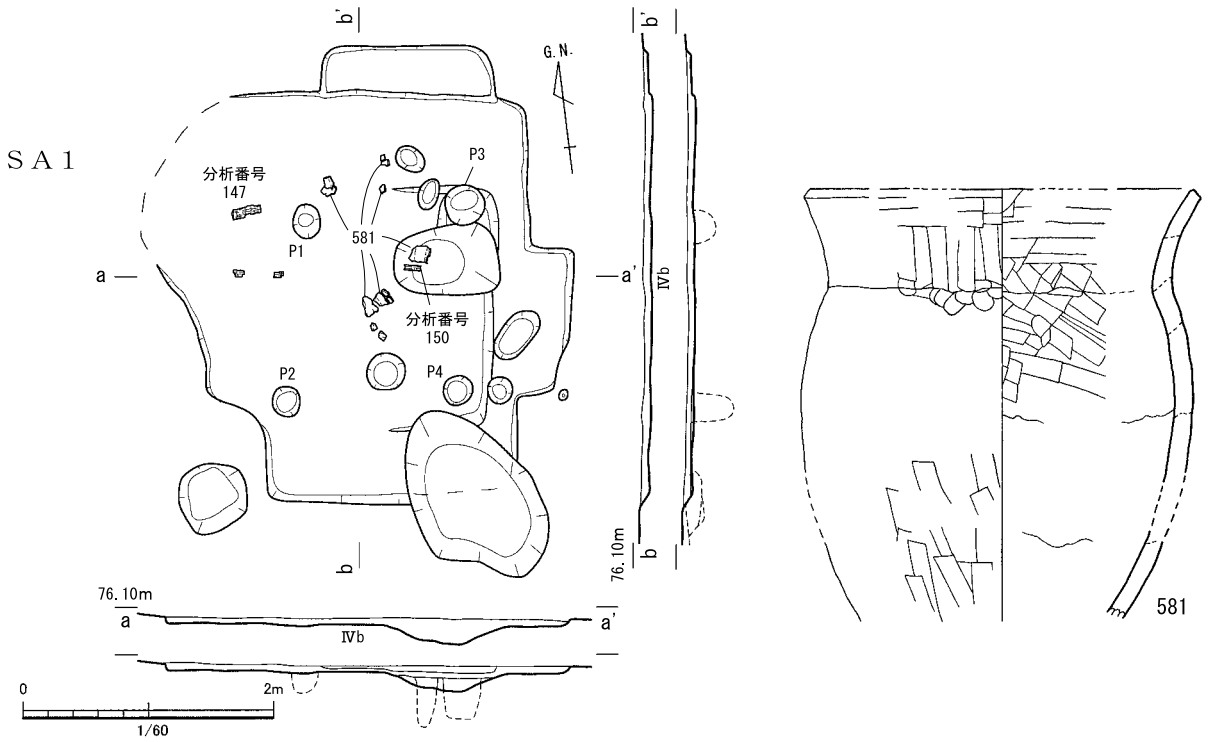
584の胎土は白色を呈す。外面の頸部直下には斜方向の刺突文が連続する。585は甕の口縁部であり、口縁部を強いナデで整形している。586はやや外反する口縁部で、先端部に向けて肥厚する。587は頸部がやや狭まり、口縁部全体に内湾気味に立ち上がり、口縁部の先端が尖る。588は口径よりやや胴部最大径が大きく頸部で狭まり、口縁部は外上方へ丸みを持って広がる。外面調整は幅の太い単位のタタキではあるが、胴部から頸部まで細かく丹念に整形している。器壁はやや薄く、内面は横方向の工具ナデが施されている。589は口縁部が直線的に立ち上がる。内外面ともに工具ナデ調整である。590は、外面胴部上半に煤が付着する。底部は分厚くやや丸みを帯びるが、小さな平底である。589の胎土と似ており、同一個体の可能性がある。591・592はやや上げ底ぎみの底部で、外面の底や立ち上がり部分に指押さえがみられる。593の底部は平底であるが、やや膨らむ。594は平底の底部である。底部に明瞭な稜線があり、外上方へ胴部が開く。595

は底部の底の粘土を下から押し上げ、胴部下半の外側と接合する。胎土は砂粒が少なく堅緻である。596～598は平底で角張り、胴部が上へ向け開く器形で器壁が全体的に厚い。調整は工具ナデが主体である。599は598と似るが、胴部の器壁はやや薄く丸みを帯びる。600の胎土は薄い橙色を呈し、緻密である。免田式長頸壺の肩部上半の破片である。二重または複数の沈線の間を、半円状の重弧文が上下に等間隔に隙間なく描かれている。601は口縁部に丁寧な指ナデが確認できる。やや上方へ広がる口縁部である。602は短頸壺である。口縁部が短く、肩部は大きく広がり器壁は厚い。603は鉢である。口径より胴部最大径が小さい扁平球で、口縁部は頸部で屈曲し上方へ開く。604の高杯の杯部

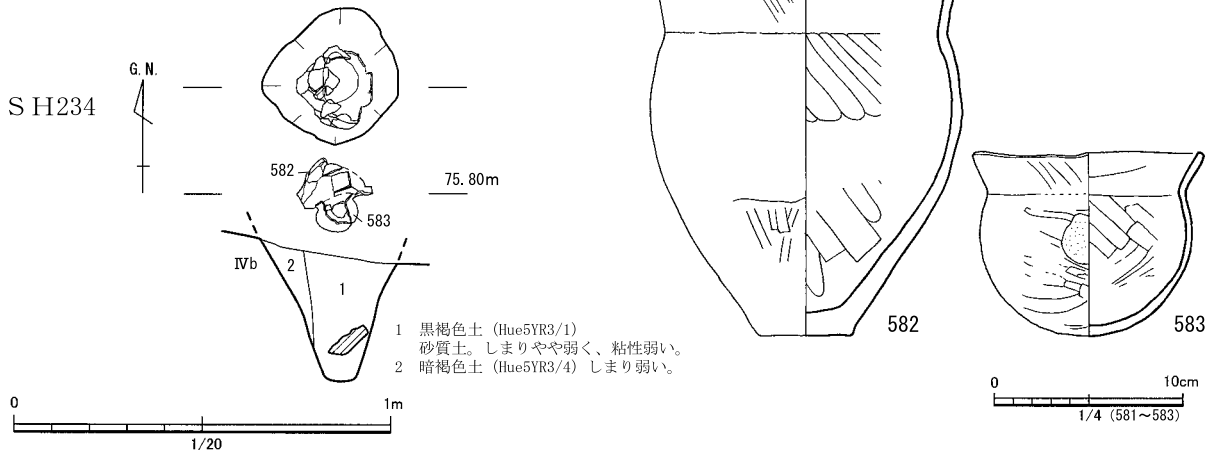
密で外面に丁寧なハケが施される。605は底部と胴部が明瞭に分かれる。606は小型の鉢で、胎土は橙色を呈す。全体を工具ナデで整形する。口縁は内湾気味で、やや丸みのある平底である。607は鉢の胴部から底部で、底部は径の小さい平底となる。608は底部が小さく厚い。607より全体に底部が狭く胴部径は小さい。胎土は橙色を呈す。

磨製石鏃（第65図609～611）

3点出土し、全て図化した。いずれも頁岩製で、破損が見られる。610は緑色頁岩製で、先端が欠損する。丁寧な研磨により表・裏面に稜が見られる。やや浅い抉りを持つ。610・611は筋理の明瞭な褐色の頁岩製で



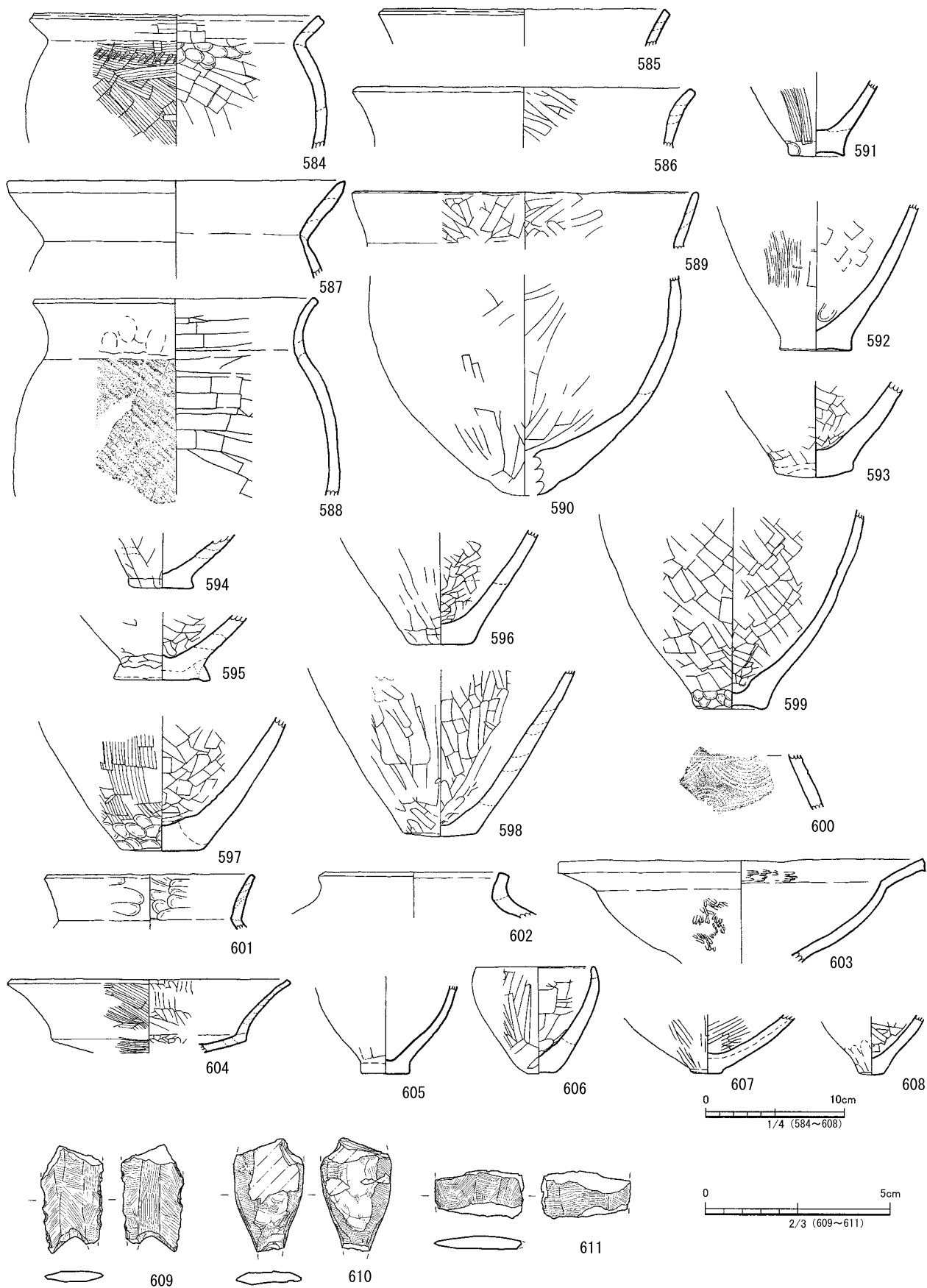
黒色土 (Hue5YR2/1) 砂質土。粘性やや弱く、しまり弱い。炭化物混じる。



1 黒褐色土 (Hue5YR3/1) 砂質土。しまりやや弱く、粘性弱い。  
2 暗褐色土 (Hue5YR3/4) しまり弱い。

第64図 弥生時代後期～古墳時代初頭遺構及び出土遺物実測図 SA 1・SH234





第65図 弥生時代後期～古墳時代初頭遺物実測図

No	器種	種別	部位	出土位置	出土層位	法量 (cm)	色調		調整		胎土	焼成	備考
							外面	内面	外面	内面			
581	壺	弥生後期	口~胴	SA1	-	口: (20.3)	にぶい黄橙 10YR6/4	暗灰黄 2.5Y5/2	工具ナデ・指押さえ・ナデ	工具ナデーナデ	やや密 5mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の灰色粒を含む 1mm以下の透明・黒色粒を少量含む	良好	外: スス付着
582	壺	弥生後期	口~底	C5	Ⅲ	口: (16.4) 底: 5.0 高: 19.1	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	ナデ	ナデ・工具ナデ	やや粗 7mm以下の白色粒を多く含む 5mm以下の灰色粒を多く含む	良好	外: スス付着 接合痕
583	鉢	弥生後期	口~底	C5	Ⅲ	口: 11.85 高: 5.75	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	工具ナデ	工具ナデ	やや密 3mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 3mm以下の白色・灰色・透明粒を微量に含む	良好	外・内: 黒斑 焼成破裂痕
584	壺	弥生後期	口~胴	C5	Ⅲb	口: (20.4)	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/4	工具ナデ ハケ刺突文	工具ナデ 指ナデ・指押さえ	粗 5mm以下の赤色粒・灰色粒を多く含む 3mm以下の白色粒を少量含む	良好	外: スス付着
585	壺	弥生後期	口	C4	Ⅲb	口: (20.2)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	横ナデ	横ナデ	やや密 3mm以下の赤色粒を少量含む 1mm以下の黒色・白色・透明粒を微量に含む	良好	
586	壺	弥生末~古墳初頭	口	A1-3区	Ⅲa	口: (24.0)	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	ナデ	工具ナデ	やや密 1.5mm以下の赤色・黒色・灰色粒を微量に含む 1.5mm以下の黒色粒・白色粒を少量含む	良好	外: スス付着 弥生末末~古墳初頭
587	壺	弥生末~古墳初頭	口~頸	C4	Ⅲb	口: (24.2)	明赤褐 5YR5/6	明黄褐 10YR6/6	工具ナデーナデ	工具ナデ	やや密 2mm以下の白色粒・灰色粒を多く含む 1mm以下の透明・赤色粒を少量含む	良好	
588	壺	弥生後期	口~胴	C4	Ⅲb	口: (20.2)	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	工具によるナデ・斜方向のタキ	工具によるナデ	やや粗 4mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・透明粒を微量に含む 3mm以下の白色・灰色粒を少量含む	良好	外: スス付着 弥生末末~古墳初頭
589	壺	弥生後期	口	A1-3区	Ⅲb	口: (24.4)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	工具ナデ	工具ナデ	やや密 3.5mm以下の赤色粒を少量含む 0.5mm以下の黒色粒を微量に含む 2mm以下の白色粒を少量含む	良好	外: 黒斑 弥生後期
590	壺	弥生後期	胴	C3 D3	Ⅲ	-	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	工具ナデ	工具ナデ	やや粗 4mm以下の赤色・灰色粒を少量含む 7mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の透明粒を微量に含む	良好	外: 被熱頭者 内: 黒斑 弥生後期
591	壺	弥生後期	胴~底	F4	Ⅲ	底: 3.7	にぶい黄 2.5Y6/4	黒褐 2.5Y3/2	ハケメ・指押さえ・ナデ	ナデ・指頭痕	やや密 2mm以下の黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を多く含む	良好	内: 黒斑 弥生後期後半
592	壺	弥生後期	胴~底	B4	Ⅲa	底: (5.0)	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/3	工具ナデ・指押さえ	工具によるナデ・ナデ	やや粗 3mm以下の白色・灰色粒を少量含む 1mm以下の透明粒を中量含む	良好	外: 被熱著しい 内: 黒斑 弥生後期
593	壺	弥生後期	胴~底	C4	Ⅲb	底: (5.4)	淡黄 2.5Y8/4	浅黄 2.5Y7/3	工具ナデーナデ	工具ナデ	やや粗 5mm以下の白色粒・灰色粒を多く含む 3mm以下の赤色・透明粒を少量含む	良好	弥生後期
594	壺	弥生後期	底	B4	Ⅲb	底: 4.8	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄 2.5Y6/3	工具ナデ	工具ナデ	やや密 2mm以下の黒色・灰色粒を少量含む 6mm以下の白色粒を多く含む 1.5mm以下の透明粒を微量に含む	良好	外: 被熱頭者 内: 黒斑 弥生後期
595	壺	弥生後期	胴~底	B4	Ⅲa	底: (7.0)	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y4/1	工具ナデーナデ	工具ナデ・指押さえ	やや密 2mm以下の白色粒を多く含む 1mm以下の灰色粒を少量含む 2mm以下の赤色粒微量に含む	良好	接合痕あり 弥生後期
596	壺	弥生後期	胴~底	B4	Ⅲa	底: 4.8	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄 2.5Y6/3	工具ナデ	工具ナデ	やや密 3mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 2.5mm以下の白色粒を多く含む 6mm以下の灰色粒を少量含む	良好	外・内: 黒斑 弥生後期 圧痕資料 14
597	壺	弥生後期	胴~底	A-8T	Ⅲ	底: (6.0)	にぶい赤褐 5YR5/4	橙 7.5YR6/6	ハケ(工具)ナデ・指押さえ・指ナデ	工具ナデ	やや粗 7mm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の黒色・灰色・透明粒を少量含む	良好	弥生後期 圧痕資料 15
598	壺	弥生後期	胴~底	C4	Ⅲb	底: (5.4)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	工具ナデ	工具ナデ	やや密 5mm以下の赤色粒を微量に含む 1.5mm以下の黒色粒を微量に含む 3mm以下の白色・灰色粒を少量含む	良好	外・内: 黒斑 弥生後期
599	壺	弥生後期	胴~底	A1-3区	Ⅲb	底: (4.68)	淡黄 2.5Y8/4	灰黄 2.5Y6/2	工具ナデ・指ナデ・指押さえ・ナデ	工具ナデ・指押さえ	やや粗 4mm以下の白色・赤色粒を多く含む 7mm以下の灰色粒を含む 1mm以下の透明粒を少量含む	良好	弥生後期後半
600	壺	弥生後期	胴	C5	Ⅲ	-	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	重弧文	ナデ?	やや密 0.5mm以下の赤色・黒色粒を少量含む 2mm以下の灰色・透明粒を微量に含む	良好	弥生後期 免田式長頸壺
601	壺	弥生後期	口	C3	Ⅲa	口: (14.8)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	指ナデ	指ナデ	やや密 1mm以下の赤色・黒色・白色粒を微量に含む 1.5mm以下の灰色・透明粒を微量に含む	良好	弥生後期
602	壺	弥生後期	口	D6	Ⅲ	口: (12.5)	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	ナデ	ナデ	やや密 3mm以下の白色粒を少量含む 1mm以下の灰色粒を微量に含む	良好	外・内: 黒斑 直口(短頸壺)
603	浅鉢	弥生後期?	口~体	B4	Ⅲa	口: (26.1)	明黄褐 10YR6/6	橙 5YR7/8	工具ナデー縦ミガキ	工具ナデーミガキ・ナデ	やや密 5mm以下の赤色粒を多く含む 1mm以下の黒色・灰色粒を少量含む 3mm以下の白色粒を少量含む	良好	弥生後期 風化激しい 圧痕資料 16
604	高坏	弥生後期	坏	C3	Ⅲ	口: (19.9)	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰黄 10YR5/2	ハケ目	工具ナデ	やや密 0.5mm以下の黒色粒を微量に含む 1mm以下の白色粒を少量含む	良好	弥生後期
605	鉢	弥生後期	胴~底	B4	Ⅲa	底: (3.6)	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄 2.5Y7/4	ナデ・工具・横ナデ	横ナデ・指頭痕	やや密 1mm以下の透明・黒色粒を多く含む 1~2mmの白色粒を少量含む	良好	内: 黒斑 弥生後期
606	鉢	弥生後期	口~底	E2	Ⅲ	口: (8.55) 底: 2.05 高: (7.65)	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	工具ナデ	工具ナデ	やや密 1mm以下の赤色・灰色・透明粒を少量含む 3mm以下の白色粒を含む	良好	外: 黒斑 弥生後期
607	浅鉢	弥生後期	胴~底	C4	Ⅲb	底: 2.3	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/4	ミガキ	ミガキ	やや密 2mm以下の赤色・黒色・白色粒を少量含む 1mm以下の灰色粒を少量含む	良好	外: スス付着 弥生後期
608	鉢	弥生後期	胴~底	B5	Ⅲa	底: 1.9	橙 7.5YR6/6	にぶい黄褐 10YR5/3	ナデ	工具ナデ	やや密 4mm以下の黒色・白色粒を少量含む 2mm以下の灰色・透明粒を多く含む	良好	弥生後期

第20表 弥生~古墳時代土器観察表

No.	器種	石材	取り上げ番号	出土位置	出土層位	座標(m)			法量(cm, g)				備考
						X	Y	Z	最大長	最大幅	最大厚	重量	
609	磨製石鏃	緑色頁岩	1650	D2	Ⅲa	-78266.503	51373.219	75.560	(2.9)	(1.7)	(0.3)	(1.7)	先端部破損
610	磨製石鏃	頁岩	3307	C3	Ⅲb	-78275.181	51379.258	75.129	(3.0)	(1.9)	(0.5)	(2.5)	有茎
611	磨製石鏃	頁岩	-	A3-3区	Ⅲa	-	-	-	(1.3)	(2.4)	(0.3)	(1.2)	

第21表 弥生~古墳時代石器計測表

## 第8節 その他の遺物

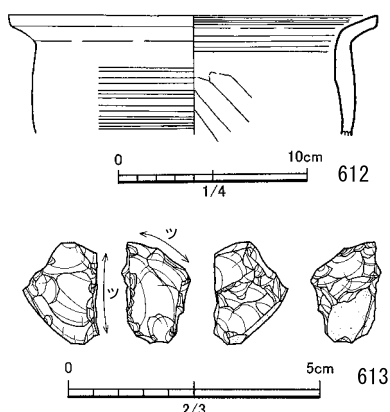
古墳時代以降の遺構は確認できなかったが、古代～近世までの土器片が出土した。これらの土器片は出土した遺物の割合の中では極めて少量であるため、紛れ込みである可能性は否定できない。

当該期の遺物は土器1点、石器1点のみを図化した(第66図)。このため、文書中に所見を書き記し、観察表は掲載していない。

612は古代の甕である。口縁部から頸部までの資料である。土器外面の口縁から頸部にかけては丁寧な横ナデで調整し、胴部は横方向または斜方向のハケ目が見られる。内面胴部はヘラ削りである。

613はチャート製の火打石で白～灰色を呈す。重量4.0gであり、石器の角や縁辺端部に複数箇所の潰れが見られる。

この他、中世の土師器が少量出土した。残存部位は底部片であり、糸切り痕が確認できる資料もあるが、全体の器形は不明であるため詳細な時期については不明である。また、近世陶磁器片については播鉢、唐津焼、青磁碗などが僅かに出土しているが、いずれも小片のものばかりであった。これらはI層及びII層から出土したものであり、現代において繰り返し耕作が行われた結果、小片化したものと考えられる。



第66図 その他の遺物実測図

## 第9節 植物遺体の分析

### 1 フローテーション作業について

III層を掘削する過程で、F4Gr.周辺において2cm程度の炭化した種実が多量に出土する範囲(以下、集中区とする)があることが判明した。当初は、これらの遺物が貯蔵穴などの遺構に伴うものと考えていたが、周辺を精査した結果、遺構らしき掘り込みを確認することが出来なかった。この集中区において、より微細な種実が存在した場合、通常の掘削方法では回収することが出来ないため、包含層の土を採集しフローテーション作業を行うこととした。

資料の採集については、F4のグリッド杭を中心として周辺を1m四方の小グリッドに分割し行った(第67図)。土量は1グリッドに対し、おおよそコンテナ1箱分を調査することとした。しかし、この集中区が確認された場所については現地形で宅地であったため、一部の遺物包含層に削平がみられ、また部分的にトレンチ状の攪乱を受けていた。このため、採集した土量は一定ではない。

また、第6節で報告したように、SA2、SA3の埋土内及びその周辺(A3-2集中区)でも炭化種実が確認されていることから、植物遺体の回収を目的としてフローテーション作業を実施した。なお、遺構内埋土においては炭化種実が出土した層位や、床面直上の層を中心に資料を採集している。

以下、フローテーション作業手順を記す。なお、採集土量と作業結果については、第22表を参照されたい。

### 作業手順

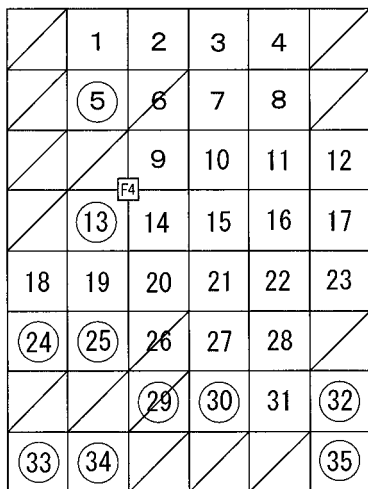
- ①移植ゴテを使用し1グリッドごとに採取。異なるサンプルを採取する場合は、コンタミネーションを起こさぬよう使用した道具をその都度水洗した。また、金属以外の道具や素手で作業を行わぬよう心がけた。
- ②資料を風通しの良い場所に安置し乾燥させる。
- ③乾燥後、土量の計測を行う。
- ④フローテーションマシン(2mm・1mm・0.425mmの金属製メッシュ)を使用して土を水洗し、遺物及び残渣を回収する。
- ⑤センターに持ち帰り乾燥させる。
- ⑥金属製メッシュ(0.1mm・0.425mm)で軽く篩に掛け、

資料を3つに分けた後、土器・石器・炭化物に選別（一次選別）し、砂粒については廃棄する。

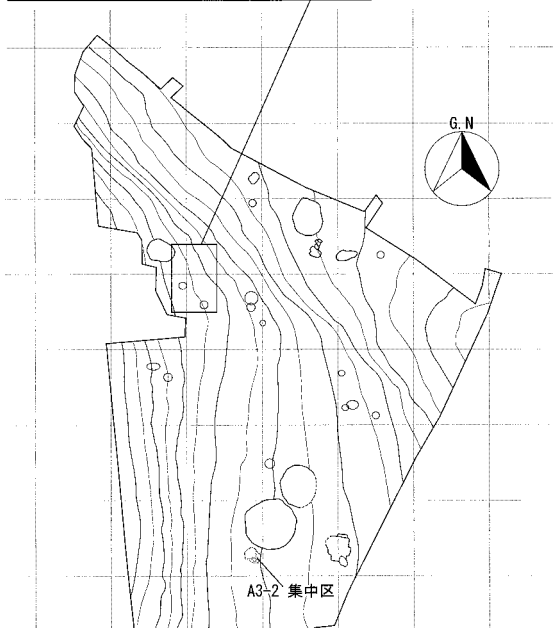
⑦一次選別した資料の中で炭化物については実体顕微鏡を用いて種実及びその可能性が高いものと、それ以外（木片など）に選別（二次選別）する。

作業の結果

一連の作業の結果得られた遺物は、炭化種実、炭化材、チップ、土器片などである。特に炭化種実は8～13mm程度の比較的大型のものが多く、堅果類の子葉であろうと推定した。土器片については小片資料が多く、また摩滅が激しいため、詳細な時期については不明である。なお、堅穴建物跡から採集した資料からも同様の結果を得られた。



□は削平のため未実施  
○は攪乱の影響を受けている可能性が高い



第67図 F4Gr. 周辺土壌サンプリング箇所

資料名	土量 (kg)	層	出土遺物			自然科学分析		備考
			土器片	微細剥片	炭化物	方法	番号番号	
F4-1	2.75	Ⅲ	-	黒曜石2・チャート	○	種実	123	
F4-2	3.35	Ⅲ	-	黒曜石2	○	種実	124	
F4-3	3.10	Ⅲ	-	チャート	○	-	-	
F4-4	3.85	Ⅲ	-	-	○	-	-	
F4-5	4.60	Ⅲ	-	珪質頁岩	○	種実	125	
F4-6	未実施	-	-	-	-	-	-	コンタミネーションの可能性があるので廃棄
F4-7	3.00	Ⅲ	-	-	○	-	-	
F4-8	5.80	Ⅲ	○	-	○	-	-	
F4-9	3.65	Ⅲ	-	チャート	○	種実	126	
F4-10	5.25	Ⅲ	○	黒曜石2	○	種実	127	
F4-11	4.35	Ⅲ	-	安山岩、玉髓	○	種実	128	
F4-12	3.60	Ⅲ	○	-	○	種実	129	
F4-13	2.70	Ⅲ	-	珪質頁岩	○	種実	130	
F4-14	5.00	Ⅲ	-	黒曜石	○	種実	131	
F4-15	7.70	Ⅲ	-	-	○	種実	132	
F4-16	7.00	Ⅲ	-	チャート	○	種実	133	
F4-17	3.35	Ⅲ	-	黒曜石	○	種実	-	
F4-18	4.75	Ⅲ	-	-	○	種実	134	
F4-19	4.10	Ⅲ	-	-	○	種実	135	
F4-20	5.35	Ⅲ	○	-	○	種実	136	
F4-21	5.40	Ⅲ	○	珪質頁岩	○	種実	137	
F4-22	3.78	Ⅲ	-	チャート	-	-	-	
F4-23	4.35	Ⅲ	-	チャート	○	種実	138	
F4-24	3.45	Ⅲ	-	黒曜石2、チャート	○	種実	139	
F4-25	3.05	Ⅲ	-	-	○	種実	140	
F4-26	未実施	-	-	-	-	-	-	コンタミネーションの可能性があるので廃棄
F4-27	3.25	Ⅲ	○	-	○	種実	141	
F4-28	5.05	Ⅲ	○	-	○	種実	142	
F4-29	未実施	-	-	-	-	-	-	コンタミネーションの可能性があるので廃棄
F4-30	3.70	Ⅲ	-	-	○	種実	143	
F4-31	1.95	Ⅲ	-	-	○	-	-	
F4-32	3.15	Ⅲ	-	-	○	種実	144	
F4-33	3.00	Ⅲ	-	-	○	種実	145	
F4-34	4.60	Ⅲ	-	チャート	○	-	-	
F4-35	3.15	Ⅲ	-	チャート	○	種実	146	
A2 集中区	31.70	Ⅲ	-	珪質頁岩	○	種実	117	
SA3-NE	4.25	Ⅰ	○	黒曜石1、チャート	-	種実	99～100	
SA3-SE	4.00	Ⅰ	-	チャート	-	種実	101	
SA2 a	3.90	-	-	-	-	種実	94	
SA4 床上	3.20	床	-	-	-	種実・年代測定	102～103	
A3-2 集中区	35.95	Ⅲ	○	黒曜石1、チャート	-	種実	118～122	
SA3 a	6.15	Ⅱ	-	-	-	種実	95	
SA3 b	6.15	Ⅱ	-	石英、チャート	-	種実	96	
SA3 c	9.65	Ⅱ	-	安山岩、チャート	-	種実	97	
SA3 d	7.50	Ⅱ	○	-	-	種実	98	
A1-3E	35.30	Ⅲ	○	黒曜石2、チャート	○	種実	116	

第22表 フローテーション作業結果一覧表

## 2 自然科学分析の結果

前述のとおり、発掘調査において炭化した堅果類と思われる遺物を多数回収した。そして、これらの遺物は出土状況から当遺跡の主体時期である縄文時代後期に存在した遺構に伴う可能性が高いと判断できる。であるとすれば、当時の植物質食料に関わる重要な資料となりうる。そこで、種実同定による遺物の分類、あるいは科学的な分析によって、より具体的な遺物の性格を把握することを目的に分析を実施した。また、S A 1・S A 2・S A 3の埋土中から出土した炭化材は堅穴住居跡の建材である可能性を考慮し、樹種同定を実施した。

各分析に使用した資料及び分析方法・結果等については下記のとおりである。

### (1) 試料

種実同定試料は、堅穴建物跡（S A 1～5）、集石遺構（S I 7）、土坑（S C 2）などの遺構や遺物包含層から出土した種実146点（分析番号1～146）964個（第23・24表）である。このうち、分析番号55（遺構・遺物番号3089 IIIb層 出土位置F4Gr.）の2点、分析番号102（S A 4床上サンプル 出土位置D3Gr.）、分析番号122（A3-2集中区 III層）の計5点は、年代測定試料とされていたことから測定前に種類を確認した結果、全てイチイガシの子葉に同定された。

樹種同定試料は、堅穴建物跡（S A 1～3）から出土した炭化材4点（分析番号147～150）である（第25表）。分析番号147は長さ約1.5cmの破片、分析番号148は長さ約4cm、幅約4.5cmの板目板状、分析番号149は直径約1.2cmの芯持丸木、分析番号150は長さ・幅が約2.5cmの破片である。

### (2) 分析方法

#### 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種実遺体の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。分析後は、種実等を種類毎に容器に入れて保管する。

#### 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

#### 放射性炭素年代測定

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N、水酸化ナトリウム1N、塩酸1.2N）により、不純物を取り除いたあと、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い（<sup>14</sup>Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。試料は、種実であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95%の確率範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

### (3) 結果

#### 種実同定

木本5分類群(広葉樹のイチイガシ、コナラ属、ツブラジイ、アワブキ属?、ミミズバイ) 903個、草本2分類群(コキンバイザサ、タデ属) 14個、計917個の種実が同定されたほか、炭化材15個、不明2個、菌類の菌核54個、土粒12個が確認された。種実遺体群は、常緑高木のイチイガシの子葉325個、コナラ属の子葉432個、コナラ属-シイ属の子葉53個、ツブラジイの果実1個、子葉90個、常緑または落葉の高木または小高木のアワブキ属?の核?1個、常緑小高木のミミズバイの核1個、草本のコキンバイザサの種子12個、タデ属の果実2個から成る。イチイガシを含むコナラ属が全体の約9割を占め、ツブラジイがこれに次ぐ(約1割)。なお、ツブラジイは、SA3で比較的多く確認されている。

種実遺体の状態はほぼ炭化しており、黒色を呈すが、分析番号128~130、144~146(F4Gr. III層)で確認されたコキンバイザサ12個には炭化が認められない。分析番号130、134(F4Gr. III層)で確認されたタデ属2個は、元々黒く硬い果皮をもつため、炭化の判断は難しい。以下に、各分類群の形態的特徴等を記す。

#### イチイガシ (*Quercus gilva* Blume) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

子葉は炭化しており黒色、長さ1.1-1.5cm、径0.7-0.9cm程度の楕円-広卵体。2枚からなる子葉は極端に不揃いで、合わせ目は球体表面を蛇行して一周する。幼根は頂端からずれた位置にある。表面には、1本の深い溝が基部から頂部に向かい、2/3程度まで発達している。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔(主根)がある。

岡本(1979)は、日本産ブナ科植物の子葉について、イチイガシには子葉の離れにくさ、著しい異形性、頂端が尖らず幼根の位置がずれている、中軸の圧痕が確認できるなどの特異性があることから、イチイガシのみが種まで同定できる場合があることを述べている。今回確認された325個は、これらの特徴を典型的に示していることから、イチイガシに同定されると判断し

た。なお、イチイガシの特徴が明瞭に確認されない432個を、コナラ属(*Quercus*)にとどめているが、これらもおそらくはイチイガシに由来すると思われる。

#### ツブラジイ (*Castanopsis cuspidata*(Thunb. ex Murray) Schottky) ブナ科シイ属

炭化しており黒色。果実は長さ9mm、径7.5mm程度の広卵体で頂部は尖る。スダジイ(*C. sieboldii*(Makino) Hatusima ex Yamazaki et Mashiba)よりも丸く小さい。果実頂部は尖り、基部を占める着点は円状不定形で維管束の穴が不規則な輪状に並ぶ。果皮表面には細く浅い溝が縦列する。子葉は長さ6-8cm、径5-6mm程度の広卵体で頂部は尖る。子葉の合わせ目に沿って割れた半分以下の破片もみられる。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。子葉合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部に小さな孔(主根)がある。なお、コナラ属とシイ属の判別が難しい子葉の破片は、両者をハイフオンで結んでいる。

#### アワブキ属 (*Meliosma*)? アワブキ科

核(内果皮)と思われる破片は、炭化しており黒色。長さ3.5mm、径3.9mm程度の歪な球体。破片は縦に一周する稜に沿って半割した1片である。内果皮は硬く、表面には浅い大型の凹凸がある。ヤマビワ(*M. rigida* Sieb. et Zucc.)に似る。

#### ミミズバイ (*Symplocos glauca* (Thunb.) Koidz.)

##### ハイノキ科ハイノキ属

核は炭化しており黒色、長さ1.3cm、径0.7cm程度の倒卵状長楕円体。頂部は孔があり、3室がみられる。内果皮は木質で表面には浅い縦隆条が配列する。

#### コキンバイザサ (*Hypoxis Aurea* Lour.) キンバイザサ科コキンバイザサ属

種子は灰-黒褐色、長さ1.3-1.5mm、径1.2mm程度の広楕円体。基部の片側から下方へ曲がる突起がある。種皮表面には短い円錐状突起が密生する。

### タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実は黒色、長さ2.0mm、径1.3mm程度のやや扁平な広卵体。頂部は尖り、基部は切形。果皮表面は粗面である。

### 樹種同定

炭化材は、針葉樹1分類群(マツ属複維管束亜属)と広葉樹2分類群(スダジイ・スイカズラ属)に同定された(第25表)。分析番号147、150(SA2)はスダジイ、分析番号148(SA1)は複維管束亜属、分析番号149(SA3)はスイカズラ属であった。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

### マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*)

#### マツ科

軸方向組織は、仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10細胞高。

### スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1-2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高で、観察した範囲では集合～複合放射組織は認められない。

### スイカズラ属 (*Lonicera*) スイカズラ科

散孔材で、小径の道管が単独または4-5個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔および単穿孔を有する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

### 放射性炭素年代測定

イチイガシ子葉5試料について同位体効果による補

正を行った測定結果(補正年代)は、分析番号55(遺構・遺物番号3089 IIIb層 出土位置F4Gr.)の2点が3,475±20 BP、3,530±25 BP、分析番号102(SA4床上サンプル 出土位置D3Gr.)が3,485±25 BP、分析番号122(A3-2集中区 III層)の2点が3,640±25 BP、3,705±25 BPを示す(第26表)。補正年代に基づく暦年較正結果(測定誤差σ)は、分析番号55の2点がcalBC1,874-1,747、calBC1,911-1,779、分析番号102がcalBC1,877-1,755、分析番号122の2点がcalBC2,032-1,963、calBC2,138-2,039である(第27表)。

### (4) 考察

竪穴建物跡などの各遺構や包含層から出土した種実遺体は、木本5分類群(イチイガシ、コナラ属、ツブラジイ、アワブキ属(?)、ミミズバイ)、草本2分類群(コキンバイザサ、タデ属)が確認され、竪穴建物跡から出土した炭化材は、針葉樹1分類群(マツ属複維管束亜属)と広葉樹2分類群(スダジイ、スイカズラ属)が確認された。また、IIIb層、SA4、A3-2集中区III層のイチイガシ子葉の測定年代は、5試料とも縄文時代後期前葉～中葉の年代値を得ており、発掘調査所見を支持する結果と言える。なお、A3-2集中区III層の年代は、2点とも他3点よりもやや古い値を示す。

種実遺体で最も多く確認されたイチイガシや、次いで確認されたツブラジイは、本地域に分布する照葉樹林の主要構成種で、子葉が生食可能な有用植物である。特にイチイガシは、湿潤、肥沃で深い土壌をもつ内陸平坦地と後傾斜に極相林として発達する種で、現在は、紀伊半島、四国、九州の山麓地に広く分布する。また、イチイガシの堅果はコナラ属の中でも渋みが少なく、アク抜きせずに生食可能で収量も多いため、遺跡出土例も多い(渡辺,1975;岡本,1979など)。各遺構から出土した炭化子葉は、当時の本遺跡周辺域の照葉樹林から遺構内に持ち込まれた植物質食糧であることが示唆され、何らかの理由で火熱を受けたことが推定される。

その他の木本種実は、A3-2集中区のIII層から常緑または落葉の高木あるいは小高木のアワブキ属(?)、SA3から常緑小高木のミミズバイが確認され、上記照葉樹林内に生育していたものに由来すると考えられる。草本種実は、F4Gr.のIII層からタデ属と暖地の山地

に生育する多年草のコキンバイザサが確認され、調査区周辺域に生育していたものに由来すると考えられる。ただし、コキンバイザサは炭化していないため、後代より混入したものである可能性が高い。

竪穴建物跡SA1から出土した炭化材は、2点ともスダジイであった。スダジイは、イチイガシやツブラジイと共に本地域の常緑広葉樹林の主構成種となる常緑高木で、木材は比較的強度が高い。SA2から出土した炭化材は、マツ属複雑管束亜属であった。複雑管束亜属は二次林などを構成する常緑高木で、木材は強度・保存性が比較的高く、建築・土木材として有用である。SA3から出土した炭化材は、常緑～落葉のつる植物または低木のスイカズラ属で、木材の用途はあまり知られていない。

各炭化材の出土位置などの詳細は不明であるが、遺構によって樹種が異なる結果となっている。比較的強度が高く、大径木になるスダジイや複雑管束亜属は、住居の構築部材などに利用されていた可能性がある。一方、つる植物あるいは低木のスイカズラ属は、直径約1.2cmの芯持丸木であること等から、スダジイや複雑管束亜属とは異なる用途が想定されるが、現状で具体的な利用状況は不明である。今後、出土状況も含めた用途の検討とともに、類例の蓄積が望まれる。

## 引用文献

- 林昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所。
- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会 328p
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」 『木材研究・資料』 31 京都大学木質科学研究所 81-181.
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」 『木材研究・資料』 32 京都大学木質科学研究所 66-176.
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」 『木材研究・資料』 33 京都大学木質科学研究所 83-201.
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」 『木材研究・資料』 34 京都大学木質科学研究所 30-166.
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」 『木材研究・資料』 35 京都大学木質科学研究所 47-216.
- 中山至大・井之口希秀・南谷 忠志 2000 『日本植物種子図鑑』 東北大学出版会 642p.
- 岡本素治 1979 「遺跡から出土するイチイガシ」 『大阪市立自然史博物館業績』 第230号 31-39.
- Richter H.G. Grosser D. Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 70p. [Richter H.G. Grosser D. Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』 地球社 176p.
- 渡辺誠 1975 『縄文時代の植物食』 雄山閣出版 187p.
- Wheeler E.A. Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修) 海青社 122p. [Wheeler E.A. Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].



分析番号	出土位置	出土層位	分類群	部位	状態	個数	備考
1	F5	Ⅲ	コナラ属	子葉	破片	2	半分,接合し完形1個体
2	D6	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	3	半分1,破片2,接合し完形1個体
			ツブラジイ	子葉	破片	1	
3	D6	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	1	
4	E2	Ⅲ	コナラ属	子葉	破片	4	
5	E2	Ⅲa	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
6	E2	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
7	E2	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
8	E2	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
9	E2	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
10	E2	Ⅲb	ツブラジイ	子葉	破片	3	半分1,破片2,接合し完形1個体
			炭化材		破片	1	
11	E2	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
12	E2	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
13	D3	Ⅲ	コナラ属	子葉	破片	1	
14	F4	Ⅲ	ツブラジイ	子葉	破片	3	半分1,破片2,接合し完形1個体
15	F3	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	2	接合し半分1
16	E3	Ⅲa	イチイガシ	子葉	破片	3	半分2,接合し完形1個体
17	E3	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	1	
18	E4	Ⅲ	コナラ属	子葉	破片	2	
19	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
20	E4	Ⅲ	コナラ属	子葉	破片	2	
21	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	2	1個一部欠損
22	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	5	
			コナラ属	子葉	破片	2	
23	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	2	
			コナラ属	子葉	破片	1	
24	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
25	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	2	1個一部欠損
			イチイガシ	子葉	破片	8	
			コナラ属	子葉	破片	1	
26	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
27	F4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	3	半分1,破片2,接合し完形1個体
28	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	6	
			コナラ属	子葉	破片	3	
29	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
30	F4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
31	F4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	1	
32	F4	Ⅲ	コナラ属	子葉	破片	1	
33	F4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	3	1個一部欠損
			イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	1	
34	E3	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
35	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	破片	1	
36	E4	Ⅲ	イチイガシ	子葉	完形	3	1個一部欠損
			イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	2	
37	F3	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
38	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
39	F3	Ⅲb	コナラ属	子葉	破片	3	
40	F3	Ⅲb	コナラ属	子葉	破片	1	
41	F3	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
42	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	破片と接合し完形1個体
			イチイガシ	子葉	破片	1	
43	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
44	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	2	
			イチイガシ	子葉	破片	2	
45	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	3	半分1,破片2,接合し完形1個体
46	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
47	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	1	
48	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
49	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	2	半分,接合し完形1個体
50	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	2	半分,接合し完形1個体
51	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	2	
52	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
53	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	4	
54	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	3	半分2個接合し完形1個体
55	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	年代測定(11399-1.0.35g)
			イチイガシ	子葉	破片	1	年代測定(11399-2.0.11g)
56	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
57	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	2	1個一部欠損
58	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
59	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	1	
60	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
61	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	1	
62	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
63	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	2	半分,接合し完形1個体
64	F4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	2	

分析番号	出土位置	出土層位	分類群	部位	状態	個数	備考
65	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
66	E4	Ⅲb	コナラ属	子葉	破片	1	
67	E4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	破片	2	
			コナラ属	子葉	破片	6	
68	C4	Ⅲb	イチイガシ	子葉	完形	1	一部欠損
69	SA2		コナラ属-シイ属	子葉	破片	1	
70	SA2		コナラ属	子葉	破片	1	
71	SA3		イチイガシ	子葉	完形	2	
			コナラ属	子葉	破片	3	
72	SA3		イチイガシ	子葉	完形	6	1個一部欠損
			イチイガシ	子葉	破片	2	
			ミズバイ	核	完形	1	
73	SA3		コナラ属	子葉	破片	7	計1個体分
74	SA3		コナラ属	子葉	破片	1	半分
75	SA3		イチイガシ	子葉	完形	1	
76	SA3		コナラ属	子葉	破片	1	
77	SA3		イチイガシ	子葉	破片	1	
78	SA3		イチイガシ	子葉	破片	1	半分
			コナラ属	子葉	破片	1	
79	SA3		イチイガシ	子葉	完形	1	
80	SA3		ツブラジイ	子葉	破片	1	半分
81	SA3		イチイガシ	子葉	破片	2	半分,接合し完形1個体
82	SA3		ツブラジイ	子葉	破片	1	半分
83	SA3		コナラ属	子葉	破片	1	
84	SA3		イチイガシ	子葉	完形	1	
85	SA3		イチイガシ	子葉	完形	1	
86	SA3		イチイガシ	子葉	完形	1	
87	SA3		コナラ属	子葉	破片	1	
88	SA3		イチイガシ	子葉	破片	1	
89	SA3		イチイガシ	子葉	破片	1	半分
90	SA3		イチイガシ	子葉	破片	1	半分
91	SA3		イチイガシ	子葉	破片	1	半分
92	SA3	2層	コナラ属	子葉	破片	1	
93	SA3	2層	コナラ属	子葉	破片	1	
94	SA3		イチイガシ	子葉	完形	2	
			イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	1	
95	SA3	2層	イチイガシ	子葉	完形	2	
			ツブラジイ	子葉	破片	5	1個半分
			炭化材		破片	1	
96	SA3	2層	コナラ属	子葉	破片	2	
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	3	
			ツブラジイ	子葉	破片	1	半分
97	SA3	2層	コナラ属-シイ属	子葉	破片	5	
			ツブラジイ	子葉	破片	6	1個半分
98	SA3	2層	ツブラジイ	子葉	破片	1	半分
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	1	
99	SA3		イチイガシ	子葉	完形	2	
			コナラ属	子葉	破片	1	
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	7	
			ツブラジイ	子葉	破片	11	3個半分,2個接合し1個体
100	SA3	1層	コナラ属	子葉	破片	3	
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	13	
			ツブラジイ	子葉	破片	16	6個半分
101	SA3		イチイガシ	子葉	完形	1	
			コナラ属	子葉	破片	10	
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	12	
			ツブラジイ	果実	完形	1	
			ツブラジイ	子葉	破片	11	3個半分,2個接合し1個体
102	SA4		イチイガシ	子葉	破片	2	1個年代測定(11399-3.0.06g)
103	SA4		菌核			1	
104	SA5		イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	8	3個半分
			コナラ属	子葉	破片	6	
105	SC2		コナラ属	子葉	破片	1	
106	SI7		イチイガシ	子葉	完形	1	
107	SI7		イチイガシ	子葉	完形	1	
			コナラ属	子葉	破片	1	
108	SI7		イチイガシ	子葉	完形	3	
109	SI7		イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	4	半分2個,残り2個は接合し半分
110	SI7		イチイガシ	子葉	破片	1	
111	SI7		イチイガシ	子葉	完形	2	
112	C5		菌核			1	
			土粒			1	
113	A1-2		イチイガシ	子葉	破片	3	
			コナラ属	子葉	破片	4	
114	A1-2	カク	イチイガシ	子葉	完形	6	
			イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	完形	1	
			コナラ属	子葉	破片	6	2個接合し半分
			炭化材		破片	1	
115	A1-2		イチイガシ	子葉	破片	1	半分
116	A1-3		イチイガシ	子葉	完形	1	
117	A2	集中区	イチイガシ	子葉	完形	10	
			イチイガシ	子葉	破片	7	3個半分
			コナラ属	子葉	破片	31	
			炭化材		破片	2	
			菌核			5	

第23表 種実同定結果 (1)

分析番号	出土位置	出土層位	分類群	部位	状態	個数	備考
118	A3-2	II	イチイガシ	子葉	破片	2	
			コナラ属	子葉	破片	1	
119	A3-2	IIIa	イチイガシ	子葉	完形	2	
			イチイガシ	子葉	破片	2	半分
			コナラ属	子葉	破片	3	
120	A3-2S	III	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	2	半分
121	A3-2 集中区	III	イチイガシ	子葉	完形	24	
			イチイガシ	子葉	破片	68	17個半分
			コナラ属	子葉	破片	221	5個半分
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	6	
			ツブラジイ	子葉	完形	3	
			ツブラジイ	子葉	破片	25	18個半分
			アワブキ属?	核?	破片	1	
			不明		破片	1	
			炭化材		破片	4	
			土粒			1	
122	A3-2 集中区	III	イチイガシ	子葉	破片	1	年代測定(11399-4.0.13g)
			イチイガシ	子葉	破片	1	年代測定(11399-5.0.16g)
123	F4-1	III	イチイガシ	子葉	破片	1	
			ツブラジイ?	子葉	破片	1	径4.5mm,1/2個の半分(約1/4個)
			土粒			1	
124	F4-2	III	菌核			1	
125	F4-5	III	菌核			2	
126	F4-9	III	菌核			1	
127	F4-10	III	コナラ属-シイ属	子葉	破片	1	
			菌核			3	
128	F4-11	III	コキンバイザサ	種子	完形	2	
			菌核			1	
			土粒			7	
129	F4-12	III	コナラ属	子葉	破片	3	
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	1	
			コキンバイザサ	種子	完形	2	
			菌核			8	
130	F4-13	III	コナラ属	子葉	破片	1	
			コキンバイザサ	種子	完形	2	
			タデ属	果実	完形	1	
			菌核			4	
						1	
131	F4-14	III	コナラ属	子葉	破片	2	
			コナラ属-シイ属	子葉	破片	2	
			ツブラジイ	子葉	破片	1	半分

分析番号	出土位置	出土層位	分類群	部位	状態	個数	備考
132	F4-15	III	菌核			2	
133	F4-16	III	コナラ属-シイ属	子葉	破片	1	
134	F4-18	III	イチイガシ	子葉	完形	1	
			イチイガシ	子葉	破片	3	半分
			コナラ属	子葉	破片	2	
			タデ属	果実	完形	1	
			菌核			2	
135	F4-19	III	イチイガシ	子葉	完形	1	
			コナラ属	子葉	破片	15	1個半分
			炭化材		破片	4	
			土粒			2	
136	F4-20	III	コナラ属	子葉	破片	6	
137	F4-21	III	コナラ属	子葉	破片	2	
			菌核			1	
138	F4-23	III	炭化材		破片	1	
			菌核			1	
139	F4-24	III	イチイガシ	子葉	破片	1	半分
			コナラ属	子葉	破片	2	
			炭化材		破片	1	
			菌核			1	
140	F4-25	III	イチイガシ	子葉	完形	3	
			イチイガシ	子葉	破片	10	3個半分
			コナラ属	子葉	破片	38	3個半分
141	F4-27	III	イチイガシ	子葉	完形	1	
			コナラ属	子葉	破片	12	
			菌核			8	
142	F4-28	III	コナラ属	子葉	破片	1	
			菌核			4	
143	F4-30	III	イチイガシ	子葉	破片	1	
			コナラ属	子葉	破片	2	
			不明		破片	1	
			菌核			2	
144	F4-32	III	コキンバイザサ	種子	完形	2	
			菌核			1	
145	F4-33	III	コキンバイザサ	種子	完形	2	
			菌核			3	
						1	
146	F4-35	III	コキンバイザサ	種子	完形	2	
			菌核			2	

第24表 種実同定結果(2)

分析番号	遺物・遺構番号	出土位置	重量(g)	状態	樹種
147	SA1-12	D7	0.3	炭化材	スタジイ
148	SA2b	-	6.2	炭化材	マツ属複雑管束亜属
149	SA3-212	-	1.7	炭化材	スイカズラ属
150	SA1-11	D7	4.5	炭化材	スタジイ

第25表 樹種同定結果

分析番号	遺物・遺構番号	出土層位	出土位置	同定結果				補正年代 BP	δ 13C (‰)	Code No.
				分類群	部位	状態	個数			
55	3089	IIIb	F4	イチイガシ	子葉	炭化	完形	3475±20	-23.63±0.15	11399-1
55	3089	IIIb	F4	イチイガシ	子葉	炭化	破片	3530±25	-26.26±0.18	11399-2
102	SA4床上サンプル	-	D3	イチイガシ	子葉	炭化	破片	3485±25	-25.59±0.18	11399-3
122	A3-2集中区	III	-	イチイガシ	子葉	炭化	破片	3640±25	-27.44±0.17	11399-4
122	A3-2集中区	III	-	イチイガシ	子葉	炭化	破片	3705±25	-26.71±0.22	11399-5

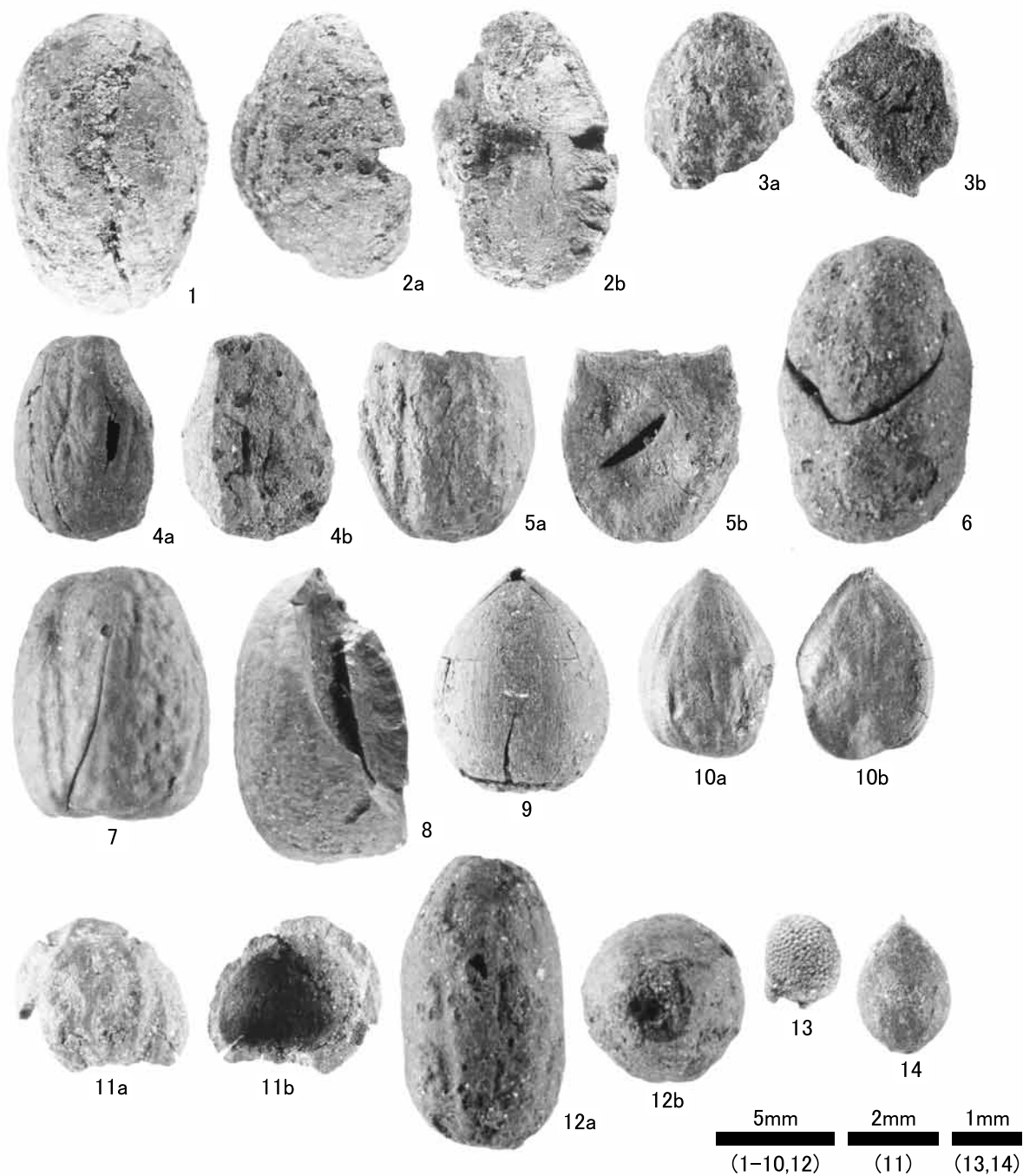
1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。  
 2)BP年代値は、1,950年を基点として何年前であるかを示す。  
 3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第26表 放射性年代測定

分析番号	遺物・遺構番号	出土層位	出土位置	分類群(部位)	補正年代(BP)	暦年較正年代(cal)				相対比	Code No.
						σ	2σ	cal BC	cal BP		
55	3089	IIIb	F4	イチイガシ(子葉)	3473±22	cal BC 1,874	cal BC 1,843	cal BP 3,824	3,793	0.390	11399-1
						cal BC 1,817	cal BC 1,799	cal BP 3,767	3,749	0.203	
						cal BC 1,779	cal BC 1,747	cal BP 3,729	3,697	0.407	
						cal BC 1,882	cal BC 1,739	cal BP 3,832	3,689	0.994	
55	3089	IIIb	F4	イチイガシ(子葉)	3530±25	cal BC 1,703	cal BC 1,700	cal BP 3,653	3,650	0.006	11399-2
						cal BC 1,911	cal BC 1,874	cal BP 3,861	3,824	0.440	
						cal BC 1,843	cal BC 1,816	cal BP 3,793	3,766	0.325	
						cal BC 1,799	cal BC 1,779	cal BP 3,749	3,729	0.235	
102	SA4床上サンプル	-	D3	イチイガシ(子葉)	3484±23	cal BC 1,936	cal BC 1,771	cal BP 3,886	3,721	1.000	11399-3
						cal BC 1,877	cal BC 1,842	cal BP 3,827	3,792	0.406	
						cal BC 1,822	cal BC 1,796	cal BP 3,772	3,746	0.309	
						cal BC 1,782	cal BC 1,755	cal BP 3,732	3,705	0.285	
122	A3-2集中区	III	-	イチイガシ(子葉)	3640±23	cal BC 1,883	cal BC 1,746	cal BP 3,833	3,696	1.000	11399-4
						cal BC 2,032	cal BC 1,963	cal BP 3,982	3,913	1.000	
						cal BC 2,128	cal BC 2,089	cal BP 4,078	4,039	1.118	
						cal BC 2,045	cal BC 1,938	cal BP 3,995	3,888	0.882	
122	A3-2集中区	III	-	イチイガシ(子葉)	3706±25	cal BC 2,138	cal BC 2,117	cal BP 4,088	4,067	0.252	11399-8
						cal BC 2,098	cal BC 2,039	cal BP 4,048	3,989	0.748	
						cal BC 2,197	cal BC 2,168	cal BP 4,147	4,118	0.094	
						cal BC 2,148	cal BC 2,028	cal BP 4,098	3,978	0.906	

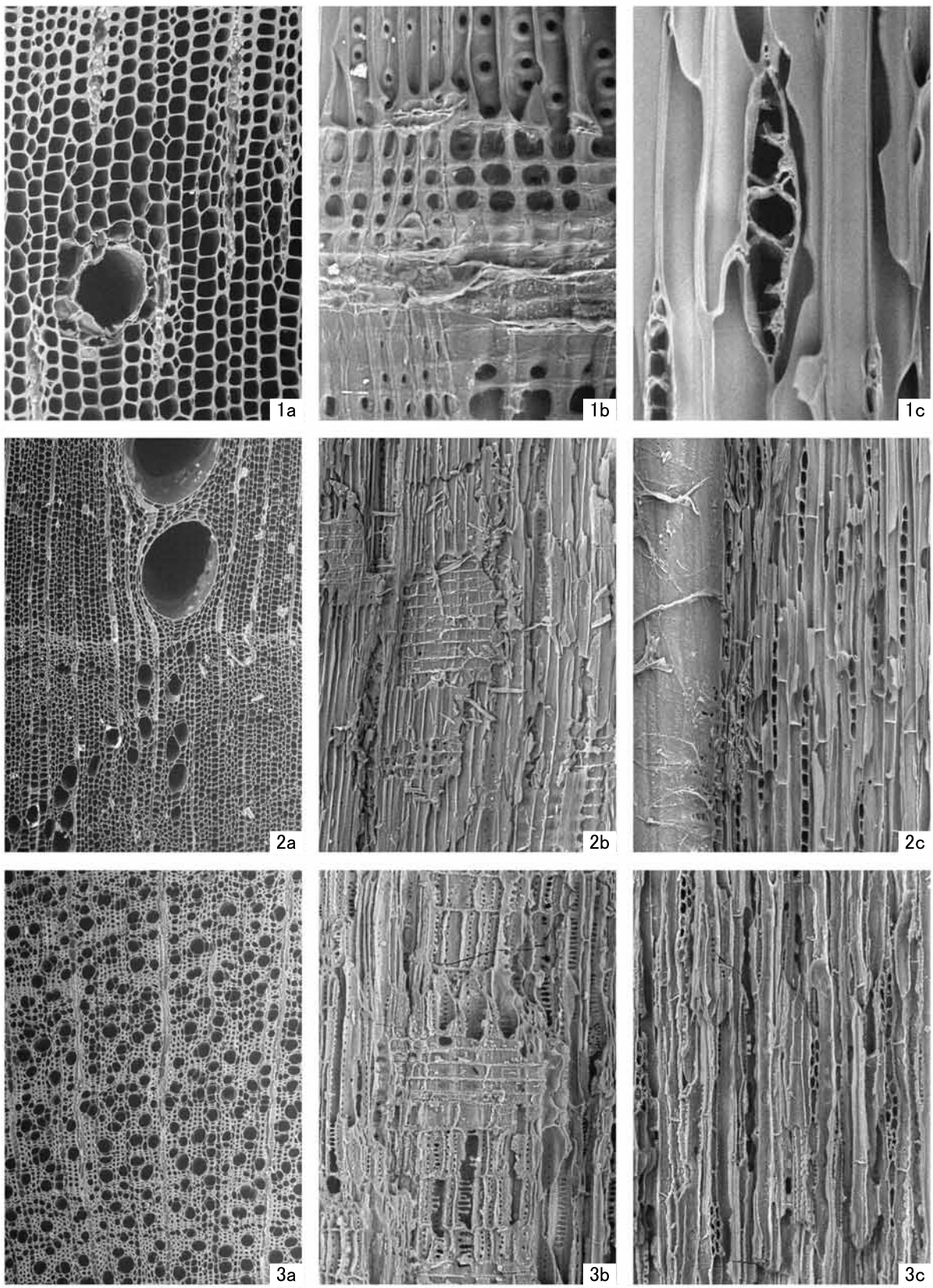
1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用した。  
 2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。  
 3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。  
 4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である  
 5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第27表 暦年較正結果



- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. イチイガシ 子葉(分析番号55)     | 2. イチイガシ 子葉(分析番号55)   |
| 3. イチイガシ 子葉(分析番号102)    | 4. イチイガシ 子葉(分析番号122)  |
| 5. イチイガシ 子葉(分析番号122)    | 6. イチイガシ 子葉(分析番号49)   |
| 7. イチイガシ 子葉(分析番号121)    | 8. イチイガシ 子葉(分析番号121)  |
| 9. ツブラジイ 果実(分析番号101)    | 10. ツブラジイ 子葉(分析番号121) |
| 11. アワキ属? 核?(分析番号121)   | 12. ミズバイ 核(分析番号72)    |
| 13. コキンバイザサ 種子(分析番号146) | 14. タデ属 果実(分析番号134)   |

第68図 内野々遺跡出土の種実遺体



1. マツ属複維管束亜属(分析番号148)  
 2. スダジイ(分析番号150)  
 3. スイカズラ属(分析番号149)  
 a: 木口, b: 柾目, c: 板目

200  $\mu$  m: 2-3a  
 200  $\mu$  m: 1a, 2-3b, c  
 100  $\mu$  m: 1b, c

第69図 遺構埋土出土の炭化材

### 3 内野々遺跡の土器圧痕について

前項で触れたように、当遺跡では集落跡の主体時期である縄文時代後期前葉～中葉にかけて多数の植物質食料が遺跡内に持ち込まれた可能性があるという結果が得られた。そこで、これらが土器の成形段階で土器に付着する可能性を考慮し、また、調査中及びフローテーション作業の結果では回収できなかったその他の微細な植物遺体・動物遺体の痕跡を探索することで、前項に加え、さらに具体的な資料を提示することが可能となる。

土器圧痕調査に係る作業の方法及び結果については以下のとおりである。

#### (1) 作業の方法

##### 選別作業

土器の接合（接点確認）終了時点で、内野々遺跡から出土した土器片全点（17,521点）を対象に1点ずつ確認し、種子や植物片、昆虫類などの圧痕資料の可能性のあるものを、その場で実体顕微鏡（Nicon・ネイチャースコープ・ファール）を用いて20倍の倍率で観察した。その後、10～63倍まで拡大可能な実体顕微鏡（Nicon pxf）を用いて、付着箇所についてより詳細な観察を行った。このうち、微細な礫や火山灰等の含有物が剥落したと思われるものを除いた84点について圧痕土器資料とし、残存位置の撮影を行った上で、同機にデジタルカメラを装着して圧痕の拡大画像の撮影を行った。

なお、圧痕土器探査に係る作業方法については当センター報告書第154集「吉牟田遺跡」第IV章第2節第8表を参考にされたい。

##### レプリカ法による転写作業

圧痕は土器の外・内面及び断面に「窪み」として残る。そのため、何らかの材料を流し込んで型を取り、反転させた元の状態で観察する必要がある。当遺跡ではシリコン樹脂を印象材としてレプリカを作成した。なお、一連のレプリカ法による転写作業で使用した溶剤・手順については、比佐・片多氏の論考を参照されたい。

### 走査型電子顕微鏡（SEM）による観察と結果

反転した圧痕資料はSEM（HITACHI S-3000-N）を用いて表面組織や詳細な形状の観察・記録を行った。この際、画像の記録は20～40倍に拡大して行った。なお、表面に特徴的な組織が観察できた一部の資料についてはこの限りではない。

#### (2) 観察の結果（第28表、第70図～第72図）

レプリカを作成した84点の資料のうち、検出部位は土器の口縁部14点（うち、口唇部1点）、頸部4点、胴部51点、底部12点土製円盤3点であり、そのうち19点については土器断面にみられた。

観察の結果については、以下の4種類に分類して報告する。なお、今回検出した圧痕資料の同定作業には植物学・植物解剖学的見地からの考察が必要であるが、現時点では困難な点が多いため、これ以上の考察は差し控えたい。

- ◎：植物種子の圧痕で、同定が可能と思われる資料であり、13点検出した。
- ：植物種子の圧痕であるが、同定が困難と思われるもので、28点検出した。
- △：植物種子の可能性が低いと思われるものである。25点検出した。
- ×：植物遺体以外の何らかの圧痕で、微細な石粒痕の可能性が高いものを含む。12点検出した。
- ：動物遺体や植物片の圧痕で6点検出した。

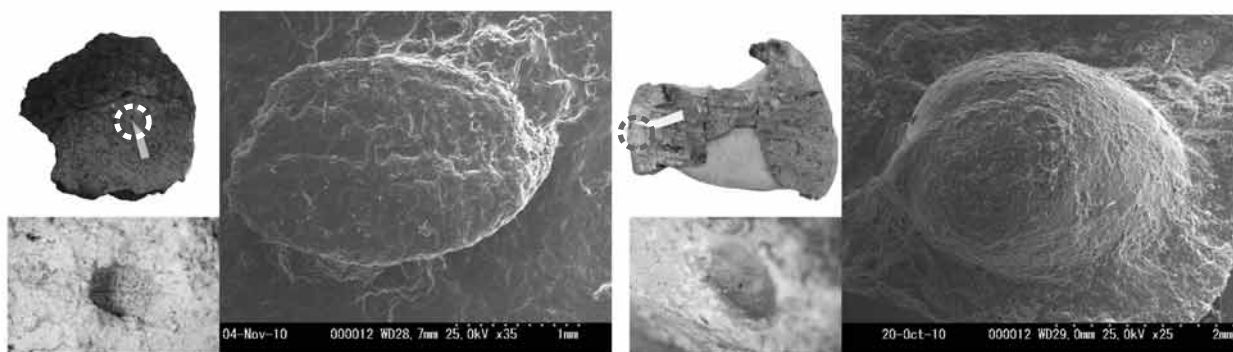
#### 参考文献

- 柳田裕三 2006 「吉牟田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第154集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 丑野毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』1324日本文化財保存学会
- 比佐陽一郎・片多雅樹 2006 「土器圧痕のレプリカ法による転写作業」福岡市埋蔵文化財センター

No.	資料No.	注記	分類	法量(mm)			時期	部位	圧痕位置	胎土の色調	観察所見・備考
				長さ	幅	厚さ					
1	HUCN-001	SA3-7	○	2.58	1.65	-	縄文後期	肩外	にふい黄橙 10YR7/4	報告書No.8. 平面楕円形。中央に浅い溝あり	
2	HUCN-010	SA4	×	2.19	1.29	-	縄文後期	肩外	橙 5YR6/6	報告書No.107. 平面銃弾状で端部がわずかに窪む	
3	HUCN-011	C4 Ⅲb 3334	×	2.05	2.08	-	縄文後期	口内	明赤褐 5YR5/6	報告書No.233. 平面垂直円形で表面はごつごつする	
4	HUCN-012	C5 Ⅲ 3986	×	2.75	1.40	-	縄文後期	肩外	赤褐 5YR4/6	報告書No.310. 平面長楕円形で表面はややごつごつする	
5	HUCN-013	C4 Ⅲb 2897	×	2.75	1.52	-	縄文後期	頸内	にふい赤褐 2.5YR4/3	報告書No.296. 平面長楕円形で表面はややごつごつする	
6	HUCN-014	C5 Ⅲ 3992	○	3.24	2.23	-	縄文後期	底外	橙 5YR6/6	報告書No.325. 楕円形の球体で小突起と中央にわずかな窪みあり	
7	HUCN-015	E7 Ⅲ 507	◎	5.02	3.43	-	縄文後期	肩外	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.344. 平面楕円形で表面は滑らか。ママ科のヘソあり。ダイズ属の圧痕か ヘソは中央付近にみられる。厚膜はなく中央に縦溝あり	
8	HUCN-015	E7 Ⅲ 507	○	10.89	5.62	2.68	縄文後期	肩内	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.344. SEM未観察。表面滑らか。堅果類の子葉痕か	
9	HUCN-015	E7 Ⅲ 507	○	9.87	-	1.24	縄文後期	肩断	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.344. SEM未観察。堅果類の核か	
10	HUCN-015	E7 Ⅲ 507	□	9.82	7.05	-	縄文後期	肩内	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.344. SEM未観察。葉脈痕あり	
11	HUCN-015	未注記	△	4.94	3.32	-	縄文後期	底断	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.344. 平面楕円形。縁辺に小突起あり。ダイズ属の形状に似る	
12	HUCN-015	未注記	×	-	-	-	縄文後期	底断	灰褐 7.5YR4/2	報告書No.344. 平面楕円形で表面は滑らか。細長い隆起あり	
13	HUCN-016	C4 Ⅲb 3618	◎	4.41	1.99	3.25	縄文後期	肩外	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.208. 平面楕円形で表面は滑らか。ママ科のヘソあり。ダイズ属の圧痕か ヘソは中央付近にみられ、やや盛り上がる。厚膜はなく中央に縦溝あり	
14	HUCN-051	B4 Ⅲa 3538	○	9.19	-	2.74	弥生後期	肩断	にふい黄橙 10YR6/4	報告書No.596. 平面楕円形で扁平 を呈し、先端は薄く突出する	
15	HUCN-052	A-8T	×	-	-	-	弥生後期	底内	にふい赤褐 5YR5/4	報告書No.597. SEM未観察	
16	HUCN-053	B4 Ⅲa 3560	×	1.91	2.03	-	弥生後期	肩外	明黄褐 10YR6/6	報告書No.603. 平面円形で表面はごつごつする。石か？	
17	HUCN-101	A4-4 Ⅲ	△	5.62	1.75	-	縄文後期	肩外	明褐 7.5YR5/6	平面長方形で棒状。表面は滑らか	
18	HUCN-102	E2 Ⅲb 2026	○	3.11	2.98	-	縄文後期	円壁	明赤褐 5YR5/6	平面垂直円形で表面はややごつごつする	
19	HUCN-102	"	◎	3.14	2.25	-	縄文後期	"	明赤褐 5YR5/6	平面円形で下部が広がる。表面は網目状の組織あり	
20	HUCN-102	"	○	3.02	2.70	2.32	縄文後期	"	明赤褐 5YR5/6	平面円形で瘤状の突起あり	
21	HUCN-103	A1-3E Ⅲ	○	1.92	2.09	-	縄文後期	口断	にふい橙 7.5YR5/4	平面円形で扁平。表面は滑らかで網目状の組織あり	
22	HUCN-104	A3-1 Ⅲ	△	3.52	3.17	-	縄文後期	口内	にふい橙 7.5YR6/4	平面円形で表面はややごつごつする	
23	HUCN-105	A3-2 Ⅲ	△	7.68	5.02	1.78	縄文後期	口内	にふい橙 7.5YR5/3	平面楕円形で表面は滑らか	
24	HUCN-106	A3-2S Ⅲ	□	3.92	1.73	-	縄文後期	口内	灰黄褐 10YR4/2	平面長方形で棒状。表面はごつごつする	
25	HUCN-107	SA2	△	1.65	1.43	-	縄文後期	底断	暗灰黄 2.5Y 5/2	平面菱形で表面は滑らか。先端が突出する	
26	HUCN-108	SA2-34 2	△	5.53	-	1.61	縄文後期	肩外	黄灰 2.5Y4/1	平面不定形で扁平。表面は滑らか	
27	HUCN-109	SA3 NE	◎	3.94	3.15	-	縄文後期前半	口外	灰黄褐 10YR4/2	平面楕円形で表面は滑らか。一端は切形。ママ科のヘソあり。アズキ垂属の圧痕か ヘソは端部に片寄る。厚膜に覆われ、縦溝はみられない	
28	HUCN-109	SA3 NE	◎	3.44	2.62	2.52	縄文後期前半	口断	にふい黄橙 10YR6/4	平面楕円形で表面は滑らか。ママ科のヘソあり。アズキ垂属の圧痕か ヘソはやや端部に片寄る。厚膜に覆われ、縦溝はみられない	
29	HUCN-109	SA3 NE	◎	4.11	3.16	-	縄文後期前半	口内	にふい黄橙 10YR6/4	平面楕円形で表面は滑らか。一端はやや切形。ママ科のヘソあり。アズキ垂属の圧痕か ヘソは端部に片寄る。厚膜に覆われ、縦溝はみられない	
30	HUCN-110	SA3	□	3.73	1.54	-	縄文後期	肩内	にふい黄橙 10YR6/3	昆虫(コクノウムシ)の圧痕。頭部(口吻)から腹部まであり	
31	HUCN-111	SA4-38	○	2.33	-	1.43	縄文後期	口外	明赤褐 5YR5/6	平面円形で表面はごつごつしている。網目状組織がみられるが明確ではな	
32	HUCN-112	SA5	◎	8.01	3.25	-	縄文後期	口内	褐 7.5YR4/3	平面三日月状で、縁辺に「へ」の字状の隆帯あり	
33	HUCN-113	SC2	△	1.44	1.45	-	縄文後期	断	灰黄褐 10YR4/2	平面垂直円形で表面はややごつごつする	
34	HUCN-114	SH99	□	3.43	1.12	-	縄文後期	肩外	明赤褐 5YR5/8	棒状で、植物繊維状組織がみられる	
35	HUCN-115	C4 IVa 2955	○	7.02	6.54	-	縄文後期	肩外	明赤褐 5YR5/6	SEM未観察。平面楕円形で瘤状の突起あり。堅果類の子葉痕か	
36	HUCN-116	C5 Ⅲ 1281	△	2.07	1.44	-	縄文後期	頸内	明赤褐 5YR5/6	平面銃弾状で表面はごつごつしている	
37	HUCN-117	C5 Ⅲ 1160	○	2.86	1.66	-	縄文後期	肩内	にふい赤褐 5YR5/4	平面方形で、数個の凹凸がみられる	
38	HUCN-118	C5 Ⅲ 1272	◎	7.15	3.92	2.30	縄文後期	肩内	明褐 7.5YR5/6	平面楕円形で扁平。表面は滑らか。ママ科のヘソらしき痕跡あり ヘソは端部に片寄る。やや隆起しており厚膜か	
39	HUCN-119	C5 Ⅲ 1023	△	1.64	1.12	-	縄文後期	底外	にふい橙 7.5YR6/4	平面方形で表面はごつごつしている	
40	HUCN-120	D2 Ⅲ b1785	○	1.35	1.39	-	縄文後期	肩外	橙 7.5YR6/6	平面円形で、表面に網目状の組織あり	

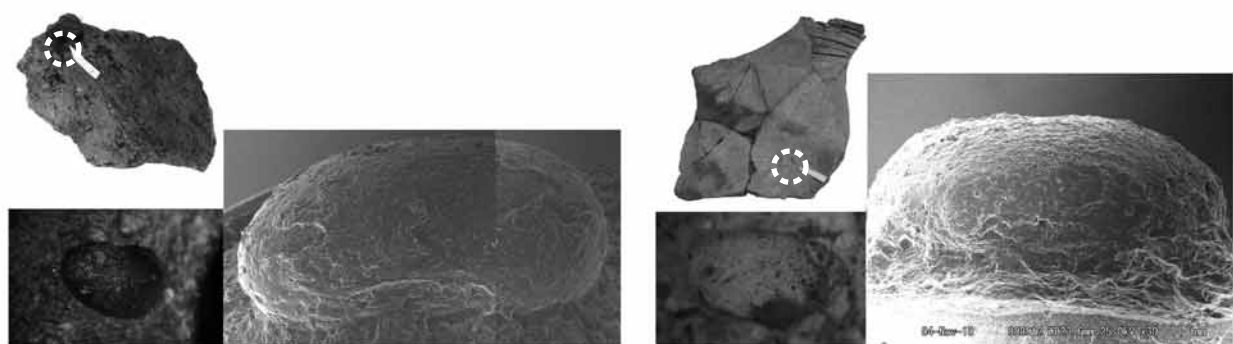
No.	資料No.	注記	分類	法量(mm)			時期	部位	圧痕位置	胎土の色調	観察所見・備考
				長さ	幅	厚さ					
41	HUCN-121	D2 Ⅲa 下2076	○	2.93	2.55	-	縄文後期	口外	灰黄褐 10YR4/2	平面楕円形で表面はややごつごつする	
42	HUCN-122	D2 Ⅲ b1749	○	2.19	2.73	-	縄文後期	頸外	にふい橙 7.5YR6/4	平面楕円形で扁平。表面はややごつごつする	
43	HUCN-123	D3 Ⅲa 下2306	△	5.50	2.88	-	縄文後期	肩内	褐 7.5YR4/4	SEM未観察。平面楕円形で表面はごつごつする	
44	HUCN-124	D3 Ⅲ 2327	○	-	2.24	1.42	縄文後期	肩内	にふい黄橙 10YR6/4	平面円形で扁平。表面はごつごつしている。瘤状の突起あり	
45	HUCN-125	D3 Ⅲa 下2349	◎	3.66	2.25	-	縄文後期	肩内	明赤褐 5YR5/6	平面楕円形で表面は網目状の組織が明確にみられる	
46	HUCN-126	D3 Ⅲ b1622	○	1.29	1.35	-	縄文後期	底外	明赤褐 5YR5/6	平面円形で表面はごつごつする	
47	HUCN-127	E2 Ⅲ a1928	△	2.20	1.60	-	縄文後期	肩内	にふい橙 7.5YR5/4	平面長方形で表面は滑らか。石か？	
48	HUCN-128	E4 Ⅲ b611	○	2.89	2.78	-	縄文後期	底内	褐 7.5YR4/3	平面円形で表面は滑らか。複数箇所に浅い窪みあり。破砕状の突起あり	
49	HUCN-129	E6 Ⅲ 3807	△	2.23	1.48	-	縄文後期	肩内	にふい黄橙 10YR6/3	平面楕円形、ごつごつしている	
50	HUCN-130	E7 Ⅲ 661	○	2.19	1.55	1.12	縄文後期	肩外	にふい橙 7.5YR5/4	平面木の葉状で表面は滑らか。断面は菱形を呈す。端部にわずかな窪みあり	
51	HUCN-131	E7 Ⅲ 680	×	5.33	2.78	2.14	縄文後期	肩外	褐 7.5YR6/6	SEM未観察。円柱状で表面は滑らか。先端部尖る	
52	HUCN-132	A2 Ⅲa Ⅲ	△	2.34	1.74	-	縄文後期	肩外	明赤褐 5YR5/6	平面楕円形で表面はややごつごつする	
53	HUCN-133	C5 Ⅲ b3969	○	-	-	-	縄文後期	底外	明黄褐 10YR6/6	平面円形で表面は滑らか。楕円形の突起あり	
54	HUCN-133	"	○	4.28	3.65	-	縄文後期	底外	明黄褐 10YR6/6	楕円形で表面は滑らか。形状はママ科に似るが讀部はみられない	
55	HUCN-134	A1	△	5.31	2.98	-	縄文後期	底内	明黄褐 10YR6/6	葉脈らしき隆帯あり	
56	HUCN-135	A1-1W Ⅲa	△	2.47	1.59	-	縄文後期	肩内	褐 7.5YR6/6	平面楕円形で表面はごつごつする。縁辺に幅広い溝あり	
57	HUCN-136	A1-2W Ⅲb	△	2.46	2.30	-	縄文後期	肩内	褐 10YR4/6	平面円形で表面は滑らか。一部にわずかな窪みあり	
58	HUCN-137	A1-2E Ⅲ	◎	5.04	4.41	-	縄文後期	肩内	橙 7.5YR6/6	表面に網目状の組織あり	
59	HUCN-138	A1-2E Ⅲ	△	3.76	2.51	1.69	縄文後期	肩内	明褐 7.5YR5/6	平面楕円形で扁平。表面はごつごつする。形状はママ科に似るが讀部はみられない	
60	HUCN-139	A1-2E Ⅲ	×	7.88	-	2.75	縄文後期	口断	にふい黄橙 10YR5/3	SEM未観察。全体形は確認できないが平面楕円か。やや扁平	
61	HUCN-140	A1-3E Ⅲ	○	2.80	2.56	-	縄文後期	頸内	明赤褐 5YR5/6	平面垂直円形で表面はごつごつし網目状の組織らしきものがみられる。小突起あり	
62	HUCN-141	A1-3E Ⅲ	○	5.12	4.62	4.88	縄文後期	肩断	橙 5YR6/6	平面米俵形で表面は滑らか。ママ科のヘソらしき痕跡あり	
63	HUCN-142	A1-3E Ⅲb	△	5.12	2.35	-	縄文後期	肩内	明赤褐 5YR5/6	湾曲した楕円形を呈し、表面はごつごつする	
64	HUCN-143	A1-3E Ⅲb	□	6.04	5.38	-	縄文後期	肩内	にふい赤褐 5YR5/4	平面は多角錐状で頂点から放射状に微細な溝あり。貝殻の圧痕	
65	HUCN-144	A1-3E Ⅲ	◎	5.46	2.87	3.91	縄文後期	肩内	明赤褐 5YR5/6	平面米俵形で表面は滑らか。ママ科のヘソあり。アズキ垂属の圧痕か ヘソは端部に片寄る。厚膜に覆われ、縦溝はみられない	
66	HUCN-145	A1-3 Ⅲ	△	4.83	-	3.08	縄文後期	肩外	明褐 7.5YR5/6	平面楕円形で表面は滑らか。縁辺の一部にわずかな隆起がある	
67	HUCN-146	A1-4 Ⅲ	×	2.97	2.12	-	縄文後期	肩外	にふい橙 7.5YR5/4	平面不定形で表面はごつごつする	
68	HUCN-147	A2 Ⅲ	△	-	2.49	2.36	縄文後期	肩断	灰黄褐 10YR4/2	平面はラグビーボール状で表面はごつごつする。突出部から数条の溝らしき窪みあり	
69	HUCN-148	A3-1 Ⅲ	×	2.42	1.69	-	縄文後期	肩内	明赤褐 5YR5/6	平面楕円形で表面はごつごつする。中央が浅い溝状に窪む	
70	HUCN-149	A3-2 Ⅲ	△	3.38	2.23	-	縄文後期	肩断	褐 7.5YR6/8	平面楕円形で表面は滑らか。端部に窪みあり	
71	HUCN-150	A3-2 Ⅲ	△	4.86	2.56	-	縄文後期	肩断	灰黄褐 10YR6/2	平面楕円形でややごつごつする	
72	HUCN-151	A3-2 Ⅲ	◎	3.02	2.39	-	縄文後期	肩外	褐 7.5YR4/4	平面円形で扁平。表面は滑らかで網目状の組織あり	
73	HUCN-152	A4-4 Ⅲb	△	2.89	1.47	1.90	縄文後期	肩外	にふい橙 7.5YR5/4	平面楕円形で表面はややごつごつする	
74	HUCN-153	未注記	○	2.88	1.76	-	縄文後期	肩断	にふい黄橙 10YR6/4	平面楕円形で、表面は滑らか。瘤状の突起あり	
75	HUCN-154	未注記	△	4.88	3.40	-	縄文後期	口内	橙 5YR6/8	平面銃弾状で先端が瘤状に隆起する	
76	HUCN-155	未注記	○	4.70	2.49	-	縄文後期	肩外	明赤褐 5YR5/6	平面楕円形で表面はごつごつする	
77	HUCN-156	未注記	○	1.40	1.30	-	縄文後期	肩外	にふい橙 7.5YR5/4	平面円形で表面はややごつごつする。一部に小突起あり	
78	HUCN-157	A2 I	○	2.30	1.56	-	縄文後期	肩外	褐 7.5YR4/4	平面楕円形で扁平。表面は滑らか。石？	
79	HUCN-158	A2 I	○	2.51	2.38	-	縄文後期	肩外	にふい黄橙 10YR6/4	平面円形で表面は滑らか	
80	HUCN-159	未注記	○	3.20	2.12	-	縄文後期	口断	にふい橙 7.5YR5/4	平面楕円形で表面はややごつごつする。断面三角形を呈し中央に隆起あり	
81	HUCN-160	未注記	□	5.57	1.73	-	縄文後期	肩外	にふい赤褐 5YR4/4	棒状で、植物繊維状組織がみられる	
82	HUCN-161	未注記	△	2.54	1.74	-	縄文後期	肩断	橙 2.5YR6/8	平面楕円形で表面は滑らか。石？	
83	HUCN-162	未注記	×	3.88	3.45	-	縄文後期	肩断	にふい黄橙 10YR5/3	平面楕円形で表面はごつごつする。シフ状の溝がみられる	
84	HUCN-163	A1-3E Ⅲb	◎	6.77	4.79	4.62	縄文後期	底断	褐 7.5YR6/6	平面米俵形で表面は滑らか。ママ科のヘソあり。アズキ垂属の圧痕か ヘソは端部に片寄る。わずかに厚膜が残り、中央に隆起帯が縦走する	

第28表 圧痕土器観察表



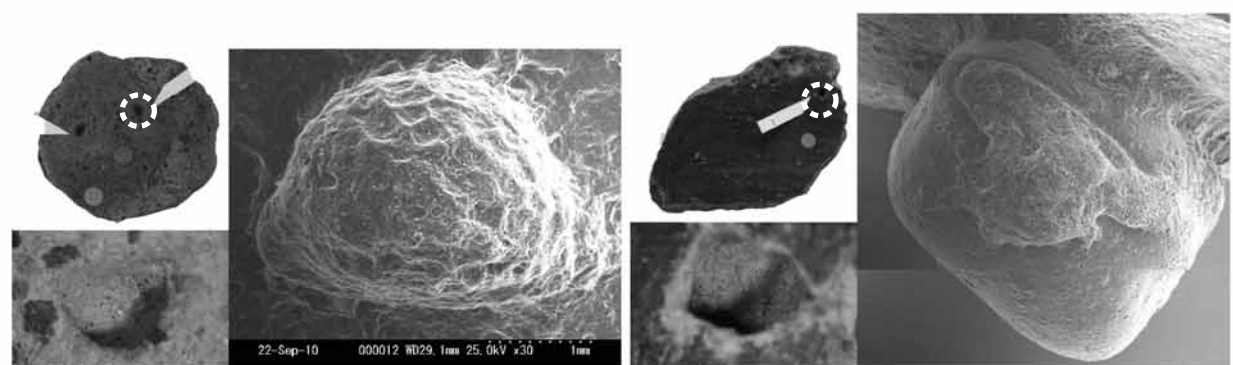
資料 1

資料 6



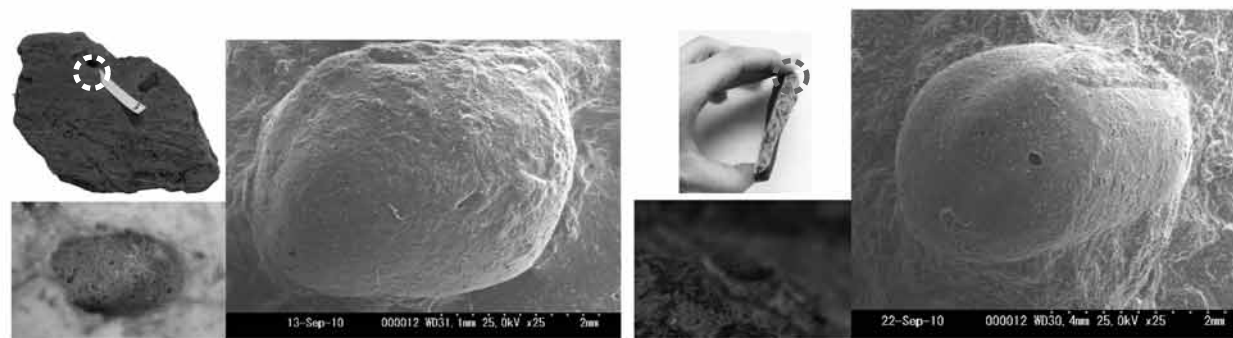
資料 7

資料 13



資料 29

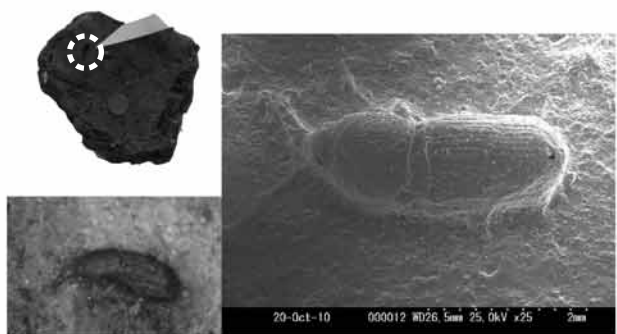
資料 27



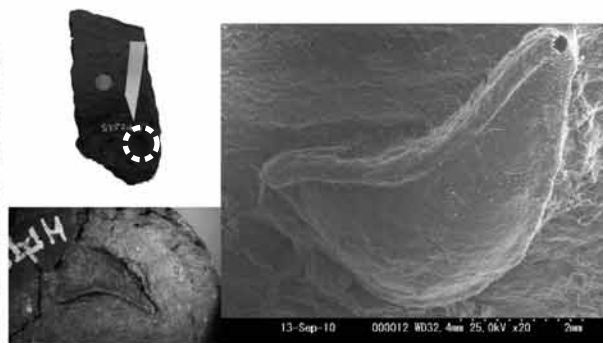
資料 28

資料 29

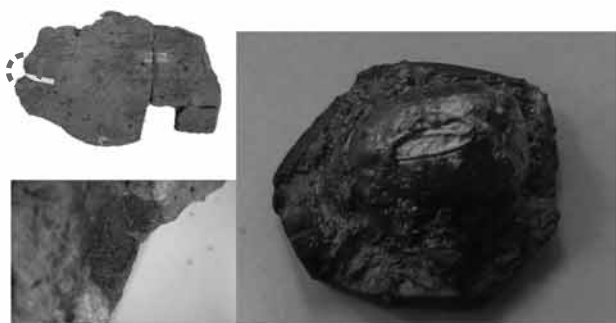
第70図 压痕土器写真（1）



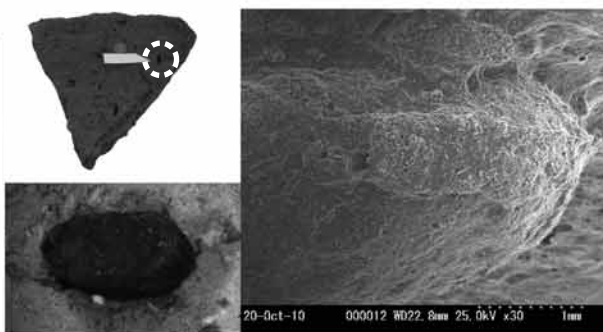
資料30



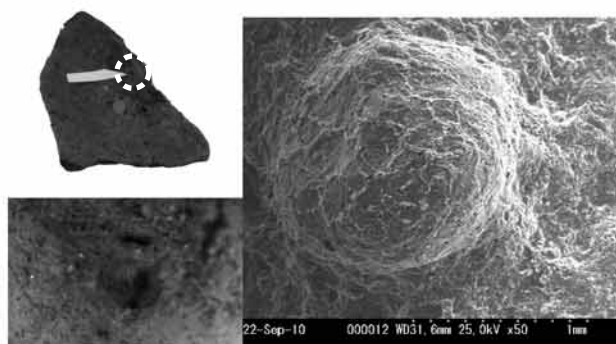
資料32



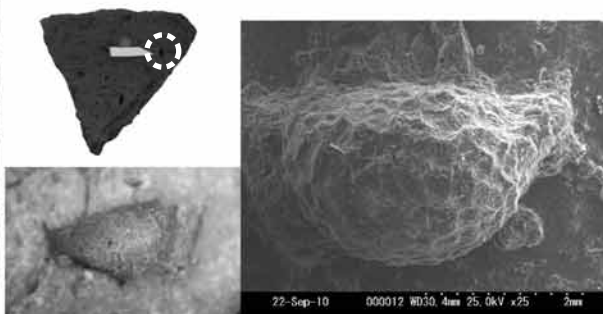
資料35



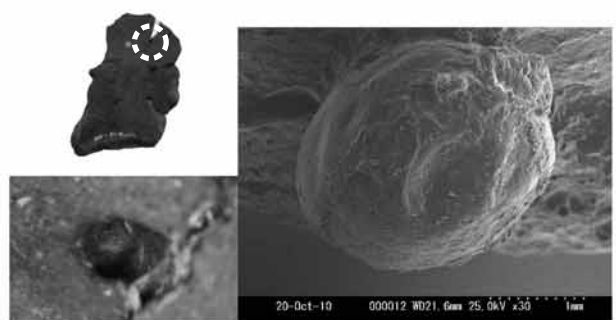
資料38



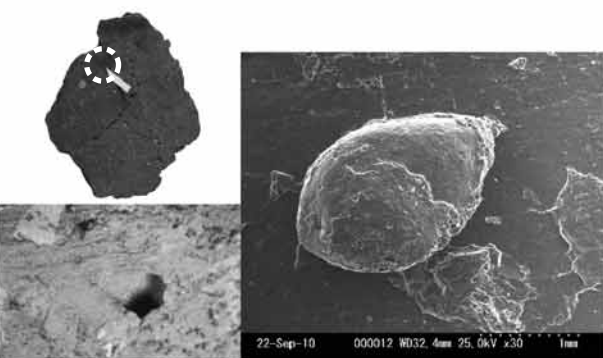
資料40



資料45



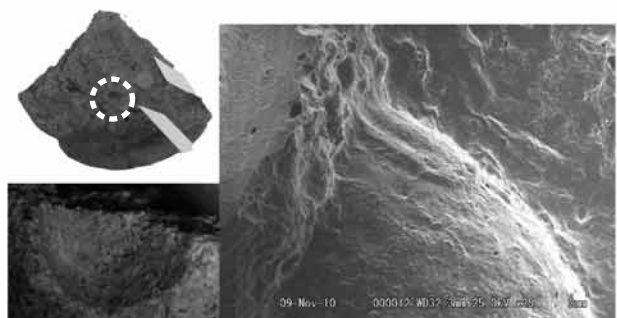
資料48



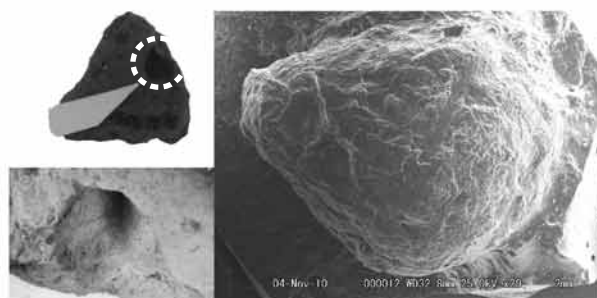
資料50

第71図 圧痕土器写真（2）

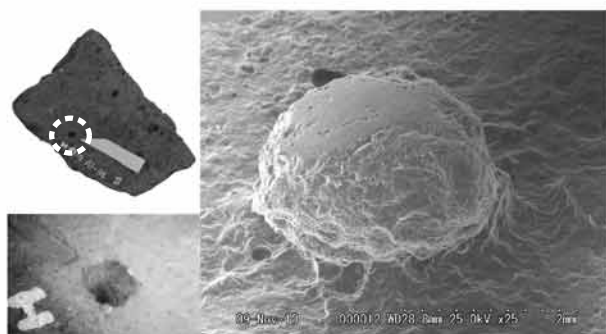




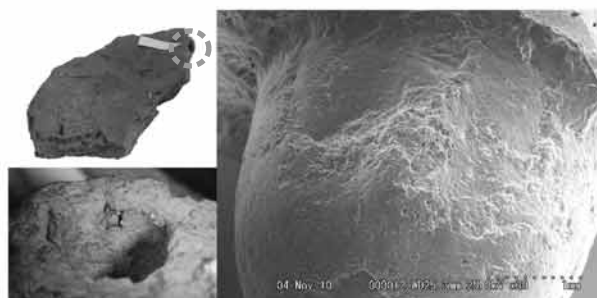
資料53



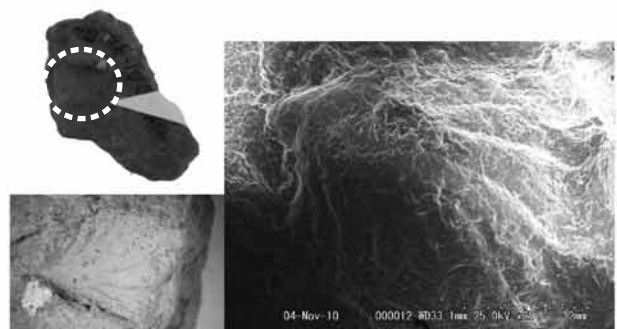
資料58



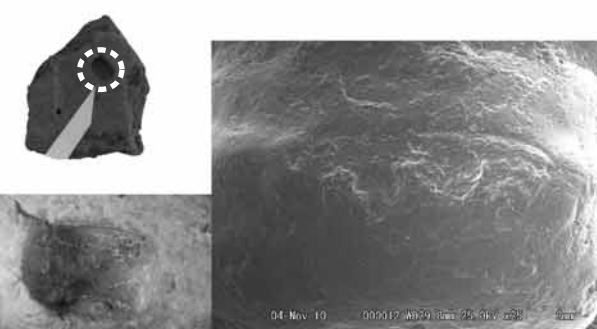
資料61



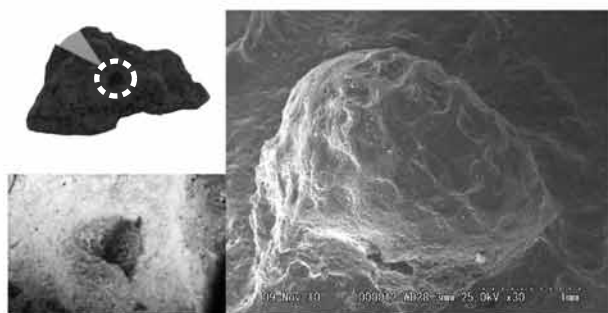
資料62



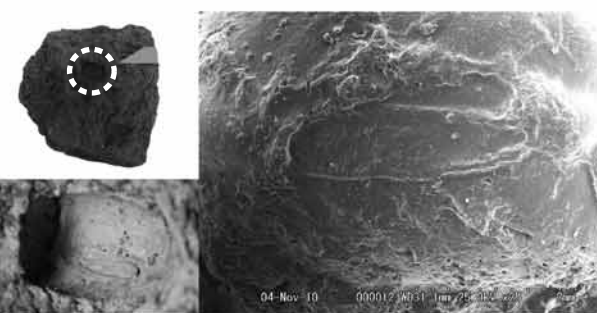
資料64



資料65



資料72



資料84

第72図 压痕土器写真（3）

## 第10節 まとめ

内野々遺跡の発掘調査では、縄文時代から古墳時代初頭にかけての各種遺構やこれに伴う多量の遺物が確認された。特に、縄文時代の遺構・遺物が出土したことは、調査例が少なく現在まで不明確な点の多い都農町の該期遺跡を考察する上で、また、他地域の遺跡と比較をする上で非常に重要な成果となった。

本節では、今回の調査結果を周辺の地域で見つかった遺跡との比較を行いながら時期ごとに整理し、まとめとしたい。

### 1 縄文時代

#### (1) 早期

早期に該当する遺構は集石遺構のみであり、同様の遺構は都農町内でも数多く検出され始めている。今回の調査で検出した5基の集石遺構はいずれも掘込みを有し、礫が充填した検出状況であったが配石や散礫については確認できなかった。また、構成礫が尾鈴山酸性岩類に限られることは遺構の造り方を考えるうえで注目すべき点である。

#### 遺物について

土器は包含層中から少量であるが出土した。1の前平式土器は早期前半の貝殻文系円筒土器である。また、出土量としては下菅生B式や早水台式に相当する土器(2～8)など、早期前半から中葉にかけての押型文土器が最も多い。そして早期中葉の手向山式土器(9)以降、前期末に至るまでの土器は認められない。この間を補完する土器として、平山下原遺跡では手向山式土器に後続する妙見式が出土しており、竜ヶ平第1遺跡、黒石遺跡、内野々第4遺跡などでは塞ノ神式や、前期の轟B式・曾畑式土器の出土があるものの、周辺遺跡を見ても依然資料が少ない状況である。以上を踏まえると、当遺跡において早期の中心は前半～中葉前後の押型文土器の時期にかけてであり、この終焉と供に一時の空白期間が推定される。

石器も出土量は少量であり、中・後期の石器組成と比較すると、磨石や台石などの礫石器を除いて大きな差は見られない。尾鈴山酸性岩類製の石器がほとんど出土しないという事実は、より良質な石材が豊富に存在していたのか、あるいは石材として適当ではないと

考えた結果なのかは判断できない。ただし、隣接する内野々第2遺跡では当該期の同石材の石核が出土していることから、何らかの利用はされていたのであろう。

#### (2) 前期末～中期

今回の調査では、明確に当該期に相当するものといえる遺構は検出されていない。また、周辺遺跡からの出土もわずかである。しかし、今回の調査により出土遺物は少量であるが良好な土器資料が得られた。このうち、147・150・151は深浦式日木山段階の可能性があり、152・153は田野町宮崎市天神河内第1遺跡のD類土器に類例をもち尾田式土器に類似した文様を有する土器であり、これらは前期末に相当する。

縄文時代中期の土器について、I類122・136～140や多角形状の底部であるIII類154は船元I式に相当する。船元式に共通した特異な胎土からは畿内系の影響あるいは土器そのものの流通が想定される。また、II類141～145は高鍋町下耳切第3遺跡出土の土器群との対比によると、春日式土器北手牧段階に相当する。148・149は深浦式鞍谷段階と考えられる。

#### (3) 後期

#### 遺構について

遺構は竪穴建物跡、集石遺構、土坑を検出し、これらは遺構に伴う土器から後期前半～中葉を主体とした遺構と判断できる。

都農町内で当該期の竪穴住居跡を伴う集落跡の調査事例は1例のみであり、今回の調査において竪穴住居跡の全容を把握できる調査に至ったことは、貴重な調査事例といえる。また、宮崎県では当該期の集落跡は台地上の平坦地での発見例が多いが、当遺跡のように丘陵裾の河岸段丘上に立地する遺跡は少なく、当時の集落形成を考慮する上で貴重な検出例である。

検出した4軒の竪穴住居跡から、集落の様相について以下のように考えることができる。先述のとおり、SA2・3とSA4・5では出土した土器の形式から、前者は後期前半、後者は後期中葉に比定される。この考えは、遺構に伴う炭化種実の炭素年代測定の結果により補強された。結果、集落としての画期は二時期存在したと考えられる。なお、SA2とSA3は密接す

ることから、本来切り合い関係にあると思われるが検出状況や土層断面の観察では先後関係は確定できなかった。一方で、SA2、SA3で出土したV類土器は一部を除いて市来式に相当し、37・38・40・41の口縁形態・施文はやや新しい要素を持つことから、SA3を当遺跡最古の竪穴建物跡として位置付けたい。

集石遺構を構成する礫は早期と同様に尾鈴山酸性岩類を主体としており、配石を伴う遺構も2基検出している。なお、3基の土坑は埋土の状況や、出土した遺物がSA4に共通することから、同時期の遺構と理解している。

### 遺物について

都農町内での当該期の遺物については非常に希薄な状況にある。わずかに新別府川原遺跡で貝殻条痕文土器片と、打製石鏃・打製石斧・磨製石斧が出土したほか、三日月原遺跡で綾式土器や石錘が出土したにとどまっている。しかし、今回の調査によって多量の遺物を得ることができた。なかでも土器は、当地域の指標になり得るほど変化に富んだものであった。

まず、縄文時代後期土器であるIV～VI類土器について土器編年と型式に沿って整理したい。

出土した土器は北部九州系の磨消縄文土器と南九州系の貝殻文土器が主体であり、後期前半～後半頃のものであった。IV類は、太沈線と明瞭な縄文を施した小池原上層式、沈線で鈎手文・渦文を描く鐘崎式、これらに後続する北久根山式などの磨消縄文系土器群である。V類は一部を除き、貝殻により施文・調整する土器群は概ね市来式に相当し、IV類土器と共伴関係が認められる。このほか、192は市来式に先行する出水式に、188・168～170・173・188は北久根山式の深鉢に相当する可能性があり、Ve類には縁帯文系土器の流れを汲む土器などが確認できる。VI類219・220は明確ではないが、胎土やナデで調整する点および貼付突帯の形状から北久根山式に前後する可能性がある。221は宮崎市右葛ヶ迫遺跡で出土した土器に類例があり、阿高系土器に相当すると考えられる。

土器の出土量としては後期中葉頃の貝殻文系土器の深鉢が最も多く出土しており、VII類が特に顕著であった。VII類は市来式最終段階の丸尾式土器で、前迫亮一氏の細分によればBタイプに相当する。丸尾式の特徴

である頸部施文について、そのほとんどが一例のみである点は、同型式における末期と考えられる。また、X類274・275は施文や胎土に共通点が認められることからVIII類に併行する器形と考えられる。VII類深鉢の施文・調整は頸部の屈曲が緩く変化するにつれて粗くなり、後続する納屋向式(131か)へ次第に変化したと考えられる。また、VIII類の一部(102・245～247)については、102の同一個体(未図化)の頸部に同様の文様があり丸尾式に属する土器と考えられるが、きわめて丁寧な調整を施す(246)ことや頸部から胴部にかけて膨らむ(247)点は、併行関係にある磨消縄文系土器の影響を受けた結果と思われる。なお、XI・XVI類中で胎土が橙～明赤褐色を呈し、貝殻条痕文を施されたものは概ねVIII類に伴う土器群と考えてよいだろう。

後期後半から末にかけてはVIII類を境に貝殻文系土器が減少する傾向にあり、代わって辛川式や西平式などの磨消縄文系の影響を受けた土器(264～270)が台頭し、後続する磨研土器(XIII類)の太郎迫式(207)・鳥井原式(315・316)へと変遷する様相が伺える。

その他、XII類土器のうちキャリパー状を呈する土器(309・310・313)は門川町の門川南町遺跡や宮崎市右葛ヶ迫遺跡などで出土例があり、後期初頭とされている遺物と類似する。XIV類は型式不明であり明確な時期は特定できないが、沈線・凹線文とナデによる調整が主体であることから後期前半に前後する可能性がある。

以上を踏まえ、県内の当該期遺跡で出土した遺物の傾向を概観すると、丸尾式のうち口縁部が屈曲したAタイプの欠落などは宮崎平野以北の日向灘沿岸の遺跡にみられる類似点であり、当遺跡周辺もこの地域に含まれると考えられる。

石器は打製石鏃や石匙、石錐といった小型の製品にチャートや黒曜石などのガラス質石材を利用している。黒曜石は遠隔地石材の利用が認められ、中でも大分県姫島産の黒曜石の出土点数が比較的多く、石核と微細剥片が伴うことは、遺跡内で石器を製作した結果と考えられる。中～大型の礫石器については、打製石斧、スクレイパー、削器など刃部を持つもの他に、磨石、石錘、台石などが認められた。これらの素材には砂岩、尾鈴山酸性岩類が多く利用されることは、器種によって石材を選択した様子が伺える。なお、石器について

は遺跡の主体である縄文時代後期に相当すると思われるが、後期以降の石器が混在する可能性は高い。

#### 植物遺体について

発掘調査およびフローテーション作業の結果、多数の植物遺体を回収した。特に、シイ・カシなど照葉樹林帯に生息する堅果類の子葉が顕著に出土した、中でも生食が可能なイチイガシは製粉することでより長期間の保存が可能で、食料として有用なものである。これらの遺物に係る自然科学分析から得た結果は、当時の植物質食料を考察する上で貴重な成果であると評価したい。また、集中して出土したという事実からは採集生活の一端を伺い知れ、食料用として集積されたものと考えられる。

## 2 弥生時代後期～古墳時代初頭

検出された竪穴住居跡は1軒のみであるが、調査結果から調査区東側へ遺跡が広がる可能性は高く、複数の住居が存在した小規模な集落跡であったと考えられる。集落の成立時期は、出土した遺物により弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられる。SA1は大半が削平された状態であったため、全容の把握には至らなかった。また、残存するプランからは複数の長方形の張り出し部が確認できるが間仕切りは持たず、構造的に花弁状住居とは断言できない状況である。このほか、床面直上ではスタジイの炭化材が出土しており、SA1は焼失住居跡であると判断している。

周辺の弥生時代後期遺跡としては初頭の又猪原遺跡、後半の境ヶ谷第1遺跡、末の岩山遺跡・中原遺跡・新別府下原遺跡などの調査事例がある。特に、新別府下原遺跡では後期末の竪穴住居跡が7軒確認されており、これら全てが方形または隅丸方形に近い平面プランで、間仕切りを持たない遺構である。また、東九州自動車道に伴い調査を実施している木戸平第2遺跡で竪穴建物跡（住居跡か）が確認されるなど、都農町においては弥生時代後期以降に集落が増加する傾向が伺え、当遺跡もこの範疇に属するものと考えられる。

#### 遺物について

出土した土器はSA1の時期に前後するもので、後期～後期末の古墳時代への過渡期である庄内式併行期の土器のほか、一部は古墳時代初頭に位置付けられる

土器が出土した。

ここでは、瀬戸内・畿内系の土器、特に免田式長頸壺について取り上げてみたい。この土器は弥生時代後期前半から末期まで存続する土器で、胴部がソロバン玉状に屈曲し、特徴的な重弧文が施文される長頸壺である。残念ながら遺物包含層中からの出土であるが、同グリッドでは瀬戸内系土器の特徴をもつ584が出土しており共伴するものと考えられる。石川悦雄氏はこの土器の特徴として、野尻町大萩遺跡を境として大淀川上流域と下流域で、胎土及び色調が明確に異なると指摘している。そのうえで、下流域のものは黄褐色を呈し焼成も軟質であり、重弧文の形態については「下向きの重弧文もしくは、平行沈線を挟んで上下に波状的に施文されること」としており、当遺跡で出土した資料にも該当する特徴である。都農町内での出土例は現在のところこの資料のみであり、新別府下原遺跡ではA-1区1号竪穴住居跡から胴部がソロバン玉状に横に張る長頸壺が出土しているが、重弧文は施されない。当地域の瀬戸内・畿内系文化の流入を考慮するうえで重要な資料である。

石器は磨製石鏃3点を得た。このうち610は有茎式の磨製石鏃であり、宮崎県での出土例の少ない資料である。また、609は緑色頁岩製であり、周辺の遺跡では新別府下原遺跡、日向市東郷町の樋田遺跡、川南町の尾花A遺跡などで出土している。しかし、当遺跡ではこの剥片素材が出土しない点を勘案すると、石器の消費地であったと考えられる。なお、水田耕作に必要な石器類は出土していない。当時も現在の土地活用にみられるように水の利便性が良好な環境にあったと想定できるが、調査成果から当時の生業について言及できる状況に至らなかった。

## 3 古代以降

遺構は確認できなかった。出土した遺物や周辺住民への聞き取り調査などから、現在の地形へと続く土地利用の原点は近世以降と考えられる。

## 4 尾鈴山酸性岩類の利用について

尾鈴山酸性岩類は門川町の遠見半島から尾鈴山地まで分布するおよそ1,500万年から始まる火山活動により

噴出した溶岩が凝固したものの総称である。内野々遺跡付近はこの尾鈴山酸性岩類層が浸食された開析扇状地上に立地するため、比較的容易に入手が可能な環境にある。また、当遺跡の北端に小規模河川が存在することは、居住地として、かつ尾鈴山酸性岩類の採取地として最適な環境であったに違いない。

調査の結果検出した集石遺構は長期の時間的空白を挟むのに関わらず、利用する石材は尾鈴山酸性岩類にほぼ限定される。また、磨石や台石などの礫石器にも石材としての利用が多く見られることから、生業に関連した使用頻度の高い遺構・遺物に対し労せず獲得できた石材を多用する事は想像に難くない。

さて、宮崎県下で尾鈴山酸性岩類の利用について触れた論考は、児湯郡高鍋町に位置する唐木戸第4遺跡や川南町に位置する市納上第2遺跡の発掘調査報告書に新しい。この中で尾鈴山酸性岩類の剥片を石器として利用する様相が認識され、県内遺跡での出土例を集成している。特に、市納上第2遺跡では縄文時代後期から弥生時代の包含層中から尾鈴山酸性岩類の剥片が多量に出土し、多数の接合資料を得ている。また、発掘調査において、尾鈴山酸性岩類の礫層を確認し、遺跡周辺でも礫層・露頭が確認できることなどから、原産地遺跡の可能性があるとしている。では、本遺跡はどうかというと、遺跡の立地・環境、出土層位、石器利用などの観点からも多くの共通点を見出すことができ、尾鈴山酸性岩類の原産地遺跡といえる。さらに、課題とする点も同様で、剥片の出土量に比べて製品の出土が圧倒的に少ないことも挙げられる。つまり、労力を割いて剥片を作出する意図が不明確であり、疑問が残る結果であった。尾鈴山酸性岩類に限らず、原産地遺跡の石器組成を元に、更なる検討が必要であろう。

## 5 粗製剥片石器について

ここでは、出土した石器について発掘調査・整理作業時に気付いたことを触れたい。砂岩・尾鈴山酸性岩類製の粗製剥片石器については、計199点確認しており、出土層位や共伴する土器から考慮して、縄文時代後期の遺物と思われる。形態的に同一規格であるが、使用痕が全く見られない遺物も多く、通常の剥片との分類が困難な場合が多い。宮崎県下で同様の資料に着目し

た報告として、藏座村遺跡や吉牟田遺跡が挙げられる。藏座村遺跡ではこの石器を「蛤形剥片石器」と呼称し、宮田栄二氏の呼称する「鎌形剥片石器」に類似するものとして、その機能については不明としながらも削器に近い使用方法を推定している。なお、宮田氏は鎌形剥片石器を植物質食料の採集・収穫あるいは生産に関与する遺物としての位置付けを考えている。しかし、これらの報告では石器を縄文時代早期に比定しており、当遺跡の推定時期とは異なる。一方で、吉牟田遺跡では縄文時代後期～晩期の遺物包含層であるVb～IV層（中世までの遺物を含む）にかけて「粗製剥片石器」が出土しており、同層から出土した土器の特徴からこの石器は縄文時代後期中葉から晩期にかけての遺物と考えられることから、時期的には概ね一致する。また、剥離工程・剥片形態からI～IV類に分類しており、I類の中に当遺跡で出土した粗製剥片石器I類に類似点が見られる。すなわち、砂岩を主体とした剥片であること、表面全体に自然面を残す第一剥片であること、明確な使用目的がみあたらないことなどである。これらの石器は、発掘調査においてかなりの割合で出土していると思われるが、出土量が少量なために単なる剥片として特別視されないことが多く、報告例はわずかである。そのため、現時点では石器としての使用法は不明確な点が多い。

当遺跡で出土した粗製剥片石器は、前述のとおり刃部に組織的な剥離を有するものや潰れが確認できるものなどがあることから、多目的な刃器としての使用が考えられる。そして、剥離・使用痕の無いものについては、以下の三点を想定している。第一に、刃器の替刃としての剥片である。現在使用している折れ刃型のカッターナイフのように使用の結果欠損したり、切味が悪くなった場合に取り換えたりするための石器である。第二に、石器素材としての剥片である。この石器を使用した何らかの作業には砂岩製の石器が適しているが、内野々遺跡周辺では母岩を採取できないことから、遺跡付近の河川の下流域で剥片に加工した上で遺跡内に持ち込んだ可能性がある。その上で、用途別に二次加工を施すことが考えられる。第三に、土器の器面調整具としての使用である。会田容弘氏は縄文土器の調整具としての石器利用として、小型磨石をミガキ

工具、刃部の摩耗した剥片をケズリ工具の可能性があると指摘している。また、藏座村遺跡で「蛤」の名を冠するように、当遺跡でも蛤型の形状を呈するものがみられ、453のように表面全面に磨滅面を有する剥片があるなど、貝殻と同様あるいはこれに準じる工具としての可能性を考えている。しかし、これらは実証に至る確認作業を行っていないため、あくまで可能性の提示に留めたい。

この剥片の作出については、接合資料がわずかであることから上記第二が想定されることの他に、129や534～541など磨石や石錘の機能に必要な無剥離面を有する石器にみられるように、製品から剥離することが考えられる。これは、母岩(円礫・楕円礫)→磨石・敲石(凹石)→粗製剥片石器の石核→石錘(石核→石錘は逆転することもあるであろう)という石器としての優位性を示す可能性がある。粗製剥片石器については時期、用途についても不明確な点が多く、今後検討すべき課題の多い遺物である。

## 5 土器圧痕について

土器圧痕の調査の結果、フローテーションでは得られなかった動・植物遺体の痕跡を検出することができた。特筆すべきはマメ科の圧痕(資料7、11、13、27～29、38、65、84)であろう。小畑弘己氏によると、縄文時代において栽培化の可能性があるマメ科種子についてはダイズ属とアズキ亜属のみ考慮すればよいとした。さらに、これらはヘソの構造、特に厚膜の有無によってダイズ属・アズキ亜属を同定することが可能であるとしている。このことから、資料7・13はダイズ属種子、資料27～29・39・65・84はアズキ亜属の種子圧痕と考えられる。また、38・62についてはヘソの構造が不明確な圧痕資料であるが、前者はダイズ属、後者はアズキ亜属の可能性はある。

縄文時代における初期農耕論が展開されるなかで、これらの資料はレプリカ法導入により蓄積が進み、栽培の可能性を秘めたものとして有力視されている。その意味でも、当遺跡で得られた資料の蓄積は有意なものである。また、宮崎県でレプリカ法を実施した遺跡は現在までに37遺跡を数え、資料数は増加しつつあるが、同定まで至らない資料も多い。当センターのみで

実施するには限界があり、今後、当遺跡の資料を含めて、他機関と連携しつつ作業を進める必要性がある。

## 参考文献

- 都農町編 1998『都農町史』通史編
- 前迫 亮一 1992「異系統土器文化の一接点—南九州における縄文時代後期中葉の一様相・丸尾式土器の提唱—」『南九州縄文通信』No.6
- 2004「南の北久根山式土器—干迫遺跡出土資料の位置づけ—」『鹿児島考古』第38号
- 富田 浩一 1996「北久根山」肥後上代文化研究会
- 金丸 武司 2006「本野原遺跡三」『宮崎市文化財調査報告書』第53集
- 2009「九州の縄文後期集落」『考古学ジャーナル』584
- 石川 悦雄 1983「日向における外来系土器の伝播とその地域性(Ⅰ)—瀬戸内・畿内珪土器の流入とその展開—」『研究紀要第九号』宮崎県総合博物館
- 甲斐 貴充 2002「藏座村遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第53集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 今塩屋 毅行・都成 量・永田 和久 2006「下耳切第3遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第125集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 立神 勇志・岡田 論 2008「市納上第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第170集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 柳田 裕三 2007「吉牟田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第154集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 小畑 弘己 2008「マメ科種実同定法」『極東先史時代の穀物3』熊本大学
- 2010「縄文時代におけるアズキ・ダイズの栽培について」『先史学・考古学論究V』上巻 龍田考古会
- 水ノ江 和同 2005「九州の縄文後期集落」『西日本縄文文化の特徴』第1回 西日本縄文文化研究会
- 新東 晃一 2005「南九州の縄文時代早期土器形式の諸問題—南九州の早期前葉の貝殻文系円筒土器と早期後葉の土器形式列について—」『西日本縄文文化の特徴』第1回 西日本縄文文化研究会
- 宮田栄二 1991「鎌形剥片石器—南九州縄文早期の特殊な石器—」『南九州縄文通信』No.4 南九州縄文研究会
- 林 潤也 2002「北久根山式土器をめぐる諸問題」『四国とその周辺の考古学』犬飼徹夫先生古稀記念論集刊行会
- 会田 容弘 2008「器面調整」『総覧縄文土器』
- 森田 浩史・金丸 武司 2006「本野原遺跡三」『宮崎市文化財調査報告書(田野町文化財調査報告書第53集)』宮崎市教育委員会
- 宮崎県教育委員会編 1991「天神河内第1遺跡」『大淀川右岸農業水利事業国営天神ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県教育委員会
- 相美 伊久雄 2010「九州南部における中期前葉土器の現状と課題」『第20回 九州縄文研究会佐賀県大会発表要旨・資料集』九州縄文研究会

## 第Ⅲ章 内野々第2・第3遺跡

### 第1節 遺跡の立地と環境

内野々第2・第3遺跡は、宮崎平野北部に位置する尾鈴山東麓の山間地を流れる心見川と支流沿いに形成される小さな段丘上(椎原面)に立地する。この小段丘は開析谷や小河川によって寸断され、やつで状の丘陵へと発達している。これらの丘陵は、内野々第4遺跡が立地する狭小な沖積地に向けて細長い尾根線を形成する。この尾根線上に内野々遺跡第2・第3遺跡が位置する。

本章では、内野々第2遺跡と内野々第3遺跡の調査成果を一括して報告する。内野々第3遺跡では遺物のみの出土であったことと、内野々第2・第3遺跡間には小さな開析谷で隔てられるが地形的には一連の遺跡と捉えられることによる。

### 第2節 発掘調査と整理作業の経過

内野々第2遺跡の発掘調査は、平成21年12月7日から平成22年1月25日にかけて、内野々第3遺跡は平成22年5月17日から同年5月24日まで期間で実施した。整理作業及び報告書作成作業は、平成22年4～10月の期間で当センターにて進めた。

### 第3節 内野々第2遺跡

#### 1 調査の概要

遺構や遺物包含層の残存状況や層序を把握する必要から調査区全体にトレンチ(以下Trと略称)を設定し、重機及び人力による掘削作業を進めた。丘陵尾根部の大半は基本層序(第1表)でいうVI層の中途まで失われた上に厚くII層が堆積する状況であった。II層は昭和期の土地造成に伴う盛土である。斜面部はIII層(造成以前の表土)以下の各層が残存するが、層厚は薄く遺物の包含は認められなかった。

遺構と遺物が良好に残存していたのは、内野々第3遺跡に隣接する尾根鞍部付近(第1図)で、さらに拡張して精査を行い、V層において縄文時代早期の遺構や遺物を認めることができた。VI層以下の堆積層では、遺構や遺物は認められなかった。

層番号	層名
I	表土
II	造成土
III	黒色土(旧表土)
IV	K-Ah層
V	にぶい褐色土(縄文早期)
VI	灰褐色土
VII	明褐色土
VIII	礫層/岩盤

第1表 内野々第2遺跡の基本層序

なお、調査区第2トレンチ(2Tr)の土層壁面(第2図)にて各層より堆積物を採取し、テフラ分析を実施した。分析結果の詳細は第5節に掲載した。

#### 2 縄文時代早期の遺構と遺物

集石遺構は3基、基本層序のVI層直上において検出された。遺物はV層中とVI層の直上にかけて出土した。出土遺物の内容は縄文土器深鉢と石器類である。石器類は剥片や石核など合計35点が出土した。これらの遺構と遺物は、検出された層位と土器の年代から縄文時代早期に位置付けられる。

**集石遺構**(第3図)は、3基がまとまりをもって検出された。大きさは長軸長0.4～0.7mと小ぶりでS I 2のみは掘り込みを有する。遺物はS I 1より磨石(第5図の5)、S I 2で石核・剥片(同図6・7)、S I 3からは剥片(同図8・9)が出土した。また、集石遺構を中心とする散礫も認められ、長軸長6m、短軸長4mにわたり赤化した破碎礫が分布していた。破碎礫は、集石遺構と同じく砂岩や尾鈴山酸性岩類で、段丘礫層の構成礫と同じである。

**遺物**は、尾根鞍部(平坦面)上に点在している。出土分布は散礫の範囲とも重なる(第8図)。

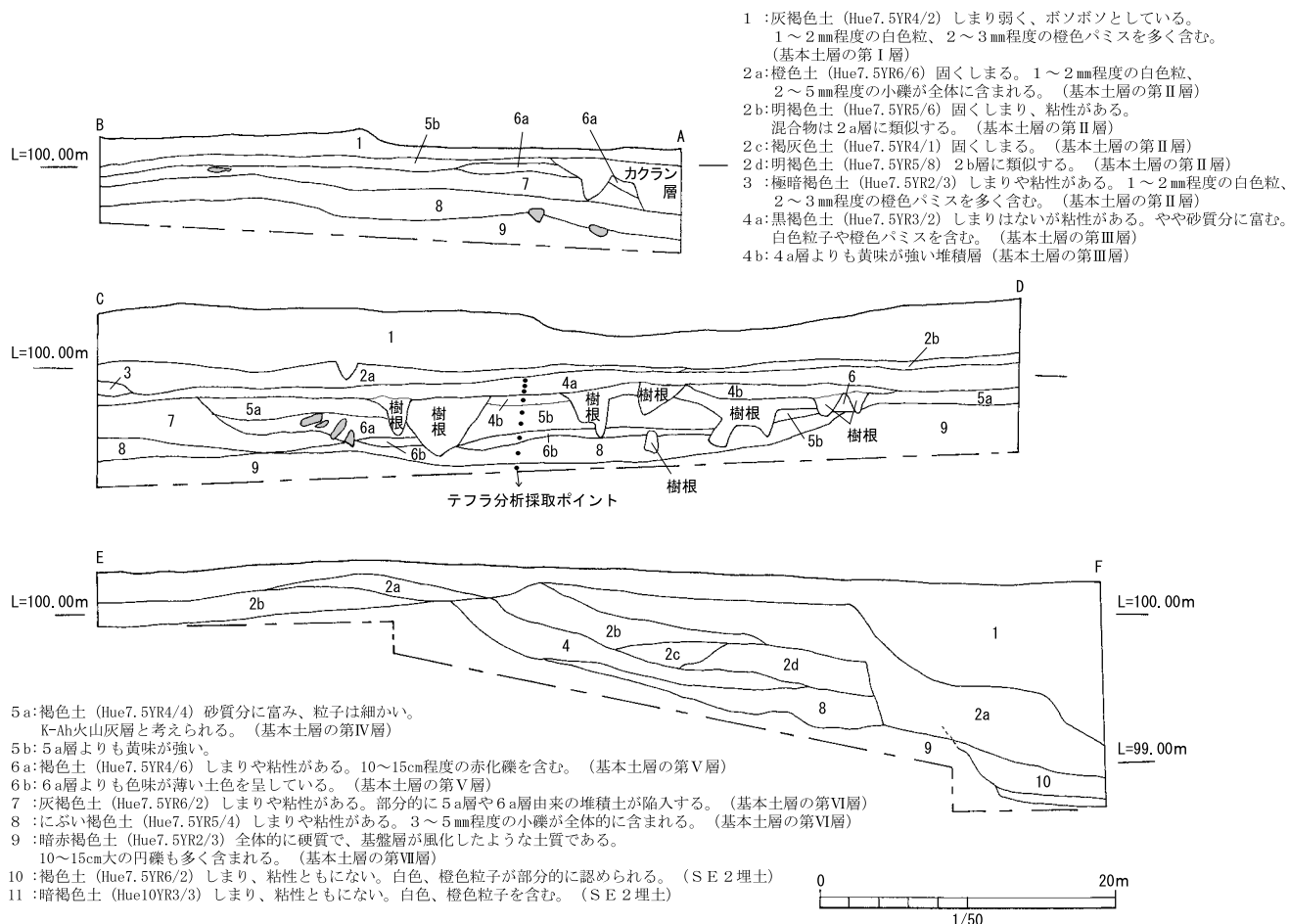
縄文土器は深鉢が出土したが、小破片化が著しく2点のみ図化・掲載した(第4図1・2)。2は縄文時代早期後半の田村式土器相当と考えられる。

石器は、石核(第5～6図12・15～18)と剥片(第7図20～26)を主体として出土している。接合関係は

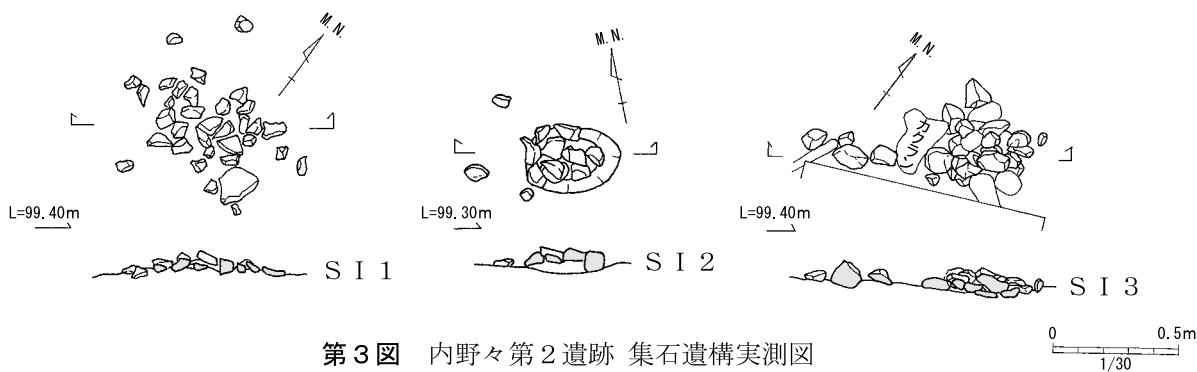


第1図 内野々第2遺跡 調査区平面図

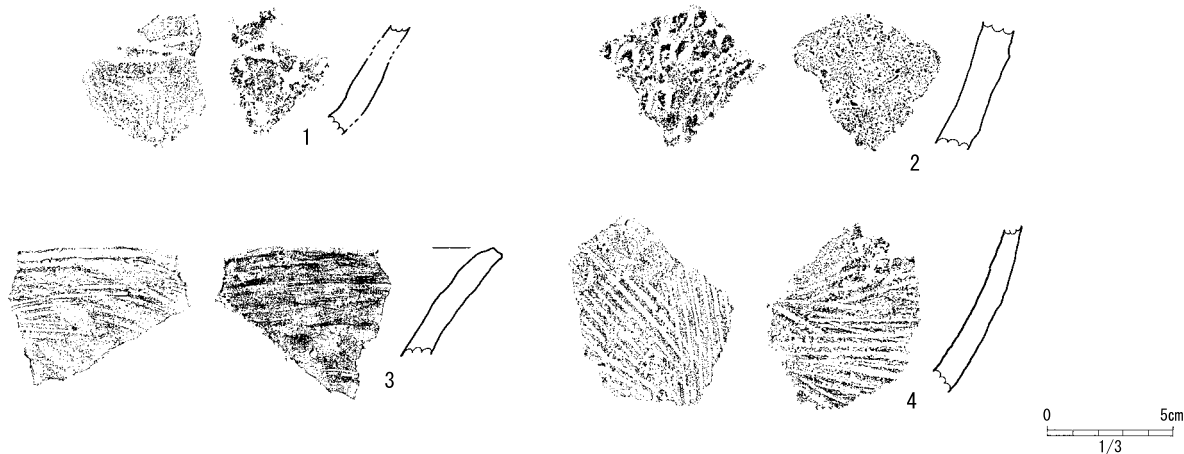




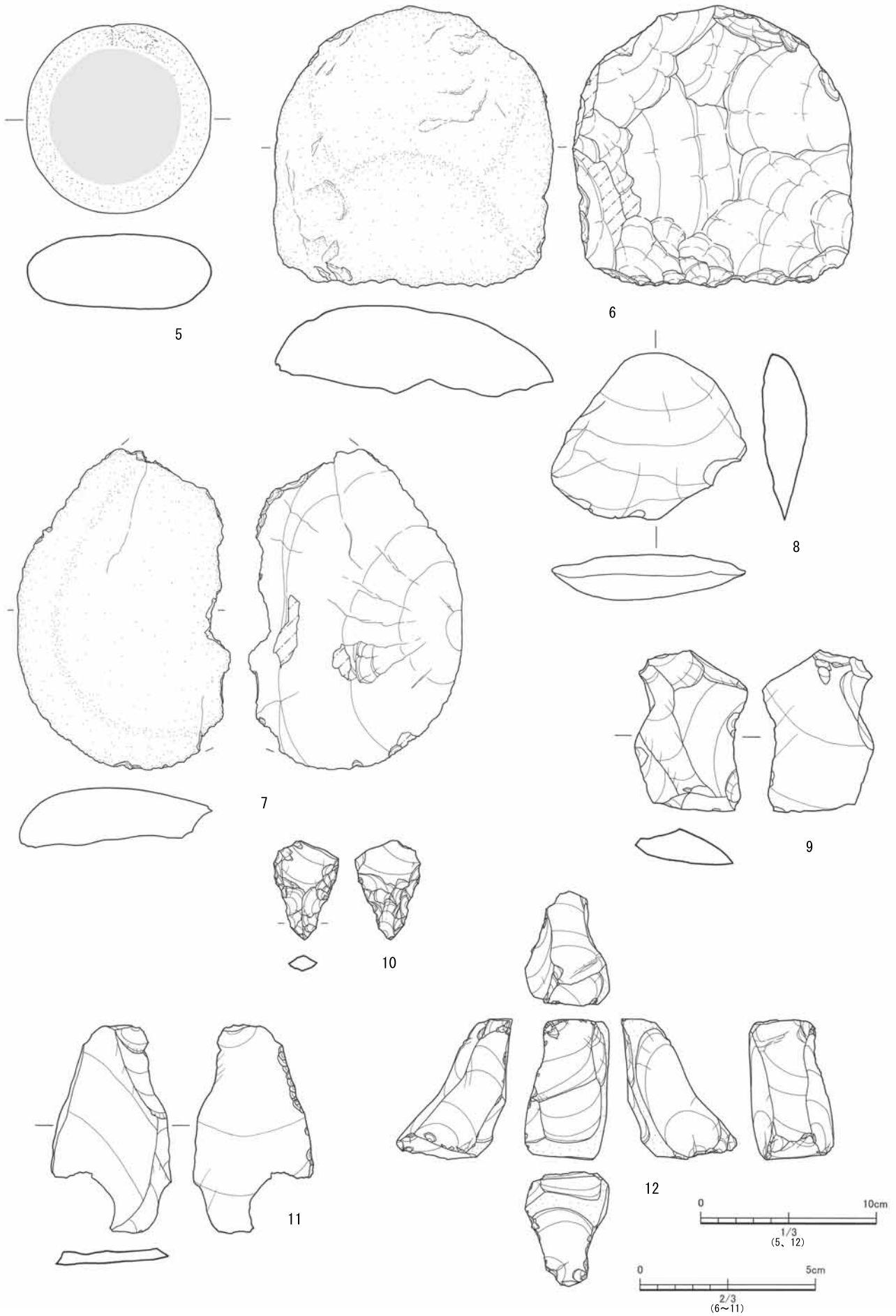
第2図 内野々第2遺跡 調査区土層断面図



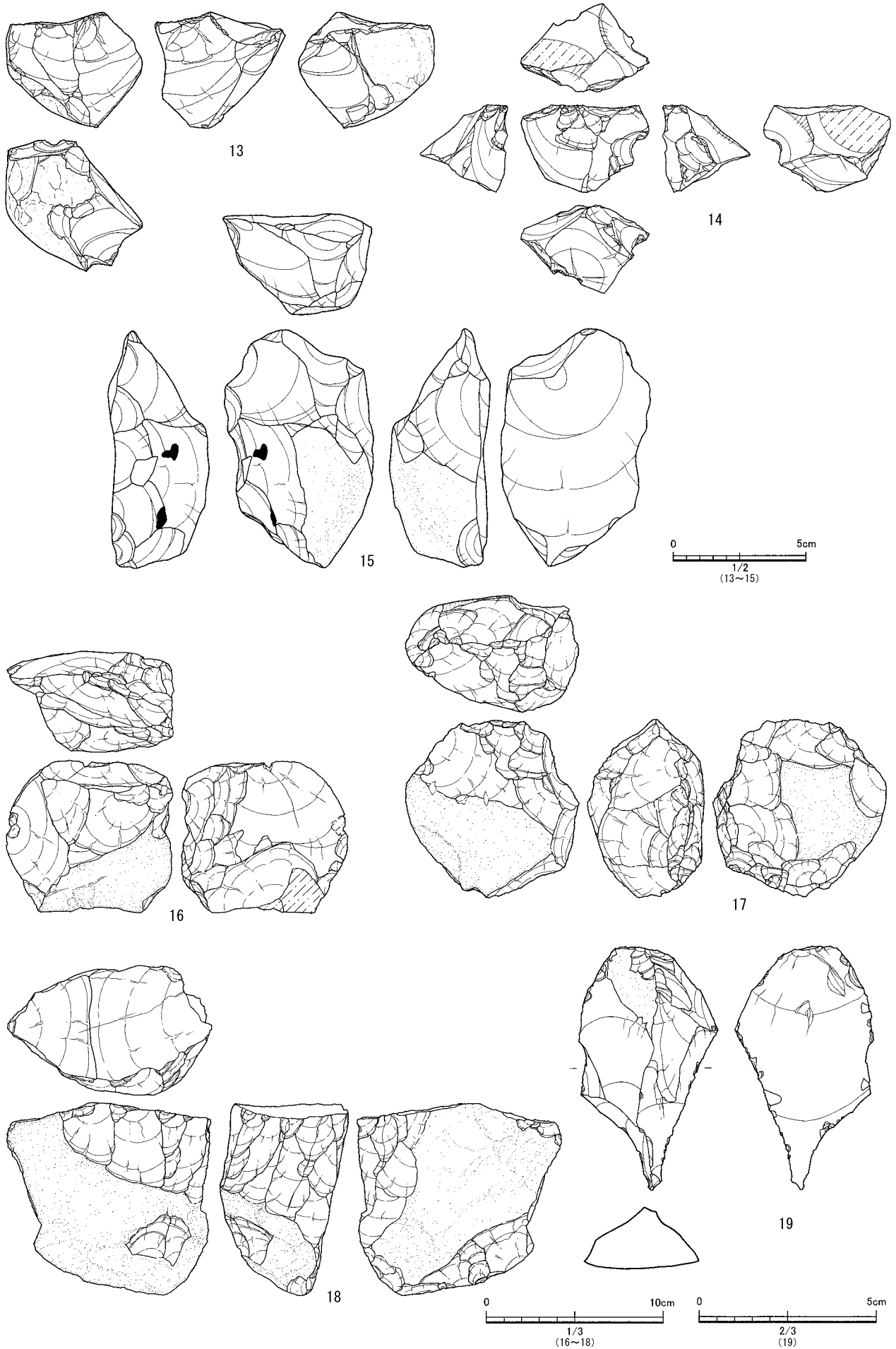
第3図 内野々第2遺跡 集石遺構実測図



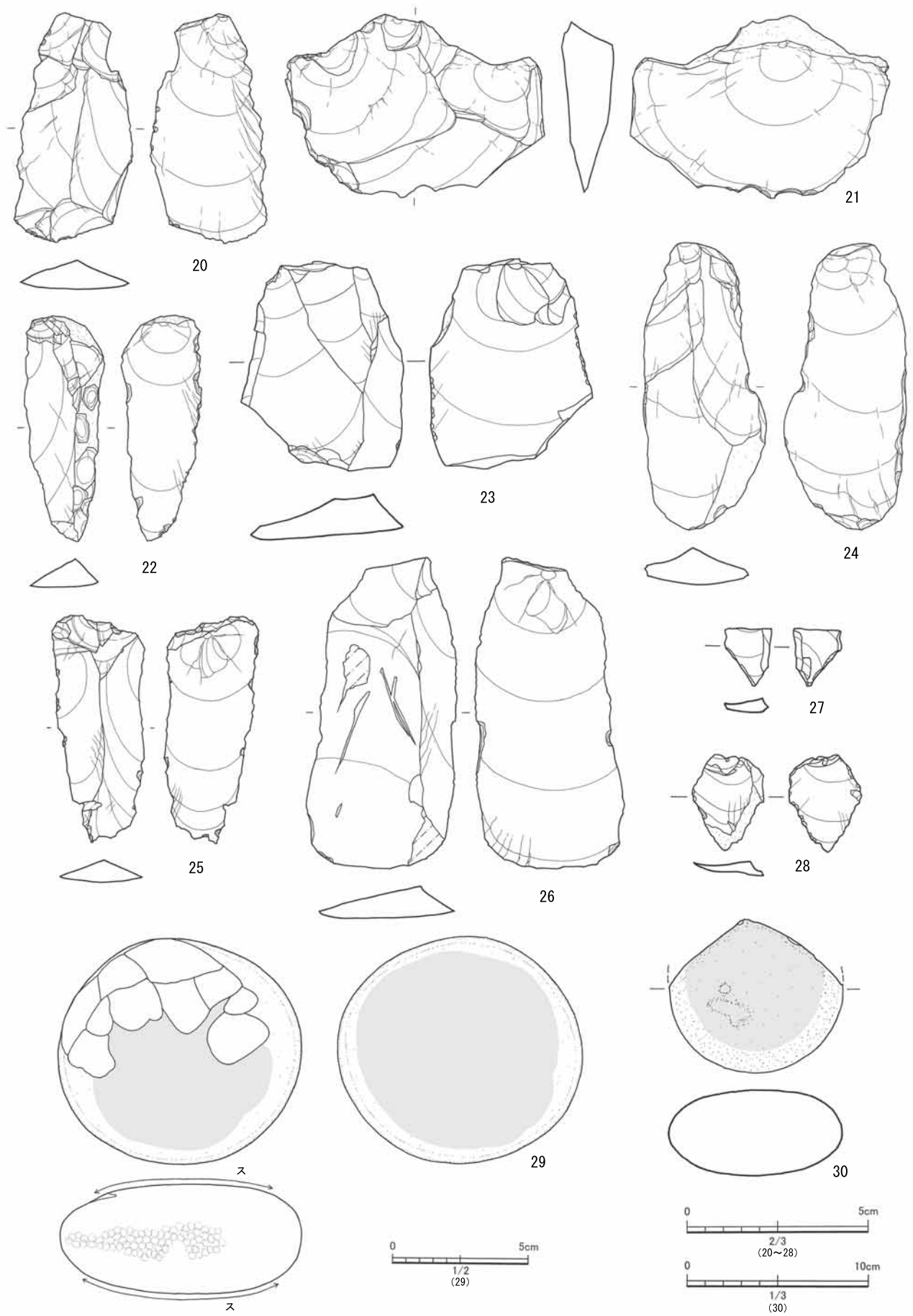
第4図 内野々第2遺跡 土器実測図



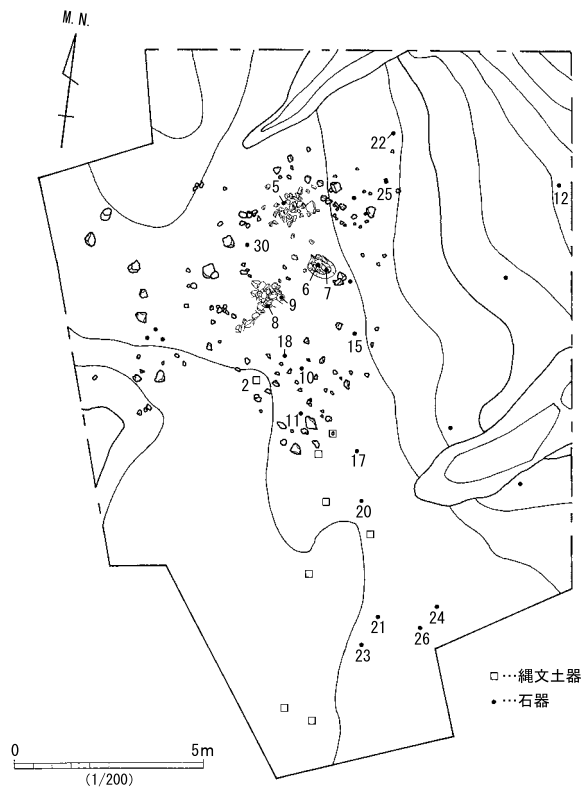
第5図 内野々第2遺跡 石器実測図(1)



第6図 内野々第2遺跡 石器実測図(2)



第7図 内野々第2遺跡 石器実測図(3)



第8図 内野々第2遺跡 出土遺物分布図

められなかった。石材は、流紋岩・頁岩（珪質）・ホルンフェルス・尾鈴山酸性岩類で、集石遺構出土の石核・剥片類も同様である。剥片類は縦長剥片が多く不定形なものは少ない。

この石器相は、縄文時代早期というよりも後期旧石器時代に所属する可能性があることを示す。しかし、縄文土器と同一層位の出土であることを尊重して縄文時代早期の石器としておきたい。

その他、石錐（第5図10）、微細剥離のある剥片（同図11）、磨石（第7図29・30）も出土した。

### 3 その他の遺構と遺物

**溝状遺構**が2条検出された。基本層序のIV層面にて東側斜面に向かって延びる（SE1・2）。埋土中より石器類や縄文時代後期の土器、近世陶磁器等が出土した。溝状遺構は人為的な遺構ではなく、丘陵を開析する谷の頂部と考えられる。

**遺物**は、溝状遺構および調査区内から12点出土した。このうち7点を図化・掲載した。第4図の3・4は溝状遺構より出土した縄文土器深鉢で、縄文時代後期に属する。また、溝状遺構出土の石核（第6図13）や調査区内より出土した石核（同図14）や剥片（同図19）等は、V層出土石器と石材や剥離調整の手法が共通している。（今塩屋）

## 第4節 内野々第3遺跡

調査にあたって、まず遺構や遺物包含層の状況を把握するために先行トレンチを設定したが、丘陵頂上部が大きく流出・削平を受けており、II層直下が基盤相のIX層となった。内野々第2遺跡との境にある谷部分ではIII～VII層の堆積が認められた。

このVII層中からはチャート製剥片2点、砂岩製剥片1点、頁岩製磨製石鏃1点、土器片9点が出土し、石器類を全て図化・掲載した（第9図）。（谷口）

層番号	層名
I	暗褐色粘質土（表土）
II	黄褐色土（造成土）
III	黒褐色シルト土
IV	褐色粘質土
V	暗褐色シルト土
VI	黒色粘質土（ブロック状にK-Ahが混入）
VII	黒色粘質土（遺物包含層）
VIII	灰黄褐色粘質土
IX	浅橙色粗砂を含む礫層

第2表 内野々第3遺跡の基本層序

## 第5節 自然科学分析

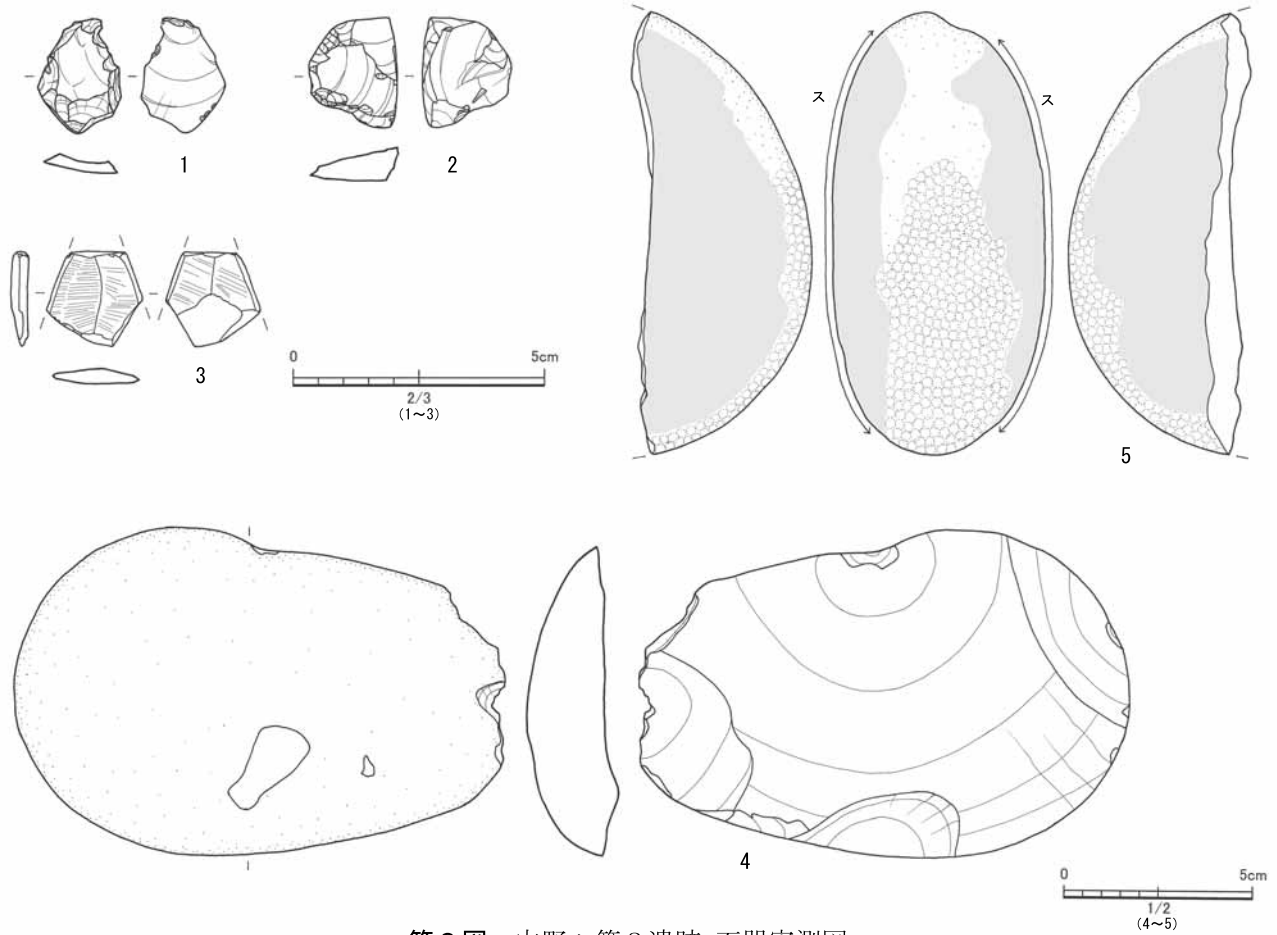
内野々第2遺跡の調査では、降灰層準を推定して遺物包含層の年代や層序に関する基礎的な情報を得るために、縄文時代早期の遺物包含層とその前後の堆積層から試料を採取して層序対比の指標となる広域テフラ（火山灰）の分析を委託実施した。

この分析結果を一部抜粋・編集して以下に記す。

### a) 試料

調査区2 Tr土層断面より9点の試料を採取した。基本土層のIII～VII層と対応する。V層およびVI層には、発掘調査所見および試料の肉眼観察により火山ガラスの含有が認められた。

さらに、V層以下の各層には径数ミリ程度の灰白色岩片が微量～少量含まれている。これは、尾鈴山地を構成する溶結凝灰岩などの基盤岩に由来するものと考えられる。



第9図 内野々第3遺跡 石器実測図

掲載番号	器種	部位	出土層位	取り上げ番号	調整		色調		胎土	焼成
					外面	内面	外面	内面		
1	深鉢	胴部	V層	19	貝殻条痕文	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	3mm以下の灰白色、1mm以下の橙色・透明光沢粒を少し含む	良好
2	深鉢	胴部	V層	32	楕円押型文	ナデ	橙 (5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	6mm以下の灰白・にぶい赤褐色、3mm以下のにぶい褐色・黒色光沢粒を含む	良好
3	深鉢	口縁	SE2	-	貝殻条痕文	貝殻条痕文	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明赤褐 (5YR5/6)	2mm以下の灰白・橙色、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好
4	深鉢	胴部	SE2	-	貝殻条痕文	貝殻条痕文	褐灰 (5YR4/1)	橙 (5YR6/8)	6mm以下の赤褐色、3mm以下の淡橙色、2mm以下の灰白色・透明光沢粒を含む	良好

第3表 内野々第2遺跡 縄文土器観察表

掲載番号	器種	石材	出土層位	法量				取り上げ番号
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
5	磨石	尾鈴山酸性岩類	S11	10.7	10.3	4.2	731.5	1
6	石核	ホルンフェルス	S12	7.9	8.0	2.6	198.7	-
7	剥片	尾鈴山酸性岩類	S12	9.1	6.1	1.7	102.9	-
8	剥片	流紋岩	S13	4.8	5.6	1.3	16.7	-
9	剥片	砂岩	S13	4.6	3.2	1.0	12.1	-
10	石錐	流紋岩	V層	2.8	1.8	0.5	2.1	2
11	微細剥離ある剥片	珧質頁岩	V層	5.9	3.9	0.4	12.1	18
12	石核	珧質頁岩	V層	5.6	2.8	2.6	59.4	31
13	石核	珧質頁岩	SE2	4.2	4.7	4.3	29.7	-
14	石核	珧質頁岩	調査区一括	3.2	4.5	2.7	30.5	-
15	石核	ホルンフェルス	V層	8.9	5.6	3.8	190.8	23
16	石核	尾鈴山酸性岩類	V層一括	8.5	9.2	5.6	465.8	-
17	石核	尾鈴山酸性岩類	V層	9.9	9.5	6.5	644.1	5
18	石核	尾鈴山酸性岩類	V層	10.3	11.3	11.5	971.0	35
19	剥片	流紋岩	調査区一括	6.8	4.9	1.9	37.1	-
20	剥片	流紋岩	V層	6.2	3.1	0.8	15.9	22

第4表 内野々第2遺跡 石器計測表(1)

掲載番号	器種	石材	出土層位	法量				取り上げ番号
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
21	剥片	流紋岩	V層	4.9	7.0	1.3	39.1	15
22	剥片	珪質頁岩	V層	6.1	2.0	0.9	11.7	30
23	剥片	珪質頁岩	V層	5.8	4.5	1.2	20.1	16
24	剥片	ホルンフェルス	V層	7.9	3.3	1.3	31.7	13
25	剥片	ホルンフェルス	V層	6.2	2.3	0.7	10.9	29
26	剥片	ホルンフェルス	V層	8.5	4.0	0.9	36.7	14
27	剥片	チャート	調査区一括	1.3	1.6	0.4	3.1	-
28	剥片	黒曜石	調査区一括	2.9	1.9	0.4	4.2	-
29	磨石	砂岩	V層一括	8.3	9.0	4.0	412.5	-
30	磨石	尾鈴山酸性岩類	V層	8.3	9.4	4.7	507.3	1

第5表 内野々第2遺跡 石器計測表 (2)

掲載番号	器種	石材	出土層位	法量			
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
1	剥片	チャート	VII層	2.3	1.7	0.6	1.4
2	二次加工剥片	チャート	VII層	2.2	1.8	0.6	3.0
3	磨製石鏃	頁岩	VII層	1.9	1.9	0.3	1.3
4	剥片	砂岩	VII層	8.6	13.0	2.1	310.3
5	敲兼磨石	尾鈴山酸性岩類	表採	11.6	4.5	5.6	372.1

第6表 内野々第3遺跡 石器計測表

### b) 分析方法

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離、重鉍物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定した。火山ガラス、斜方輝石および角閃石の屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### c) 分析結果

○重鉍物組成および火山ガラス比 (第10図)

重鉍物組成は、III層からVII層まで不透明鉍物の多い組成であるが、VII層下部には微量の斜方輝石が含まれ、III層上部まで上位に向かって斜方輝石が増加し、不透明鉍物が減少する傾向が認められる。また、微量の単斜輝石も伴われ、量は少ないが斜方輝石と同様に上位に向かって増加傾向を示す。

火山ガラス比では、VII層下部に微量のバブル型が含まれ、III層上部まで上位に向かって増加する傾向が認められる。軽石型は、バブル型よりも量比が少ないが、同様にVII層下部からV層上部まで上位に向かって増加する傾向が認められる。IV層以上の火山ガラスには、褐色を帯びたものも少量認められる。

○屈折率 (第10図)

上述した遺跡の重鉍物組成および火山ガラス比結果に基づき、主に火山ガラスと斜方輝石屈折率の測定対

象とした。火山ガラスの屈折率は、III層上部からVII層下部まで、レンジは概ね $n_{1.505}$ - $1.510$ 、モードは $n_{1.507}$ - $1.509$ である。斜方輝石の屈折率は、V層上部からVII層中部まで、概ね $\gamma_{1.705}$ - $1.711$ というレンジを示す。

### d) 考察

分析結果から、III層およびIV層には火山ガラス質テフラが含まれていることは明らかである。

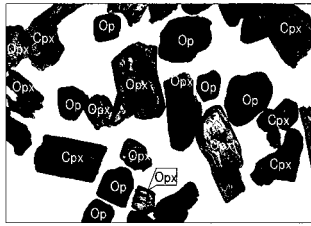
これらの火山ガラスは、V層上部からVII層下部までほぼ同様の屈折率を示したことから、各層の火山ガラスは同一のテフラに由来するものと判断される。この火山ガラスの濃集層準は明瞭ではないが、早津(1988)の言う濃集層準の下限、すなわち降灰層準はIV層中部と推定される。

その火山ガラスは、K-Ahに由来すると考えられる。すなわちK-Ahの降灰層準はIV層中部にあると推定される。この推定はV層およびVI層上面を縄文時代早期遺物包含層とし、VI層以下を旧石器時代相当層とする発掘調査所見とも整合する結果といえる。

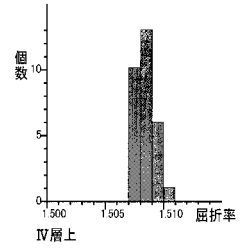
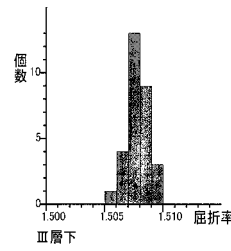
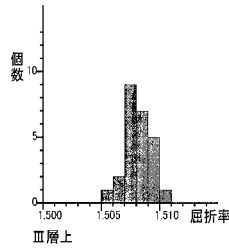
なお、VII層下部の火山ガラスではATに由来すると見られる火山ガラスが検出されなかったことから、ATの降灰層準はVII層下部よりもさらに下位にあることが推定される。

さらに、III層からVII層までの斜方輝石については、ほぼ同様の屈折率を示し、Kr-Kbに由来する斜方輝石が混在しているものと推定される。(今塩屋)

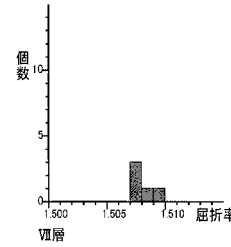
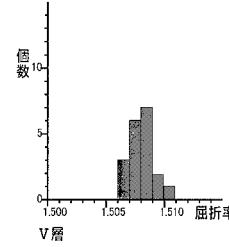
重鉱物・火山ガラス



内野々第2遺跡 重鉱物 IV層上



内野々第2遺跡 K-Ahの火山ガラス IV層下



Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石, Ho:角閃石, Op:不透明鉱物, Vg:火山ガラス, Qz:石英, Pl:斜長石.

0.5mm

第10図 内野々第2遺跡 自然科学分析関連図

文献

福沢仁之, 1995, 天然の「時計」・「環境変動検出計」としての湖沼の年縞堆積物. 第四紀研究, 34, 135-149.

古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.

早津賢治, 1988, テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロロジー—ATにまつわる議論に關係して—. 考古学研究, 34, 18-32.

池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫, 1995, 南九州、始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代. 第四紀研究, 34, 377-379.

木村克己・巖谷敏光・三村弘二・佐藤喜男・佐藤岱生・鈴木祐一郎・坂巻幸雄, 1991, 尾鈴山地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)地質調査所, 137p.

町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.

松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗, 1987, 始良T n火山灰の14C年代. 第四紀研究, 26, 79-83.

宮入陽介・吉田邦夫・宮崎ゆみ子・小原圭一・兼岡一郎, 2001, 始良T n火山灰のC-14年代のクロスチェック(演旨). 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集(CD-ROM), 2001, Qm-010.

村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦, 1993, 四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデム加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代—. 地質学雑誌, 99, 787-798.

第6節 まとめ

**内野々第2遺跡**では、尾根上のわずかな平坦面に部分に集石遺構と遺構群を中核として環状に分布する赤化礫が認められた。出土遺物から縄文時代早期後半頃の時期が与えられる。

この縄文時代早期における遺跡の様態は、都農川以南のテーブル状台地で空間の開けた地形とは異なる規模と立地のあり方を示す。今回の調査成果は、狭隘な沖積地と丘陵尾根が卓越する地形での遺跡立地とその構造の一端を明らかにすることができた。

東九州自動車道建設に伴う発掘調査により、都農町内における縄文時代早期の遺跡事例は大きく増加している。内野々第2遺跡を含む内野々遺跡群でも、本書の第II・IV章で報告された塞ノ神式土器や押型文土器を伴う集石遺構の検出例が知られている。

さらに内野々第2遺跡のような丘陵尾根部の遺跡のみならず、小河川沿いの河岸段丘面上(内野々遺跡)や沖積地と丘陵部の接点に広がる緩斜面上(内野々第4遺跡)といった立地の多様さも把握可能となった。これは縄文時代早期の人間活動の広範さを示すとともに、その実態と復原が今後の課題となる。

**内野々第3遺跡**では、丘陵頂部平坦面に遺構や遺物の存在が予想されたが、かなりの削平を受けていた。しかし、調査区北斜面から谷部での堆積土中より土器片と石器が得られた。これらの遺物はかつて調査区内に後期旧石器時代～弥生時代の遺物を包含していたことを示し、調査区周辺には遺構や遺物が存在する可能性も指摘できる。(今塩屋・谷口)



## 第IV章 内野々第4遺跡

### 第1節 発掘調査の概要と経過

内野々第4遺跡は、都農町大字川北字宮原に所在する。本遺跡は、内野々遺跡～同第3遺跡と平山下原遺跡の立地する丘陵部に挟まれた狭隘な平坦地に位置している。現況は水田面が広がるが、本来は南東から北西へと下る斜面地や谷地形で、耕地整理事業に際して大規模な造成がなされたという。

現地調査は平成21年5月11日から開始し、調査箇所への引き渡し待ちや工事設計の変更等による中断期間を挟みながら平成22年1月7日に終了した。

調査は、まず調査対象区全体の土層堆積状況等をトレンチで把握した。さらに遺物や遺構や集中する箇所は、面的に広げて精査する順序で進めた。

その結果、縄文時代早期と前期の集石遺構と遺物が確認された。特に玦状耳飾の出土は重要な調査成果の一つある。さらに、造成土や表土中も、石鏃や火打石等といった他種多様な遺物が出土した。

### 第2節 整理作業の方法と経過

整理作業は平成22年1月から9月まで当センターにおいて実施した。なお、石器の一部については実測委託をしている。

報告書に掲載する遺物の選択にあたっては、包含層はもとより表土・造成土中出土のものも対象とした。これは包含層出土遺物の補足資料や遺跡の性格や位置づけを考察するため、必要な遺物を抽出し図化・掲載した。

### 第3節 基本層序と土層堆積

I層（表土）・II層（造成土）中には石鏃や土器といった遺物が多く混入する。III層は、アカホヤ火山灰の二次堆積層で、縄文時代前期を中心とした遺物が包含している。さらにIII層より下は暗褐色土層（IV層）で、黒みが強い上層をIV a層とした。IV層は縄文時代早期の遺物包含層で集石遺構も検出された。

V層やVI層は後期旧石器時代およびそれ以前の堆積層で、無遺物層である。

### 第4節 縄文時代早期の遺構と遺物

#### 1 概要

調査対象区の一部において、アカホヤ火山灰二次堆積層（III層）より下層の暗褐色土層（IV a・IV b層）中から遺物の出土が認められた。さらに面的に精査した結果、IV a・IV b層それぞれに集石遺構が検出され、土器・石器類も出土した（第1・2図）。

遺物の時期と包含層の層序的な対比から、IV a・b層は縄文時代早期の遺物包含層と判断される。

IV層堆積時は、土層断面の観察から南西から北東へかけて緩やかに下る斜面を形成する地形であったことが考えられる。

ここでは、IV a層とIV b層で確認された遺構と遺物について以下に記述する。

#### 2 IV b層の遺構と遺物

##### 集石遺構(S I)

調査区の北隅付近で集石遺構を1基（S I 2）が検出された（第4・6図）。規模は長軸長約2 m、短軸長約1 mで、構成礫は南北方向に楕円形状に広がる。礫の大きさは、ほぼ人頭大以下からこぶし大である。石材は、尾鈴山酸性岩類と砂岩が中心である。なお、掘り込みや配石、炭化物は認められていない。

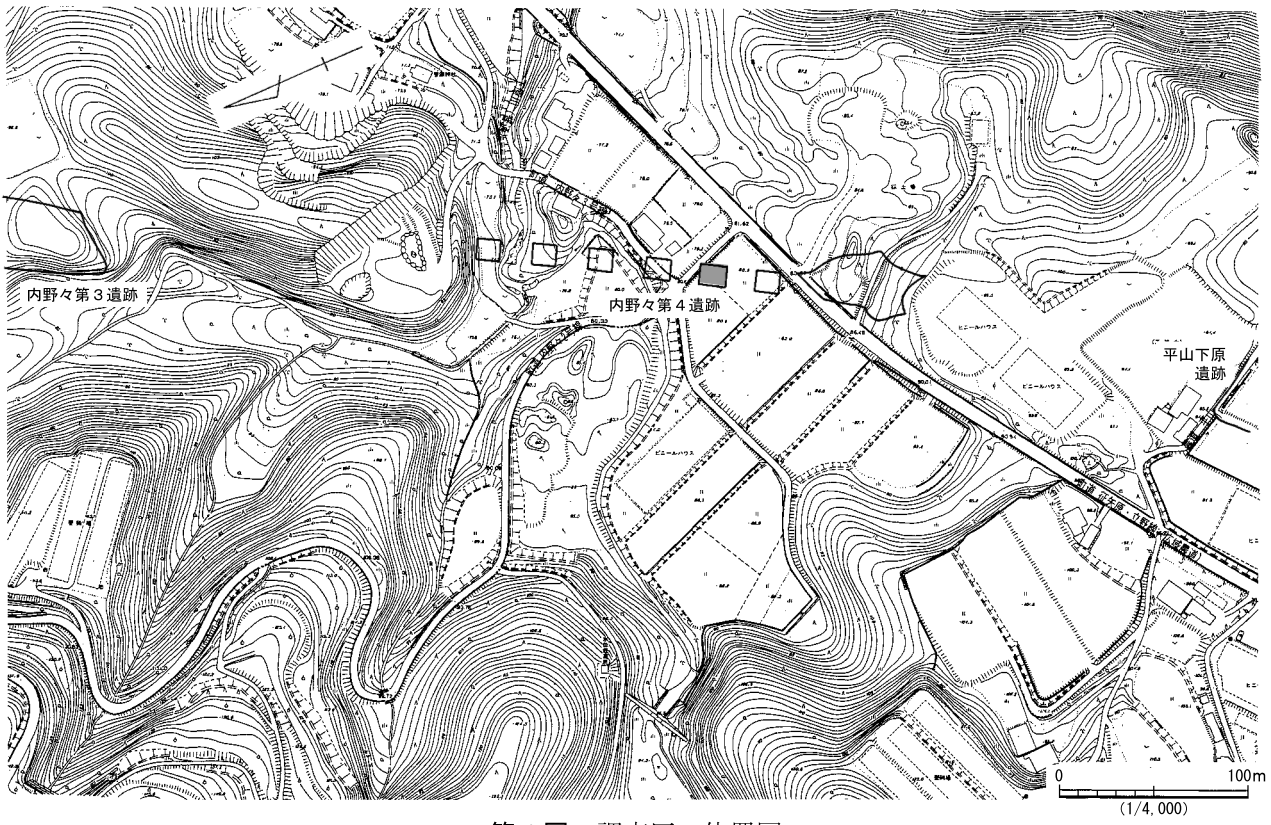
なお、第6図中の■マークは、集石遺構を構成する赤化礫の分布を示す。また、▲はそれ以外の赤化礫の分布を示す。

##### 出土遺物(第7～第9図)

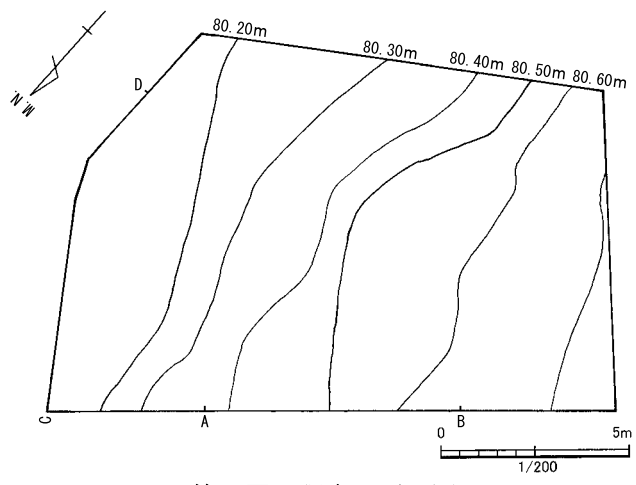
遺物は、IV b層より縄文土器片36点、打製石鏃5点、削器1点、石核2点、碎片・剥片71点（接合資料を含む）、搬入礫2点が出土した。このうち15点を図化・掲載した。第5図は土器の平面分布図、第6図は石器の平面分布図である。

**縄文土器** 1～2は深鉢である。1は胴部で外面は貝殻条痕文である。内外両面から補修孔かと思われる孔が穿たれているが、未貫通である。2は無文土器の胴部である。

**石器** 3～7は打製石鏃であり、4以外はいずれも小



第1図 調査区的位置図



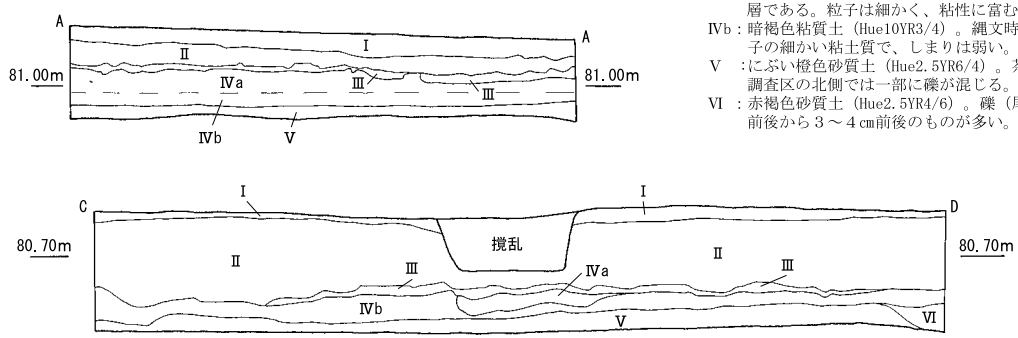
第2図 調査区平面図

層No.	層名	色調	備考
I	耕作土	—	—
II	造成土	—	—
III	黄褐色砂質土	10YR 5/6	K-Ah火山灰二次堆積層
IVa	暗褐色土	10YR 3/3	縄文時代早期層
IVb	暗褐色粘質土	10YR 3/4	
V	にぶい橙色砂質土	2.5Y 6/4	後期旧石器時代相当層
VI	赤褐色砂質土 (礫混)	2.5Y 4/6	

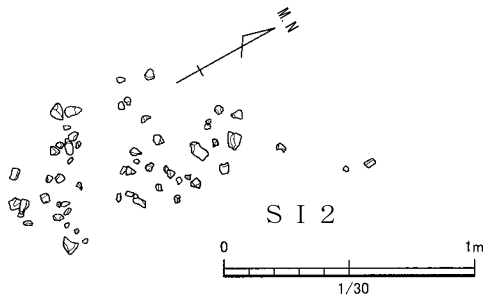
第1表 基本層序

土層の内容

- I : 水田の耕作土。下部には遺物を含む。
- II : 造成土。下部はIII層との層界が不明瞭な部分があり、遺物を含む。
- III : 黄褐色砂質土 (Hue10YR5/6)。K-Ah火山灰の二次堆積層で、縄文時代前期以降の遺物包含層である。赤化礫を含み、K-Ah由来の細かい粒子が主体である。IVa層との層界が不明瞭な箇所がある。
- IVa : 暗赤褐色土 (Hue10YR3/3)。IVb層よりも黒みが強い。縄文時代早期の遺物包含層である。粒子は細かく、粘性に富むがしまりは弱い。赤化礫や礫が混入する。
- IVb : 暗褐色粘質土 (Hue10YR3/4)。縄文時代早期の遺物包含層である。水分に富む粒子の細かい粘土質で、しまりは弱い。礫や赤化礫が混入する。
- V : にぶい橙色砂質土 (Hue2.5YR6/4)。茶色や橙色の目の揃った粗砂が主体である。調査区の北側では一部に礫が混じる。
- VI : 赤褐色砂質土 (Hue2.5YR4/6)。礫 (尾鈴山酸性岩類) 主体の層で、直径は15cm前後から3~4cm前後のものが多い。その隙間に赤褐色の砂質土が入り込む。



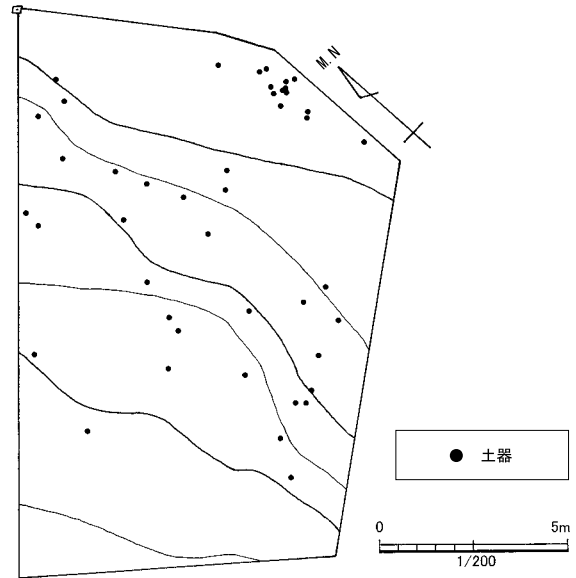
第3図 調査区土層断面図



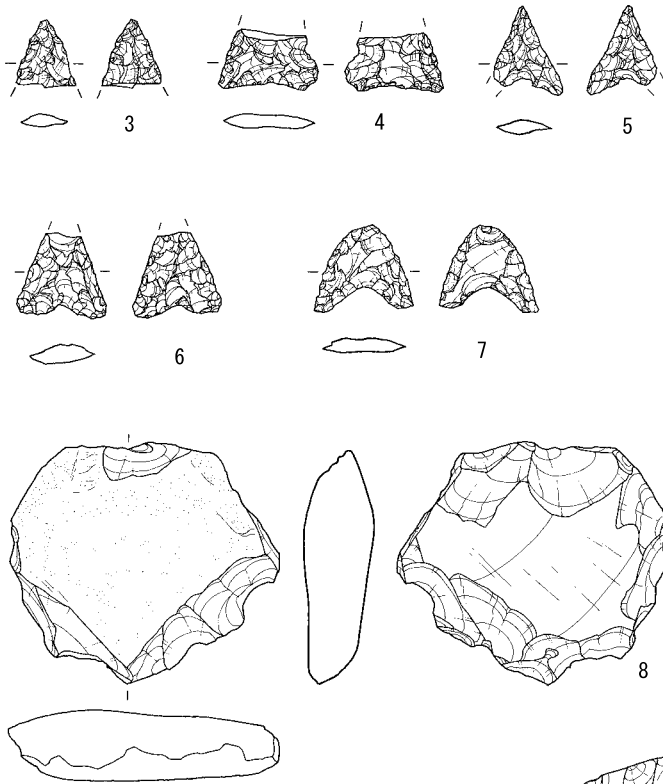
第4図 集石遺構 (IVb層) 実測図



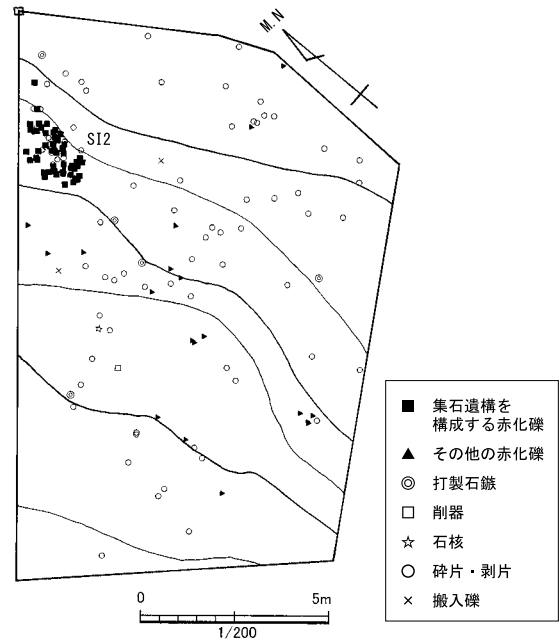
第7図 IVb層出土の土器実測図



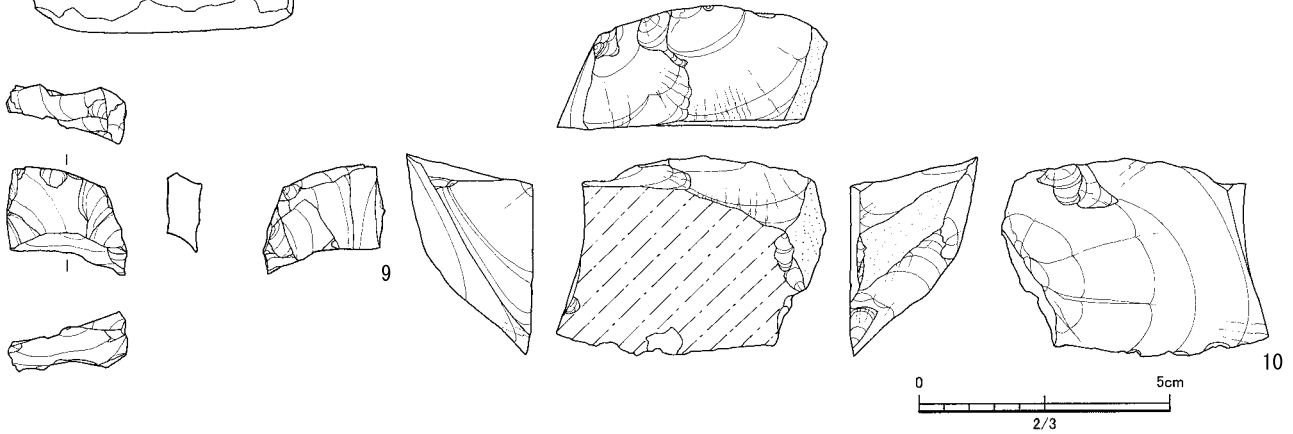
第5図 土器出土分布図 (IVb層)

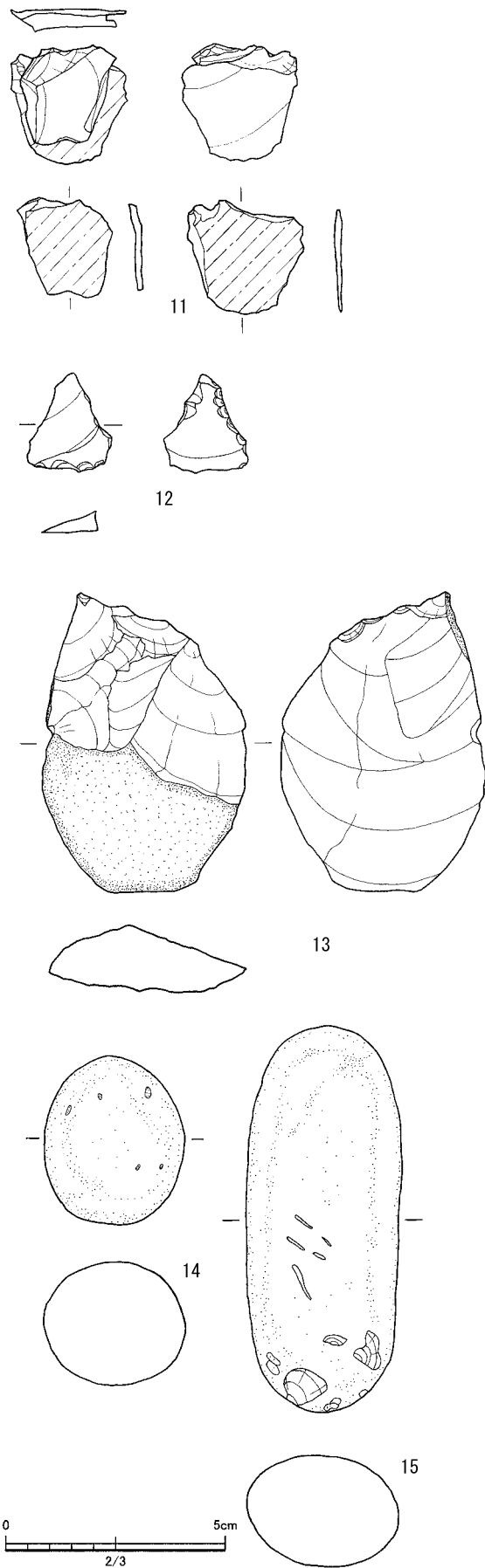


第8図 IVb層出土の石器実測図 (1)



第6図 石器出土分布図 (IVb層)





第9図 IVb層出土の石器実測図(2)

型である。3～6の平面形は二等辺三角形で、7は正三角形に近いが丸みを帯びた形状である。4～6の基部は浅く、7は深く抉られている。

8はチャート製の削器である。周縁を剥離調整して、さらに下部を刃部として調整している。

9・10は石核である。9は姫島産黒曜石製で、10は珪質頁岩製で節理面や自然面が残る。

11は頁岩剥片の接合資料である。12・13は剥片である。12はチャート製で、側縁に微細な調整が施されるので二次加工剥片の可能性はある。13は砂岩の自然礫を石材とする。

14は尾鈴山酸性岩類の、15は砂岩の搬入礫である。14は磨石に、15は敲石に各々形状が同じだが、ともに使用痕がないため、未使用の搬入礫とみなした。

### 3 IVa層の遺構と遺物

#### 集石遺構(S I)

調査区の南隅付近で、集石遺構が1基(S I 1)検出された(第10・12図)。S I 2とは対角線上の位置にある。規模は長軸長約2m、短軸長約1.5mで、構成礫は北方向に扇形に広がる。礫の大きさや使用石材はS I 2と同様である。なお、掘り込みや配石、炭化物は認められていない。

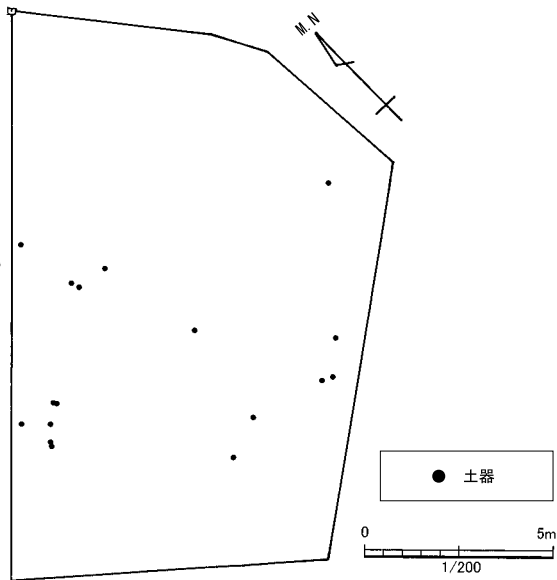
第12図の■マークは、集石遺構を構成する赤化礫の分布を示す。▲はそれ以外の赤化礫の分布を示す。

#### 出土遺物(第13・第14図)

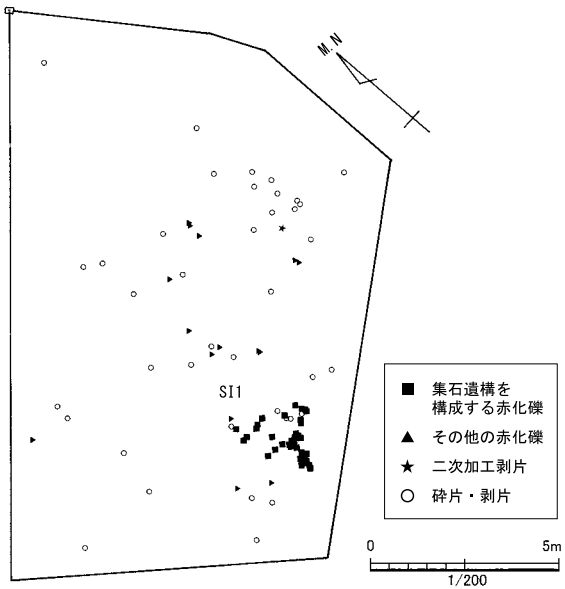
IV a層からは縄文土器片18点、二次加工剥片1点、碎片・剥片41点が出土した。このうち4点を図化・掲載した。第11図は土器の平面分布図、第12図は石器の平面分布図である。

**縄文土器** 16～18は塞ノ神式の深鉢である。16は口縁部で、外面の隆帯文には刻目が施される。胎土は白色を呈する比較的大きな粒子を多く含む。塞ノ神式でもの古相のタイプと考えられる。17は口縁部である。外面と端部には貝殻腹縁による刺突文が施されている。18は頸部で、外面には横位の貝殻腹縁連続刺文が施される。

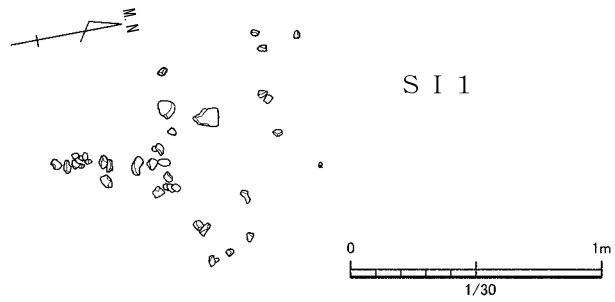
**石器** 19は二次加工剥片である。剥片に対して、特に裏面に二次的な加工・調整が施されている。チャートに近い質感を持つ珪質頁岩製である。



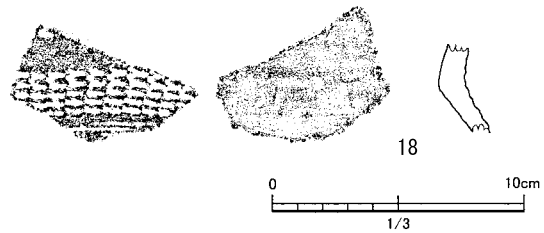
第11図 土器出土分布図 (IVa層)



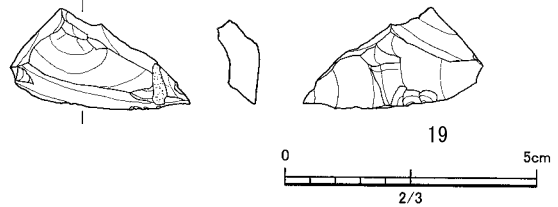
第12図 石器出土分布図 (IVa層)



第10図 集石遺構 (IVa層) 実測図



第13図 IVa層出土の土器実測図



第14図 IVa層出土の石器実測図

掲載番号	種別	器種	出土層位	部位	調整		色調		胎土	備考
					外面	内面	外面	内面		
1	深鉢	縄文土器	IVb	胴部	斜方向のち縦方向貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	7.5YR6/6橙	10YR6/6明黄褐	2~3mmの灰色粒をわずかに含む。微細な光沢粒を多く含む。	外面、内面に補修痕か(未貫通)
2	深鉢	縄文土器	IVb	胴部	ナデか(風化が著しい)	ナデか(風化が著しい)	7.5YR5/6明褐	5YR6/8橙	2mm以下の透明光沢粒、微細な白色粒を多く含む。2mm以下の灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒を少し含む。	
16	深鉢	縄文土器	IVa	口縁	口縁端部に貝殻腹縁による二重の刻目、ヨコナデか	ケズリ状のヨコナデ	7.5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	4mm以下の白色粒を多く含む。1mm以下の黒色光沢粒、微細な光沢粒を少し含む。	塞ノ神式
17	深鉢	縄文土器	IVa	口縁	口縁端部に貝殻腹縁による押圧刻み、貝殻腹縁の連続刺突文、ナデ	横ナデ	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	2mm以下の透明光沢粒を多く含む。1mm以下の黒色光沢粒、灰色粒をわずかに含む。	塞ノ神式
18	深鉢	縄文土器	IVa	頸部	横ナデ、貝殻腹縁の連続刺突文、貝殻条痕文	横ナデ	7.5YR5/6明褐	7.5YR7/6橙	2mm以下の透明光沢粒、黒色光沢粒、灰白粒を多く含む。	塞ノ神式

第2表 IV層出土の土器観察表

掲載番号	出土層位	器種	石材	法量				備考
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
3	IVb	打製石鏃	桑ノ木津留産黒曜石	1.5	1.1	0.5	0.31	
4	IVb	打製石鏃	桑ノ木津留産黒曜石	2.1	1.1	0.6	0.73	
5	IVb	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.7	1.2	0.6	0.40	
6	IVb	打製石鏃	チャート	2.0	1.6	0.7	1.09	
7	IVb	打製石鏃	安山岩	2.0	1.8	0.6	0.78	
8	IVb	削器	チャート	5.1	5.2	1.6	40.70	
9	IVb	石核	姫島産黒曜石	2.7	1.7	1.0	3.83	
10	IVb	石核	珪質頁岩	5.5	4.7	2.4	52.40	
11	IVb	剥片	頁岩	2.7	2.6	0.6	3.23	接合資料
12	IVb	剥片	チャート	2.3	1.9	0.8	1.85	
13	IVb	剥片	砂岩	7.1	4.9	1.9	37.20	
14	IVb	礫	尾鈴山酸性岩	6.2	4.2	3.8	115.00	搬入礫
15	IVb	礫	砂岩	12.0	4.9	3.8	285.00	搬入礫
19	IVa	二次加工剥片	珪質頁岩	3.6	2.2	1.2	4.10	

第3表 IV層出土の石器計測表

## 第5節 縄文時代前期以降の遺物

### 1 概要

アカホヤ火山灰の二次堆積層(Ⅲ層)中で轟B式や曾畑式土器といった遺物の出土が認められた。Ⅲ層中からは、土器片37点、打製石鏃6点、珧状耳飾1点、碎片・剥片99点が出土した。出土レベルはおもにⅢ層の中・下位とⅡ層との層界付近にわかる。

Ⅲ層は遺物の時期と層序的な対比から、縄文時代前期以降の堆積層と判断される。第15図は土器の平面分布図、第16図は石器の平面分布図である。

### 2 出土遺物(第17図)

**土器** 20～23は縄文土器の深鉢、24は浅鉢、25は土師器である。20は口縁部外面に横位の刺突列点文が施され、両面に丁寧な貝殻条痕文がある。轟B式土器と考えられる。21は外面にミミズ腫れ状突帯文が施される。22・23は曾畑式土器で、22の外面は縦位と横位の沈線文で区画され、縦位沈線文の間に縦位の刺突文が施される。内面も同様な縦・横位の沈線文による区画に刺突文が施文される。23の外面は縦位で折衷文と思われる「V」字状の沈線文に横位の沈線文を組み合わせで施文されている。以上、20～23は縄文時代前期の土器である。

また、縄文時代晩期の黒色磨研土器(24)や、土師器皿(25)も出土した。この2点は、Ⅱ層(造成土)との層界付近で出土した遺物で他の土器や石器との出土レベルとは異なる。

**石器** 26～31は打製石鏃である。26・27は二等辺三角形で凹基の形状をなす。石材は姫島産黒曜石である。28の石材はチャート、鏃身部が長い特徴的な形状である。29は正三角形に近い形状で、一部を欠損する。石

材は西北九州系の黒曜石である。30は正三角形で、チャート製である。31は正三角形で平基である。石材は南九州系の黒曜石である。

32は珧状耳飾で、石材は頁岩製である。左側が欠損している。平面形は円形で孔は中心に位置する。粗雑なつくりで、断面の厚さは部位により差がある。

## 第6節 その他の遺物

内野々第4遺跡内の耕作土や造成土より2,815点を数える遺物が得られた。造成土は自然堆積層を重機で掘削したかのような大きい土塊からなる。

遺物の主な内訳は、後期旧石器時代～近現代にかけての土器や石器で、縄文・弥生土器、陶磁器、打製石鏃、石匙、石庖丁、削器、礮器、両面加工石器、研磨痕剥片、二次加工剥片、火打石などである。このうち、96点を図化・掲載した(第19～22図)。

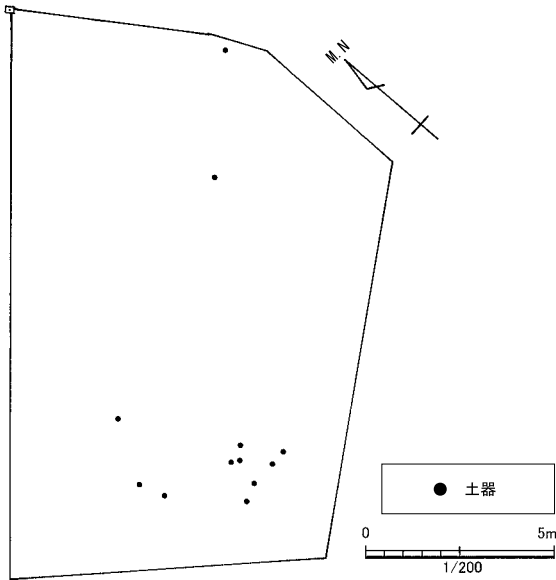
**土器** 33～39は縄文土器深鉢である。33は塞ノ神式土器の口縁部である。36は胴部で貝殻条痕文地に「V」字または「X」字様に施文される。胎土に光沢性の粒子を多く含む。37～38は縄文施文の胴部で、縄文原体は単節RLである。39は押引文の胴部である。

40～42は弥生土器である。40は壺の口縁部、41は胴部、42は底部である。43は土師器杯の底部である。底部はヘラ切りである。

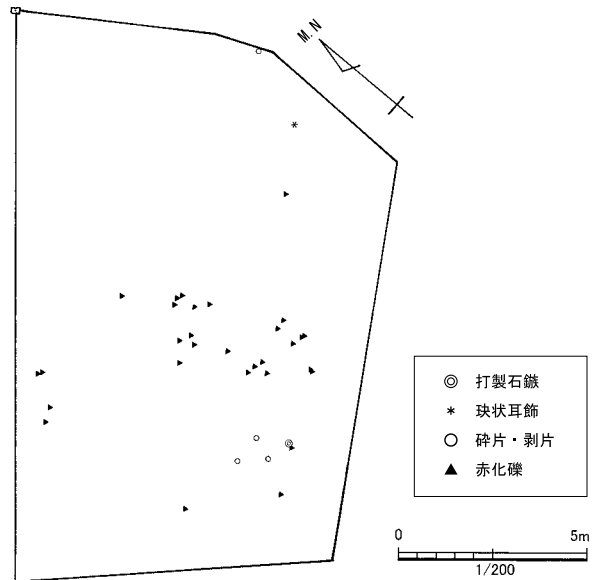
**土製品** 44は鞆の羽口である。外面にはナデ調整が施され、また上部は被熱により変色している。内面もナデ調整が施されている。

**陶磁器** 45は瀬戸美濃焼のおろし皿の口縁部である。内面下部におろし目がある。14世紀後半に属するか。

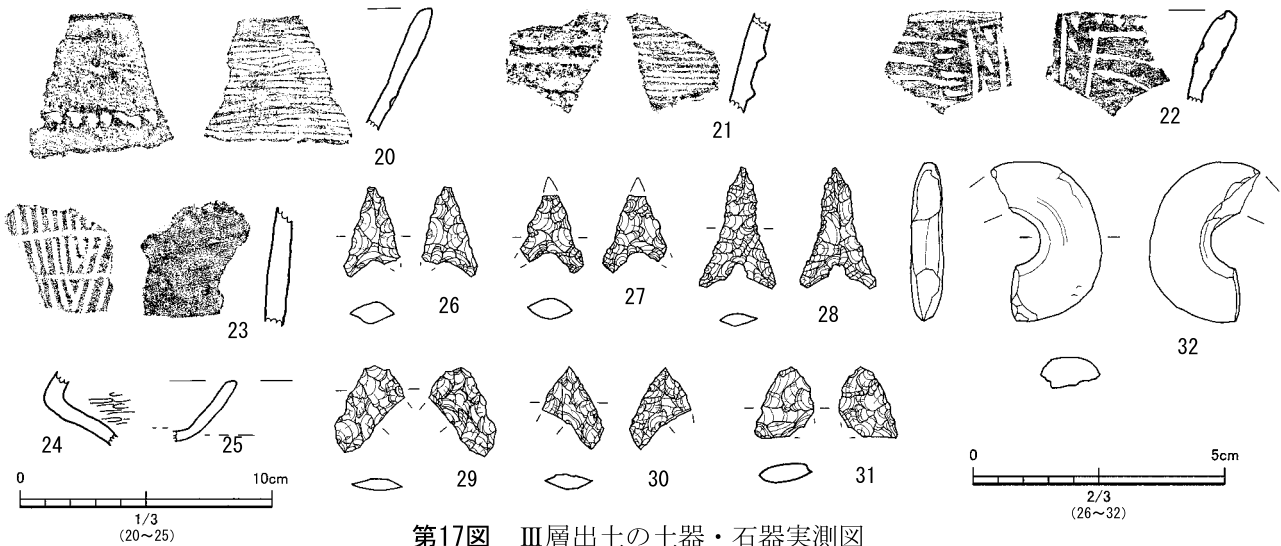
46は青磁碗の体部である。外面は片切彫の蓮弁文が施された龍泉窯産であり、15世紀末葉から16世紀初頭



第15図 土器出土分布図 (Ⅲ層)



第16図 石器出土分布図 (Ⅲ層)



第17図 Ⅲ層出土の土器・石器実測図

掲載番号	種別	器種	出土層位	部位	調整		色調		胎土	備考
					外面	内面	外面	内面		
20	縄文土器	深鉢	Ⅲ	口縁	貝殻条痕文のあとナデ、刺突点文	横方向の貝殻条痕文	10YR6/6明黄褐	10YR6/8明黄褐	2mm以下の白色粒を多く含む。	轟B式か 外面スス付着
21	縄文土器	深鉢	Ⅲ	胴部	2条のミミズバレ状突帯、ヨコナデ	横方向の貝殻条痕文	7.5YR4/6褐	10YR5/8黄褐	1mm以下の白色粒を多く含む。1mm以下の黒色粒をわずかに含む。	外面スス付着
22	縄文土器	深鉢	Ⅲ	口縁	縦位と横位の沈線文で区画した中に刺突文、ヨコナデ	縦位・横位の沈線文、連続刺突文	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	1mm以下の黒色光沢粒、半透明粒、白色粒を少し含む。	管畑式
23	縄文土器	深鉢	Ⅲ	胴部	縦位の斜方向への貝殻条痕文に横位の沈線文	丁寧な横ナデ	7.5YR7/4にぶい橙	10YR6/6明黄褐	2mm以下の透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒を多く含む。	管畑式
24	縄文土器	浅鉢	Ⅲ	頸部	横ナデの後ミガキ	ミガキか(風化著しい)	10YR7/3にぶい黄橙	2.5Y7/1灰白	1mm以下の透明粒、灰白粒を多く含む。	黒色磨研土器(黒川式)
25	土師器	小皿	Ⅲ	口縁～底部付近	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/2灰黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	1mm以下の茶色粒を少し含む。	

第4表 Ⅲ層出土の土器観察表

掲載番号	出土層位	器種	石材	法量			
				最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
26	Ⅲ層	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.6	1.1	0.5	0.40
27	Ⅲ層	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.6	1.1	0.5	0.45
28	Ⅲ層	打製石鏃	チャート	2.5	1.4	0.3	0.56
29	Ⅲ層	打製石鏃	西北九州系黒曜石	1.9	1.0	0.5	0.40
30	Ⅲ層	打製石鏃	チャート	1.5	0.9	0.6	0.35
31	Ⅲ層	打製石鏃	南九州系黒曜石	1.6	1.0	0.4	0.53
32	Ⅲ層	块状耳飾	頁岩	3.2	2.0	0.8	4.65

第5表 Ⅲ層出土の石器計測表

のものと思われる。47は播鉢の胴部で、内面は播り目が全面に施されている。胎土には白い粒子が含まれることから近世の関西系播鉢と思われる。

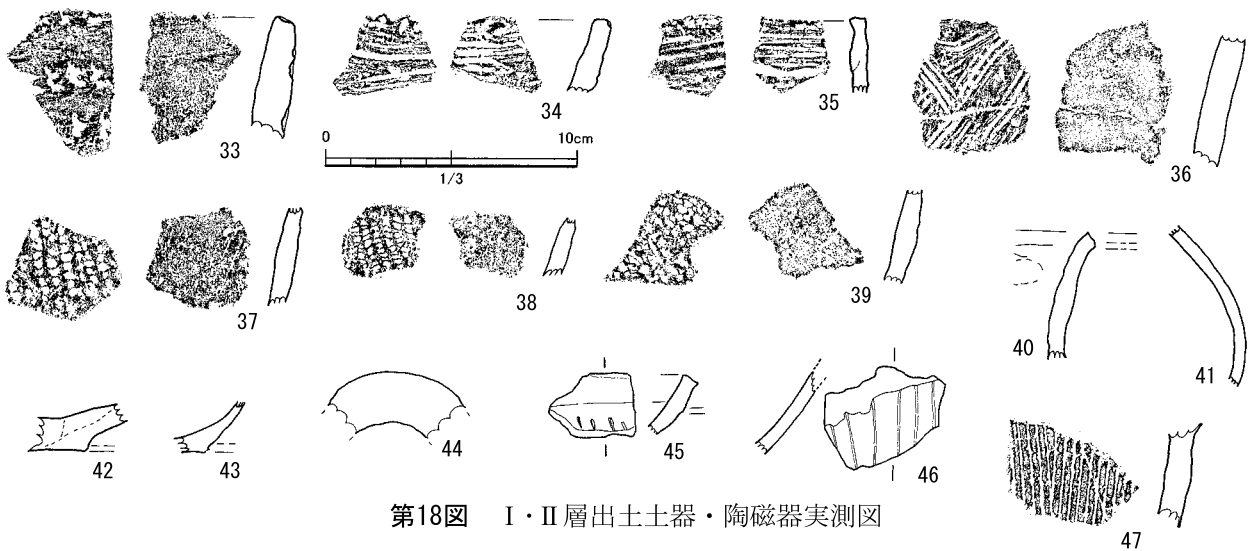
**石器** 48～50は、後期旧石器時代に属する遺物と考えられる。48は細石刃で霧島産黒曜石製とみられる。49・50は二次加工剥片で左側縁部に細かい剥離が施される。51は剥片である。

52～99は打製石鏃である。52～79は、平面二等辺三角形で凹基である。挟りが深いもの（52～76）と浅く湾曲気味なもの（79）がある。80～95は、正三角形の平面で凹基である。脚部を作り出すもの（80）や挟りの深いもの（81～90）、浅いもの（91～95）がある。96～99は正三角形で平基の部類である。

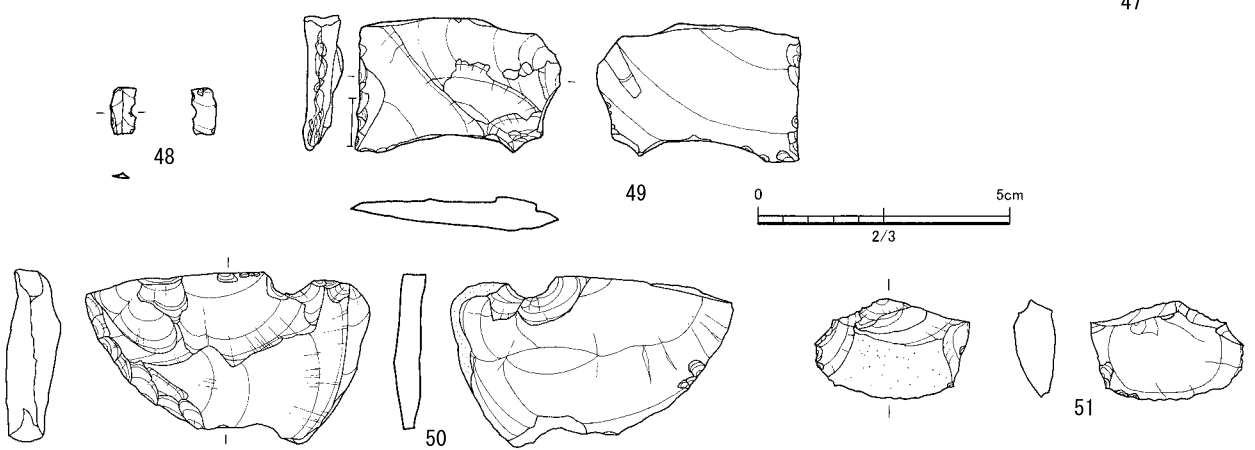
なお、77・78は基部にほとんど挟りがなく、脚部が形成されていないこと、全面に調整がなされないことから未製品の可能性がある。100～102は全体形や剥離調整のあり方から石鏃未製品とみなした。

その他、石匙（103・104）、両面加工石器（105）、異形石器（106）、礫器（107）、スクレイパー類（108・109）、二次加工剥片（110～117）、研磨痕剥片（118）、剥片（119～121）、石核（122・123）、石庖丁（124）および火打石（126～129）を掲載した。

105は全面に調整が施され、縦長に形作られ、中央よりやや上部から先端に向かって胴部が細くなる。106の中央部はくびれ、両端の側縁は外湾している。いわゆるリボン状異形石器で、石材は三船産黒曜石である。108はサイドスクレイパーで、刃部は右側縁に表裏両面からの剥離調整で成す。109はエンドスクレイパーで、刃部は主に下側縁に表裏両面からの剥離調整で形成されている。118の中央部分には、研磨痕が認められる。124は大半を欠損していたが、穿孔が2箇所を確認できる。石材は頁岩である。火打石は、いずれも角や稜線の突出した部分に使用痕が認められる。125は鹿児島産玉髓製、126～129チャート製である。

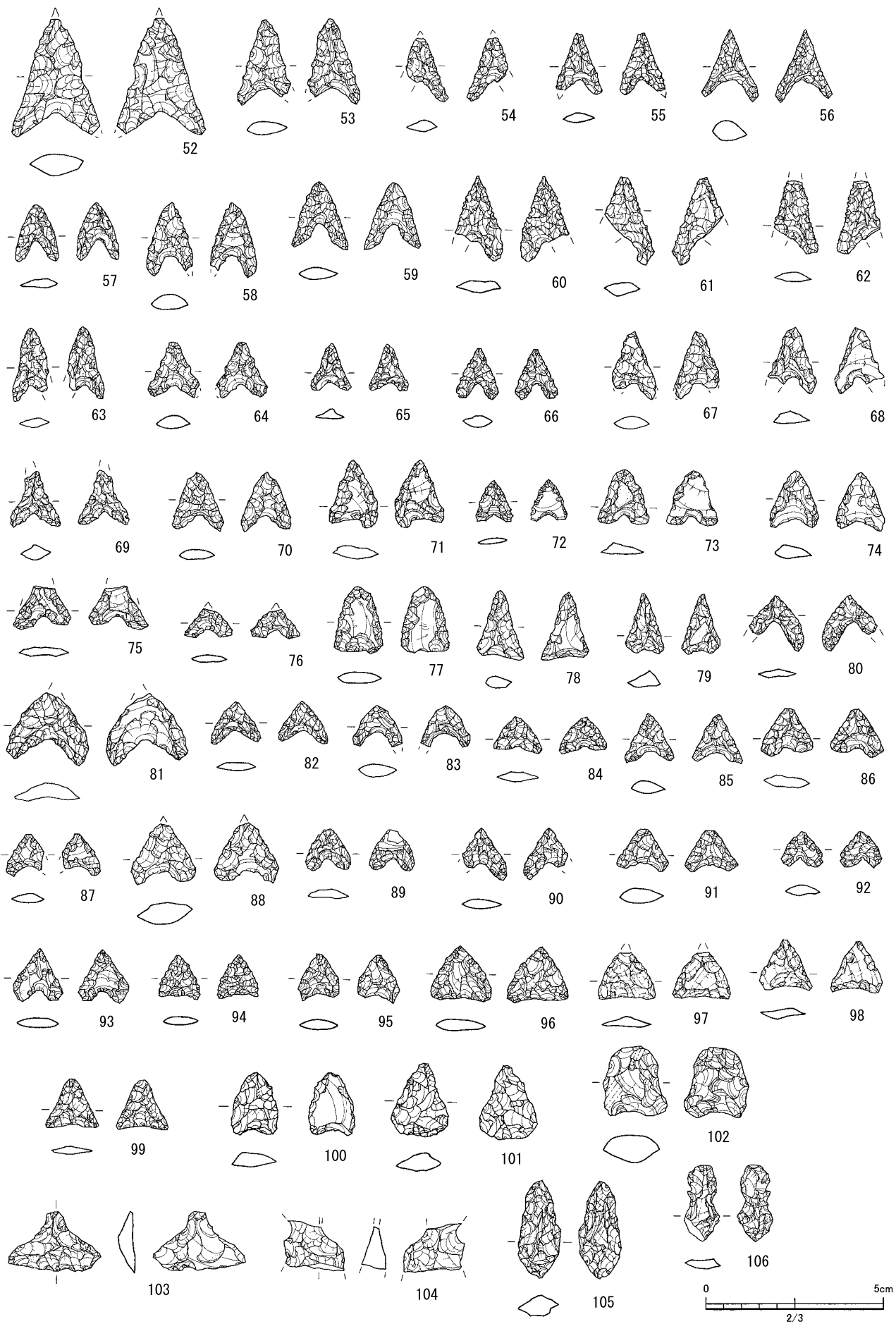


第18図 I・II層出土土器・陶磁器実測図

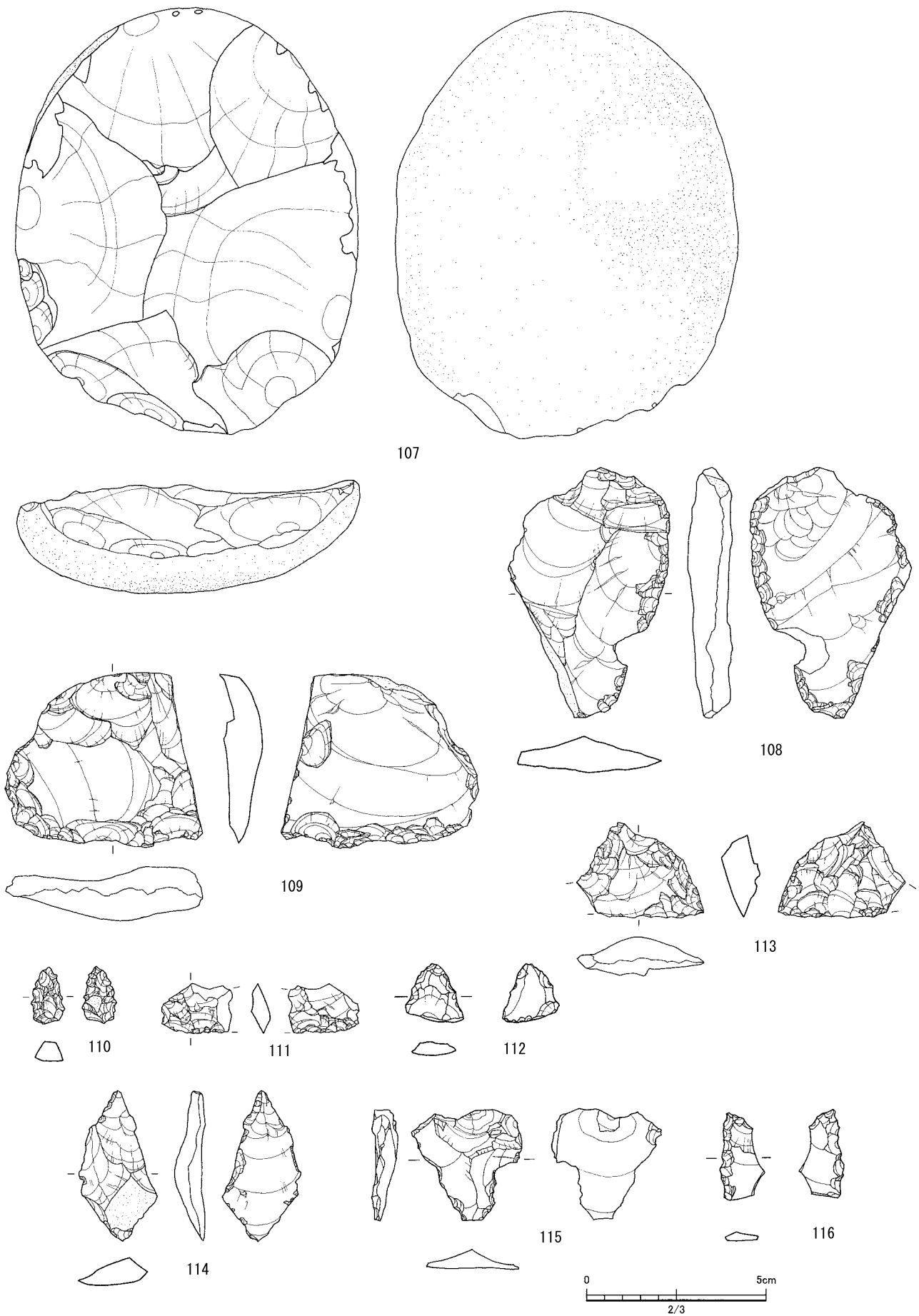


第19図 I・II層出土石器実測図（1）

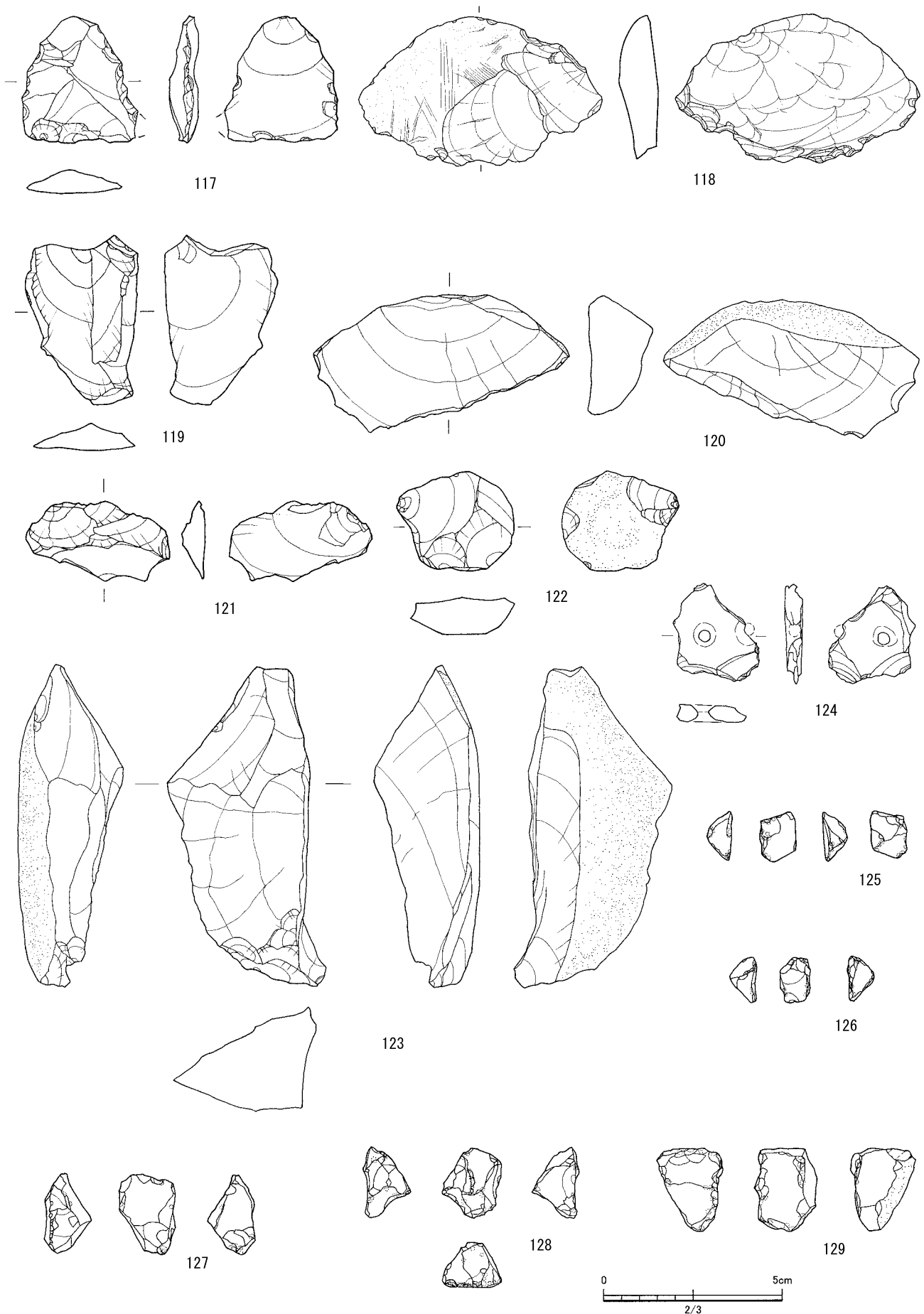




第20图 I・II層出土石器実測图(2)



第21図 I・II層出土石器実測図(3)



第22图 I・II層出土石器实测图(4)

掲載番号	種別	器種	出土層位	部位	調整		色調		胎土	備考
					外面	内面	外面	内面		
33	縄文土器	深鉢	-	口縁	貝殻腹縁による連続刺突文	横ナデ	7.5YR6/6にぶい橙	7.5YR6/6にぶい橙	1mm以下の透明光沢粒を含む。1mm以下の黒色光沢粒をごくわずかに含む。	塞ノ神式
34	縄文土器	深鉢	I層	口縁	口縁端部に連続押圧刻み、貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/4褐	10YR3/2黒褐	1mm以下の黒色光沢粒を少し含む。	
35	縄文土器	深鉢	I層	口縁か	口唇部に貝殻腹縁による連続押圧刻み、貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR6/8橙	1mm以下の褐灰粒、透明粒をわずかに含む。	
36	縄文土器	深鉢	II層	胴部	斜位の貝殻条痕文、ナデ	ナデ	2.5YR4/8赤褐	2.5YR4/4にぶい赤褐	2mm以下の透明光沢粒、1mm以下の黒色光沢粒、白色粒を多く含む。	
37	縄文土器	深鉢	I層	胴部	縄文施文	横ナデ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	3mm以下の褐灰粒、灰白粒をわずかに含む。	
38	縄文土器	深鉢	I層	胴部	縄文施文	風化で調整不明	10YR7/4にぶい黄橙	5Y6/1灰	2mm以下の灰色粒を多く含む。	
39	縄文土器	深鉢	I層	胴部	縄文か(風化が著しい)	風化で調整不明	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	2mm以下の褐灰粒、1mm以下の灰色粒、黒色光沢粒をわずかに含む。	
40	弥生土器	壺	II層	口縁	横ナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6橙	10YR6/6明黄褐	4mmほどの赤色粒、3mmほどの白色粒をわずかに含む。1mm以下の光沢粒を少し含む。を1mm以下の黒色粒を多く含む。	
41	弥生土器	壺	-	胴部	風化のため調整不明	風化で調整不明	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	2mm以下の灰色粒、1mm以下の黒色粒を多く含む。	
42	弥生土器	壺	-	底部	ヨコナデ	風化で調整不明	7.5YR7/4にぶい橙	2.5Y5/2暗灰黄	4mm以下の灰白粒、2mm以下の黄橙粒、暗褐粒、1mm以下の透明粒をわずかに含む。	底部推定：4.4cm
43	土師器	坏	-	底部	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	1.5mm以下の黒色粒をわずかに含む。	底部は回転ヘラ切り
44	土製品	繻の羽口	II層	-	ナデ、加熱による変色	ナデ	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR5/8明赤褐	極小の光沢粒を含む。	
45	陶器	おろし皿	I層	口縁	無釉、施釉	施釉	10YR7/3にぶい黄橙	2.5YR7/3淺黄	精良	瀬戸美濃焼
46	青磁	碗	I層	胴部	蓮弁文、施釉		10Y7/2灰白	10Y6/2オリーブ灰	精良	龍泉窯製
47	陶器	擂鉢	II層	胴部	ロクロ目	すり目	2.5YR6/6橙	2.5YR5/6明赤褐	7mm以下の淺黄橙粒をわずかに含み、2mm以下の褐灰粒、灰白粒を多く含む。	関西系か

第6表 土器・陶磁器観察表

掲載番号	出土層位	器種	石材	法量			
				最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
48	I	細石刃	霧島産黒曜石	1.0	0.5	0.1	0.60
49	I	二次加工剥片	珪質頁岩	4.2	2.7	1.0	9.60
50	I	二次加工剥片	ホルンフェルス	5.7	3.3	1.2	17.60
51	I	剥片	珪質頁岩	3.0	2.0	1.2	6.00
52	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	3.5	2.4	0.7	2.72
53	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	2.6	1.4	0.4	0.75
54	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	2.0	0.8	0.7	0.47
55	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.37
56	I	打製石鏃	チャート	2.1	1.6	0.6	0.77
57	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.8	1.0	0.6	0.40
58	I	打製石鏃	チャート	2.0	1.3	0.5	0.83
59	I	打製石鏃	チャート	2.0	1.5	0.5	0.74
60	I	打製石鏃	チャート	2.2	1.3	0.7	0.85
61	I	打製石鏃	チャート	2.6	1.0	0.7	0.95
62	I	打製石鏃	チャート	2.2	1.0	0.7	0.60
63	I	打製石鏃	桑ノ木津留産黒曜石	2.2	0.9	0.5	0.49
64	I	打製石鏃	霧島産黒曜石	1.7	1.4	0.4	0.44
65	II	打製石鏃	西北九州系黒曜石	1.5	0.9	0.5	0.21
66	II	打製石鏃	腰岳産黒曜石	1.5	1.1	0.4	0.32
67	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	2.0	1.2	0.4	0.46
68	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	2.0	1.1	0.6	0.51
69	I	打製石鏃	チャート	1.7	1.3	0.8	0.52
70	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.8	1.4	0.3	0.44
71	I	打製石鏃	チャート	2.0	1.4	0.7	0.85
72	I	打製石鏃	チャート	1.2	1.0	0.2	0.15
73	I	打製石鏃	ホルンフェルス	1.7	1.1	0.7	0.60
74	I	打製石鏃	安山岩	1.7	1.4	0.5	0.64
75	I	打製石鏃	桑ノ木津留産黒曜石	1.8	1.7	0.6	0.47
76	-	打製石鏃	腰岳産黒曜石	1.0	0.8	0.4	0.17
77	I	打製石鏃	腰岳産黒曜石	2.0	1.4	0.4	0.84
78	I	打製石鏃	チャート	2.1	1.1	0.4	0.54
79	I	打製石鏃	安山岩	1.8	1.0	0.7	0.53
80	I	打製石鏃	西北九州系黒曜石	1.8	1.1	0.5	0.31

第7表 石器計測表(1)

掲載番号	出土層位	器種	石材	法量			
				最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
81	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	2.2	2.1	0.6	1.41
82	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.5	1.0	0.5	0.28
83	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.3	1.3	0.4	0.34
84	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.5	0.9	0.6	0.30
85	II	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.5	1.3	0.5	0.41
86	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.5	1.3	0.4	0.50
87	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.3	1.0	0.3	0.21
88	I	打製石鏃	姫島産黒曜石	1.8	1.7	0.7	1.22
89	I	打製石鏃	西北九州系黒曜石	1.3	1.2	0.5	0.31
90	I	打製石鏃	チャート	1.6	1.0	0.3	0.31
91	I	打製石鏃	チャート	1.4	1.2	0.5	0.55
92	I	打製石鏃	チャート	1.1	1.0	0.3	0.26
93	I	打製石鏃	安山岩	1.6	1.3	0.3	0.39
94	I	打製石鏃	チャート	1.4	1.0	0.3	0.28
95	I	打製石鏃	チャート	1.5	1.1	0.4	0.38
96	II	打製石鏃	チャート	1.7	1.6	0.4	0.76
97	II	打製石鏃	安山岩	1.7	1.3	0.5	0.50
98	II	打製石鏃	安山岩	1.5	1.3	0.5	0.40
99	I	打製石鏃	チャート	1.5	1.4	0.5	0.40
100	I	石鏃未製品	チャート	1.8	1.3	0.6	1.06
101	I	石鏃未製品	チャート	2.0	1.6	0.7	1.80
102	I	石鏃未製品	チャート	2.1	1.8	1.1	2.90
103	I	石鏃	姫島産黒曜石	2.2	2.0	0.8	1.20
104	I	石鏃	チャート	1.8	1.3	0.8	1.54
105	I	両面加工石器	チャート	2.7	1.1	0.9	1.80
106	I	異形石器	三船産黒曜石	2.2	1.0	0.6	0.70
107	II	礫器	砂岩	16.1	12.9	3.6	975.00
108	I	削器	珪質頁岩	6.3	4.8	1.5	31.60
109	II	スクレイパー	珪質頁岩	5.2	5.0	1.8	38.10
110	I	二次加工剥片	霧島産黒曜石	1.5	0.9	0.9	0.80
111	I	二次加工剥片	針尾島産黒曜石	2.0	1.5	0.9	1.50
112	I	二次加工剥片	チャート	1.8	1.4	0.7	1.10
113	I	二次加工剥片	チャート	3.6	2.7	1.3	7.30
114	-	二次加工剥片	チャート	4.1	2.0	1.1	4.70
115	I	二次加工剥片	珪質頁岩	2.5	1.3	0.6	1.00
116	I	二次加工剥片	珪質頁岩	3.2	2.8	1.0	4.60
117	II	二次加工剥片	ホルンフェルス	3.6	3.3	1.1	8.90
118	I~II	研磨痕剥片	頁岩	5.7	4.6	1.3	29.05
119	I	剥片	ホルンフェルス	4.8	3.2	1.2	11.20
120	-	剥片	凝灰岩	7.0	3.5	2.1	39.60
121	I	剥片	珪質頁岩	4.0	2.2	1.0	6.00
122	-	石核	姫島産黒曜石	2.7	2.7	1.4	9.58
123	II	石核	ホルンフェルス	9.5	4.4	2.9	95.00
124	I	石苞丁	頁岩	2.9	2.2	0.8	3.62
125	I	火打石	鹿児島産玉髄	1.3	1.2	0.8	1.06
126	II	火打石	チャート	1.1	0.8	1.1	0.89
127	I	火打石	チャート	2.2	1.5	1.4	4.62
128	I	火打石	チャート	1.9	1.5	1.3	3.51
129	I	火打石	チャート	2.5	1.6	1.8	7.87

第8表 石器計測表(2)

## 第7節 まとめ

内野々第4遺跡では、縄文時代早期と縄文時代前期以降の遺構と遺物を認めることができた。また、表土・造成土中からも多くの石器類が出土した。本節ではこれらの成果を振り返ってまとめとしたい。

### 1 縄文時代早期の遺構と遺物

基本土層のIV層は土色等からIV a・IV b層に細分され、集石遺構や遺物も各層に認められた。IV a層からは塞ノ神式土器が主体的に出土するので、IV b層も含めてIV層の遺構や遺物は、概ね縄文時代早期後半の時期にあたる。

内野々第4遺跡は、戸次山と牧内山の間を縫う心見川支流の小河川が平山地区で合流し本流となる付近に位置するだけでなく、狭隘な沖積地の起点部という立

地である。こうした立地にも縄文時代早期の人間活動が読み取ることができた。

このように、心見川中流域の縄文時代早期の遺跡は、本遺跡や内野々遺跡や平山下原遺跡のように、河川を望んだ緩やかな斜面上と、内野々第2遺跡のように丘陵部に立地するあり方が認められた。

さらに同時性や共時性、相互の関連性を検討していく必要がある。

### 2 縄文時代前期の遺物

基本土層のIII層はアカホヤ火山灰を主体とする層で、二次堆積と判断される。この層からも遺物が出土した。出土遺物には縄文時代晩期の浅鉢や土師器皿も含まれるが、轟B式や曾畑式土器の深鉢片が出土土器の主体となる。従ってIII層は縄文時代前期を中心とした遺物

包含層と考えておきたい。

アカホヤ火山灰の降灰は、南部九州の縄文時代早期文化に壊滅的な打撃を与えたとされる。本遺跡では火山灰降灰後も再び人間活動の痕跡を見出せた。また、宮崎県下の縄文時代前期の資料はそれほど多いわけではなく、その意味でも重要な調査成果である。

さらに、特筆すべき遺物として玦状耳飾(32)が挙げられる。下村智氏の集成によると、2009年段階で宮崎県内では9遺跡10点の出土が確認されるという(下村2010)。

なお、藤木晶子氏(宮崎市教育委員会)によると、この玦状耳飾は頁岩製でいわゆる非美石石材を使用し、完成形に近い礫を素材とするが、成形が不十分なために礫面はかなり近い部分が認められるという。本来の平面形は、やや横に長いタイプと推定された。中心孔が側縁の幅よりも小さく、切目も短く孔内面上部に切目突出が認められると指摘されている。出土層位より縄文時代前期に属する可能性が高いが、形状・形態からは早期の可能性も考えられる。

### 3 異形石器について

表土層より異形石器(106)が出土した。この石器は、中央がくびれ状に抉れて先端部が尖っており、また一部が振れているという特徴がある。独鈷形異形石器、リボン状異形石器などと呼称される一群にあたると思われる。南部九州でも、宮崎県右葛ヶ迫遺跡、尾花A遺跡、上猪ノ原遺跡1・2遺跡、鹿児島県桐木耳取遺跡などの類例が知られている。このうち、尾花A遺跡、清武上猪ノ原遺跡、桐木耳取遺跡では縄文時代早期相当層からの出土が層位的に確認されている。

なお、溝上くみ氏は、異形石器は縄文時代前期に近畿地方とその周辺に、中期以降に東北地方に限られるとされており、さらなる検討が必要になるう。

### 4 内野々第4遺跡周辺の遺跡立地

調査区の表土や造成土中より多くの遺物が出土した。土器・陶磁器類は縄文時代早期～近世にかけての幅広い時期を示すが、縄文時代が中心である。細石刃は後期旧石器時代終末期であるが、スクレイパー類や二次加工剥片等には、後期旧石器時代に属するものが含ま

れると考えられる。石鏃は形態的特徴から縄文時代早期に認められる資料が多く、火打石は中～近世に属するとみられる。

耕地整理以前の内野々第4遺跡周辺は、沖積面と丘陵部が接する地形であったとされる。現在の地形は、この丘陵斜面を階段状に造成して水田面に、その掘削土を低所に埋め立てたという。このことから、遺物を含んだ表土や造成土は水田造成時に調査地周辺の丘陵斜面を削平した土砂が由来と推定される。

従って内野々第4遺跡は、丘陵と沖積地の境に広がる丘陵斜面に立地する複合遺跡であったと想定される。調査地は丘陵裾部にあたる位置と考えられる。その周辺にも遺構や遺物が存在する可能性が高いことを指摘してまとめたい。(原口)

### 参考文献

- 日高広人ら編2000「右葛ヶ迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第21集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 溝上くみ2003「神鍋遺跡の独鈷形異形石器」『神女大史学』第20号 神戸女子大学史学会
- 長野真一ら編2005「桐木耳取遺跡Ⅱ」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第92集 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 井田篤ら編2008「清武上猪ノ原遺跡-1-」『清武町埋蔵文化財調査報告書』第24集 清武町教育委員会
- 井田篤ら編2009「清武上猪ノ原遺跡-2-」『清武町埋蔵文化財調査報告書』第26集 清武町教育委員会
- 山真次ら編2009「尾花A遺跡Ⅰ」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第185集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 下村智2010「九州出土の玦状耳飾に関する基礎的研究」『先史学・考古学論究 V』上巻 龍田考古会

# 図 版



D区早期集石遺構検出状況（西から）



S I 15~16検出状況（西から）



S I 15~16半截状況（東から）



S I 17検出状況（西から）



S I 17半截状況（西から）

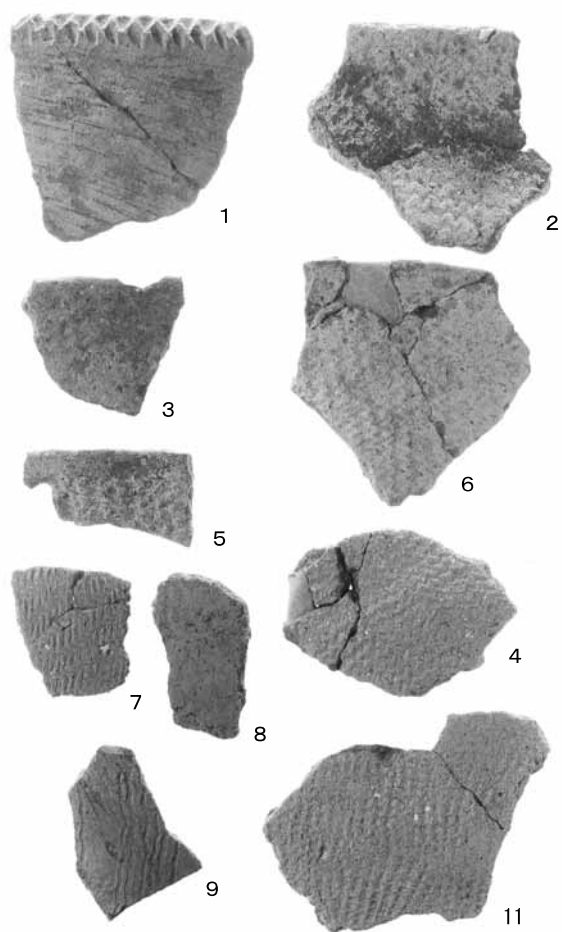




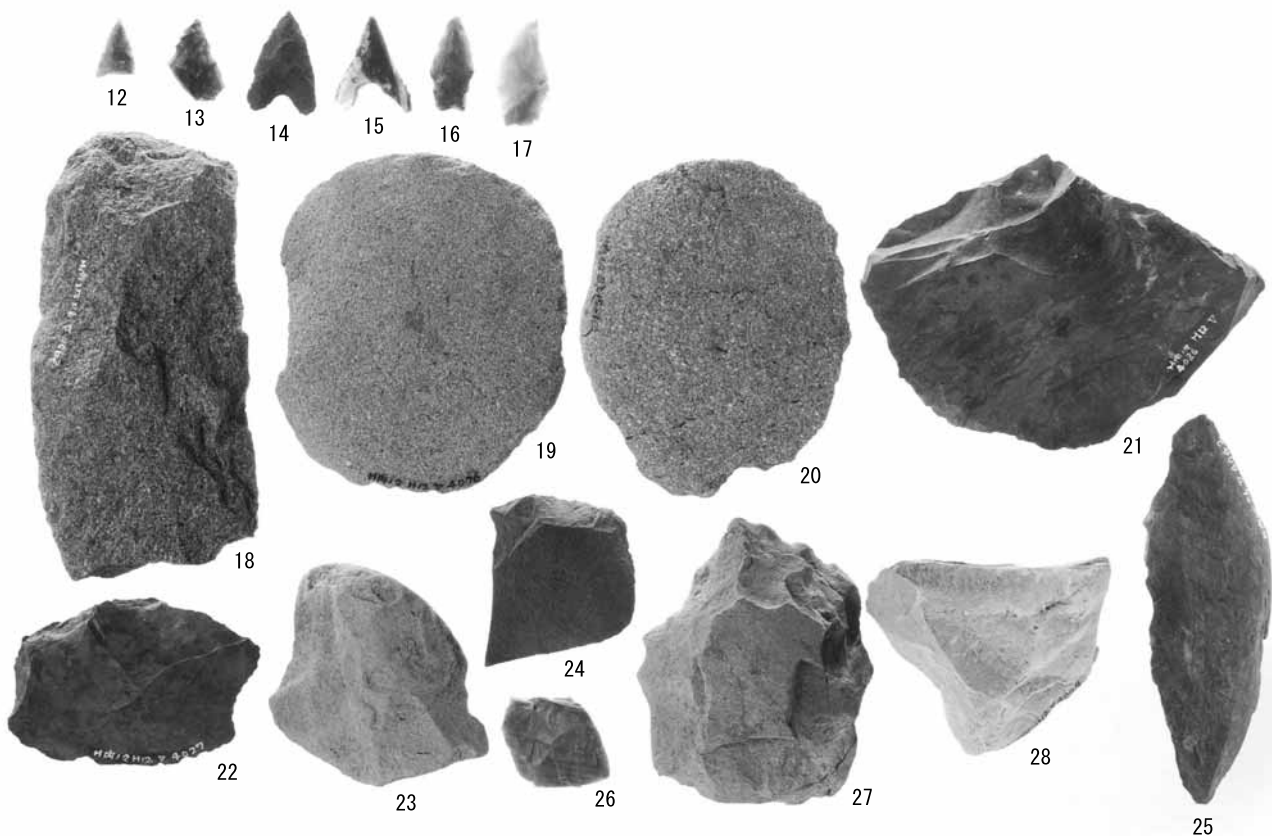
S I 17完掘状況（西から）



S I 18検出状況（北西から）



縄文時代早期土器



縄文時代早期土器



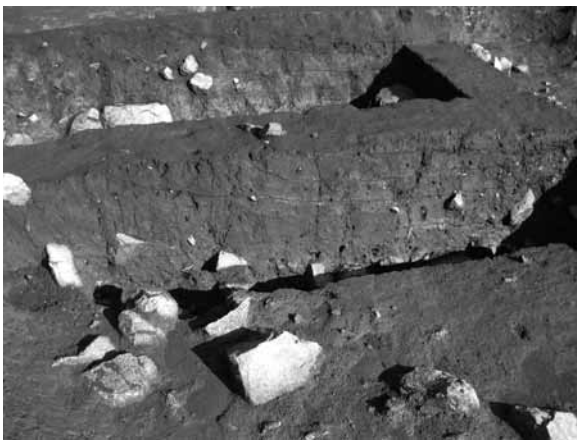
SA 2・3 検出状況 (北東から)



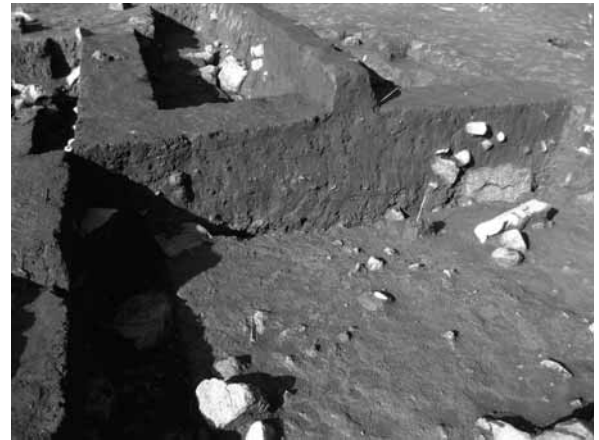
SA 2 検出状況 (東から)



SA 2・3 完掘状況 (東から)



SA 2 西側土層断面(南から)



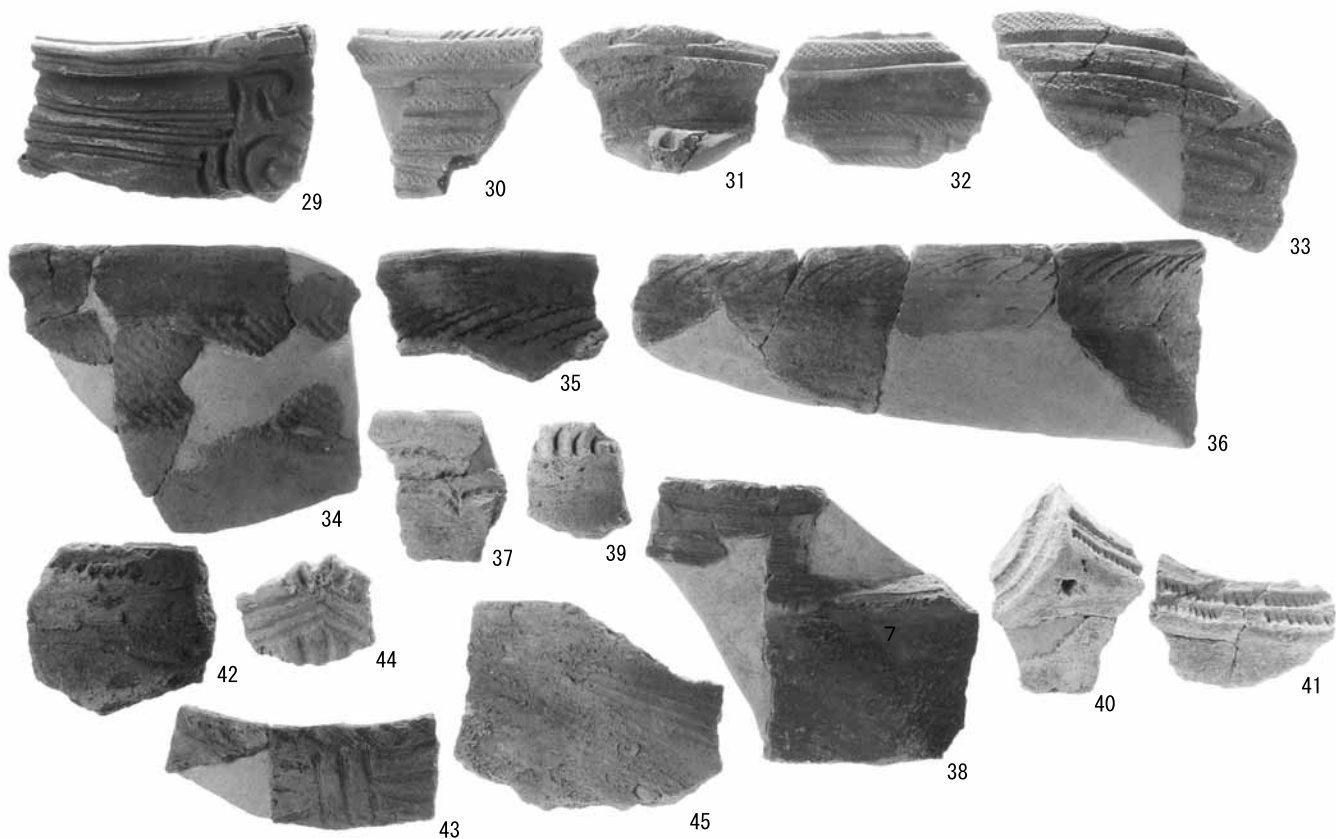
SA 2 西側土層断面(南から)



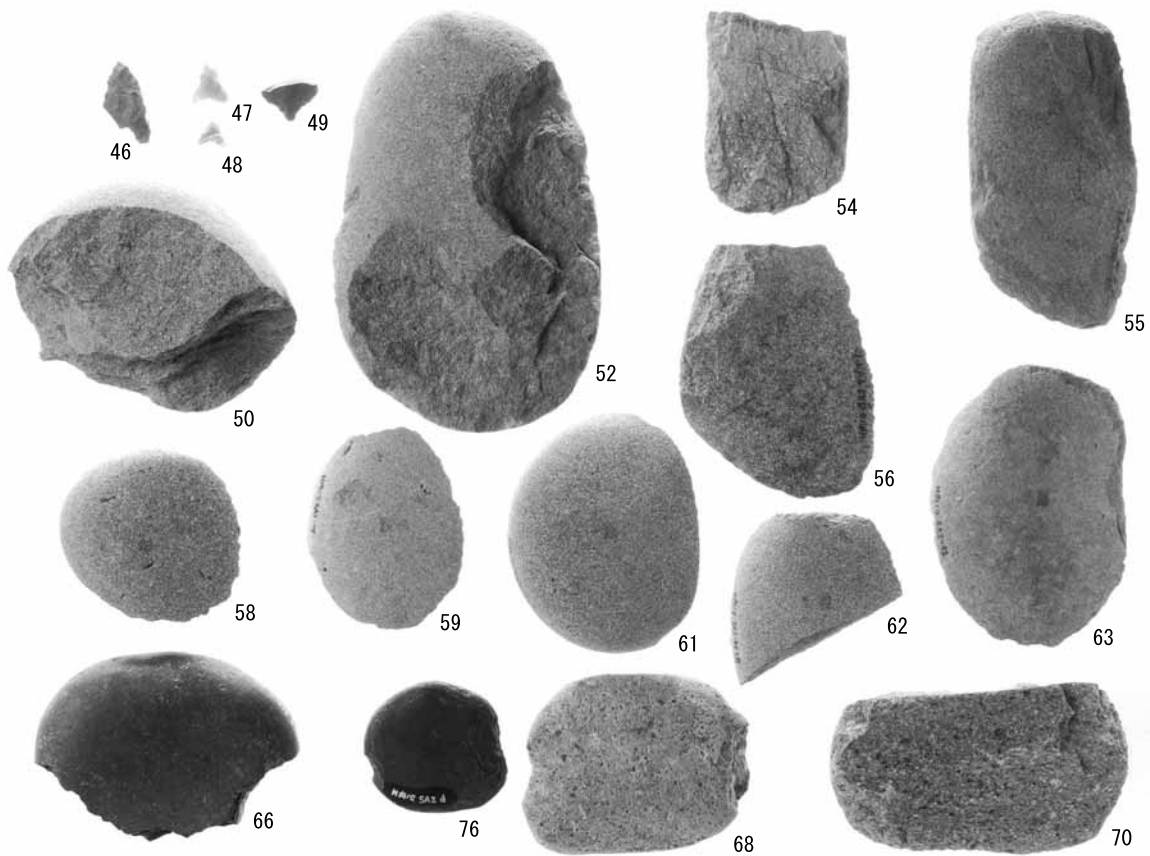
SA 3 南北土層断面(東から)



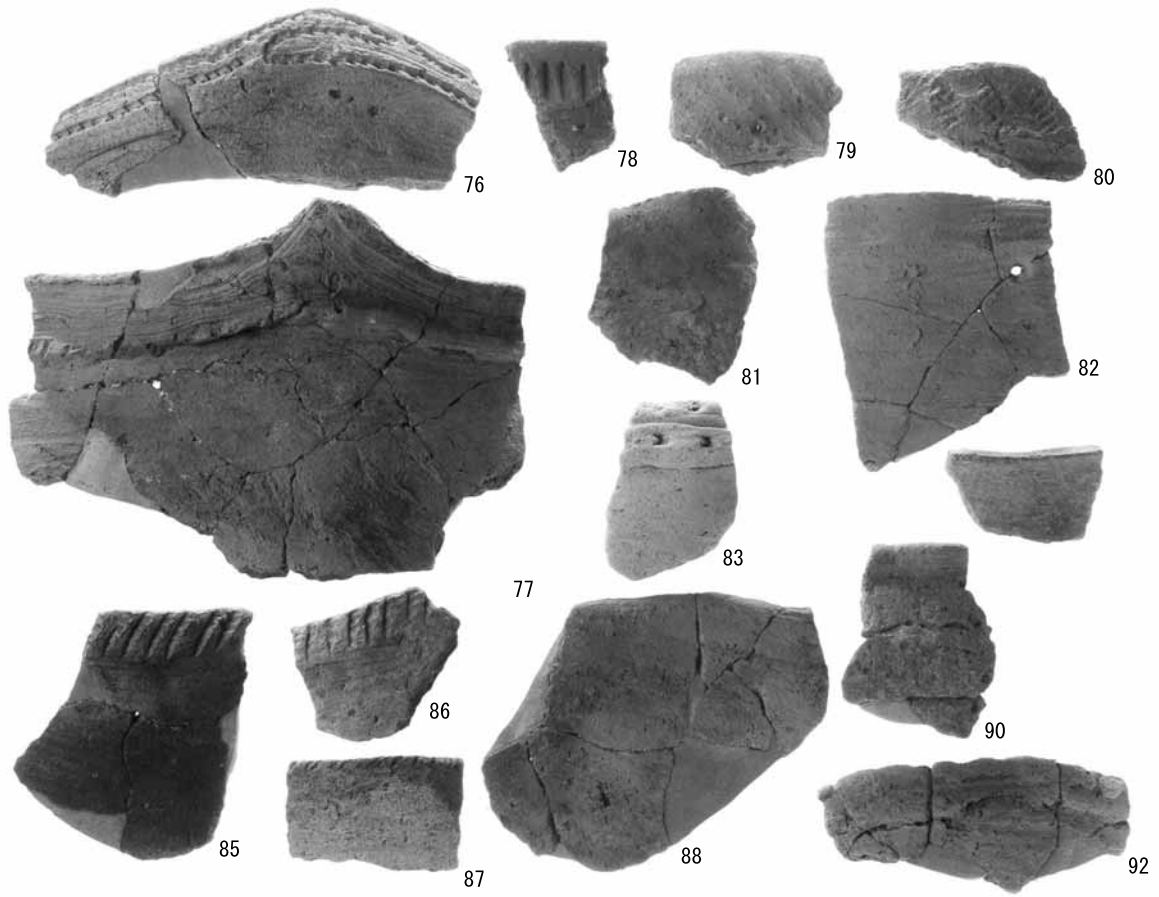
SA 3 西側土層断面(北東から)



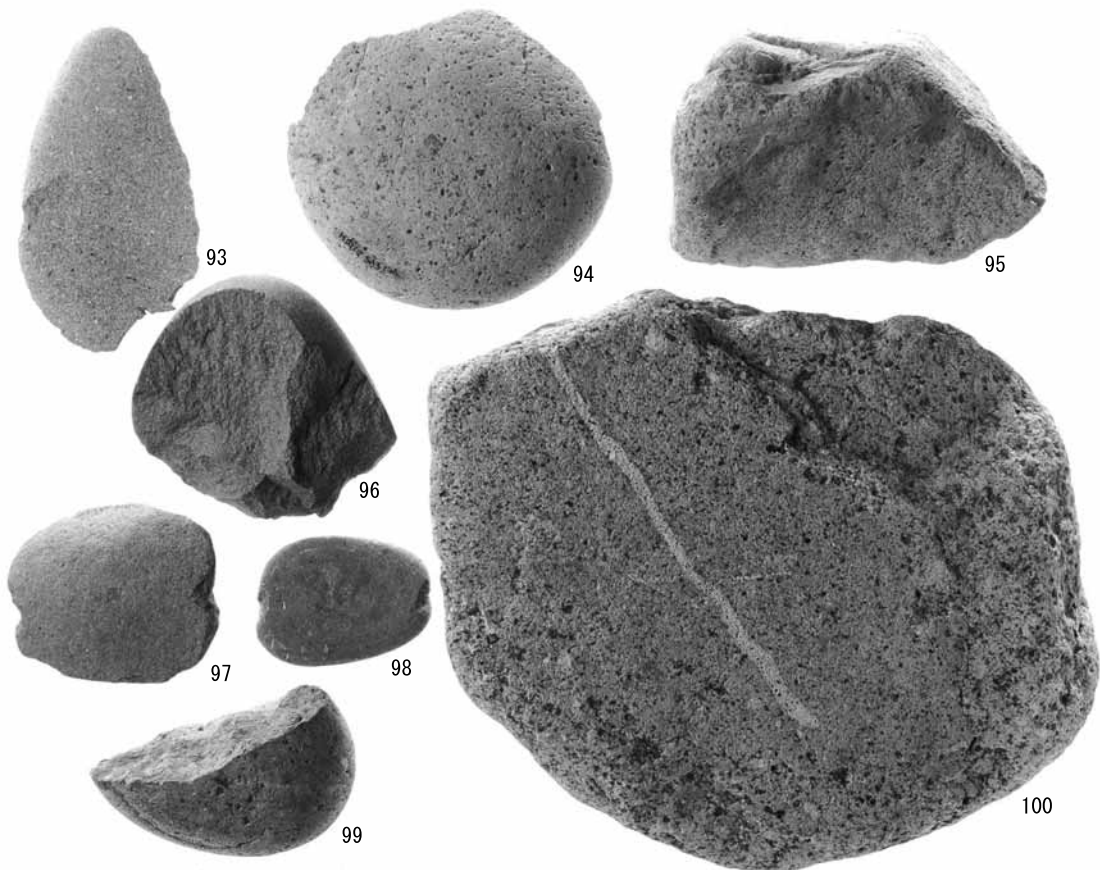
S A 2 出土土器



S A 2 出土石器



S A 3 出土土器



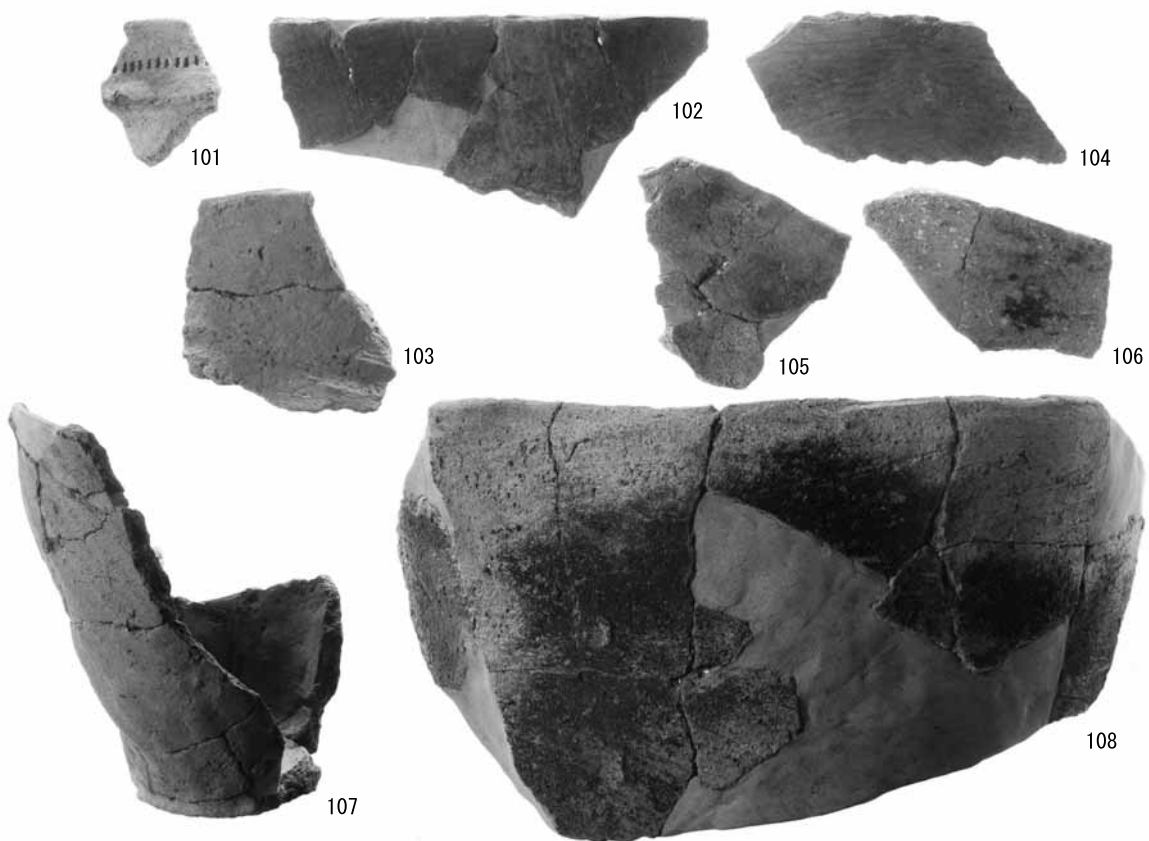
S A 3 出土石器



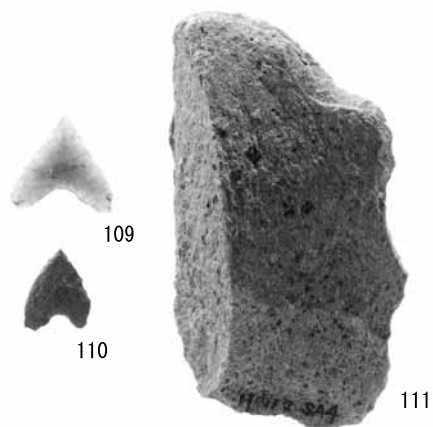
S A 4 検出状況 (南から)



S A 4 完掘状況 (南から)



S A 4 出土土器



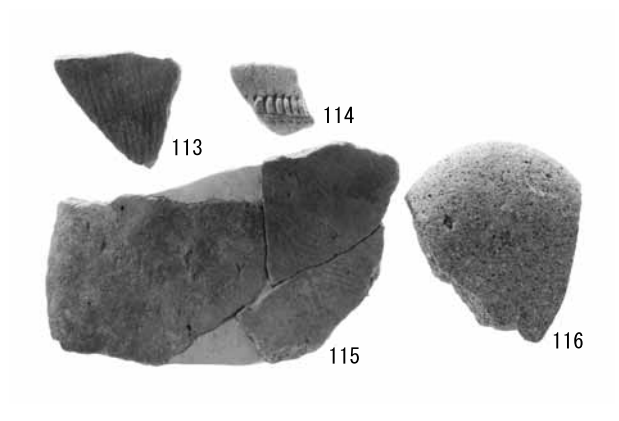
S A 4 出土石器①



S A 4 出土石器②



S A 5 完掘状況 (北から)



S A 5 出土遺物



S I 1 検出状況 (北から)



S I 4・5 検出状況 (南から)



S I 16 検出状況 (南から)



S I 11 検出状況 (西から)



S I 12 半截状況 (北から)



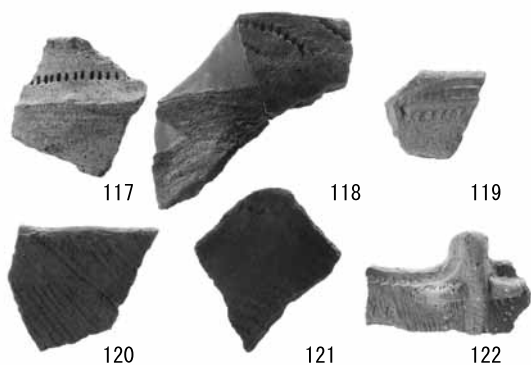
S I 9・10 検出状況 (南東から)



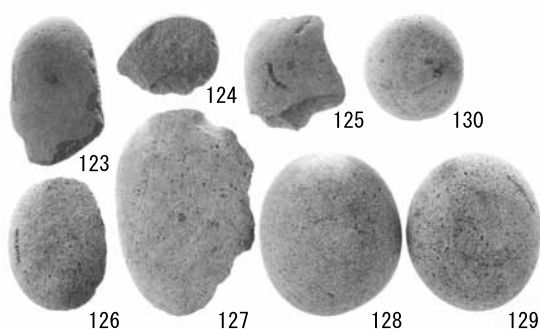
S I 3 配石検出状況 (東から)



S I 13 配石検出状況 (南から)



集石遺構出土土器



S I 9・10 検出状況 (南東から)



S C 1 半截状況 (西から)



S C 1 出土土器



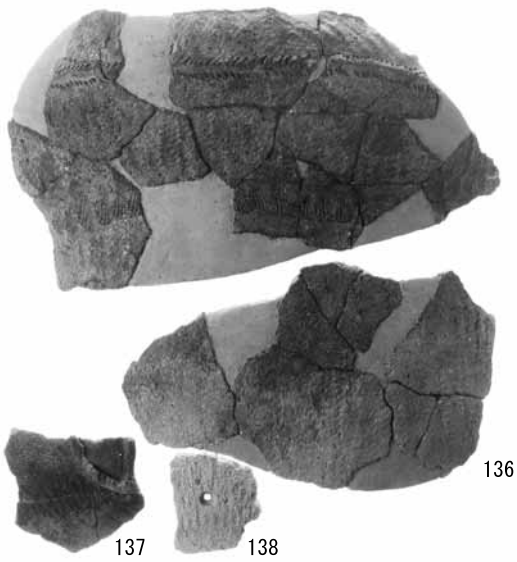
S C 2 出土遺物



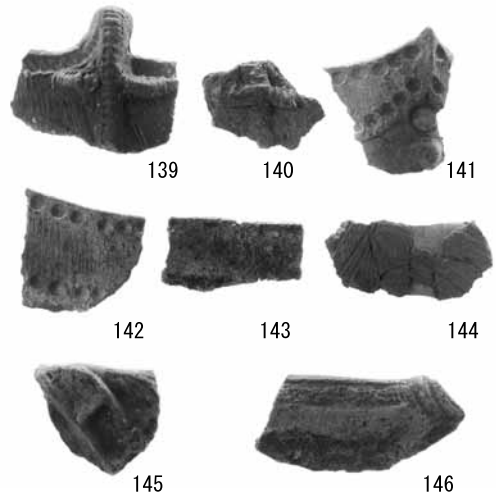
S C 2 半截状況 (西から)



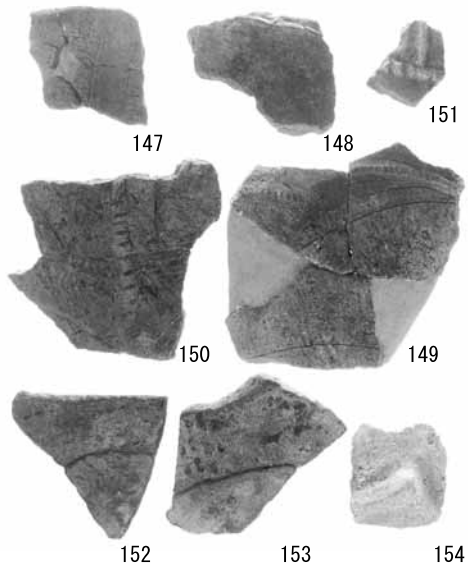
S C 3 出土土器



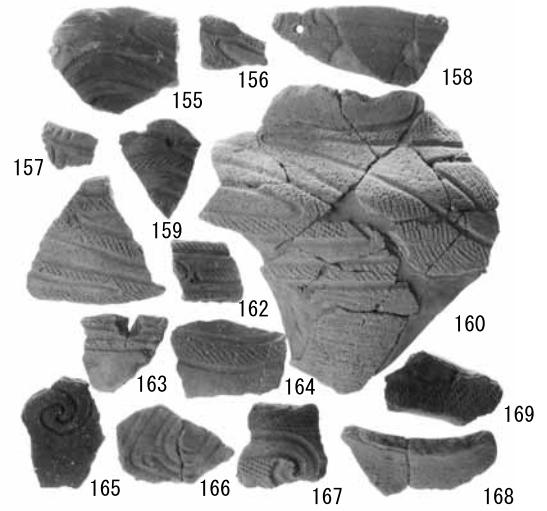
I類土器



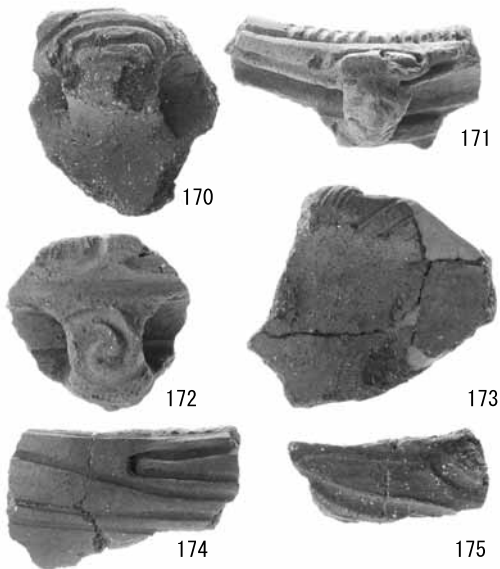
II類土器



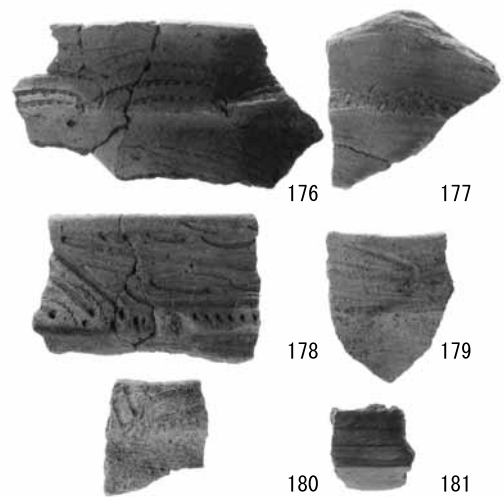
III類土器



IV類土器①

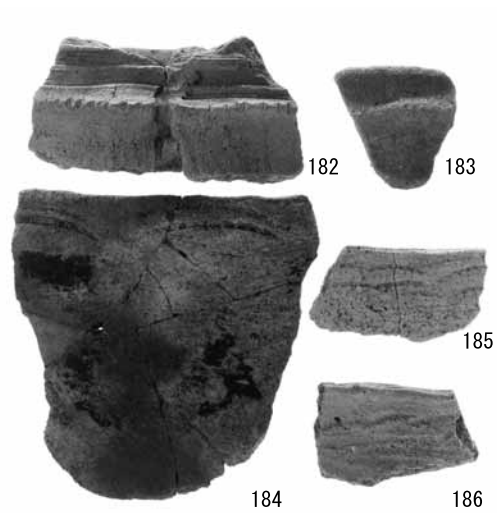


IV類土器②

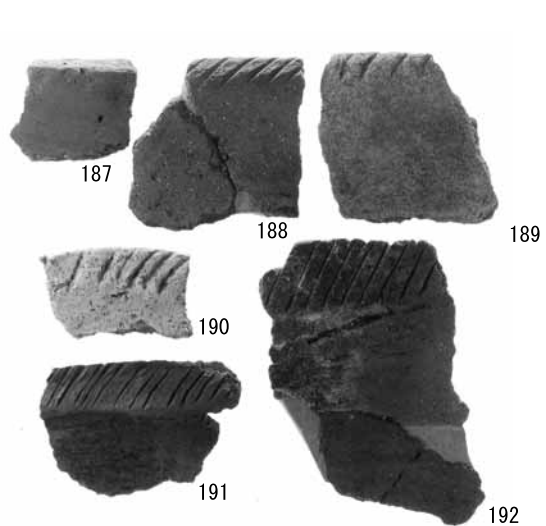


V類土器①

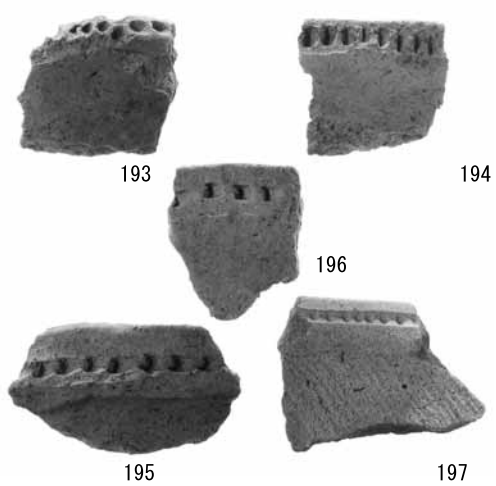




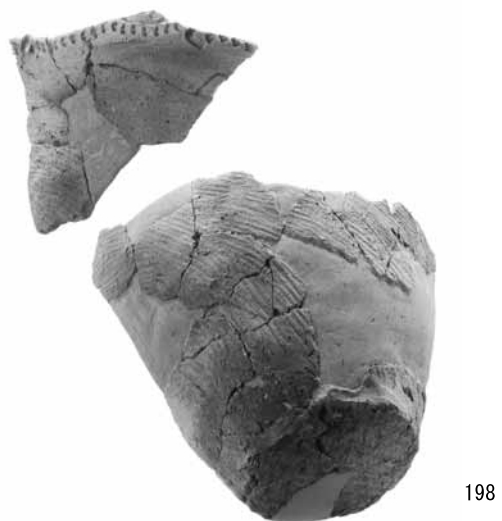
V類土器②



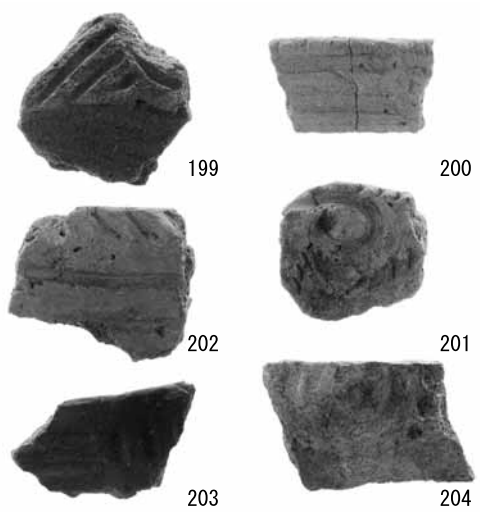
V類土器③



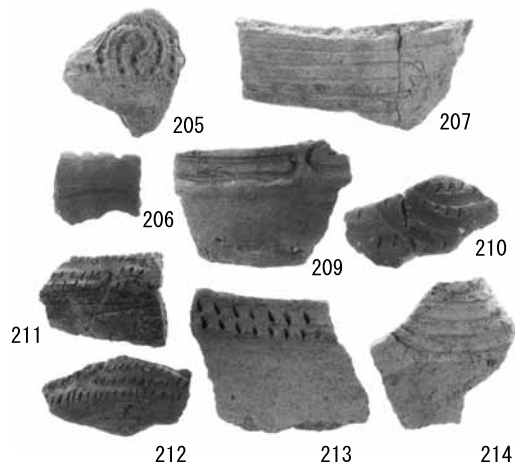
V類土器④



V類土器⑤



V類土器⑥

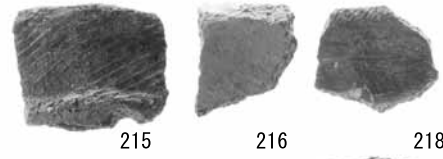


V類土器⑦



208

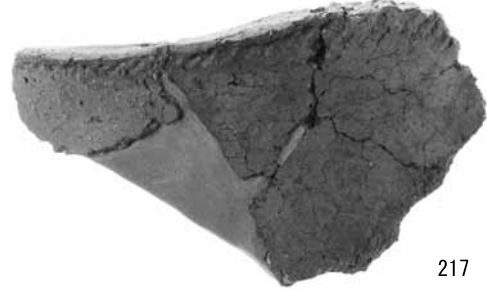
V類土器⑧



215

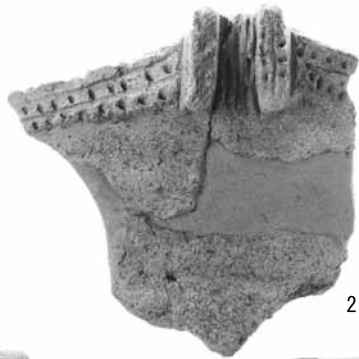
216

218



217

V類土器⑨



219

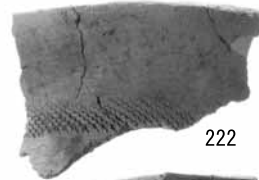


220



221

VI類土器



222



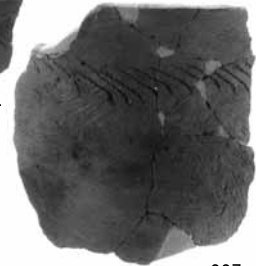
229



224



228

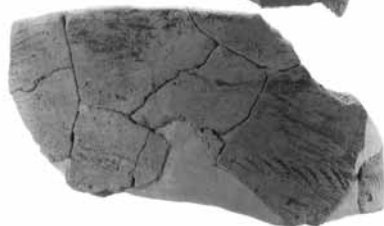


227

VII類土器①



225



226

VII類土器②



230

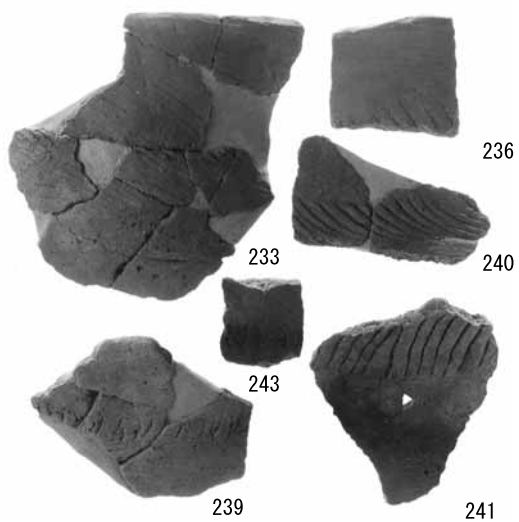


231

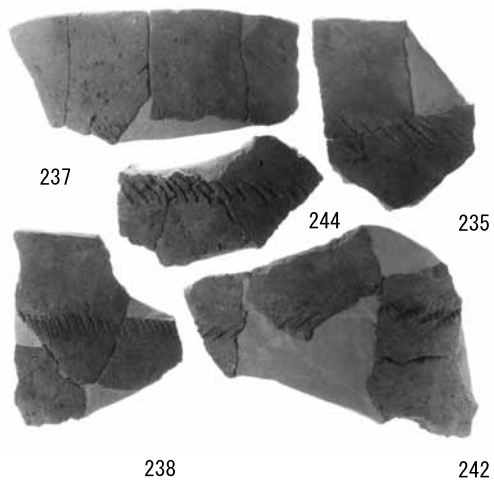


232

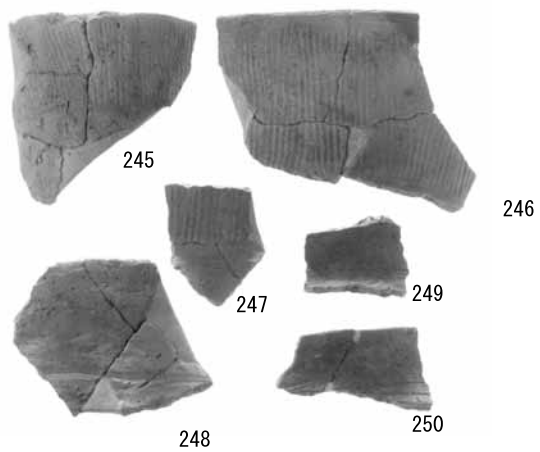
VII類土器③



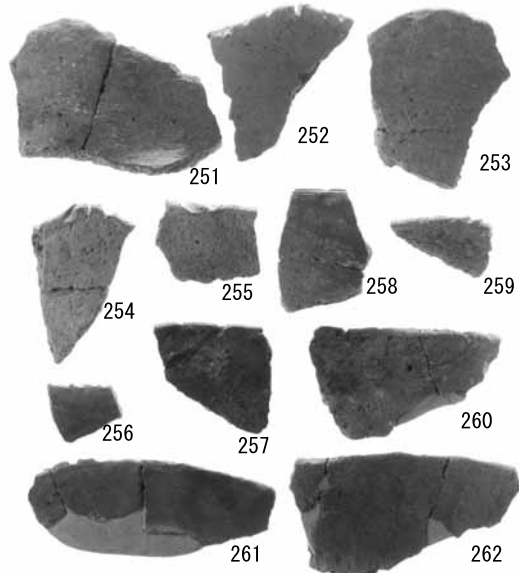
VII類土器④



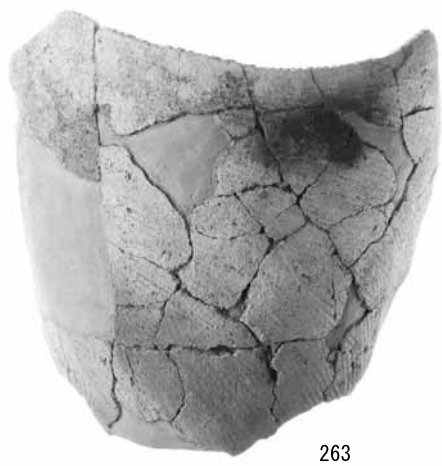
VII類土器⑤



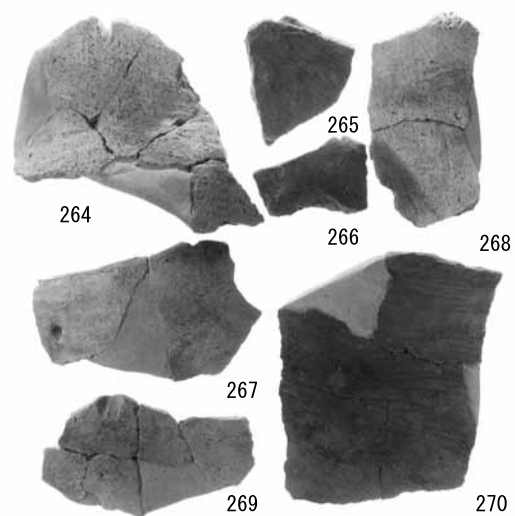
VIII類土器



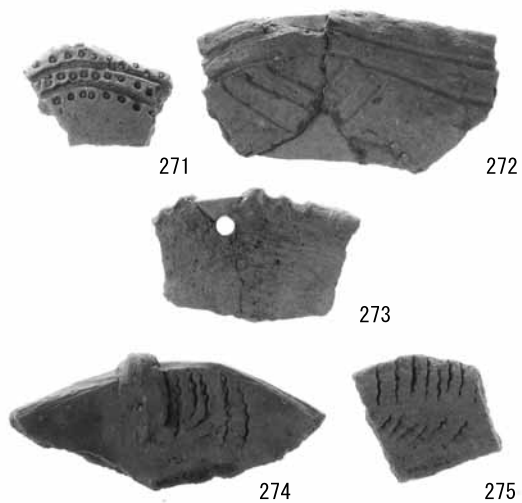
IX類土器①



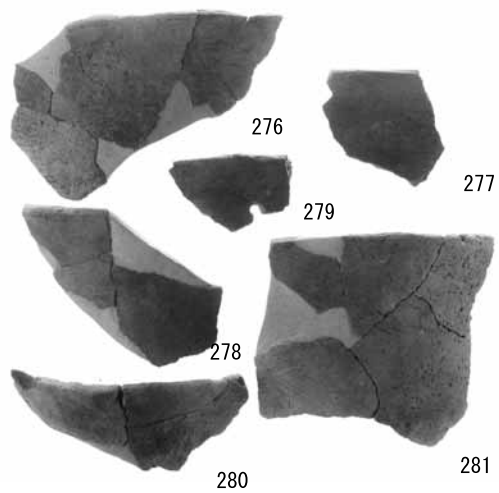
IX類土器②



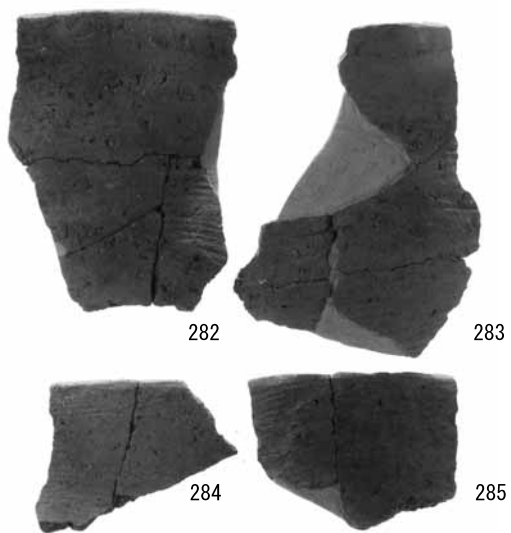
IX類土器③



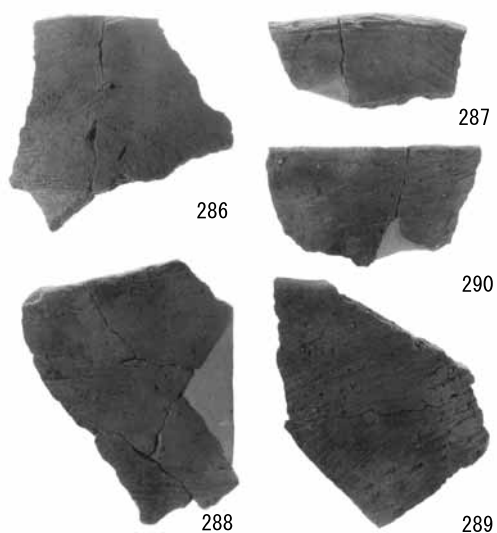
X類土器



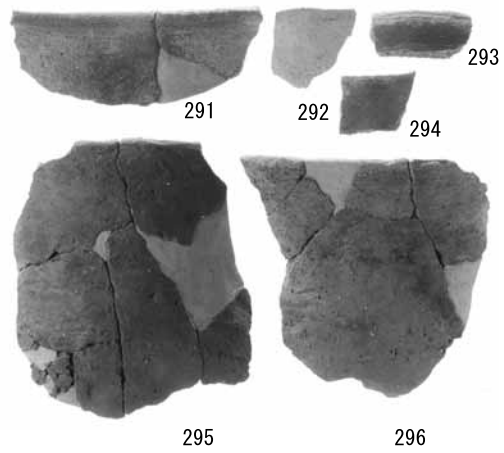
XI類土器①



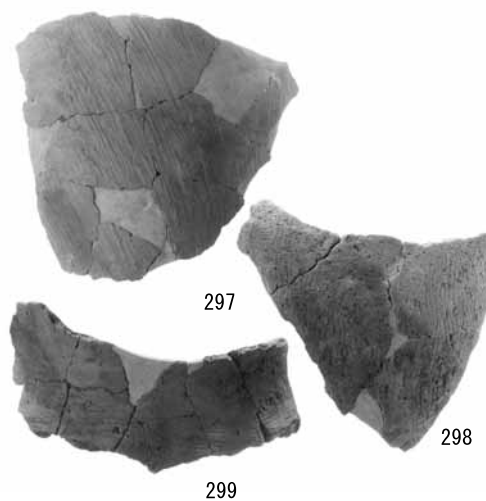
XI類土器②



XI類土器③



XI類土器④

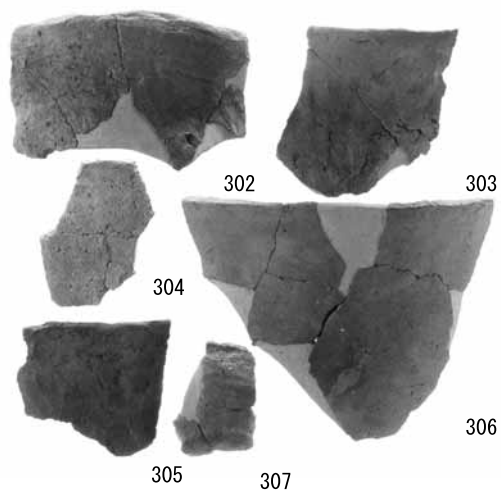


XI類土器⑤

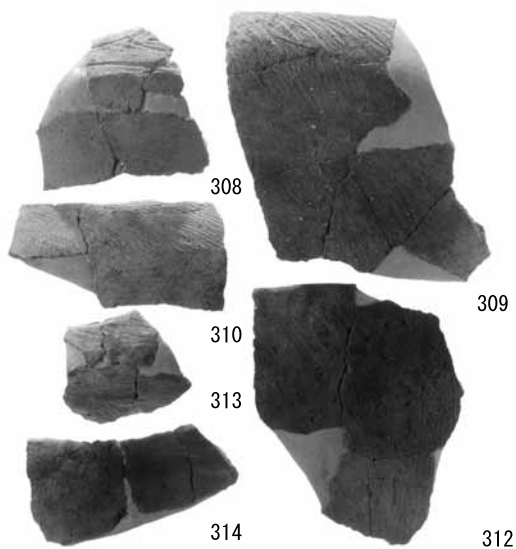


301

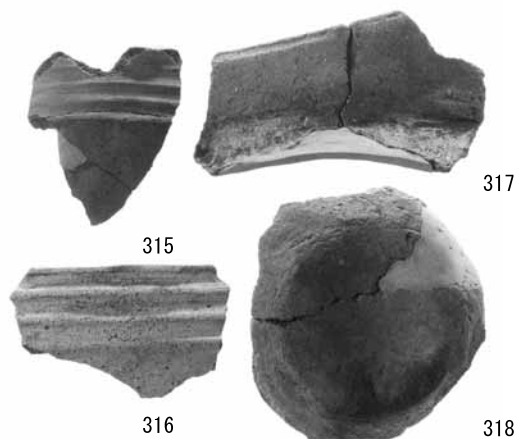
XI類土器⑥



XI類土器⑦



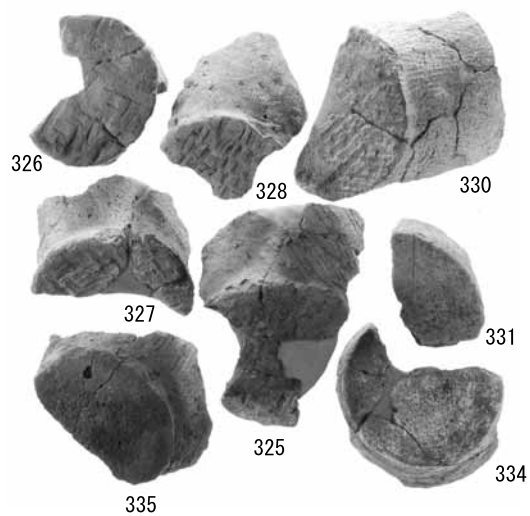
XII類土器



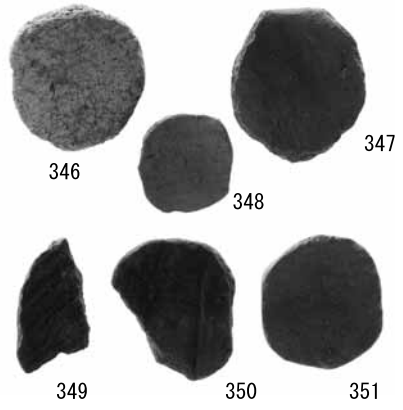
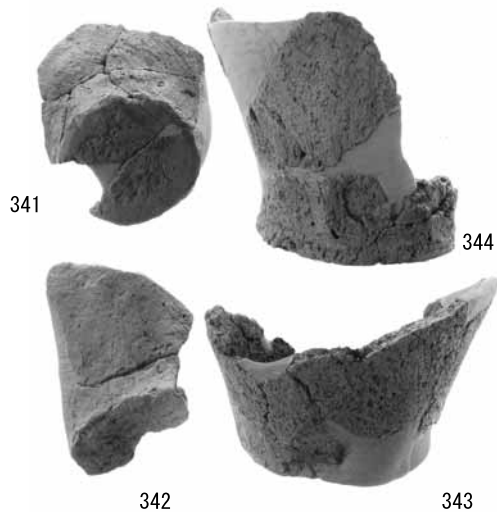
XIII類土器



XIV類土器

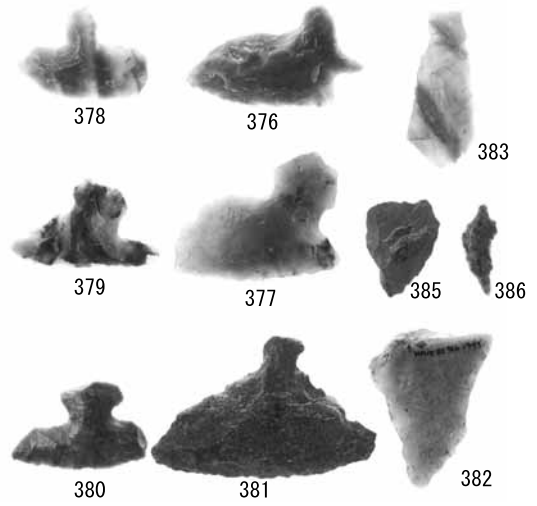
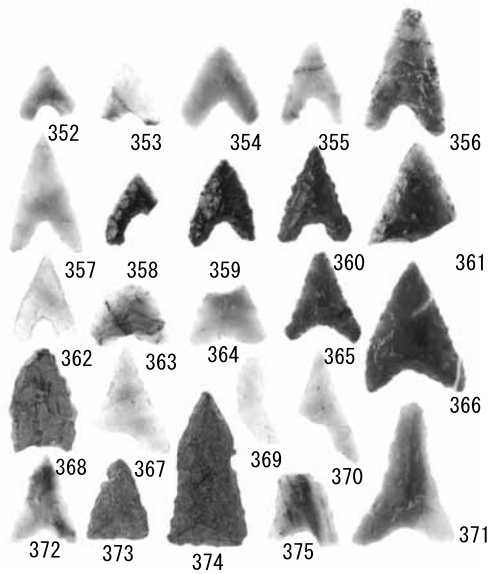


XV類土器①



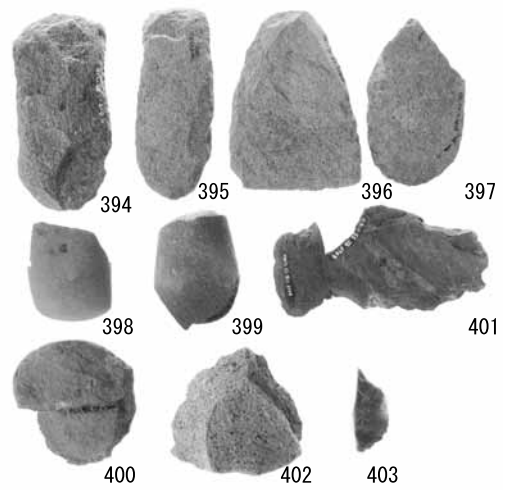
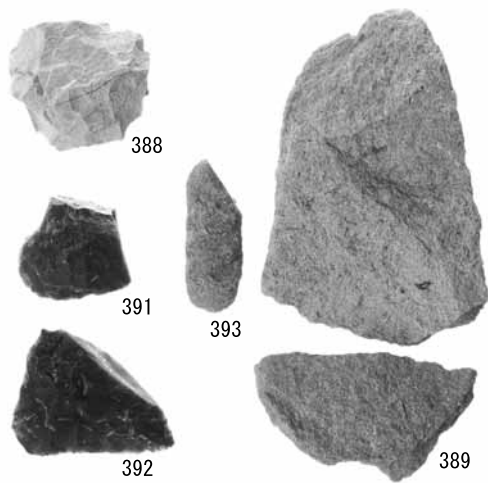
XV類土器②

XVI類土器



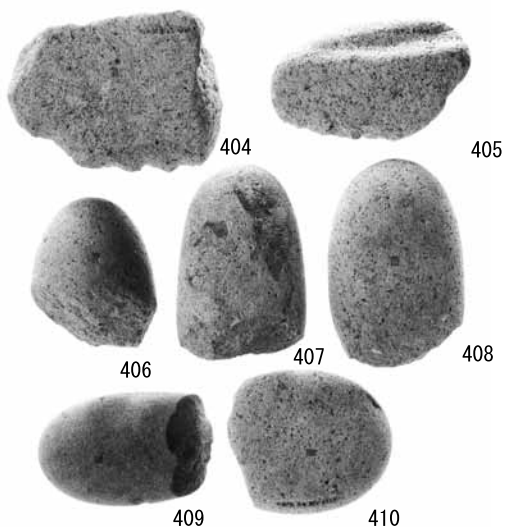
打製石鏃

石匙

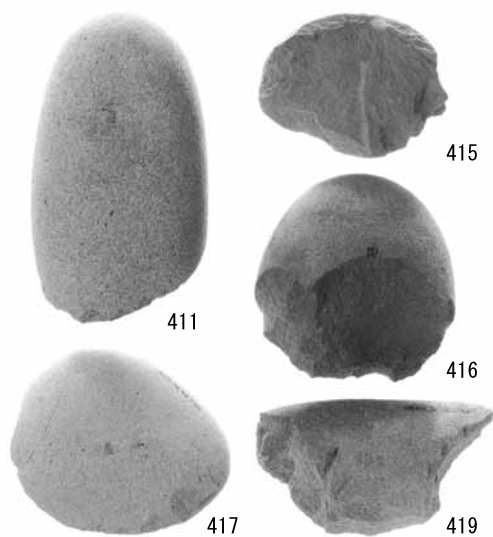


削器

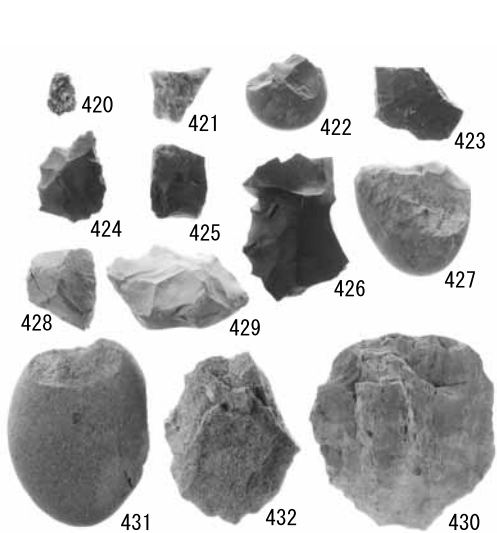
打製石斧 磨製石斧 スクレイパー



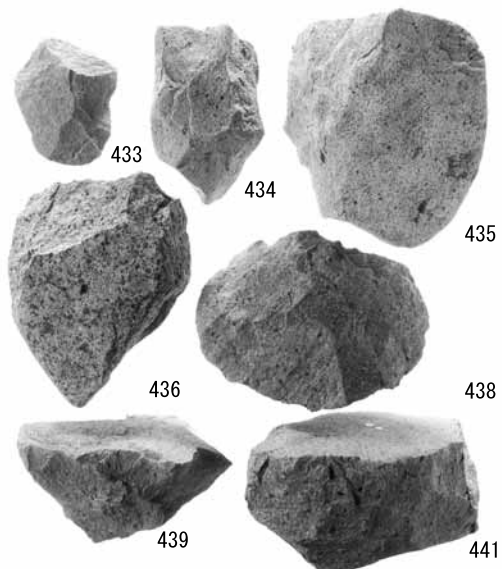
礫器①



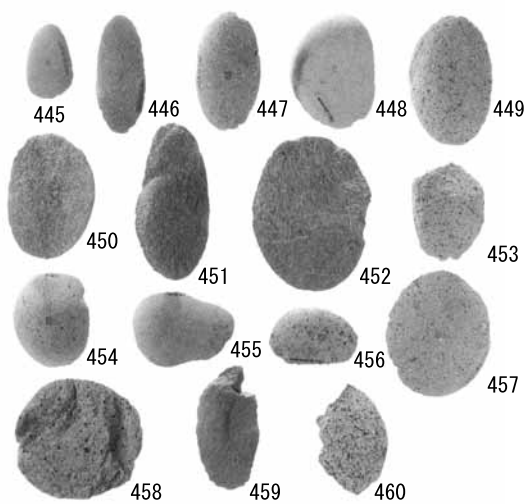
礫器②



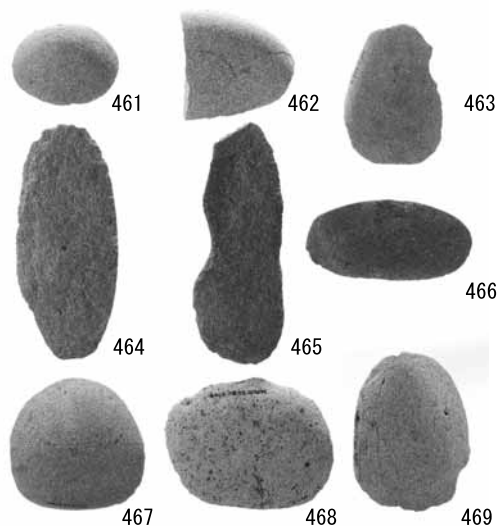
石核①



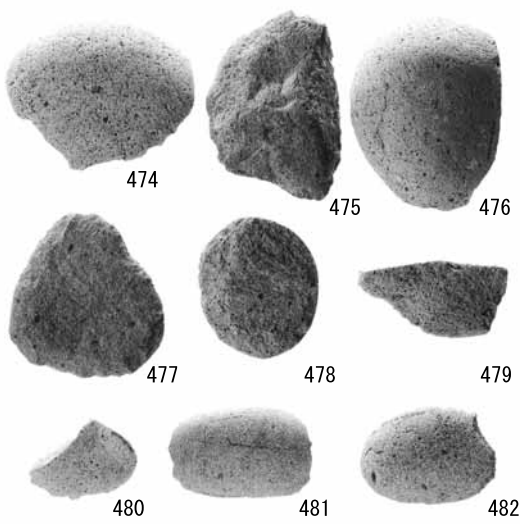
石核②



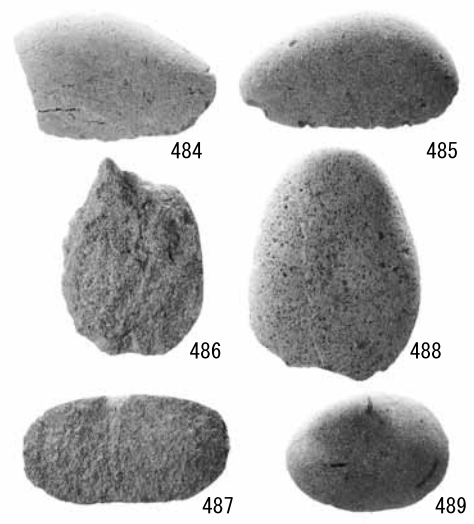
粗製剥片石器①



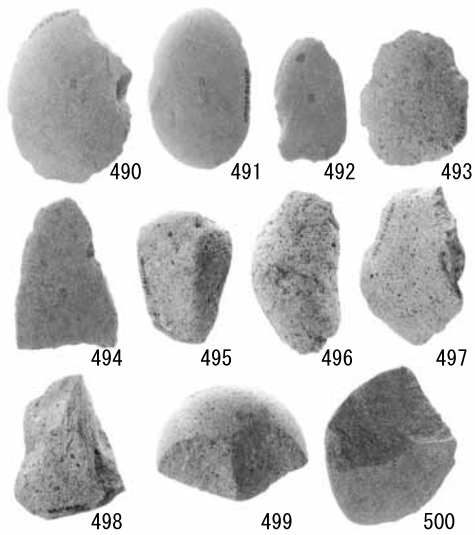
粗製剥片石器②



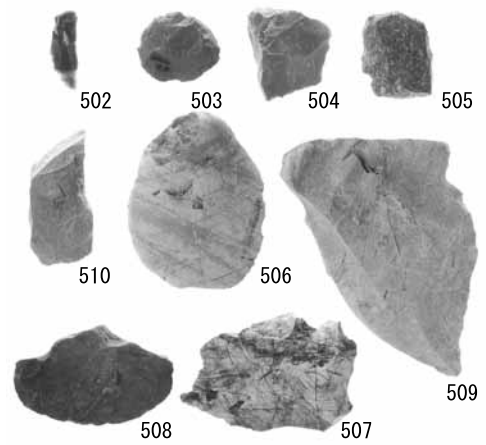
粗製剥片石器③



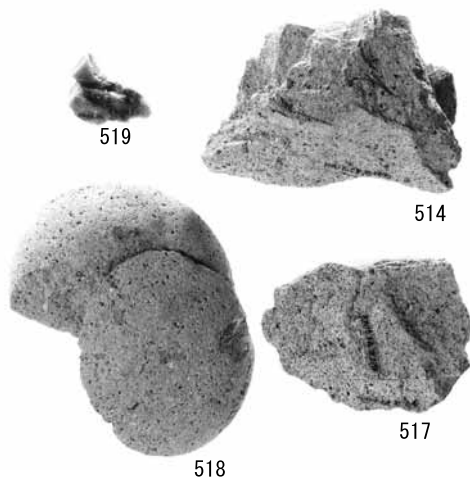
粗製剥片石器④



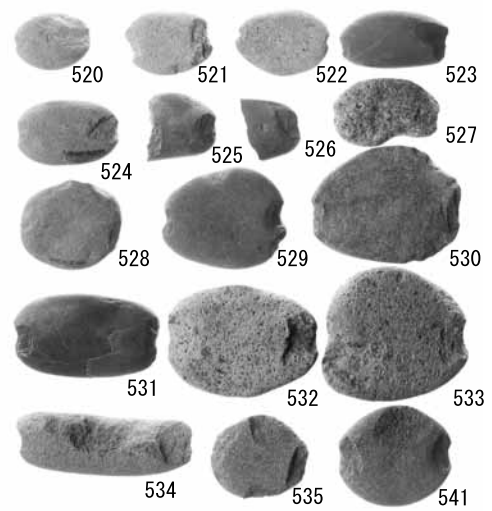
粗製剥片石器⑤



剥片 (その他石材)

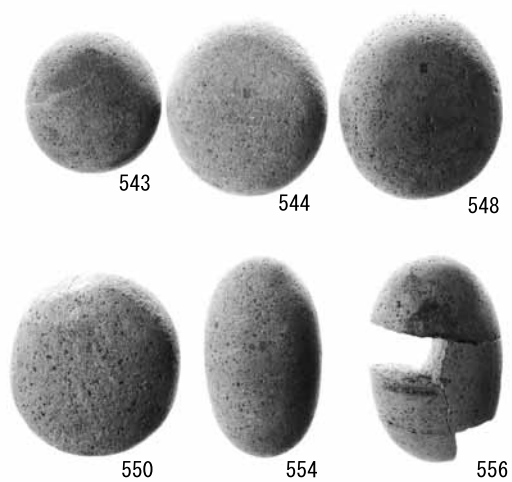


接合資料

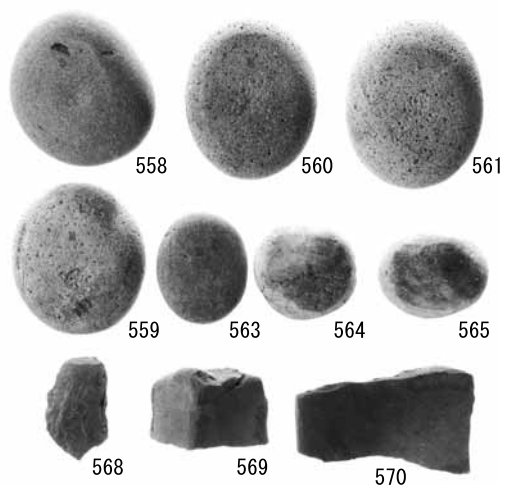


打欠石錘





磨石



凹石 敲石 砥石



SA1完掘状況(北から)



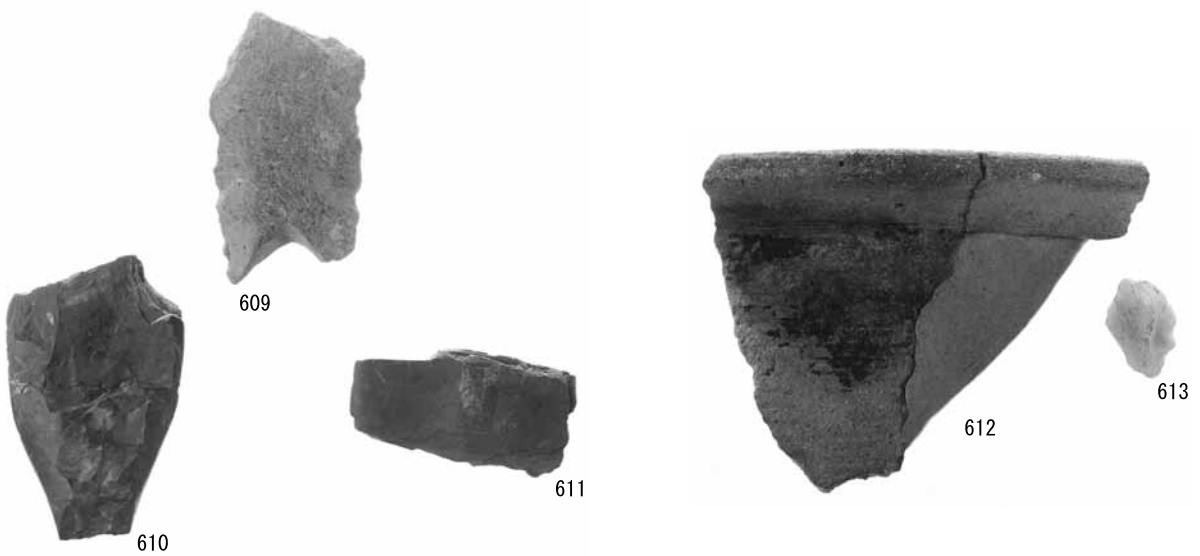
SA1出土土器



SH234出土土器



弥生～古墳時代出土土器



磨製石鏃

その他の遺物



内野々第2遺跡 調査区遠景（北から）



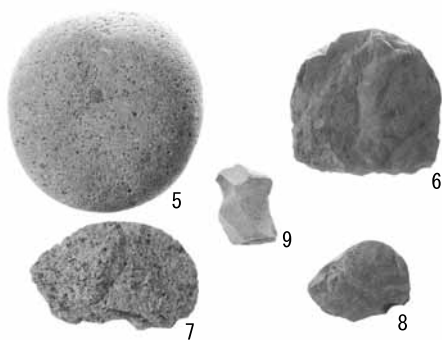
内野々第2遺跡 集石遺構群と焼礫（北から）



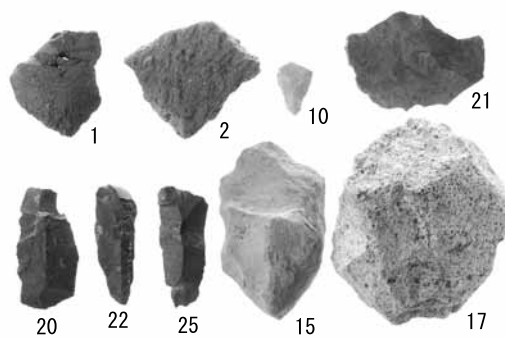
内野々第2遺跡 SI 1 検出状況



内野々第2遺跡 SI 2 検出状況



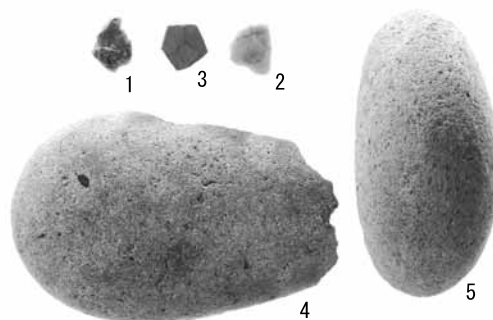
内野々第2遺跡 集石遺構出土の遺物



内野々第2遺跡 縄文時代早期出土遺物



内野々第3遺跡 調査区近景（北から）



内野々第3遺跡 出土遺物



内野々第4遺跡遠景（平山下原遺跡側から）



調査区近景（南西から）



調査区全景①（南から）



調査区全景②（西から）



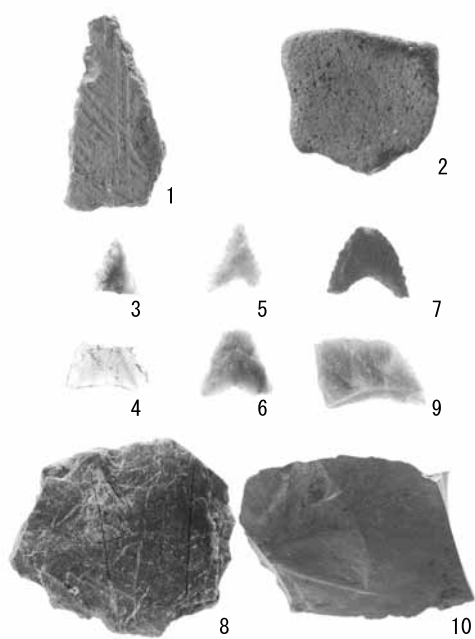
基本層序および土器出土状況



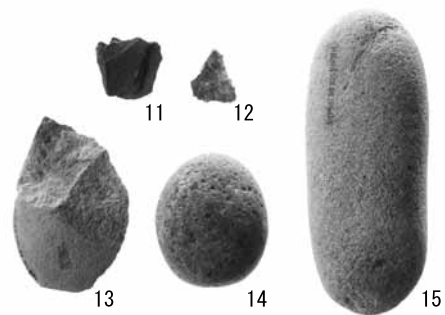
S I 1 検出状況（東から）



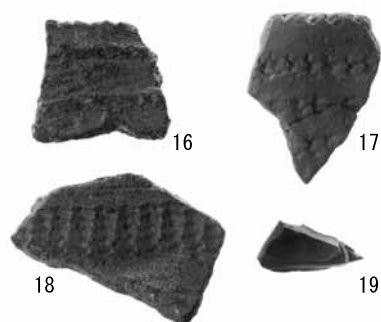
S I 2 検出状況（南東から）



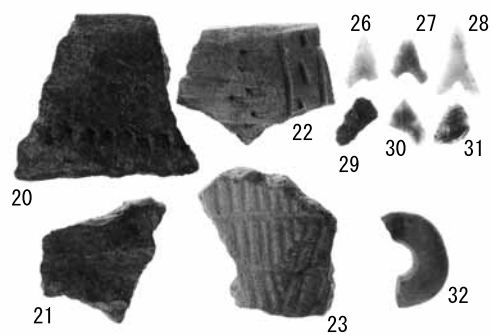
IVb層出土遺物①



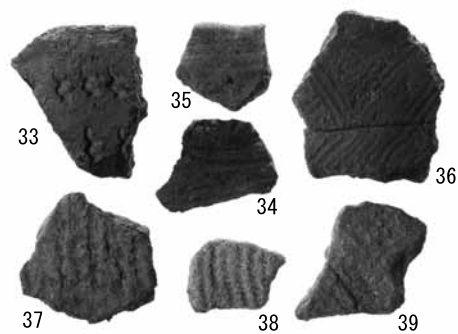
IVb層出土遺物②



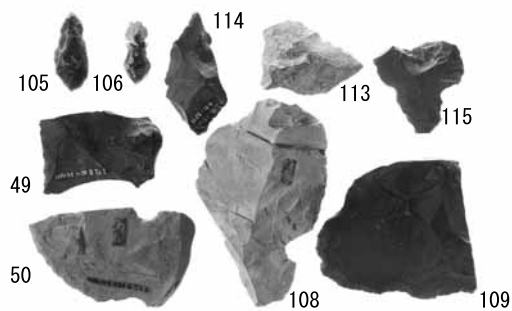
IVa層出土遺物



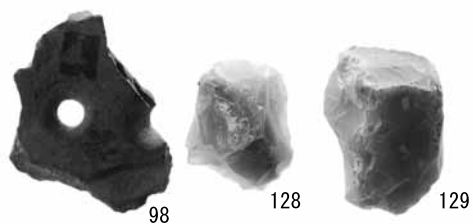
III層出土遺物



包含層出土の縄文土器



包含層出土の剥片石器



包含層出土の石庖丁、火打石

報告書抄録

ふりがな	うちのいせき    うちのだいに・だいさんいせき    うちのだいにいせき
書名	内野々遺跡 内野々第2・第3遺跡 内野々第4遺跡
副書名	東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第202集
編著者名	小船井順・今塩屋毅行・原口耕一郎・谷口めぐみ
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒 880-0212    宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地    TEL 0985-36-1171
発行年月日	西暦    2011年    3月    18日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うちのいせき 内野々遺跡	みやざきけんこゆぐん 宮崎県児湯郡 つのちようおおあざかわきた 都農町大字川北 あざうちのうしろばる 字内野後原	45406		32度 17分 31秒 付近	131度 32分 44秒 付近	2009.06.05～ 2010.01.07  2010.04.23～ 2010.04.26	4,720㎡	東九州自動車道 （日向～都農間） 建設に伴う発掘 調査
うちのだいにいせき 内野々第2遺跡	みやざきけんこゆぐん 宮崎県児湯郡 つのちようおおあざかわきた 都農町大字川北 あざうちのうしろばる 字内野後原			32度 17分 22秒 付近	131度 32分 32秒 付近	2009.12.07～ 2010.01.25	1,410㎡	
うちのだいさんいせき 内野々第3遺跡	みやざきけんこゆぐん 宮崎県児湯郡 つのちようおおあざかわきた 都農町大字川北 あざにしおだて 字西尾立			32度 17分 20秒 付近	131度 32分 31秒 付近	2010.05.17～ 2010.05.24	280㎡	
うちのだいにいせき 内野々第4遺跡	みやざきけんこゆぐん 宮崎県児湯郡 つのちようおおあざかわきた 都農町大字川北 あざみやばる 字宮原			32度 17分 08秒 付近	131度 32分 24秒 付近	2009.05.11～ 2010.01.07	900㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
内野々遺跡	集落	縄文時代	集石遺構 堅穴建物跡 集石遺構 土坑	5基 4軒 13基 3基	縄文時代早期、中期、後期 土器、打製石鏃、石匙、打 製石斧、礫器、石核、剥 片、磨石、敲石、凹石、台 石、炭化種実	縄文時代後期から弥生時 代にかけて尾鈴山酸性岩 類の原産地遺跡
		早期				
		中・後期				
		弥生～古墳				
内野々第2遺跡	集落	縄文時代 早期	集石遺構	3基	縄文土器 石鏃、磨石、石核、剥片	
内野々第3遺跡	散布地	縄文～ 弥生時代			剥片、磨製石鏃	
内野々第4遺跡	集落	縄文時代 早期～前期	集石遺構	2基	縄文時代早期、前期土器、 打製石鏃、削器、石核、剥 片、磨石、玦状耳飾	アカホヤ火山灰二次堆積 層から玦状耳飾辺出土

要約	<p>児湯郡都農町に位置する内野々遺跡群の発掘調査報告書である。</p> <p>内野々遺跡は都農町内で発掘調査例の少ない縄文時代後期を主体とした集落跡である。当該期の堅穴建物跡などの遺構や、これに伴い出土した遺物は特筆される。</p> <p>内野々第2遺跡は縄文時代早期を主体とした集落跡である。集石遺構に伴って遺物が出土した。</p> <p>内野々第3遺跡は内野々第2遺跡に隣接する散布地である。縄文時代早期の石器や、弥生時代の磨製石鏃が1点出土した。</p> <p>内野々第4遺跡は縄文時代早期後半から前期が主体である。また、多量に回収した剥片石器類は、遺跡の周辺にも遺構・遺物の存在を示唆する。</p>
----	--

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第202集

**内野々遺跡**  
**内野々第2・第3遺跡**  
**内野々第4遺跡**

東九州自動車道（日向～都農間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3

2011年3月

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地  
TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印 刷 秀巧社印刷株式会社  
〒880-0803 宮崎市旭1-8-14  
TEL 0985(24)1072 FAX 0985(26)0925

---